財団法人山武郡市文化財センター発掘調査報告書　第89集

寺方古墳群

―国道126号山武東総道路建設に伴う発掘調査報告書Ⅲ―

2006

千葉県道路公社

財団法人　山武郡市文化財センター

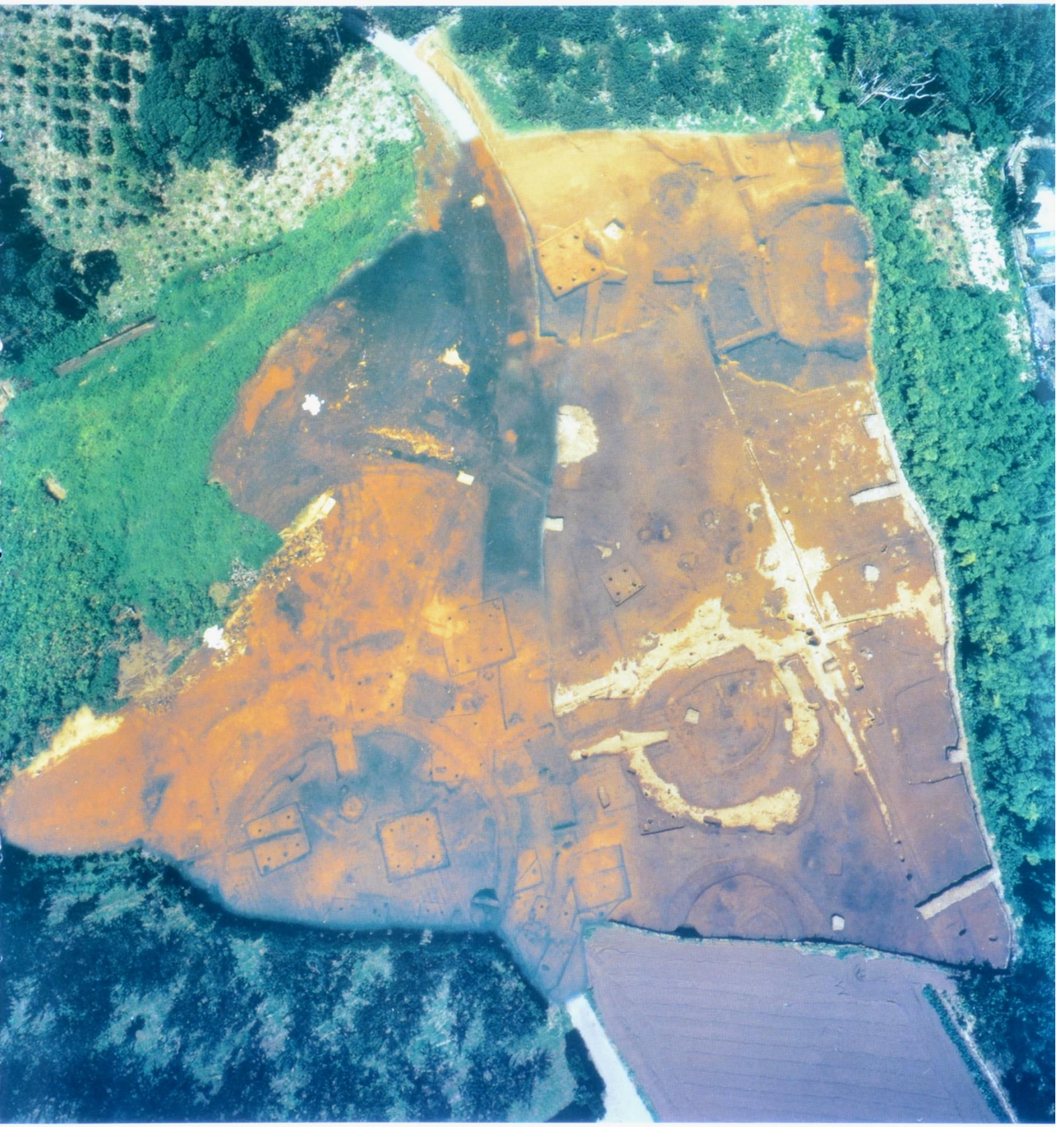
寺 方 古 墳 群

—国道126号山武東総道路建設に伴う発掘調査報告書Ⅲ—

2006

千葉県道路公社

財団法人　山武郡市文化財センター



遺跡遠景

旧石器時代主要石器（２）

旧石器時代主要石器（１）

序　文

寺方古墳群が所在する横芝町は千葉県の北東部に位置します。温暖な気候と緑豊かな自然に恵まれた本地域には，早くも約三万年の旧石器時代から人々が暮らし始めたという，悠久の歴史が刻まれています。

現在の横芝町は，成田空港の近隣地域という好条件もあり，空港関連施設やゴルフ場造成，工業団地造成などの開発が行われるようになりました。しかしながら，これらの開発により先人の残した多くの貴重な遺跡が失われてきているのも事実です。

現代を生きる私たちは，開発による発展も遂げながらも，貴重な先人達の残した遺産を未来に伝えなければなりません。

寺方古墳群は，銚子連絡道建設に先立ち，発掘調査されました。本書はその成果をまとめたものです。この遺跡からは埴輪が出土した古墳や，古墳築造直前に営まれた古墳時代中期の集落が発見されました。特にこの時代の集落跡は本町に限らず，山武地域のなかでも希少なものです。

本書が今後の研究資料の提示にとどまらず，より多くの方々に地域史の理解を深める資料として活用されることを願うとともに，文化財保護思想の涵養に役立つことを願ってやみません。

最後になりましたが，今回の調査実施にあたり御指導，ご協力を賜りました関係諸機関並びに関係各位に心より感謝申し上げます。

平成18年３月

財団法人山武郡市文化財センター
理事長　山口武二

例　言

1　本書は，国道126号山武東総道路建設に伴う寺方古墳群の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　寺方古墳群は，千葉県山武郡横芝町寺方字姥ヶ谷193番地他に所在する。

3　調査は，千葉県道路公社の委託により，千葉県教育委員会及び横芝町教育委員会の指導を得て，財団法人山武郡市文化財センターが実施した。

4　発掘調査面積は，確認調査面積　上層 1,552㎡／15,460㎡　下層574㎡／10,600㎡

本調査面積　上層10,800㎡　下層382㎡

5　調査及び整理・報告書作成の期間は以下のとおりである。

確認調査期間　平成14年11月１日～　平成15年１月28日

本調査期間　平成15年３月20日～　平成16年７月13日

整理期間　平成15年10月31日～　平成17年11月30日

6　発掘調査は，調査課長　土屋潤一郎（平成16年３月まで），島立　桂（平成16年４月～）の指導のもと，副主査　椎名信也が担当し，整理・報告書の作成は，調査課長　島立桂の指導のもと，調査係長（平成17年４月～）椎名信也が担当した。

7　本書の執筆は，第１章を島立桂が，それ以外は椎名信也が行い，島立桂が加筆・訂正した。

8　挿図の第１図は国土地理院の1/25,000の地形図「多古」・「成東」を使用して作成した。

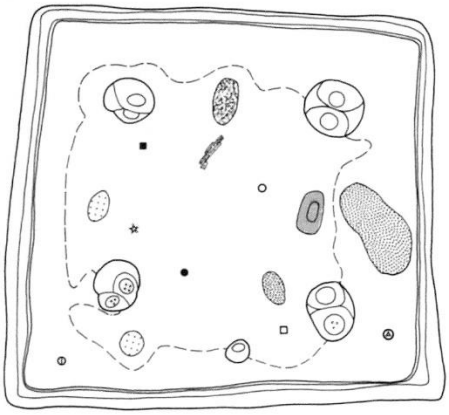
9　出土遺物，実測原図，写真は，財団法人山武郡市文化財センターが管理保管している。

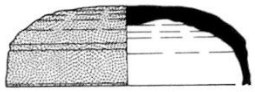
10　石器石材の分類は，有限会社考古石材研究所に依頼した。

11　発掘調査及び整理作業にあたり，次の方々から多大なるご指導，ご協力を賜った。ここに記して，厚くお礼申し上げます。

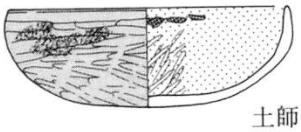
千葉県道路公社，千葉県教育庁教育振興部文化財課，横芝町教育委員会生涯学習課

凡　　例





須恵器



土師器

住居スクリーントーン

- カマド炉・火床部
- 焼土分布
- 砂分布
- 粘土分布
- 柱痕

出土遺物ドット

- ● 土器
- ○ 土製品
- ▪ 鉄製品
- ▫ 石器・石製品
- ☆ 滑石器
- ⊗ ガラス製品
- ⊙ 埴輪

遺物スクリーントーン

- 釉
- 黒色処理
- 赤彩
- タール付着
- 煤付着

石　器　★ ナイフ形石器　■ 削器・楔形石器・台形石器・台石

▲ 石刃　○ 加工痕ある剥片・使用痕ある剥片　● 剥片

• 砕片　□ 石核

石　材　▲ 安山岩　■ 頁岩A・B・C　○ 瑪瑙　□ 流紋岩・凝灰岩

△ 砂岩　◉ チャート

本　文　目　次

序文

例言

序章

第１節　発掘調査に至る経緯と経過…… 1

第２節　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 1

第１章　旧石器時代

第１節　概　要…… 9

第２節　基本層序…… 11

第３節　石器群の分布と出土遺物 …… 12

１．第１地点…… 12

２．第２地点…… 19

３．第３地点…… 41

４．第１～３地点周辺の出土遺物 …… 64

５．第101地点 …… 66

第２章　古墳時代

第１節　古墳…… 70

第２節　竪穴式住居跡……119

第３節　土坑・溝……159

挿　図　目　次

第１図　寺方古墳群と周辺の遺跡……２
第２図　寺方古墳群周辺の地形……４
第３図　遺構配置図……５
第４図　遺構配置図（160地点）……７
第５図　旧石器時代調査概要図……10
第６図　基本土層図……11
第７図　第１地点出土遺物分布図（１）……13
第８図　第１地点出土遺物分布図（２）……14
第９図　第１地点出土遺物実測図（１）……16
第10図　第１地点出土遺物実測図（２）……17
第11図　第２地点出土遺物分布図（１）……20
第12図　第２地点出土遺物分布図（２）……21
第13図　第２地点出土遺物分布図（３）……22
第14図　第２地点出土遺物分布図（４）……23
第15図　第２地点出土遺物分布図（５）……24
第16図　第２地点出土遺物分布図（６）……25
第17図　第２地点出土遺物実測図（１）……30
第18図　第２地点出土遺物実測図（２）……31
第19図　第２地点出土遺物実測図（３）……33
第20図　第２地点出土遺物実測図（４）……34
第21図　第２地点出土遺物実測図（５）……35
第22図　第２地点出土遺物実測図（６）……36
第23図　第２地点出土遺物実測図（７）……37
第24図　第２地点出土遺物実測図（８）……38
第25図　第２地点出土遺物実測図（９）……39
第26図　第３地点出土遺物分布図（１）……42
第27図　第３地点出土遺物分布図（２）……43
第28図　第３地点出土遺物分布図（３）……44
第29図　第３地点出土遺物分布図（４）……45
第30図　第３地点出土遺物分布図（５）……46
第31図　第３地点出土遺物実測図（１）……51
第32図　第３地点出土遺物実測図（２）……52
第33図　第３地点出土遺物実測図（３）……53
第34図　第３地点出土遺物実測図（４）……54
第35図　第３地点出土遺物実測図（５）……56
第36図　第３地点出土遺物実測図（６）……57
第37図　第３地点出土遺物実測図（７）……58
第38図　第３地点出土遺物実測図（８）……59
第39図　第３地点出土遺物実測図（９）……60
第40図　第３地点出土遺物実測図（10）……61
第41図　第３地点出土遺物実測図（11）……62
第42図　遺構外出土遺物実測図……65
第43図　第101地点出土遺物実測図……66
第44図　第101地点出土遺物分布図（１）……67
第45図　第101地点出土遺物分布図（２）……67
第46図　６号墳出土遺物……70
第47図　６号墳実測図……71
第48図　７号墳実測図……72
第49図　７号墳墳丘断面図……74
第50図　７号墳出土遺物（１）……75
第51図　７号墳出土遺物（２）……76
第52図　７号墳主体部実測図・主体部
　鉄鏃及び直刀出土状況図・７号墳
　内土坑（D-009）実測図……77
第53図　７号墳主体部出土遺物（１）……78
第54図　７号墳主体部出土遺物（２）……79
第55図　８号墳実測図……85
第56図　８号墳丘断面図……86
第57図　８号墳内周溝出土遺物（１）……87
第58図　８号墳内周溝出土遺物（２）……88
第59図　８号墳内周溝出土遺物（３）……89
第60図　８号墳外周溝出土遺物（１）……90
第61図　８号墳外周溝出土遺物（２）……91
第62図　８号墳盛土出土遺物（１）……92
第63図　８号墳盛土出土遺物（２）……93
第64図　８号墳盛土出土遺物（３）……94
第65図　８号墳その他出土遺物……95
第66図　K-011号実測図……103
第67図　K-011号断面図・K-011号内
　（KD-001・002）実測図……105
第68図　K-011号内（KD-003～006）
　実測図……106

第69図　K-011号出土遺物 …… 107
第70図　K-012号実測図 …… 109
第71図　K-013号実測図・出土遺物 …… 111
第72図　K-014号実測図 …… 112
第73図　K-005号・016号実測図 …… 113
第74図　K-015号実測図・出土遺物 …… 114
第75図　K-017号・018号実測図 …… 115
第76図　K-019号・020号実測図・出土遺物 … 116
第77図　K-021号・022号実測図・出土遺物 … 117
第78図　H-000実測図・出土遺物 …… 120
第79図　H-001実測図・出土遺物（1） …… 121
第80図　H-001遺物出土状況図・
出土遺物（2） …… 122
第81図　H-002実測図・炭化材及び焼土
出土状況図・出土遺物…… 123
第82図　H-003実測図・出土遺物 …… 125
第83図　H-004実測図・出土遺物（1） …… 126
第84図　H-004出土遺物（2） …… 127
第85図　H-005実測図・炉断面図 …… 129
第86図　H-005炭化物出土状況図・
出土遺物（1）…… 130
第87図　H-005出土遺物（2） …… 131
第88図　H-006実測図・出土遺物 …… 132
第89図　H-007実測図・出土遺物（1） …… 133
第90図　H-007出土遺物（2） …… 134
第91図　H-008実測図・出土遺物 …… 136
第92図　H-009実測図・出土遺物（1） …… 137
第93図　H-009出土遺物（2） …… 138
第94図　H-009出土遺物（3） …… 139
第95図　H-009出土遺物（4） …… 140
第96図　H-010実測図・出土遺物 …… 142
第97図　H-011実測図 …… 143
第98図　H-012実測図 …… 144
第99図　H-013・014実測図・
出土遺物（1） …… 145
第100図 H-013出土遺物（2） …… 146
第101図 H-015実測図・出土遺物 …… 147
第102図 H-016（A）・（B）実測図・
出土遺物（1）…… 149
第103図 H-016（A）・（B）
出土遺物（2）…… 150
第104図 H-017・018実測図・出土遺物 …… 151
第105図 H-019実測図・出土遺物 …… 153
第106図 H-020実測図 …… 154
第107図 H-021及びH-21（炉）実測図・
出土遺物…… 155
第108図 H-022実測図 …… 156
第109図 H-023（A）・（B）実測図 …… 156
第110図 H-024及びH-24（炉）実測図・
出土遺物…… 157
第111図 D-001～005実測図・出土遺物 …… 162
第112図 D-006～008・010実測図・出土
遺物…… 163
第113図 D-011～014実測図・出土遺物 …… 164
第114図 D-015・016・018・019実測図・出
土遺物…… 165
第115図 M-019・020・021・023実測図 …… 166
第116図 M-001・004・005出土遺物 …… 167

表　目　次

第１表　周辺の遺跡地名表…… 3
第２表　第１地点出土遺物組成表１……18
第３表　第１地点出土遺物組成表２……18
第４表　第２地点出土遺物組成表１……40
第５表　第２地点出土遺物組成表２……41
第６表　第３地点出土遺物組成表１……63
第７表　第３地点出土遺物組成表２……64
第８表　第101地点出土遺物組成表１ ……68
第９表　第101地点出土遺物組成表２ ……68
第10表　６号墳出土遺物観察表……70
第11表　７号墳出土遺物観察表……80
第12表　７号墳（主体部）出土遺物観察表……82
第13表　８号墳内周溝出土遺物観察表……96
第14表　８号墳外周溝出土遺物観察表……98

第15表　８号墳盛土出土遺物観察表……99
第16表　８号墳その他出土遺物観察表…… 101
第17表　K-011号出土遺物観察表 …… 108
第18表　K-013号出土遺物観察表 …… 118
第19表　K-015号出土遺物観察表 …… 118
第20表　K-020号出土遺物観察表 …… 118
第21表　K-021号出土遺物観察表 …… 118
第22表　H-000出土遺物観察表 …… 120
第23表　H-001出土遺物観察表 …… 120
第24表　H-002出土遺物観察表 …… 124
第25表　H-003出土遺物観察表 …… 125
第26表　H-004出土遺物観察表 …… 127
第27表　H-005出土遺物観察表 …… 131
第28表　H-006出土遺物観察表 …… 132
第29表　H-007出土遺物観察表 …… 134
第30表　H-008出土遺物観察表 …… 136
第31表　H-009出土遺物観察表 …… 136
第32表　H-010出土遺物観察表 …… 142
第33表　H-013出土遺物観察表 …… 146
第34表　H-014出土遺物観察表 …… 147
第35表　H-015出土遺物観察表 …… 148
第36表　H-016（A）・（B）出土遺物観察表 … 150
第37表　H-017出土遺物観察表 …… 152
第38表　H-019出土遺物観察表 …… 153
第39表　H-021出土遺物観察表 …… 158
第40表　H-024出土遺物観察表 …… 158
第41表　D-002・006・007・011・015出土遺物観察表　161
第42表　M-001・004・005出土遺物観察表 …… 161

図　版　目　次

図版１　旧石器時代遺物出土状況（１）
図版２　旧石器時代遺物出土状況（２）
図版３　寺方古墳群の遺構（１）
図版４　寺方古墳群の遺構（２）
図版５　寺方古墳群の遺構（３）
図版６　寺方古墳群の遺構（４）
図版７　寺方古墳群の遺構（５）
図版８　寺方古墳群の遺構（６）
図版９　寺方古墳群の遺構（７）
図版10　寺方古墳群の遺構（８）
図版11　寺方古墳群の遺構（９）
図版12　寺方古墳群の遺構（10）
図版13　寺方古墳群の遺構（11）
図版14　寺方古墳群の遺構（12）
図版15　寺方古墳群の遺構（13）
図版16　寺方古墳群の遺構（14）
図版17　寺方古墳群の遺構（15）
図版18　寺方古墳群の遺構（16）
図版19　寺方古墳群の遺構（17）
図版20　寺方古墳群の遺構（18）
図版21　寺方古墳群の遺構（19）
図版22　寺方古墳群の遺構（20）
図版23　寺方古墳群の遺構（21）
図版24　寺方古墳群の遺構（22）
図版25　寺方古墳群の遺構（23）
図版26　寺方古墳群の遺構（24）
図版27　寺方古墳群の遺構（25）
図版28　寺方古墳群の遺構（26）
図版29　寺方古墳群の遺構（27）
図版30　寺方古墳群の遺構（28）
図版31　寺方古墳群の遺構（29）
図版32　第１地点出土遺物（１）・第２地点出土遺物（１）
図版33　第１地点出土遺物（２）・第２地点出土遺物（２）
図版34　第２地点出土遺物（３）
図版35　第２地点出土遺物（４）
図版36　第２地点出土遺物（５）
図版37　第２地点出土遺物（６）
図版38　第２地点出土遺物（７）
図版39　第２地点出土遺物（８）
図版40　第２地点出土遺物（９）・第３地点出土遺物（１）
図版41　第２地点出土遺物（10）・第３地点

出土遺物（2）
図版42　第3地点出土遺物（3）
図版43　第3地点出土遺物（4）
図版44　第3地点出土遺物（5）
図版45　第3地点出土遺物（6）
図版46　第3地点出土遺物（7）
図版47　第3地点出土遺物（8）
図版48　第3地点出土遺物（9）
図版49　第3地点出土遺物（10）
図版50　遺構外・第101地点出土遺物（1）
図版51　遺構外・第101地点出土遺物（2）
図版52　寺方古墳群の遺物（1）
図版53　寺方古墳群の遺物（2）土製品・石製品
図版54　寺方古墳群の遺物（3）鉄製品
図版55　寺方古墳群の遺物（4）鉄製品
図版56　寺方古墳群の遺物（5）埴輪
図版57　寺方古墳群の遺物（6）埴輪・土製品・石製品
図版58　寺方古墳群の遺物（7）埴輪・土製品・石製品
図版59　寺方古墳群の遺物（8）埴輪
図版60　寺方古墳群の遺物（9）土製品・石製品
図版61　寺方古墳群の遺物（10）埴輪・土製品石製品・鉄製品
図版62　寺方古墳群の遺物（11）埴輪・石製品鉄製品
図版63　寺方古墳群の遺物（12）
図版64　寺方古墳群の遺物（13）
図版65　寺方古墳群の遺物（14）
図版66　寺方古墳群の遺物（15）
図版67　寺方古墳群の遺物（16）土製品・石製品
図版68　寺方古墳群の遺物（17）土製品・石製品・鉄製品
図版69　寺方古墳群の遺物（18）土製品・石製品・鉄製品
図版70　寺方古墳群の遺物（19）埴輪・土製品・石製品・鉄製品
図版71　寺方古墳群の遺物（20）
図版72　寺方古墳群の遺物（21）
図版73　寺方古墳群の遺物（22）

序　　章

第１節　発掘調査に至る経緯と経過

寺方古墳群の所在する山武郡横芝町寺方字姥ヶ谷193番の土地について，平成11年10月14日付で，千葉県道路公社より有料道路を建設する旨，「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて（照会）」が横芝町教育委員会に提出された。横芝町教育委員会では，千葉県教育委員会へ副申し，平成12年１月30日付照会地が旧石器時代遺物包蔵地・古墳群・中世城館跡であるとの回答を得た。その後，埋蔵文化財の取り扱いについて県教育委員会・町教育委員会・事業者での協議により遺跡の範囲・性格等を把握するため確認調査をおこなうことになった。

確認調査の結果，当該遺跡には現況で確認できる古墳の他，表土下にも多くの竪穴式住居等の遺構が密集することが判明した。

この結果を受けて再度の三者協議をおこなった結果，事業対象地の内9,560㎡について記録保存がおこなわれることになった。

第２節　遺跡の位置と周辺の遺跡

遺跡をのせる台地は，栗山川右岸の松尾台に解折された，長倉支谷北側に細く伸びる舌状台地である標高約34mの坂田支台に位置する。この支台の北側直下には栗山川及びその支流が直接解折した，肥沃な栗山川谷が広がり，東側には広大な九十九里平野が広がる。

本跡の北西には前方後円墳１基，方墳３基，円墳７基が存在する木戸谷・町原古墳群が存在する。栗山川のの右岸，長倉支台に位置するこの古墳群のうちすでに消滅した前方後円墳には埴輪が樹立されていたとのことである。

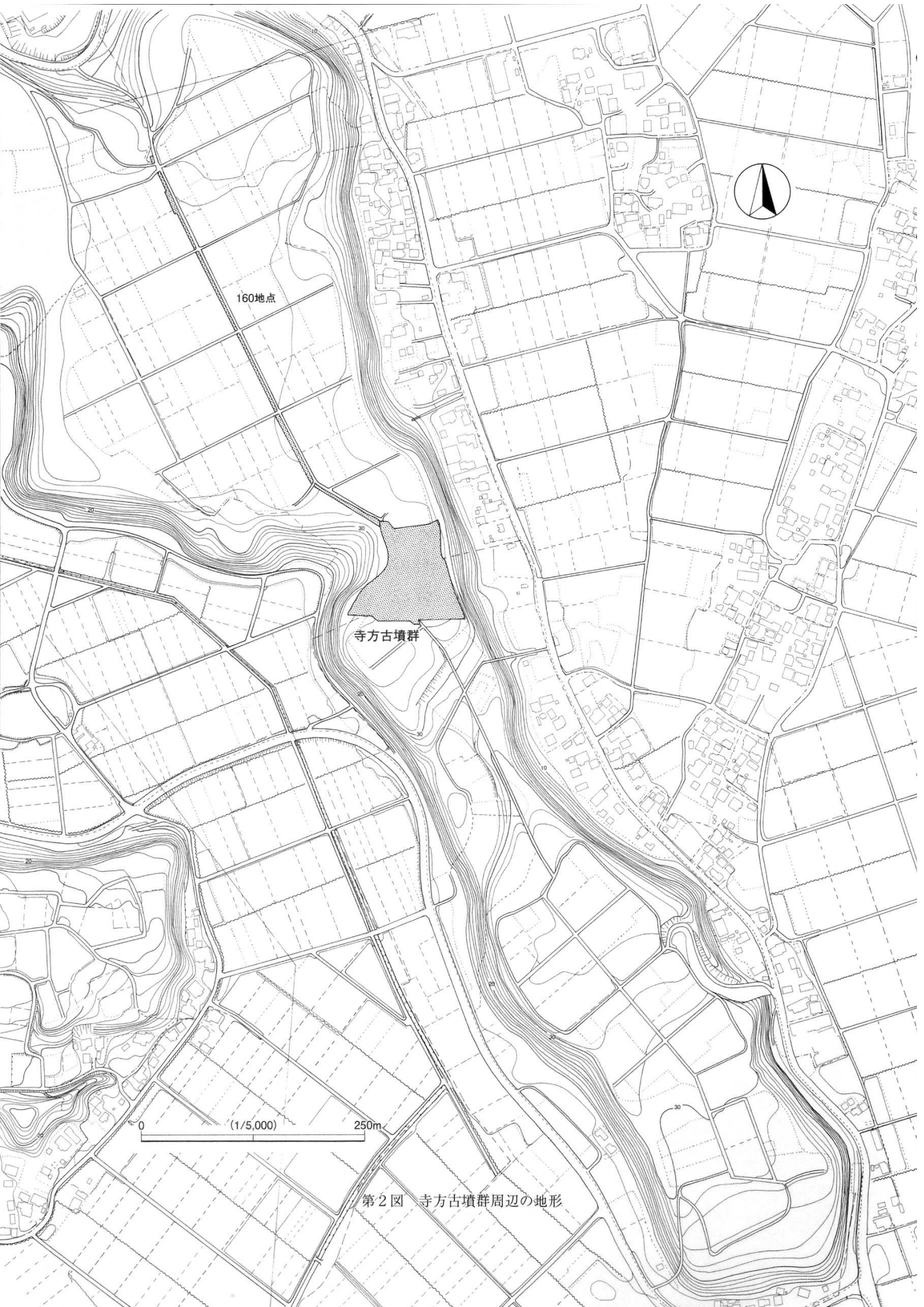
長倉支谷を北に隔てた長倉支台には，方墳３基，円墳４基の合計７基から構成される姥山古墳群が存在するが未調査のため，詳細は不明である。これの南東に隣接して長倉古墳が存在する。古墳は径約14mの円墳であるが，この古墳も未調査であるため詳細は不明である。また対岸のには寺方古墳群に東に対峙するように栗山川左岸の南篠支台に芝崎古墳群が存在する。この古墳群は前方後円墳３基，円墳10基の合計13基から構成される。

集落遺跡については本遺跡周辺においての古墳時代中期の調査例はみられないのが現状である。ただ多古台遺跡群の該期の古墳及び集落の調査例からも，山武郡内においても古墳時代の比較的早期からの開発がおこなわれていたことを本遺跡の調査結果は示唆していると思われる。

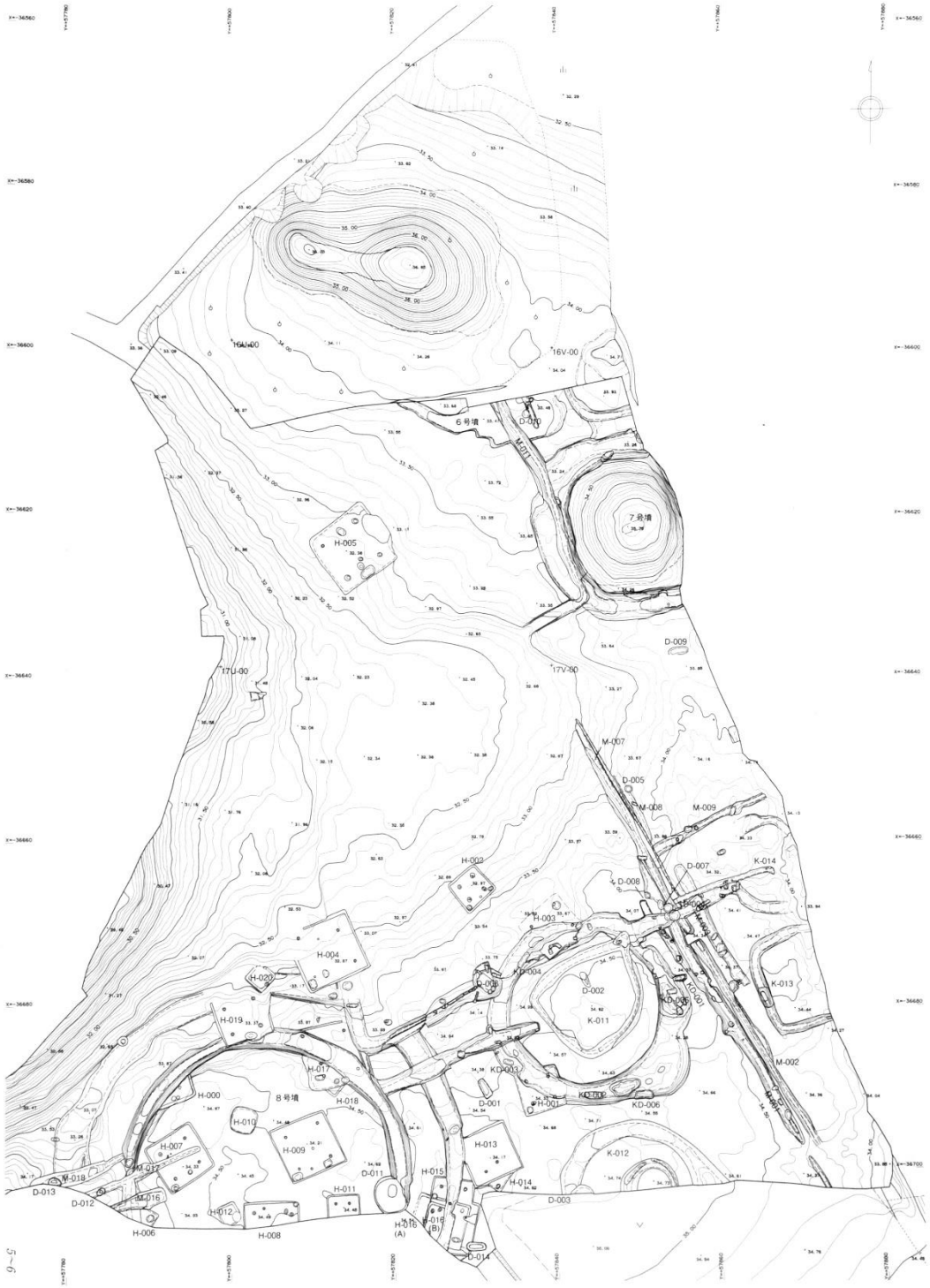
第１図　寺方古墳群と周辺の遺跡

第１表　周辺の遺跡地名表

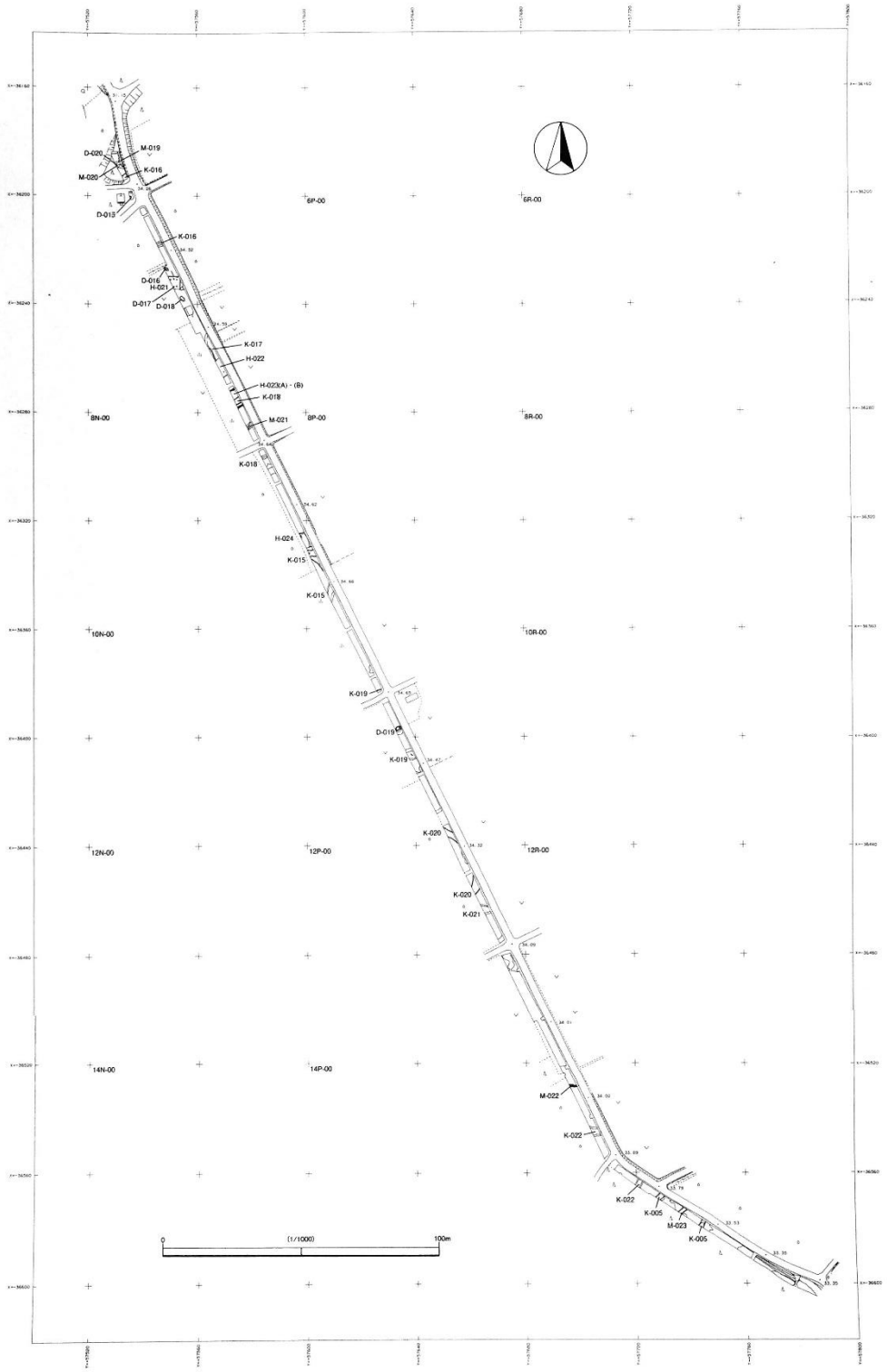
NO	遺跡名	種　別	時　代											文　献	備　考
			旧石器	縄文時代					弥生	古墳		奈良・平安	中・近世		
				早	前	中	後	晩		前	後				
2	木戸台・町原古墳群	包蔵地，古墳	○	○			○	○			○	○		抄H3.7，文9.12.32.34	町原古墳群，S51年調査木戸台遺跡，H3年調査木戸台大谷遺跡，H5.7年調査
3	広台古墳群	古墳								○				/	/
4	姥山古墳群	古墳								○				/	/
5	小池古墳群	古墳								○				文2.50	前方後円墳２基消滅
6	舟塚古墳群	古墳								○				文8.40.50	/
7	鯉ヶ窪遺跡	包蔵地，古墳	○	○	○	○	○	○			○			文23	S54・55年調査
8	芝山古墳群（中台古墳群）	古墳，包蔵地									○			文5.9.28	殿塚・姫塚国指定史跡，松尾町N0.1-1
9	山室古墳群	古墳								○				/	釵ヶ峰古墳，遺存不良
10	大塚古墳群	古墳								○				文3	/
11	谷津古墳	古墳								○				/	遺存不良
12	蕪木台古墳群	古墳，塚								○			○	/	/
13	原古墳	古墳								○				/	一部消滅
14	長倉古墳	古墳								○				文17	/
15	古和台遺跡	包蔵地，古墳									○	○		/	/
16	金尾古墳群	古墳，塚								○			○	/	/
17	御城内古墳群	古墳								○				/	御城内古墳群，小川古墳群の古墳を統合
18	大蔵古墳群	古墳，塚									○		○	/	/
19	上大蔵古墳群	古墳								○				/	/
20	下大蔵古墳群	古墳，塚								○			○	/	/
21	馬場Ａ遺跡	集落跡，古墳，塚								○		○	○	抄H3・4	馬場，白幡遺跡を統合改称，H2・3・4・5年調査
22	中ノ台遺跡	包蔵地，古墳	○								○			抄H2・5，文13	H2・3・5年調査，山武町NO.231，成東町NO.5
23	大堤古墳群	古墳								○				抄H3.4，文2	H3.4年調査
24	蕪木古墳群	古墳								○				文6.7	蕪木古墳群，松尾台古墳群を統合
25	桔梗台遺跡	包蔵地，集落跡，古墳	○						○		○				弥生（後），古墳（中・後）
26	猿尾古墳群	古墳								○				/	/
27	荒久台遺跡	集落跡								○	○	○		文17	S56年調査
28	赤羽根遺跡	包蔵地，集落跡	○							○		○		抄H7	H7・8年調査
29	一本松遺跡	包蔵地，古墳	○	○						○		○		抄H7	H7・8年調査　山武町NO.271
30	藤ヶ谷遺跡	集落跡								○		○		抄H12，文13	H2・3年調査
31	宮谷遺跡	包蔵地								○		○		文13	/



第２図　寺方古墳群周辺の地形


6号墳
7号墳
8号墳
16U-00
16V-00
17U-00
17V-00
H-005
H-002
H-003
H-004
H-020
H-019
H-017
H-018
H-000
H-010
H-009
H-007
H-018
H-013
H-015
H-014
H-011
H-012
H-008
H-006
H-016 (A)
H-016 (B)
D-009
D-005
D-008
D-007
D-002
D-001
D-011
D-013
D-012
D-014
D-003
M-007
M-008
M-009
M-002
M-017
M-016
K-014
K-013
K-011
K-012
KD-004
KD-005
KD-001
KD-003
KD-006
0
(1/400)
40m

第3図　遺構配置図



第４図　遺構配置図（160地点）

第１章　旧石器時代

第１節　概　要

寺方古墳群の下層調査は，平成15年度と平成16年度の２か年で実施した。各年度の調査内容は，以下のとおりである。

平成15年度は，寺方古墳群東半部の6,000㎡を対象として確認調査を実施した（掘削面積は390㎡）。確認調査の過程で，調査区の西端に設定したグリッド１か所から旧石器時代の石器が出土したため，グリッドを拡張して精査した結果，旧石器時代の石器ブロックを１か所検出した（第１地点）。なお，発掘調査は，確認調査の範囲内で終了した。

また，同年度には，台地中央部を南北に走る第160地点の確認調査を併せて行った。本地点では1,140㎡を対象として確認調査を実施し（掘削面積は８㎡），10㎡の本調査を行った。調査の結果，調査区北端で石器ブロックを１か所検出した（第101地点）。

平成16年度は，寺方古墳群西半部の3,460㎡を対象として確認調査を実施し（掘削面積は176㎡），372㎡の本調査を行った。調査の結果，調査区の東端と南端で，それぞれ旧石器時代の石器ブロックを１か所ずつ検出した（第２・３地点）。

第１・２地点は，台地の中央から西寄りにかけての緩斜面に位置している。両地点は相互に隣接しており，第２地点と台地縁辺の傾斜変換点までの距離は，最短で25mほどである。いずれも立川ローム層第２黒色帯の上半部（Ⅸ層上部～Ⅶ層下部）から出土しており，両極打撃と交互剥離によって得られた不定型の剥片を中心とし，これに少量の石刃が伴う石器群である。また，わずかではあるが，定型的な２側縁調整のナイフ形石器がみられる。このナイフ形石器は，表裏と調整加工面とが直交するほど急角度の剥離で調整加工がなされており，関東地方における立川ローム層第２黒色帯上半部に特徴的な形態である。

石器石材の主体は安山岩であるが，大型の円礫から得られた大・中型厚手の剥片を多量に持ち込んで石核の素材とし，上記２種類の方法を用いて剥片生産を行っている。また，黒色頁岩，砂岩などによる剥片生産もわずかながら認められる。なお，第１地点と第２地点の石器群は，相互に接合関係をもつわけではないが，出土層準がほぼ一致すること，石器石材の主体が安山岩であること，剥片生産の手法が類似することなどに共通点があり，おおむね同時期に帰属すると判断される。

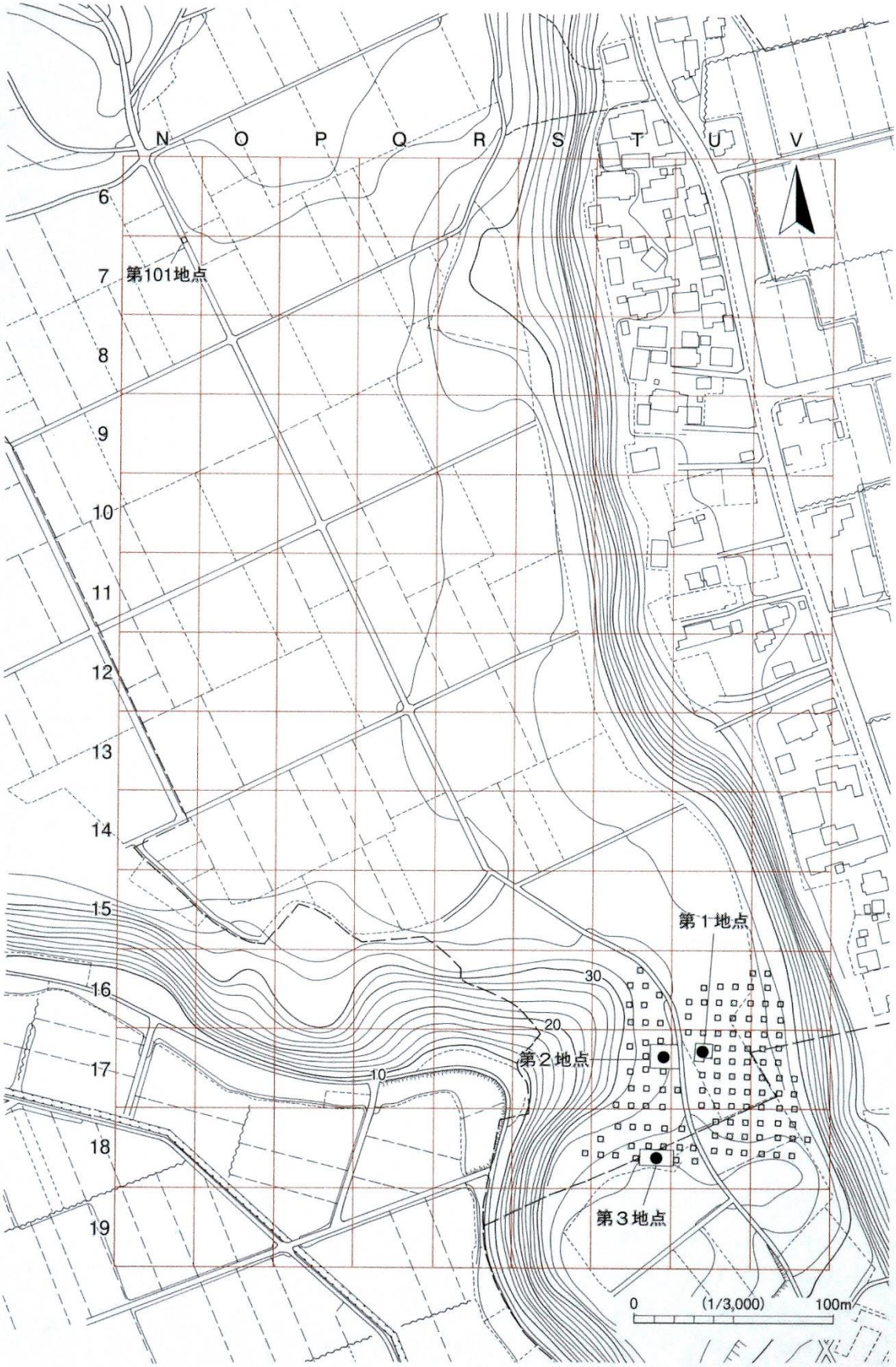
第３地点は，台地の中央部に位置し，西側の傾斜変換点までは30mである。石器群は，立川ローム層第２黒色帯上部（Ⅶ層）から出土しており，定型的な石器には，ナイフ形石器，台形石器が少量みられる。また，砂岩を用いた剥片のなかには表面に研磨痕のみられる例があり，刃部磨製石斧の存在が想定される。

石器石材は，灰緑色の粗悪なチャートが主体をなし，これに房総半島南部産の珪化した頁岩，砂岩などが加わる構成である。各石材とも拳大程度の分割礫を石核素材として持ち込み，両極打撃と交互剥離を中心とした剥片生産が行われている。

第101地点は，台地の中央部に位置する。石器群は，立川ローム層中位（Ⅵ層～Ⅶ層）から出土しており，石刃素材のナイフ形石器と剥片素材の小型の石核，剥片類で構成される。

石器石材は，信州産と想定される良質な黒曜石を用いた小規模な剥片生産がみられ，これに東北地方南部産の硬質な頁岩によるナイフ形石器が搬入品として存在する。

以上，立川ローム層第２黒色帯上半部を中心とする，複数種類の資料を得ることができた。これらの石器群に類似した資料としては，山武町鷺山入遺跡第４地点第Ⅱ文化層，横芝町遠山天ノ作遺跡があげられる。



第５図　旧石器時代調査概要図

鷺山入遺跡では，２側縁調整のナイフ形石器がまとまっているが，瑪瑙を用いた急角度調整によるナイフ形石器が本遺跡第２地点と共通する。また，遠山天ノ作遺跡では，チャートの小円礫を用いた両極打撃による剥片生産（遠山天ノ作技法）のほかに，本遺跡第３地点で多量に出土した粗悪なチャートによる石器群が一定量含まれており，両者の関連が想定される。

なお，房総半島東部地域では，Ⅸ層下部からⅦ層にかけての各層準で，チャートを主体とする小円礫を素材として両極打撃を用いた剥片生産がしばしばみうけられる。本遺跡の各地点では，チャートの小円礫を素材とする例はあまり多くないが，両極打撃をもって剥片生産を終了させる個体が多い。これも地域的特色のひとつと言える。

参考文献

奥田正彦ほか　1986年『主要地方道成田松尾線Ⅲ　鯉ヶ窪遺跡　中台柿谷遺跡　遠山天ノ作遺跡』（財）千葉県文化財センター

山口直人ほか　1999年『鷺山入遺跡』（財）山武郡市文化財センター

第２節　基本層序

本遺跡の立川ローム層は，下総台地における標準的な土層とおおむね一致する。

Ⅲ層：黄褐色軟質ローム層で，厚さは50cm～60cmである。

Ⅳ～Ⅴ層：黄褐色硬質ローム層で，下半部は立川ローム層第１黒色帯に相当する。厚さは20～30cmである。Ⅳ層とⅤ層は，区分できなかった。

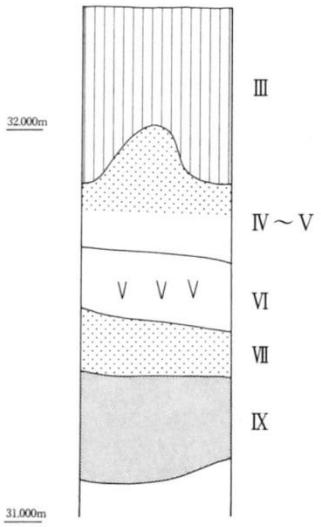
Ⅵ層：明黄褐色硬質ローム層で，黒色粒と火山ガラスを多く含み，姶良丹沢火山灰層（ＡＴ層）に相当する。厚さは15cm～20cmである。

Ⅶ層：黄褐色硬質ローム層で，立川ローム層第２黒色帯上部に相当する。厚さは20cm～30cmである。

Ⅸａ層：褐色硬質ローム層で，第２黒色帯下部の上層である。赤色，暗緑色のスコリアを含む。厚さは30cmほどである。

Ⅸｃ層：暗褐色硬質ローム層で，第２黒色帯下部の下層である。赤色，暗緑色のスコリアを多く含む。厚さは20cm～30cmである。

Ⅹ層：黄褐色硬質ローム層で，Ⅸ層に比べて軟質になる。スコリアは激減するが，部分的に赤橙色で小型のスコリアを含む。本層下底は波状を呈する。厚さは30cm～40cmである。



第６図　基本土層図

第３節　石器群の分布と出土遺物

１．第１地点（第７～10図，第２・３表）

１）概　要

第１地点は，調査範囲のほぼ中央に位置し，立地は幅90mほどの台地平坦部の中央にあたる。石器群の出土したグリッドは，16U-90，17U-00グリッドの２か所である。

ブロックの規模と形状は，長軸８ｍ，短軸４ｍほどの長楕円形の範囲に，90点の石器・礫が分布する。ただし，全資料の９割は，ブロック南側の長軸５ｍ，短軸３ｍの範囲に偏っている。出土層位は立川ローム層Ⅸ層上部を中心としており，60cmほどの高低差をもって包含されている。

石器組成は，削器１点，楔形石器９点，使用痕ある剥片２点，剥片72点，砕片３点，石核１点，礫２点，石器の石材は，安山岩86点，産地不明の頁岩（頁岩Ｃ）１点，瑪瑙１点，礫の石材は流紋岩１点，砂岩１点である。

定型的な石器としては，削器，楔形石器の２種類が出土したにすぎず，ナイフ形石器，台形石器など特徴的なものはみられない。また，楔形石器については，多様なあり方がみられるが，おおむね石核として機能していたと考えられる。したがって，石器群の構成は，中・小型不定型の剥片と石核が主体であり，剥片生産の痕跡を色濃く残すブロックということができる。

礫は２点出土している。砂岩の礫は，６×４×２cmの破片であるが，比較的大型の円礫の一部と想定される。自然面の色調は暗褐色で，わずかに被熱した可能性はあるが，剥落等の明瞭な熱変化はみられない。流紋岩の礫は，１cm角以下の小破片である。円礫面を残すが，本来の礫の大きさは不明である。また，被熱したか否かについても，はっきりしない。

２）母岩の特徴と内容

本地点では，出土した石器88点のうち53点について母岩分類した（60％）。内訳は，安山岩13母岩（17U-①～⑫・⑮；51点），頁岩１母岩（17U-⑬；１点），瑪瑙１母岩（17U-⑭；１点）である。

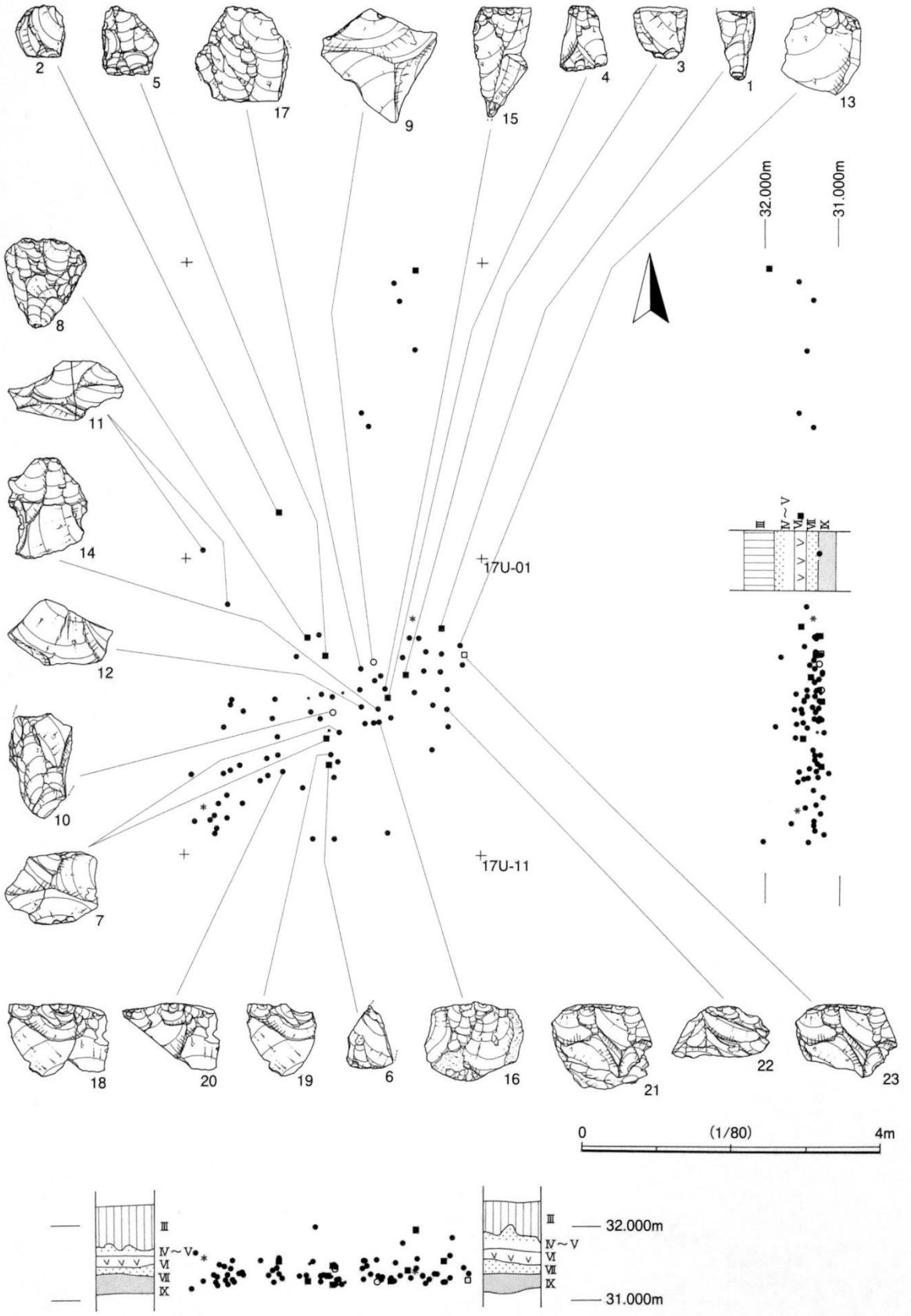
安山岩は，相互に類似したものが多く，全体の59％を母岩分類したにすぎない。残りの41％は，小型品が主体であるが，区分したいずれかの母岩に帰属する可能性が高く，したがって，分類した母岩についても剥片生産に関連する母岩か，搬入された母岩かの判断が困難なものが多い。総じて，淡黒灰色～灰色に風化しており，自然面の曲率から原石は比較的大型と想定される例が多いことから，房総半島およびその周辺で採取される安山岩とは異なる（房総半島およびその周辺部の例は，褐色に風化し，小型の円礫と想定されるものが多い）。なお，母岩分類は，ブロック内で完結させず，周辺ブロックを含めて検討したため，各ブロックでは単独母岩に近い特徴を示してはいても，周辺ブロックで類似資料があれば，未分類としたものもある。以下，各母岩の内容を記す。

17U-①：全体的に淡褐色に風化した，やや軟質の安山岩である。部分的に青灰色に風化したところもある。

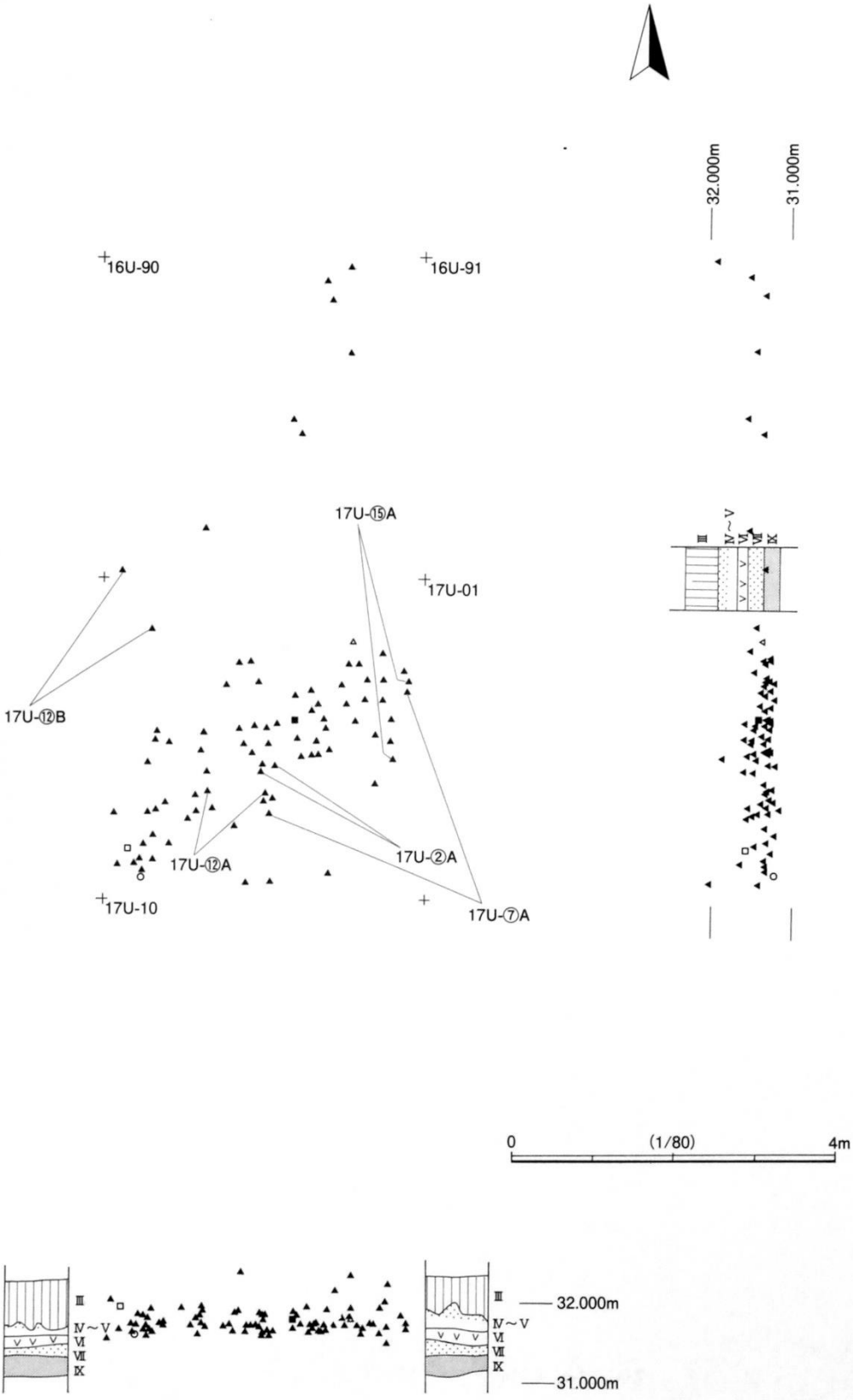
φ１～２mmの夾雑物が含まれるほか，黄褐色の微細な窪みが点状にみられる。同一母岩は，中型不定型の剥片２点で，総重量は18.6ｇである。

17U-②：わずかに青みを帯びた灰色に風化した，やや軟質の安山岩である。同一母岩は，削器１点（欠損品），楔形石器２点（接合して１個体；中型品）で，総重量は12.2ｇである。

17U-③：淡褐色に風化した安山岩である。17U-①母岩に類似するが，黄褐色の微細な窪み（φ0.5mm以下）が点状に多数みられる。同一母岩は，楔形石器２点（いずれも小型品），使用痕ある剥片１点，中・小型不定型の剥片３点で，総重量は38.5ｇである。



第７図　第１地点出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－



第８図　第１地点出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－

17U-④：わずかに青みを帯びた灰色に風化した安山岩である。自然面は青みを帯びた灰白色で，爪痕状の傷が顕著である。内部は，黄褐色の微細な窪みが点状に多数みられるが，夾雑物は少ない。同一母岩は，楔形石器２点（大・小型品各１点），中・小型不定型の剥片６点で，総重量は78.7ｇである。剥片類に大型品はないが，自然面を部分的に残す例が多い。

17U-⑤：淡黒灰色に風化した安山岩で，黄褐色の微細な窪みが点状に散在する。同一母岩は，使用痕ある剥片１点，中型不定型の剥片１点で，総重量は22.3ｇである。

17U-⑥：黒灰色に風化した，比較的堅緻な安山岩である。同一母岩は，小型不定型の剥片５点で，総重量は7.7ｇである。

17U-⑦：わずかに青みを帯びた灰色に風化した安山岩である。中型不定型の剥片２点（接合して１個体）の単独資料である（5.0ｇ）。

17U-⑧：わずかに青みを帯びた淡黒灰色に風化した，きめの細かな安山岩である。同一母岩は，楔形石器１点（小型品），小型不定型の剥片２点で，総重量は3.4ｇである。

17U-⑨：青みがかった淡黒灰色に風化した安山岩である。φ２㎜ほどの白色の夾雑物が目立つ。同一母岩は，中型不定型の剥片２点で，総重量は21.4ｇである。

17U-⑩：褐色に風化した，やや硬質な質感のある安山岩である。同一母岩は，楔形石器１点（中型品），小型不定型の剥片４点で，総重量は8.8ｇである。

17U-⑪：青みを帯びた淡黒灰色に風化した，きめの細かい硬質な質感のある安山岩である。同一母岩は，小型不定型の剥片４点で，総重量は10.2ｇである。

17U-⑫：淡褐色に風化した安山岩である。自然面は，青みを帯びた灰色で，爪痕状の傷が顕著である。同一母岩は，中・小型不定型の剥片７点で，そのうち剥片２点が表裏で接合する。総重量は36.4ｇである。

17U-⑬：緑がかった灰白色に風化し，φ0.3㎜以下の黒色粒が多数含まれる，比較的硬質な頁岩である。小型不定型の剥片１点の単独資料（0.4ｇ）である。

17U-⑭：黄色みを帯びた乳白色半透明の瑪瑙である。小型不定型の剥片１点の単独資料（0.6ｇ）である。

17U-⑮：青みを帯びた淡黒灰色に風化した，きめの細かい硬質な質感のある安山岩で，17U-⑪母岩に似る。同一母岩は，中型不定型の剥片１点と剥片素材の石核１点で，接合する。総重量は22.0ｇである。

２）出土遺物（第９・10図）

ここで記述する石器は，すべて安山岩を用いている。

削　器（第９図１）

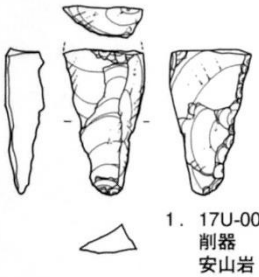
１は，中型細身で不定型の剥片を用いた削器である。裏面の右側縁に，細かな調整加工が連続する。表面を構成する素材時の剥離面と裏面（主要剥離面）とでは，剥離方向が90度異なっていることから，求心的な剥離手順によって素材剥片が得られたと考えられる。上半部は欠損する。

楔形石器（第９図２～８）

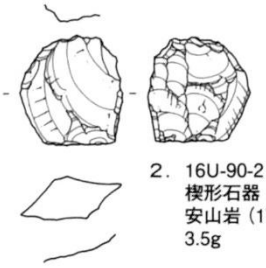
２～６は小型の，７・８は中・大型の楔形石器である。いずれも，素材は不定型の剥片と想定され，図示した上下だけが潰れている。２次的な剥離面の大きさがばらついており，また剥離面の枚数が少ないものもあるが，おおむね石核として機能したと考えたい。

使用痕ある剥片（第９図９・10）

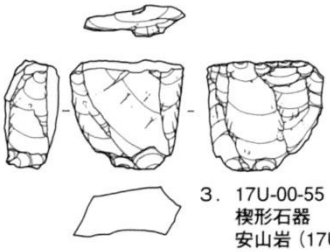
９・10は，中型不定型の剥片を用いており，鋭利な縁辺の一部に刃こぼれがみられる。なお，石材の主体が安山岩で，微細な剥離痕の観察が困難であることから，使用痕ある剥片として抽出した資料は，全体の一部と考えられる。



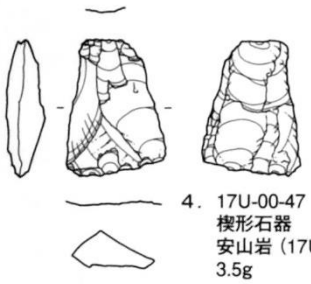
1．17U-00-61
削器
安山岩（17U-②）
2.7g



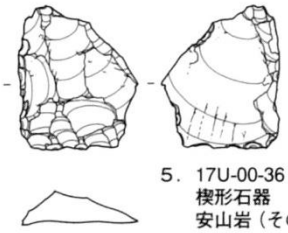
2．16U-90-2
楔形石器
安山岩（17U-③）
3.5g



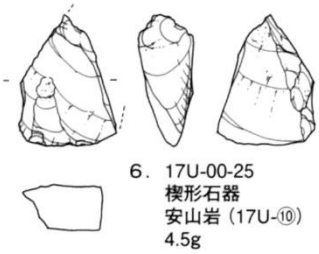
3．17U-00-55
楔形石器
安山岩（17U-④）
6.1g



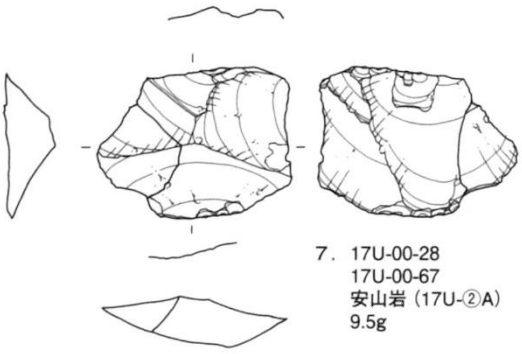
4．17U-00-47
楔形石器
安山岩（17U-③）
3.5g



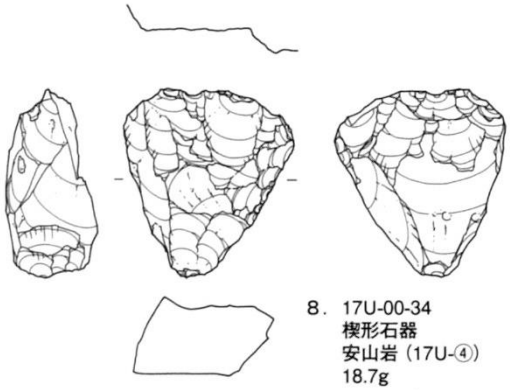
5．17U-00-36
楔形石器
安山岩（その他）
3.9g



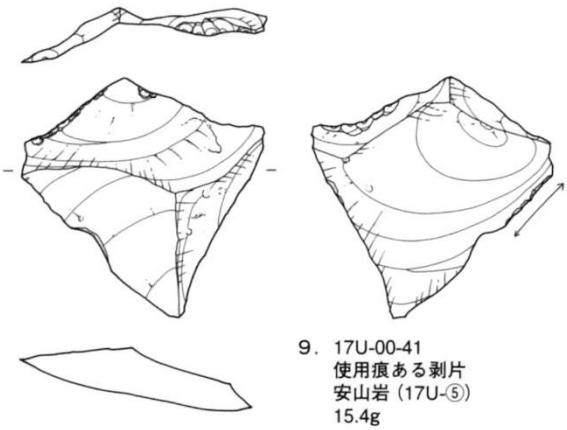
6．17U-00-25
楔形石器
安山岩（17U-⑩）
4.5g



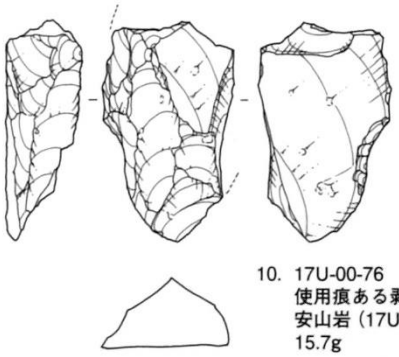
7．17U-00-28
17U-00-67
安山岩（17U-②A）
9.5g



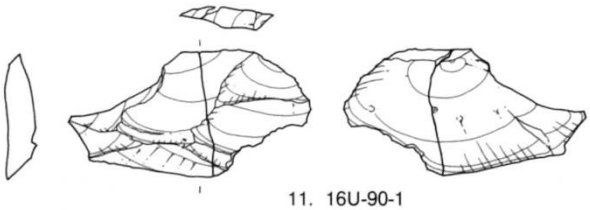
8．17U-00-34
楔形石器
安山岩（17U-④）
18.7g



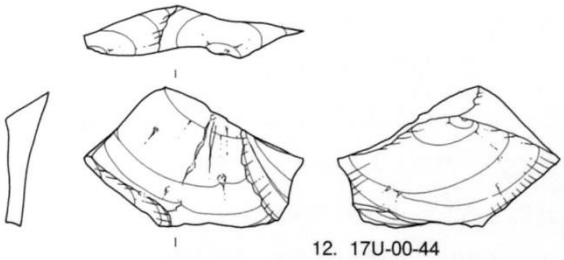
9．17U-00-41
使用痕ある剥片
安山岩（17U-⑤）
15.4g



10．17U-00-76
使用痕ある剥片
安山岩（17U-③）
15.7g



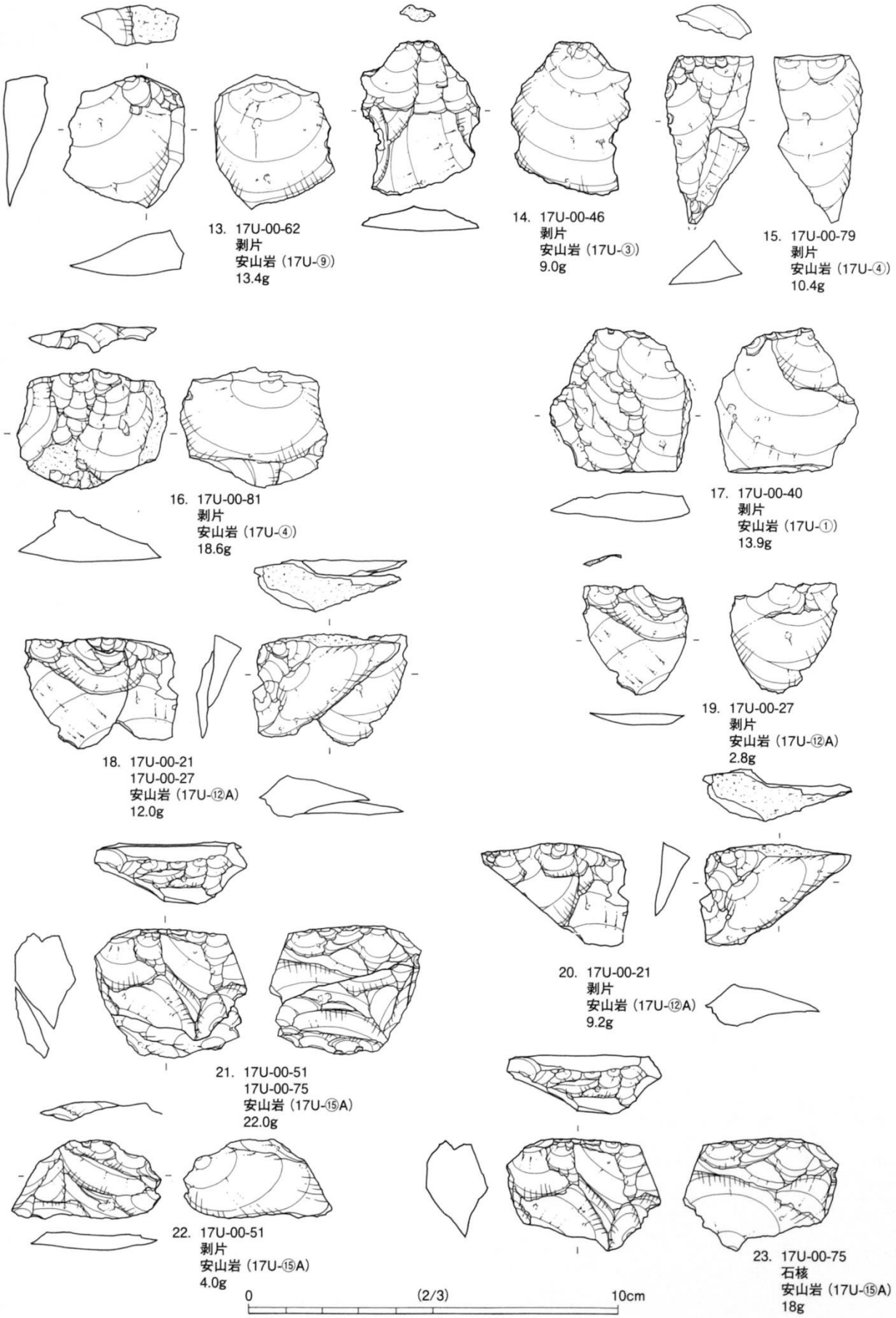
11．16U-90-1
17U-00-33
安山岩（17U-⑫B）
6.5g



12．17U-00-44
剥片
安山岩（17U-⑨）8.0g

0　(2/3)　10cm

第９図　第１地点出土遺物実測図（１）



第10図　第１地点出土遺物実測図（２）

剥　片（第９図11・12，第10図13～17）

いずれも，中型不定型の剥片である。表面を構成する剥離面の剥離方向は，おおむね主要剥離面と一致する例が多い。11の表面末端部には，石核の素材時の主要剥離面が付着しており，剥片素材の石核より得られたことがわかる。16の末端部はウートラパッセとなっており，石核が両面体に近いことを示している。

接合資料とその関連資料（第10図18～23）

・17U-⑫母岩（第10図18～20）

18は，中型不定型の剥片２点（19・20）の接合資料である。表面には分割面が広く残されており，剥片素材の石核から剥離されたことを窺わせる。また，上端部では，表裏を作業面とする交互剥離がなされたことを示している。

・17U-⑮母岩（第10図21～23）

21は，中型不定型の剥片（22）と石核（23）の接合資料である。厚手の剥片を石核の素材に用い，表裏両

第２表　第１地点出土遺物組成表１　－母岩別組成表－

母岩番号	石　材	Ｋｎ	Ｔｒ	Ｓｓ	Ｐｉ	Ｂｌ	Ｒｆ	Ｕｆ	Ａｂ	Ｆｌ	Ｃｈ	Ｃｏ	合　計	礫	重　量
17U-①	安山岩									2			2		18.6
17U-②	安山岩			1	2								3		12.2
17U-③	安山岩				2			1		3			6		38.5
17U-④	安山岩				2					6			8		78.7
17U-⑤	安山岩							1		1			2		22.3
17U-⑥	安山岩									5			5		7.7
17U-⑦	安山岩									2			2		5.0
17U-⑧	安山岩				1					2			3		3.4
17U-⑨	安山岩									2			2		21.4
17U-⑩	安山岩				1					4			5		8.8
17U-⑪	安山岩									4			4		10.2
17U-⑫	安山岩									7			7		36.4
17U-⑬	頁岩Ｃ									1			1		0.4
17U-⑭	瑪瑙									1			1		0.6
17U-⑮	安山岩									1		1	2		22.0
その他	安山岩				1					31	3		35		42.6
17U-R①	砂岩												0	1	46.1
17U-R②	流紋岩												0	1	0.7
合　計		0	0	1	9	0	0	2	0	72	3	1	88	2	375.6

第３表　第１地点出土遺物組成表２　－石材別組成表－

石　材	Ｋｎ	Ｔｒ	Ｓｓ	Ｐｉ	Ｂｌ	Ｒｆ	Ｕｆ	Ａｂ	Ｆｌ	Ｃｈ	Ｃｏ	合　計	礫	重　量
安山岩			1	8			2		71	3	1	86		327.8
頁岩Ｃ									1			1		0.4
瑪瑙									1			1		0.6
流紋岩												0	1	0.7
砂岩												0	1	46.1
合　計	0	0	1	8	0	0	2	0	73	3	1	88	2	375.6

面を作業面として，求心的な打点の移動と交互剥離の手順によって中・小型不定型の剥片を生産していたことを示している。

接合資料では，両面体に近い石核から交互剥離を行っていた剥片生産のあり方がみられたが，これ以外に，両極打撃による剥片生産が想定される。

2．第2地点（第11～25図，第4・5表）

1）概　要

第2地点は，調査範囲の中央で，幅90mほどの台地平坦部の中央から西寄りの地点に位置する。石器群の出土したグリッドは，17T-18・19・28・29・38グリッドの5か所である。

ブロックの規模と形状は，長軸11m，短軸3mほどの帯状の範囲に，285点の石器・礫が分布する。出土層位は立川ローム層Ⅸ層上部を中心として，1mほどの高低差をもって，ほぼ水平に包含されている。

石器組成は，ナイフ形石器5点，削器7点，楔形石器18点，石刃13点，加工痕ある剥片3点，使用痕ある剥片9点，剥片202点，砕片4点，石核16点，礫8点，石器の石材は，安山岩212点，流紋岩5点，産地不明の頁岩（頁岩C）49点，チャート1点，砂岩3点，瑪瑙7点，礫の石材は流紋岩1点，砂岩5点，チャート2点である。

石器の石材は，安山岩が全体の77％を占めており，これらはブロック全体にまんべんなく分布するが，それ以外の石材についても，とくに偏在することはなく，ブロック全体に広がっている。

石器の種類等についても，とくに明瞭な分布上の偏りはみられない。安山岩による単独資料の石刃についても同様で，石器群が密集する部分に分布しており，明らかに搬入品とわかる資料と剥片剥離作業に関連する資料とが分布のうえで重なっている。

礫群といえる明瞭な遺構は検出されていないが，石器ブロックから礫が少量出土している。

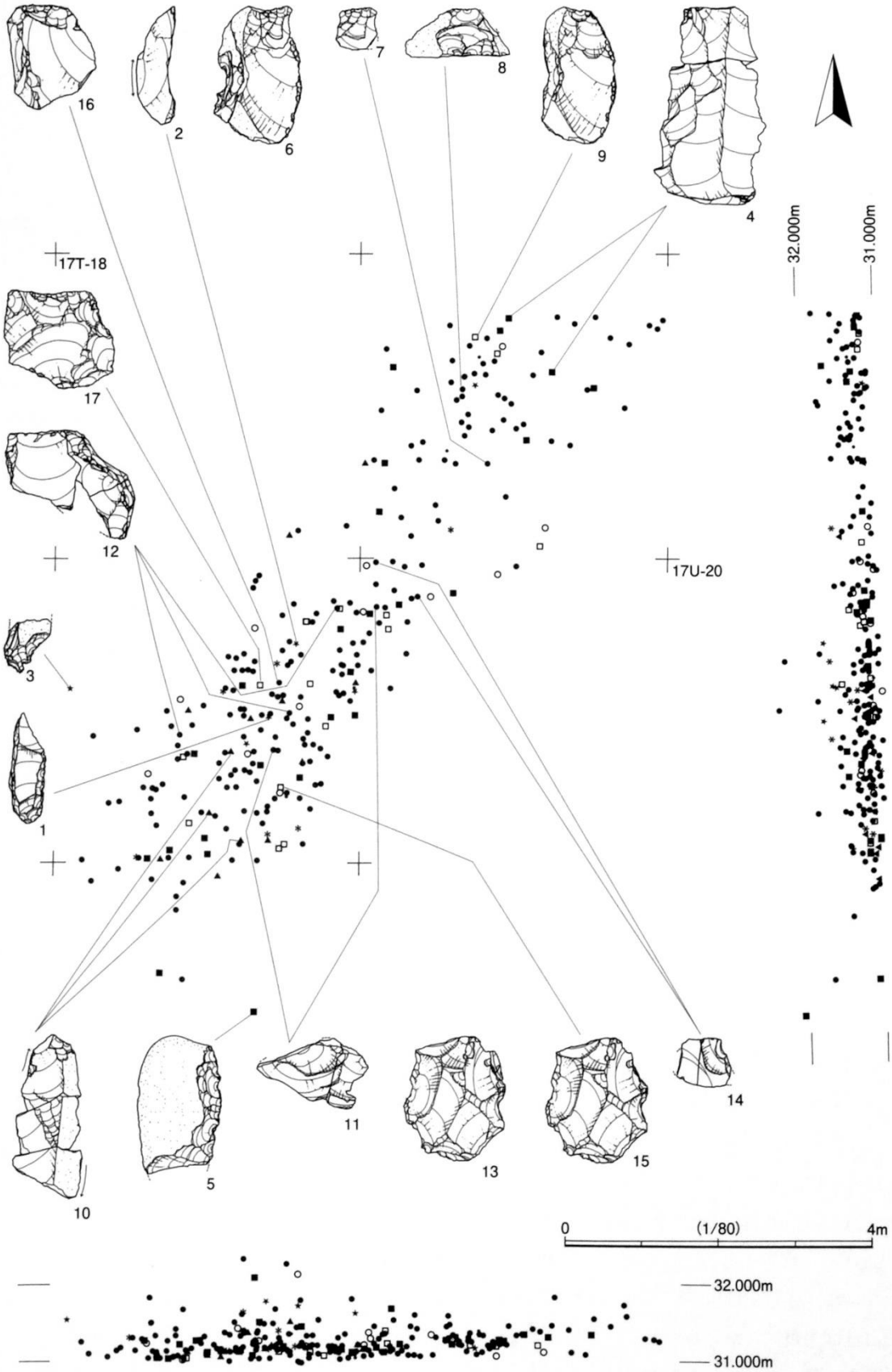
砂岩の礫は2母岩（17R-①・②）ある。17R-①母岩は4点の礫片で構成されるが，自然面が赤褐色のものと淡褐色のものが接合しており，被熱による色調の変化とみることができる。接合して6㎝×6㎝×2.5㎝ほどの大きさになるが，まだ全体の一部分で，本来の礫の大きさは不明である。17R-②母岩は，礫片1点である。全体の一部分で，もともとの礫の大きさは不明である。表面は赤化している。流紋岩の礫（17R-③）は，礫片1点である。1／2程度が遺存する扁平な円礫であるが，表面全体が赤褐色を呈しており，被熱した可能性が高い。チャートの礫（17R-④）は，礫片2点で構成されるが，相互に接合して7㎝×5㎝×4㎝の円礫に復元される。被熱した形跡がなく，敲打痕が散見されることから，石器の原材として持ち込まれたと考えられる。

以上，石器ブロックに重なって礫が若干分布しており，被熱したと想定されるものも含まれる。また，礫の一部しか出土しなかったことから，本来，小規模な礫群が存在し，構成礫の多くが持ち出されたことも考えられる。

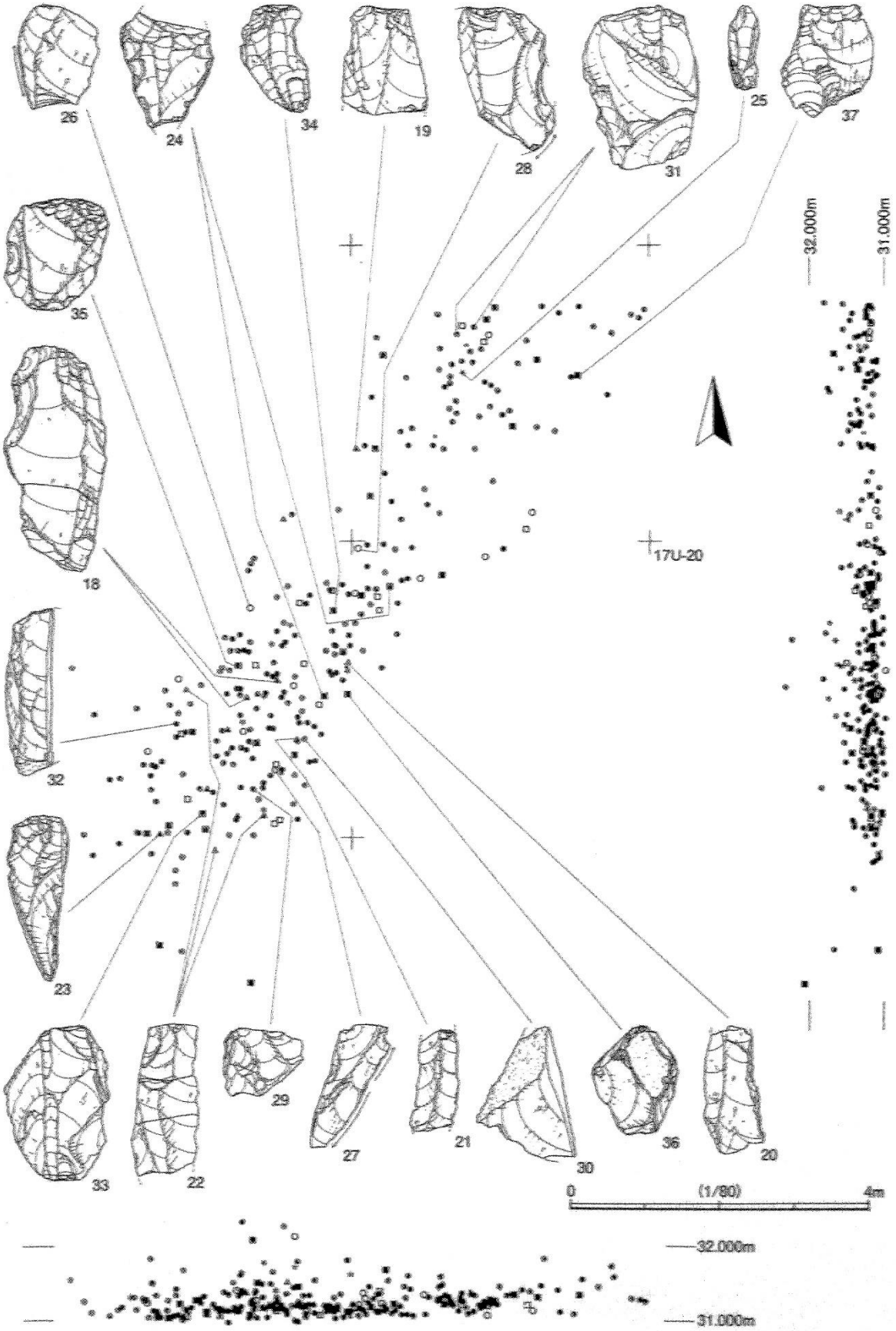
2）母岩の特徴と内容

本地点では，石器277点のうち163点について母岩分類した（59％）。内訳は，安山岩28母岩（17T-①～㉘；98点），頁岩4母岩（17T-㉙～㉜；49点），チャート1母岩（17T-㉝；1点），流紋岩1母岩（17T-㉞；5点），砂岩1母岩（17T-㉟；3点），瑪瑙3母岩（17T-㊱～㊳；7点）である。

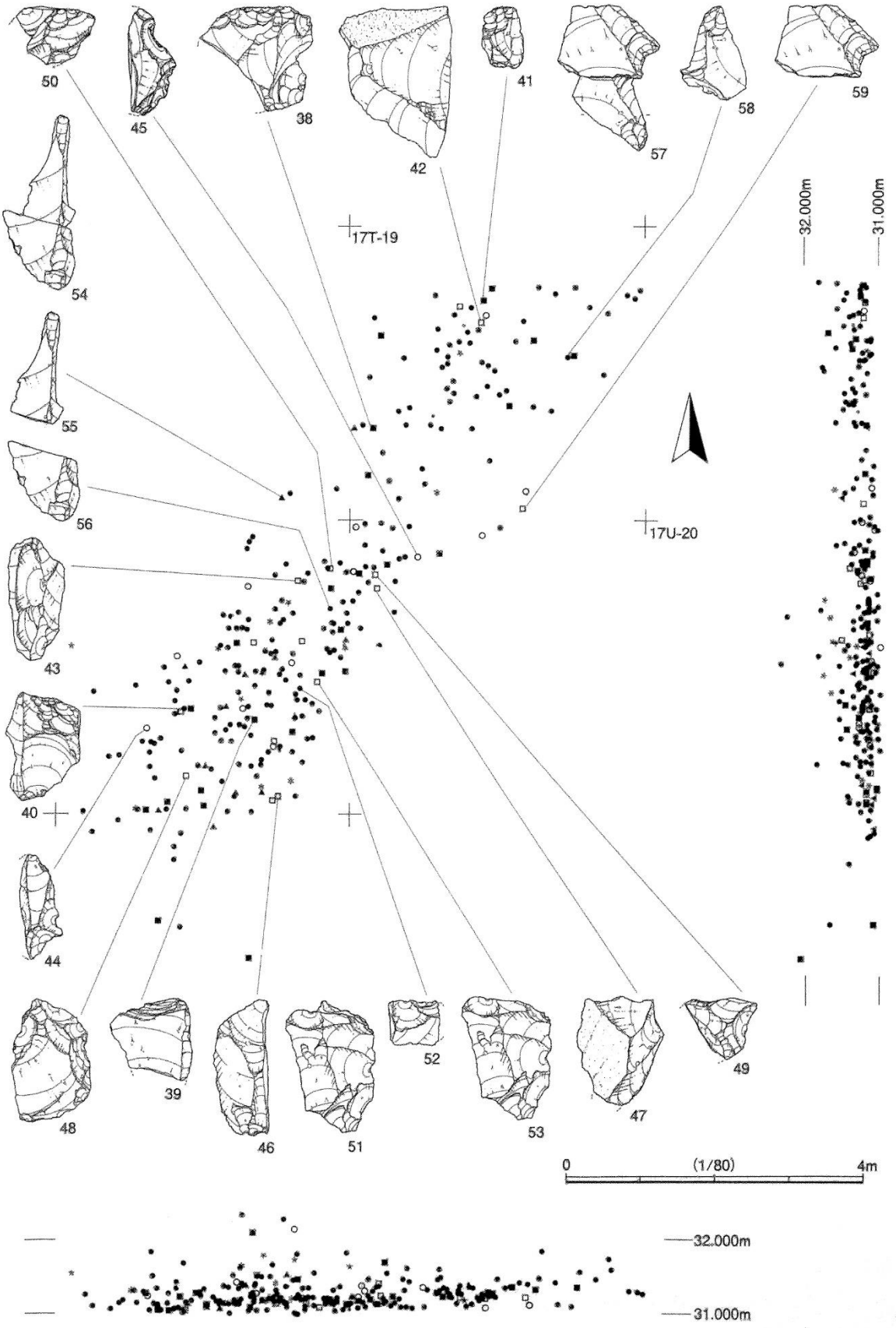
安山岩は，類似したものが多く，全体の46％を母岩分類したにすぎない。残りの53％は，小型品が主体であるが，区分したいずれかの母岩に帰属する可能性が高く，したがって，剥片生産に関連する母岩か，搬入された単独の母岩かの判断は困難である。総じて，淡黒灰色～灰色に風化したもので，原石は比較的大型と



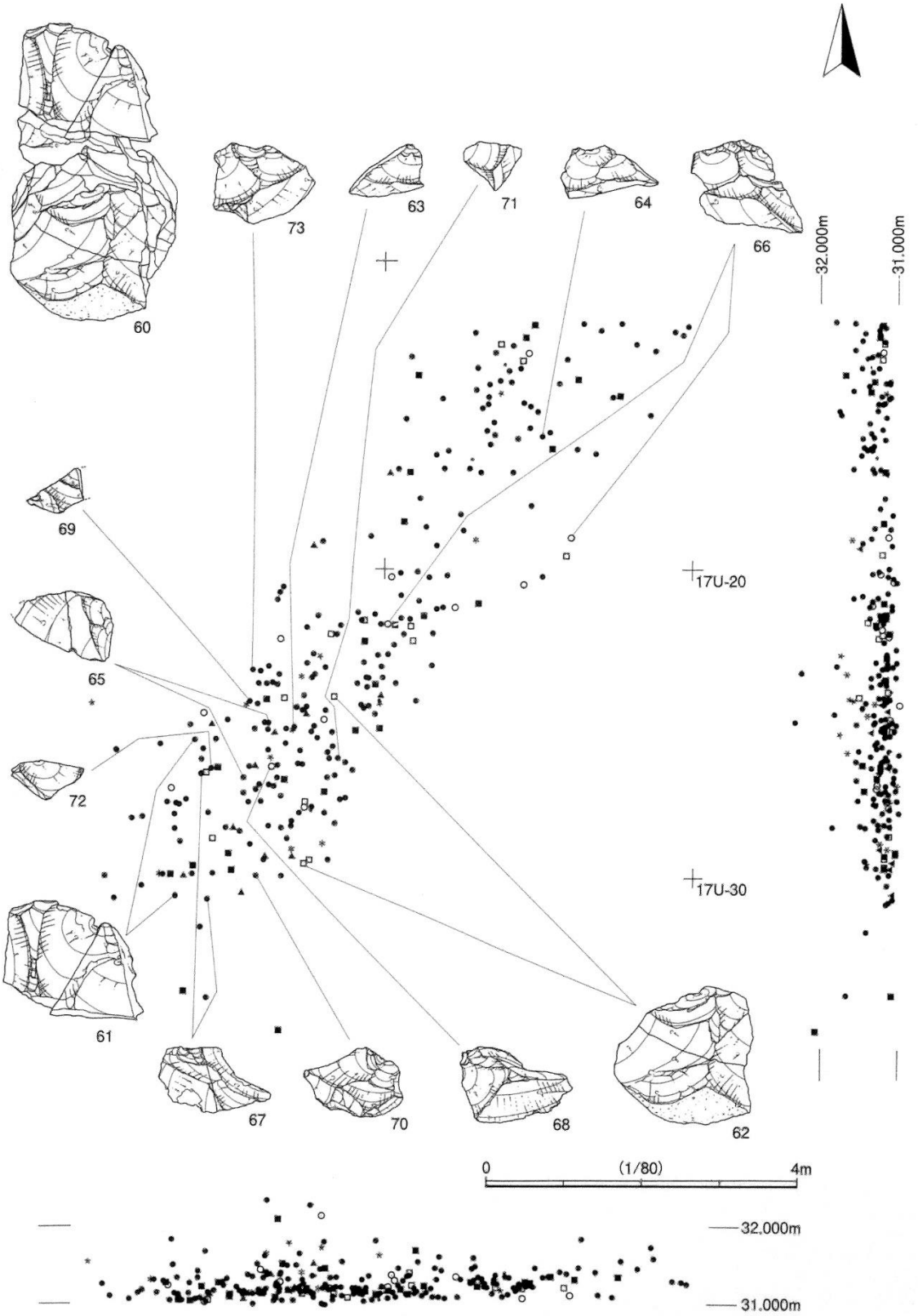
第11図　第２地点出土遺物分布図（１）　－石器別分布図（１）－



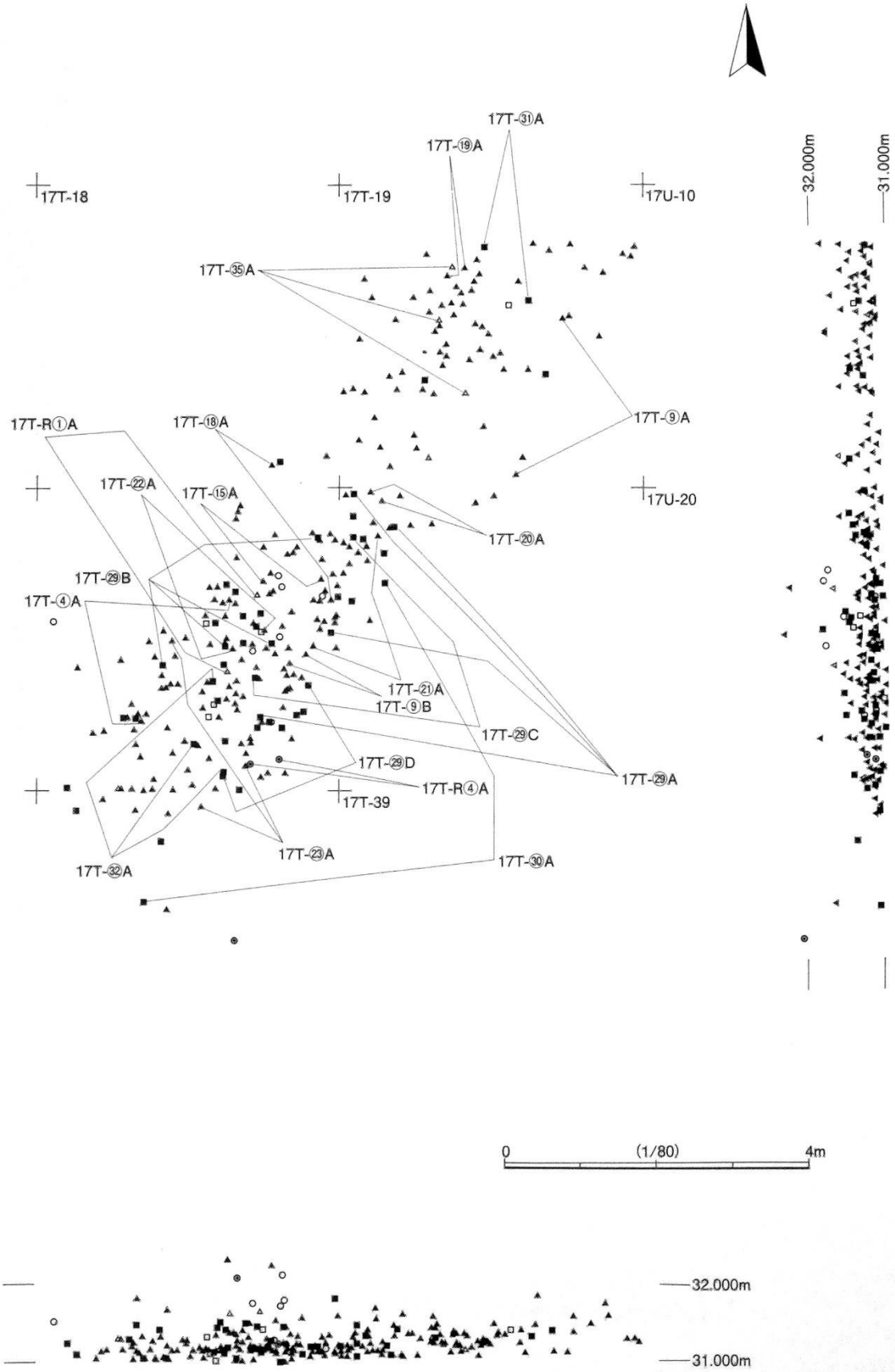
第12図　第２地点出土遺物分布図（２）　－石器別分布図（２）－



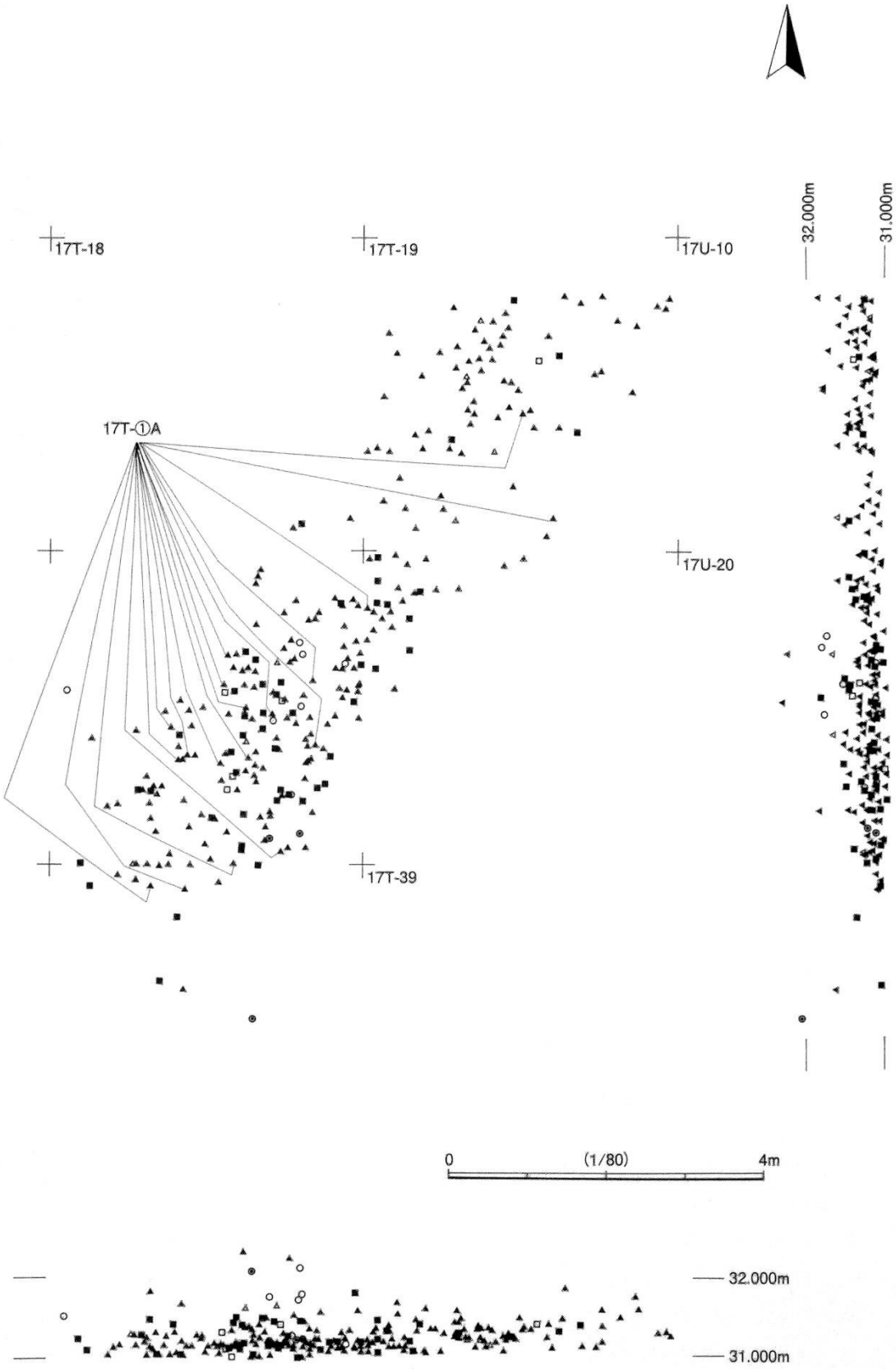
第13図　第２地点出土遺物分布図（３）　－石器別分布図（３）－



第14図　第２地点出土遺物分布図（４）　－石器別分布図（４）－



第15図　第２地点出土遺物分布図（５）　－石材別分布図（１）－



第16図　第２地点出土遺物分布図（６）　－石材別分布図（２）－

想定される例が多いことから，房総半島周辺で採取される安山岩とは異なる。頁岩は，おおむね「利根川の黒色頁岩」と呼ばれているものである。両石材とも北関東産ではなかろうか。

17T-①：淡黒灰色に風化した安山岩である。φ１～２㎜の白色の夾雑物を含む。自然面は灰褐色で，爪痕状の傷をもつ円礫面である。残された自然面が小さいため，原石の大きさは不明であるが，かなり大型の円礫だったと想定される。同一母岩は，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片３点（接合して２個体），中・小型不定型の剥片15点（接合して12個体），剥片素材の石核２点（接合して１個体）で，総重量は179.6ｇである。

接合資料は１個体で，使用痕ある剥片３点（接合して２個体），剥片13点（接合して10個体），石核２点（接合して１個体）で構成される。この資料は，大型厚手の剥片（長さ11.5㎝，幅6.5㎝，厚さ2.5㎝）を石核の素材とし，交互剥離によって中型不定型の剥片を生産しているものである。接合していない資料も若干あるが，すべて同一個体に帰属する可能性が高いことから，本遺跡内へは，原石ではなく，原産地周辺で得られた大型の剥片の状態で持ち込まれ，消費されたと想定される。

17T-②：わずかに青みを帯びた淡黒灰色に風化した安山岩である。同一母岩は，大型の石刃２点で，総重量は36.9ｇである。このほかに同一母岩に分類できる資料がみられないことから，両者とも搬入品と考えられる。石刃の縁辺に残された自然面は，爪状の傷が多数みられるが，比較的平坦であり，原石はかなり大型の円礫と想定される。

17T-③：青みを帯びた灰色に風化した安山岩である。きめ細かく緻密であるが，軟質な質感である。φ１～２㎜の白色の夾雑物が目立つ。同一母岩は，楔形石器１点（中型品），大・中型不定型の剥片３点で，総重量は50.0ｇである。

17T-④：淡黒灰色～灰色に風化した安山岩である。きめ細かく緻密であるが，軟質な質感である。φ１㎜ほどの夾雑物を少量含む。自然面は灰白色で爪痕状の傷がみられる。残された自然面があまり広くはないが，曲率が小さいことから，原石は大型の円礫と想定される。同一母岩は，使用痕ある剥片１点，大・中型不定型の剥片４点（接合して３個体）で，総重量は38.3ｇである。

本母岩に帰属する剥片類は，大・中型不定型のもので，数量は５点と少ないが，母岩分類のできなかった小型品のなかには，本母岩に帰属する資料が含まれている可能性がある。剥片の形態，遺存状態からみて，遺跡内で剥片生産した母岩と考えられる。

17T-⑤：淡黒灰色～灰色に風化した安山岩である。φ0.5㎜以下の黄褐色の微細な窪みが点状に多数みられる。同一母岩は，使用痕ある剥片１点，小型不定型の剥片１点で，総重量は19.3ｇである。

17T-⑥：淡黒灰色～青みを帯びた灰色に風化した安山岩である。きめ細かく緻密であるが，軟質な質感である。同一母岩は，楔形石器１点（中型品），剥片素材の小型の石核１点で，総重量は28.1ｇである。

17T-⑦：淡黒灰色に風化した安山岩である。黄褐色の微細な窪みが点状に多数みられるが，夾雑物は少ない。同一母岩は，楔形石器１点，使用痕ある剥片１点，大型不定型の剥片１点（破片），剥片素材の石核１点で，総重量は106.7ｇである。

17T-⑧：灰褐色に風化した安山岩である。φ0.5㎜以下の小孔が多量にみられる。自然面は灰白色で，爪痕状の傷とφ３～５㎜の痘痕が散見される。緩やかな曲面であることから，原石は大型の円礫と想定される。同一母岩は，楔形石器１点（大型品），剥片素材の石核１点で，総重量は72.7ｇである。

17T-⑨：淡黒灰色に風化した安山岩である。φ１～２㎜の夾雑物を含む。同一母岩は，小型不定型の剥片２点，剥片素材の石核２点で，総重量は45.4ｇである。

接合資料は，剥片１点と石核１点の組み合わせが２組ある。いずれも，中型厚手の剥片を石核の素材として，中・小型不定型の剥片を生産するもので，石核の表裏両面を作業面として，交互剥離の手法と求心的な打点移動によっている。

17T-⑩：灰褐色～灰色に風化した安山岩である。風化が進行し，表面はかなり荒れて，ざらついている。夾雑物は橙褐色を呈する。同一母岩は，小型不定型の剥片２点で，総重量は3.6ｇである。

17T-⑪：褐色に風化した安山岩である。風化が進行し，表面にはφ0.5㎜以下の小孔が多数あり，全体にざらついており，ほかの安山岩とは趣を異にしている。同一母岩は，ナイフ形石器１点，加工痕ある剥片１点，小型不定型の剥片３点で，総重量は13.7ｇである。

17T-⑫：淡黒灰色に風化した安山岩である。微細な黒点が多数あり，全体に硬質な質感である。同一母岩は，中型不定型の剥片２点で，総重量は7.7ｇである。

17T-⑬：灰白色に風化した安山岩である。φ１～２㎜の夾雑物を含み，全体にやや軟質な質感である。同一母岩は，中・小型不定型の剥片２点で，総重量は14.6ｇである。

17T-⑭：褐色に風化した安山岩である。風化が進行し，表面はかなり荒れて，ざらついている。同一母岩は，楔形石器１点（小型品），中型不定型の剥片１点で，総重量は7.2ｇである。

17T-⑮：灰色に風化した安山岩である。灰白色の縞が入り，微細な小孔が顕著である。φ１～２㎜の白色の夾雑物が散見される。自然面も灰色で，緩やかに湾曲する。同一母岩は，小型不定型の剥片２点，剥片素材の小型の石核１点で，総重量は30.0ｇである。なお，剥片２点は表裏で接合する。

17T-⑯：淡黒灰色～灰色に風化した安山岩である。黄褐色の微細な窪みが点状に多数ある。同一母岩は，楔形石器１点（中型品），中・小型不定型の剥片５点で，総重量は23.7ｇである。

17T-⑰：淡黒灰色に風化した安山岩である。全体にきめが細かく，硬質な質感である。φ１～２㎜の夾雑物が散在する。同一母岩は，使用痕ある剥片１点，中型不定型の剥片１点で，総重量は14.6ｇである。

17T-⑱：淡灰褐色に風化した安山岩である。黄褐色の微細な窪みが連結して線状になっている。同一母岩は，削器１点，石刃１点，小型不定型の剥片１点で，総重量は15.7ｇである。

接合資料は，石刃１点と削器１点であるが，これは，「下総型石刃再生技法」のように，大型の削器の欠損品から小型の石刃を剥離したと想定されるものである。ただし，削器（転用されて石核）の本体は，出土していない。

17T-⑲：風化が均質ではなく，淡褐色の部分と灰色の部分が斑になる安山岩である。φ１㎜以下の夾雑物を多量に含む。同一母岩は，楔形石器３点（中・小型品），大・中型不定型の剥片６点（接合して５個体）で，総重量は110.8ｇである。

17T-⑳：淡灰褐色に風化した安山岩である。黄褐色の微細な窪みが点状に多数みられ，全体的には17T-⑱母岩に似る。同一母岩は，中型不定型の剥片３点（接合して２個体）で，総重量は13.1ｇである。

17T-㉑：淡黒灰色に風化した安山岩である。黄褐色の微細な窪みが点状に多数みられるほか，φ１～２㎜の夾雑物が散在する。同一母岩は，削器２点（接合して１個体），楔形石器１点（大型品），剥片素材の石核２点で，総重量は96.5ｇである。石核は，厚手の剥片を素材として，小型不定型の剥片を生産したものである。

17T-㉒：淡黒灰色の地に細い黒灰色の縞が平行して入る安山岩である。φ１～２㎜の夾雑物（鉱物）が散在する。大型の石刃２点（接合して１個体）の単独資料（53.5ｇ）である。

17T-㉓：黄色みを帯びた淡黒灰色に風化した安山岩である。黄褐色の微細な窪みが点状に多数みられ，や

や軟質な質感である。φ１～２㎜の各種夾雑物が散在する。大型の石刃３点（接合して１個体）の単独資料（20.1ｇ）である。

17T-㉔：赤みがかった褐色に風化した安山岩である。本母岩も17T-⑪母岩と同様，ほかの安山岩とは異なる様相で，房総半島周辺で得られる中・小型の円礫を用いたものかも知れない。小型不定型の剥片１点の単独資料（5.8ｇ）である。

17T-㉕：青みがかった灰色に風化した安山岩である。きめ細かく，緻密で，硬質な質感があり，黄灰色の微細な窪みが点状にみられる。小型不定型の剥片１点の単独資料（4.4ｇ）である。

17T-㉖：わずかに青みがかった淡黒灰色に風化した安山岩である。全体にきめ細かいが，やや軟質な質感である。φ１～２㎜の白色の夾雑物が目立つ。中型の石刃１点の単独資料（9.5ｇ）である。

17T-㉗：わずかに青みがかった淡黒灰色に風化した安山岩である。黄白色の微細な窪みが点状に多数みられ，やや軟質な質感である。全体に夾雑物は少ない。中型の石刃１点の単独資料（4.3ｇ）である。

17T-㉘：淡黒灰色の地に細い黒灰色の縞が平行して入る安山岩である。φ１～２㎜の夾雑物（鉱物）が散見される。自然面は灰色で比較的平坦である。同一母岩は，楔形石器１点（中型品）で，総重量は23.2ｇである。

17T-㉙：灰色から淡黄褐色まで色調が変異する，軟質な頁岩（黒色頁岩）である。同一母岩は，剥片37点，石核２点で，総重量は162.1ｇである。

接合資料は，Ａ；小型不定型の剥片２点（接合して１個体）と石核１点によるもの，Ｂ；剥片３点が接合して中型不定型の剥片１個体となったもの，Ｃ；剥片２点が接合して中型不定型の剥片１個体となったもの，Ｄ；剥片２点が接合して中型不定型の剥片１個体になったものの４者がある。

石核は，厚手の剥片を素材としたものが２個体出土しているが，剥片類の接合率が悪いことから，出土した２個体以外にも剥片剥離作業の行われた石核があり，それが搬出された可能性がある。

自然面の残された大型の剥片類がみられないことから，自然面が除去され，さらに複数個体に分割された石核（あるいは石核素材）が持ち込まれ，それぞれから中・小型不定型の剥片が生産されたと考えられる。

17T-㉚：灰白色ないしは黄灰色に風化した，きめ細かな頁岩である。同一母岩は，楔形石器１点，剥片３点，砕片１点で，総重量は6.4ｇである。楔形石器に小型不定型の剥片１点が接合するが，接合しない資料を含めて，小型品が多い。

17T-㉛：黒灰色から黄灰色まで変異する，緻密な頁岩である。削器２点（接合して１個体）の単独資料（58.3ｇ）である。

17T-㉜：淡黄褐色に風化した，軟質の頁岩（黒色頁岩）である。大型の石刃３点（接合して１個体）の単独資料（16.8ｇ）である。

17T-㉝：自然面は淡灰緑色，内部は青灰色で，節理の少ない良質なチャートである。削器１点の単独資料（28.4ｇ）である。

17T-㉞：黄灰色の地に，φ0.5～３㎜の鉱物を多量に含む流紋岩である。同一母岩は，剥片４点，石核１点で，総重量は39.1ｇである。円礫を分割したものを石核の素材として持ち込み，小型不定型の剥片を剥離している。

17T-㉟：灰白色で粒子の細かい，硬質の砂岩である。同一母岩は，剥片２点，石核１点で，総重量は34.3ｇである。小型不定型の剥片，中型厚手の不定型の剥片が順次剥離された後，後者を石核の素材として，さらに小型不定型の剥片を剥離している。本体の石核は，搬出されたと考えられる。

17T-㊱：淡橙色と灰白色の部分が混在する，半透明の瑪瑙である。同一母岩は，ナイフ形石器２点と砕片１点で構成され，総重量は10.8ｇである。ナイフ形石器は２点とも完形品で，搬入品と考えられる。砕片は，ナイフ形石器の再加工等に由来すると考えられる。

17T-㊲：黄灰色半透明の瑪瑙である。同一母岩は，ナイフ形石器１点，使用痕ある剥片１点，剥片１点で，総重量は16.6ｇである。ナイフ形石器は上半部の欠失する破損品，剥片類は中型不定型で，自然面は残されていない。搬入品と考えられる。

17T-㊳：赤橙色半透明の瑪瑙である。小型不定型の剥片１点の単独資料（2.6ｇ）である。

以上のほかに，母岩分類のできなかった資料に，安山岩の石器が114点ある。内訳は，ナイフ形石器１点，削器１点，楔形石器６点，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片１点，剥片100点，砕片２点，石核２点で，総重量は205.1ｇである。

３）出土遺物（第17～25図）

はじめに，安山岩以外の石材をもちいた石器群について，その内容を記述する。

ナイフ形石器（第17図１～３）

１は，瑪瑙による縦長不整形の剥片を用いた，２側縁調整のナイフ形石器である。素材の打面を基端部に残し，左側園全体と右側縁の基部寄りに，急角度の調整加工を施している。調整加工の大半は，素材の主要剥離面側からなされているが，左側縁の一部は表面側からもなされており，表裏いずれの面からも調整加工面がみえにくくなっている。２も，瑪瑙による縦長不整形の剥片を用いたナイフ形石器である。素材剥片に対して，右側１／３ほどを縦割りした後，その切断面に細かな調整加工を施して，先端をとがらせている。素材の打面は，基端部に残されている。なお，１と２は，同一母岩の搬入品である。３は，瑪瑙によるナイフ形石器の基部破片である。左右両側縁の調整加工は，粗く不揃いであることから，製作途中で欠損した未製品の可能性が高い。

削　器（第17図４・５）

４は，頁岩による大型厚手の縦長剥片を用いた削器である。上下二つに折れて出土したが，裏面をみると，折れ面の周辺（上部は右側縁，下部は左側縁）に粗い調整加工がみられ，それぞれ折れ面で止まっていることから，上下が分かれた（折ったか，折れたかは不明）後に，それぞれに調整加工がなされたことがわかる。５は，チャートによる横長剥片を用いた削器である。表面右側縁に，やや急角度の調整加工が施され，粗い刃部が付けられている。裏面左側には平坦な調整加工がみられるが，これは打瘤の高まりを除去したものと考えられる。表面には自然面が広く残されており，素材を剥離した原石が中型の円礫とわかる。

石　刃（第18図10）

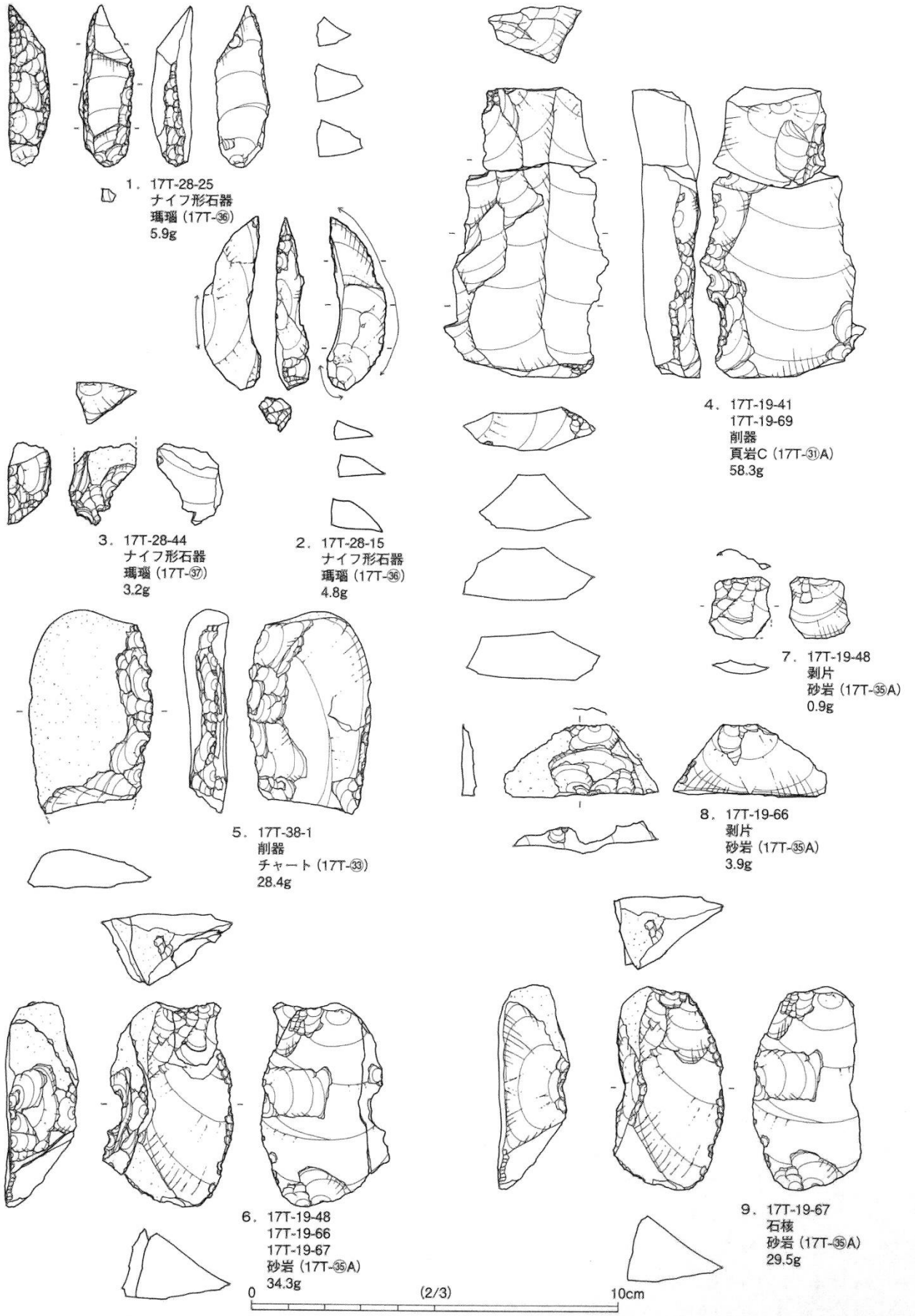
10は，黒色頁岩による大型の石刃である。表面は，主要剥離面と同一方向の剥離面と自然面で構成される。打面は平坦な１枚の剥離面で，頭部調整などの石核調整はみられない。本資料は，３点の破片が接合しているが，まだ完形には至っていない。中央の破片には，裏面の左側に調整加工があることから，大型の石刃が４分割されて使用された可能性がある。

接合資料および関連資料（第17図６～９，第18図11～17）

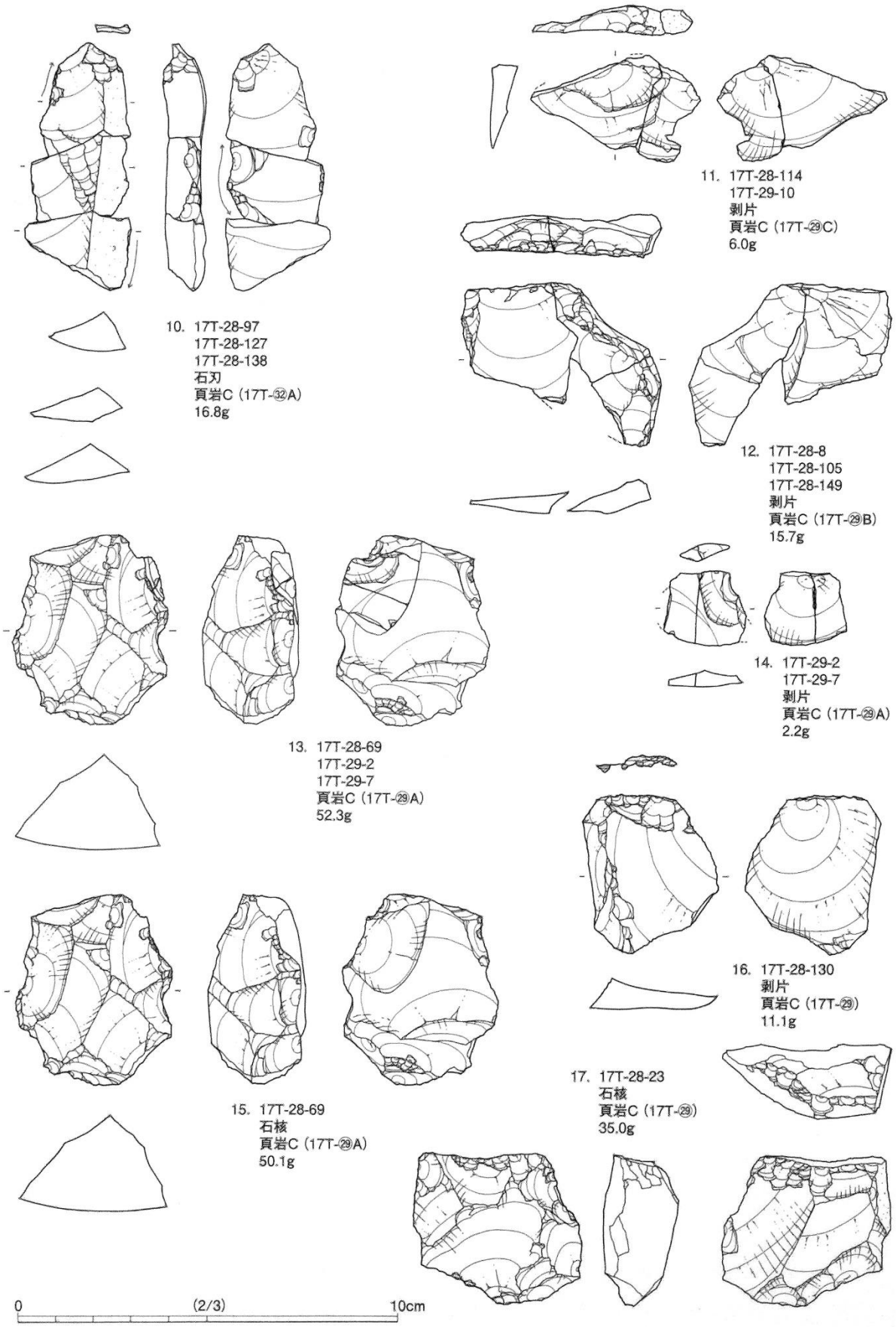
・17T-㉟母岩（第17図６～９）

６は，砂岩による剥片２点（７・８），石核１点（９）の接合資料である。はじめに，上位の打面から，７→８＋９と順次剥離された後，後者については，左側縁から８を含む横長剥片数枚が表裏面から剥離されている。９の右側縁には細かな刃こぼれがあり，石核以外の用途にも用いられた可能性が高い。

・17T-㉙母岩（第18図11～17）



第17図　第２地点出土遺物実測図（１）



第18図　第２地点出土遺物実測図（２）

11～17は，頁岩による同一母岩の資料である。11と12は，それぞれ破片が接合して中型不定型の剥片各１個体になったものである。13は，剥片２点（接合して１個体：14）と石核１点（15）の接合したものである。17の石核についても同様であるが，厚手の剥片を石核の素材として，求心的な剥離手順で小型不定型の剥片を剥離しているようすがうかがえる。15，17ともに，裏面には剥片素材の石核の主要剥離面が残されている。

以下では，安山岩による石器群について，その内容を記述する。

ナイフ形石器（第19図25）

25は，基部調整のナイフ形石器である。縦長不整形の剥片を素材として，基部と先端の左側縁に調整加工が施されている。なお，素材の主要剥離面は，実測図表面の右端にみえる剥離面であり，基端には自然面の打面が残されている。

削　器（第19図24）

24は，縦長不整形の剥片を素材として，その両側縁に細かな調整加工を施した削器である。素材の打面部および末端部は欠損する。

石　刃（第19図18～23）

18～23は，大・中型の石刃である。いずれも，打面は剥離面１枚による平坦打面で，頭部調整あるいは石核の側面調整など石核調整の痕跡はみられない。また，表面は，裏面と同一方向の剥離面で構成されており，両設打面を用いた形跡はない。18の表面左側上部の縁辺には粗い剥離面がみられるほか，19の裏面左側の縁辺には刃こぼれが，23の表面右側の縁辺には細かな剥離面が連続する。それぞれ，同一母岩はなく，製品として搬入されたと考えられる。

加工痕ある剥片（第22図44・45）

44・45は，不定型厚手の剥片を素材として，その１側縁に粗い剥離面をもつ加工痕ある剥片である。ただし，二次的な剥離面が粗いことから，石核の可能性も残る。両者とも，下半分は大きく折損している。

使用痕ある剥片（第20図26～28）

26は，縦長不整形の剥片を利用した使用痕ある剥片である。全体に剥離面の凹凸が少なく，両極打撃によって得られた剥片を用いた可能性がある。27は，両極打撃ではなく，通常の剥離による縦長不整形の剥片を用いた使用痕ある剥片である。鋭利な右側縁に刃こぼれがみられる。28は，不定型の剥片を利用した使用痕ある剥片である。剥離時に打点で二つに割れた大型の剥片を素材としており，鋭利な右側縁に刃こぼれがみられる。なお，右側縁の中央は欠損しているためはっきりしないが，刃こぼれが右側縁全体に連続していた可能性がある。

剥　片（第20図29～32）

29～32は，大・中型不定型の剥片である。図示した資料は，両極打撃によるものではなく，通常の交互剥離等によって得られたと考えられる。

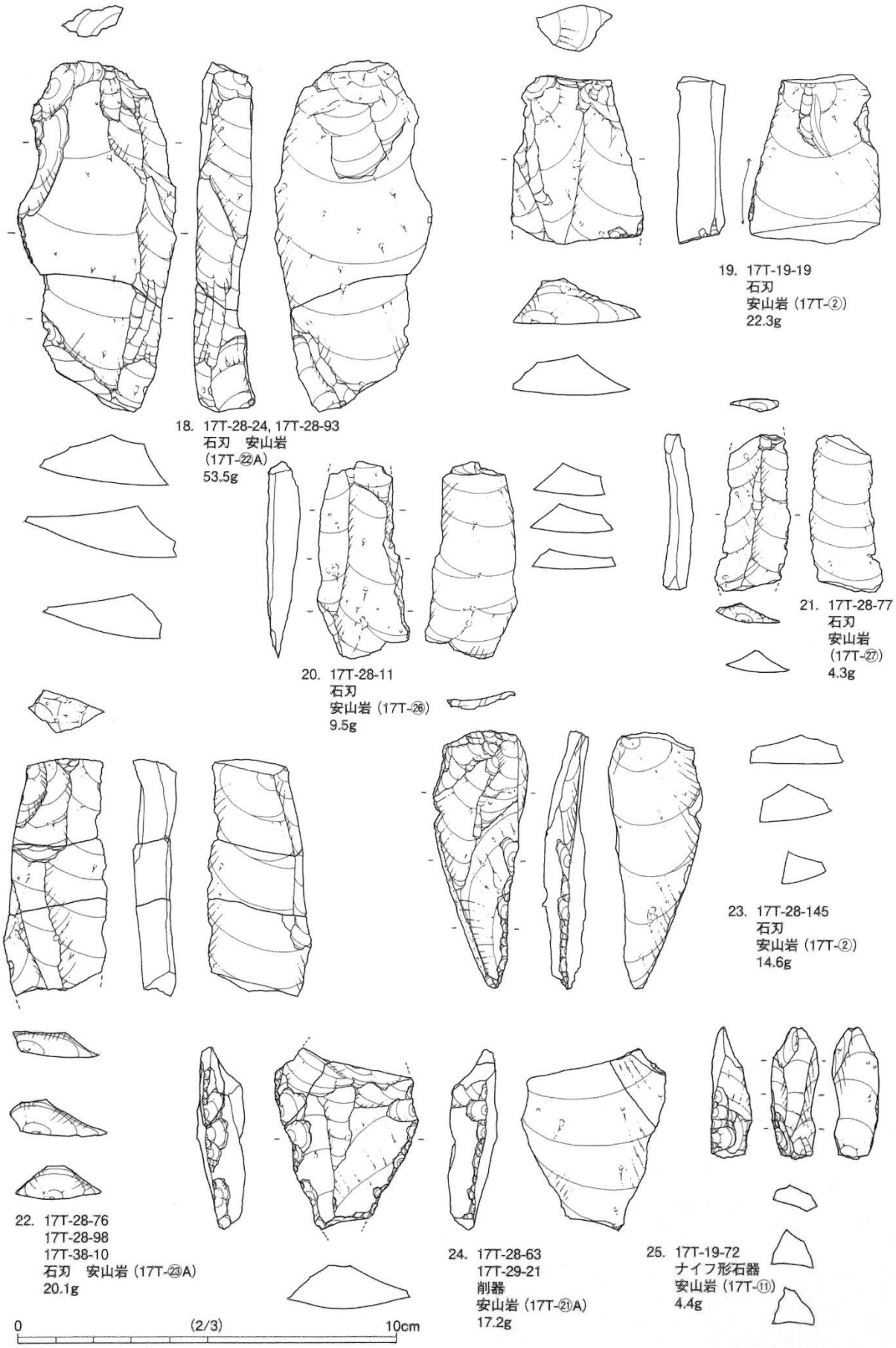
楔形石器（第21図33～39，第22図41）

それぞれ，両極打撃による資料である。各資料とも，こまかな潰れは上下１対で，表裏面に残る２次的な剥離面の剥離方向も上下方向に限定される。大きさや厚さにバリエイションがみられる。

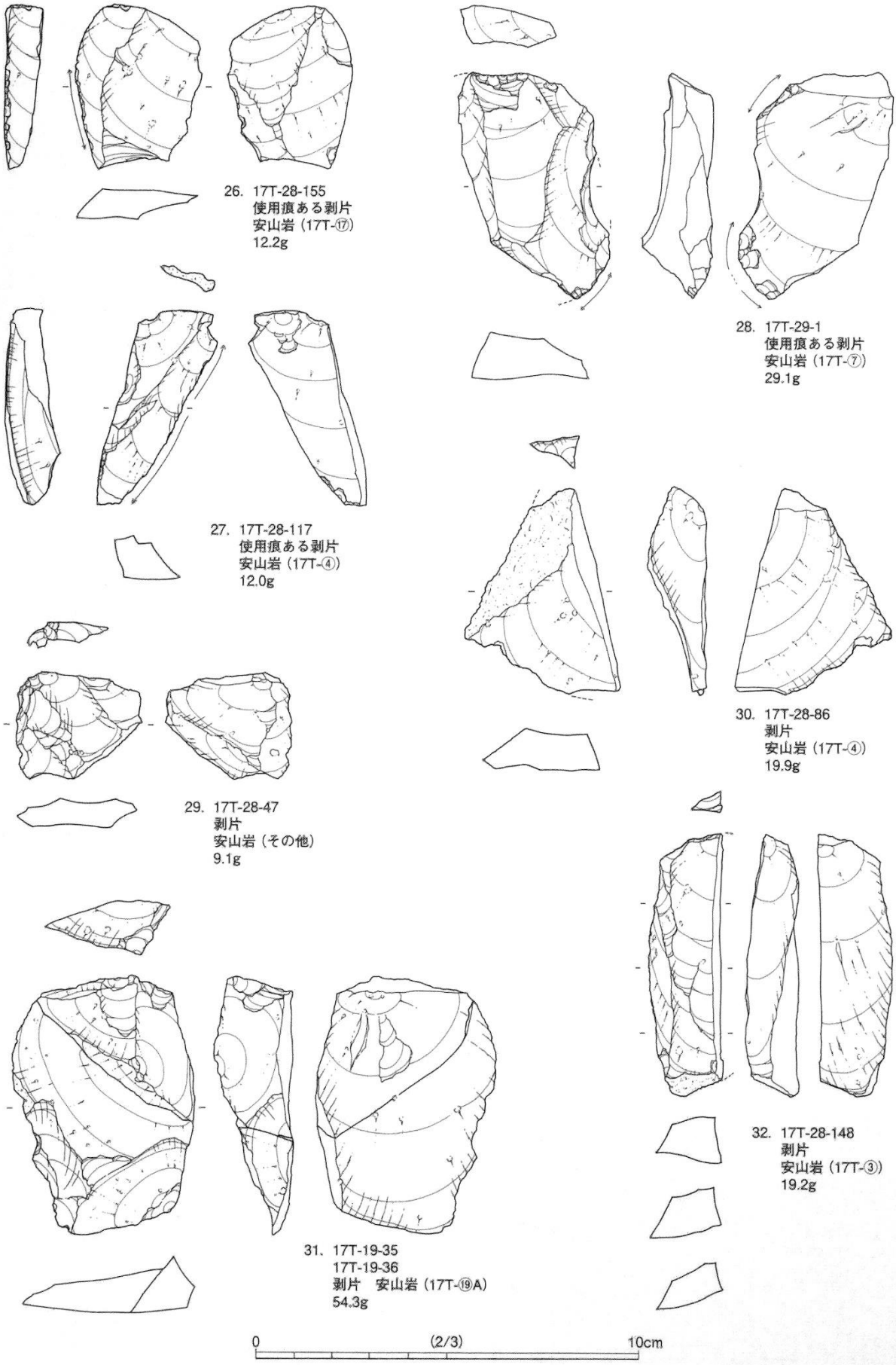
石　核（第21図40，第22図42・43・46～50）

40は，両極打撃と通常の剥離の併用と考えられるが，それ以外は，交互剥離によって表裏両面を作業面として用い，中・小型不定型の剥片を生産する剥片素材の石核である。

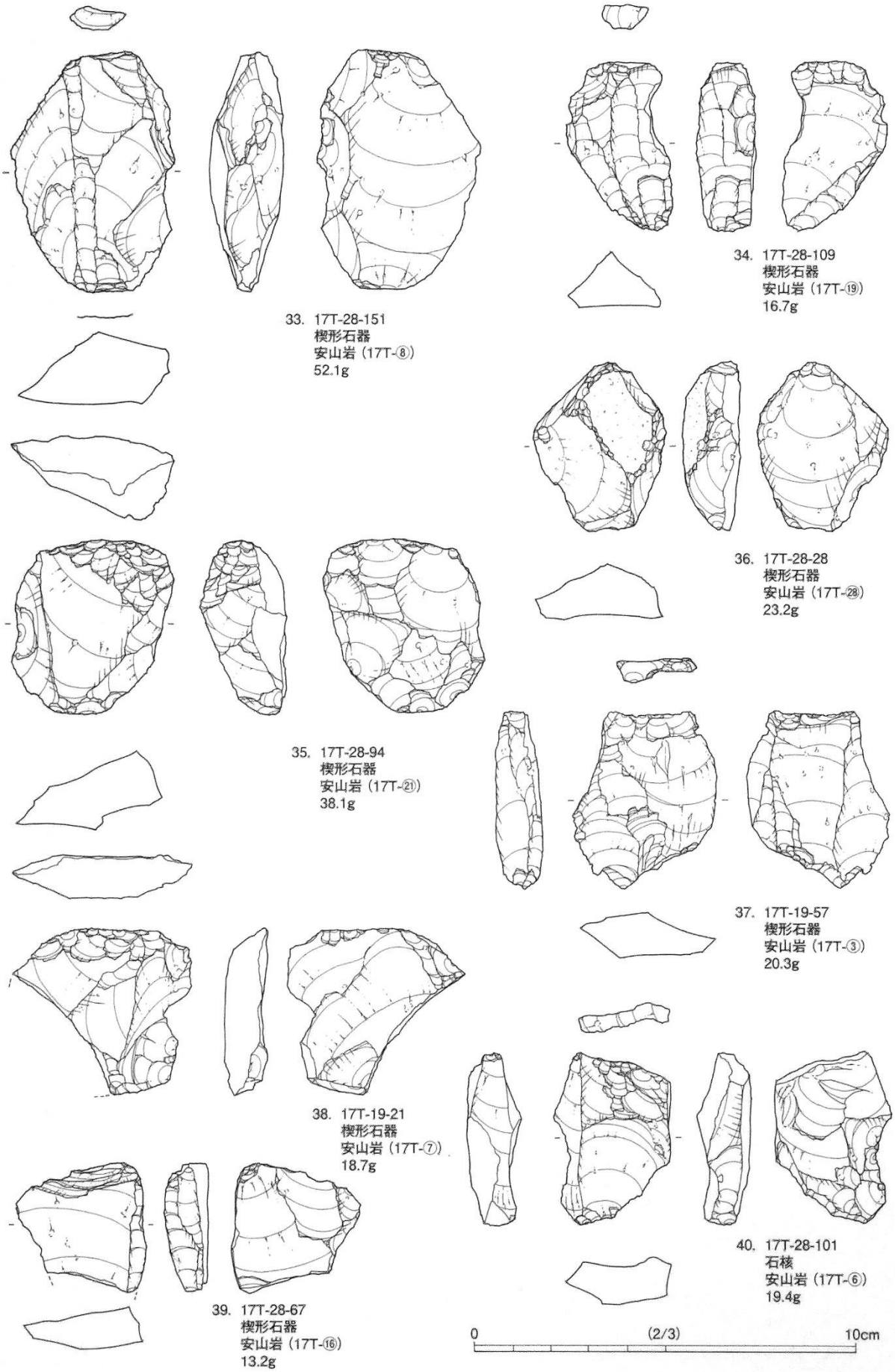
接合資料および関連資料（第23図51～59，第24図60～62，第25図63～73）



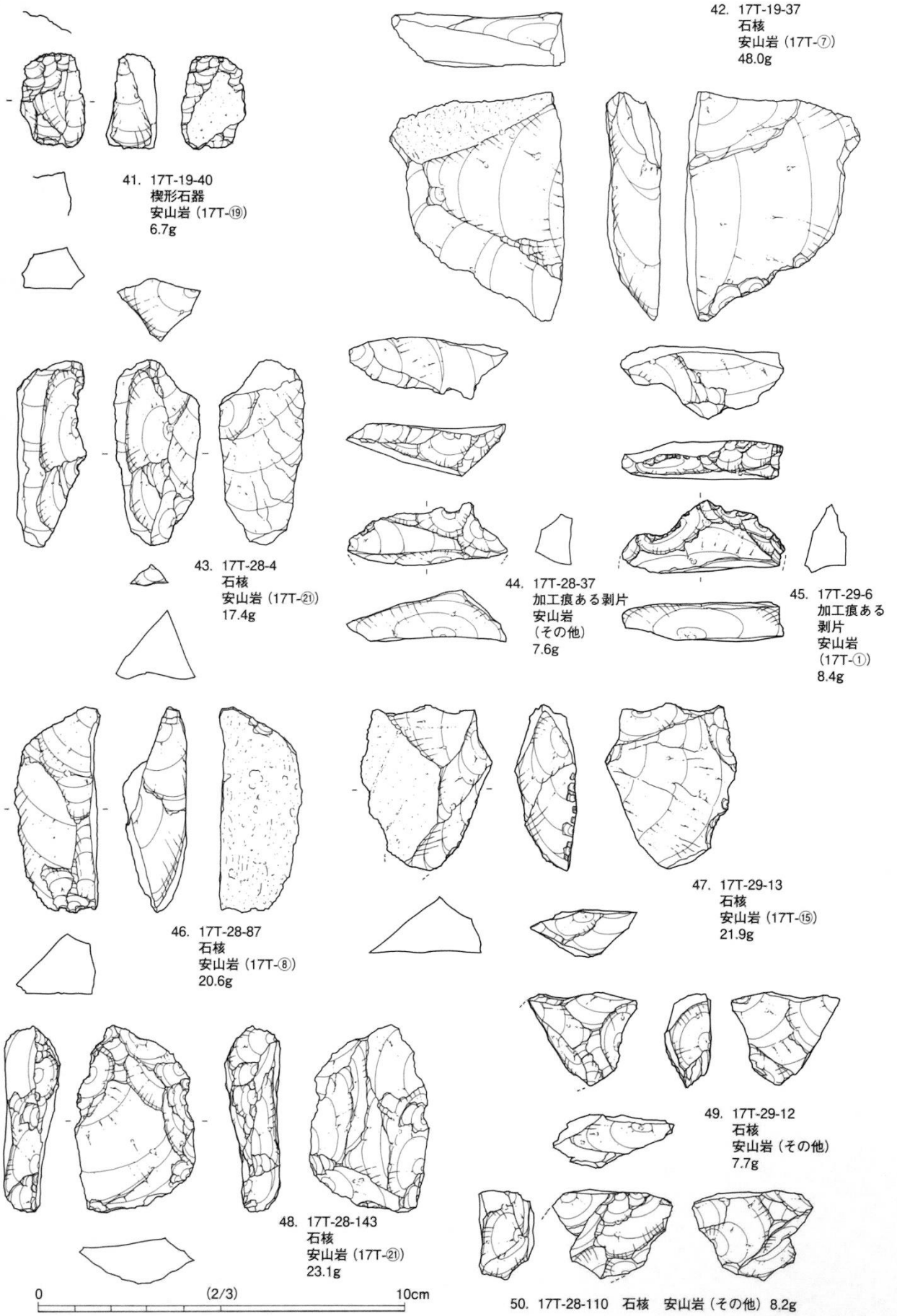
第19図　第２地点出土遺物実測図（３）



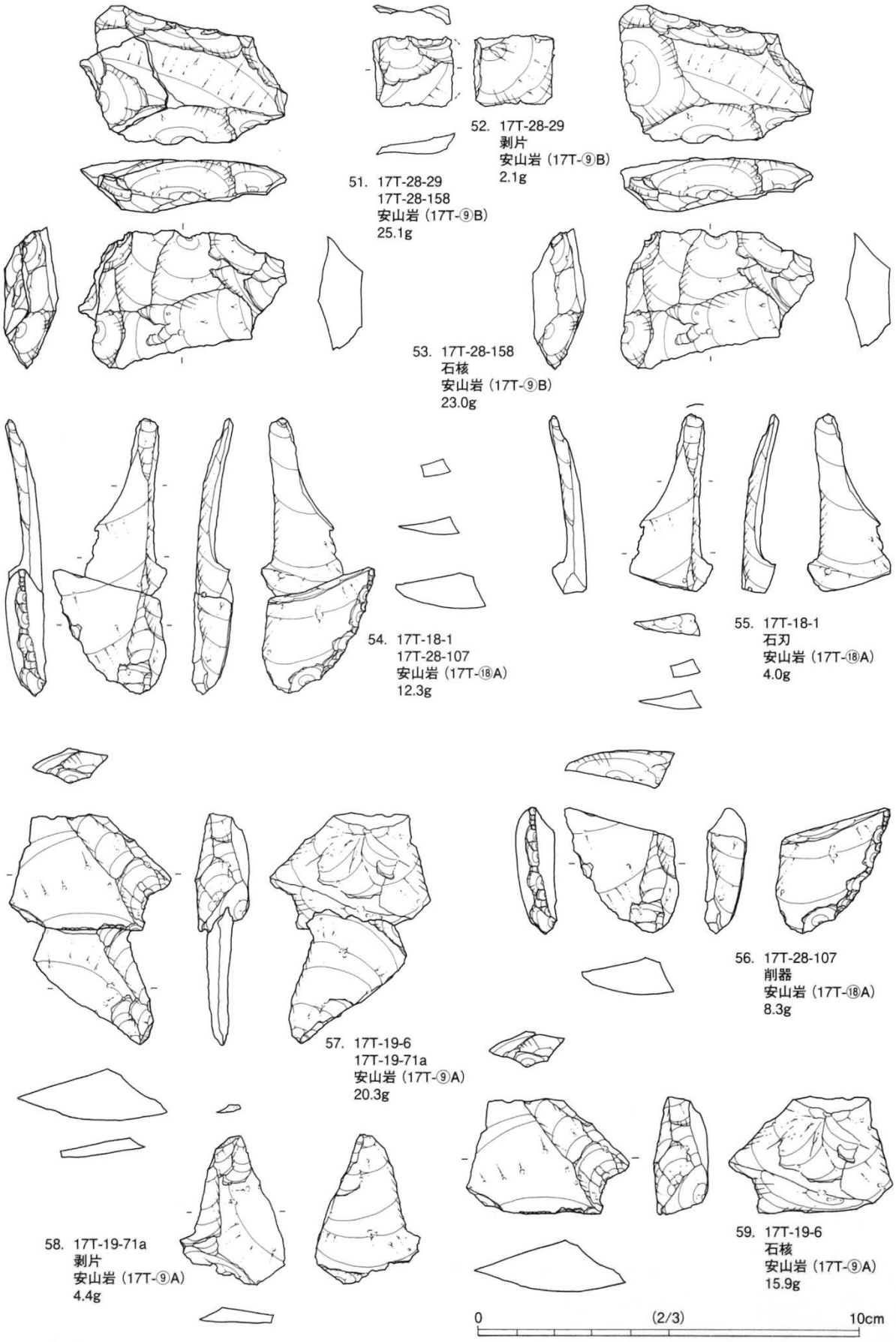
第20図　第２地点出土遺物実測図（４）



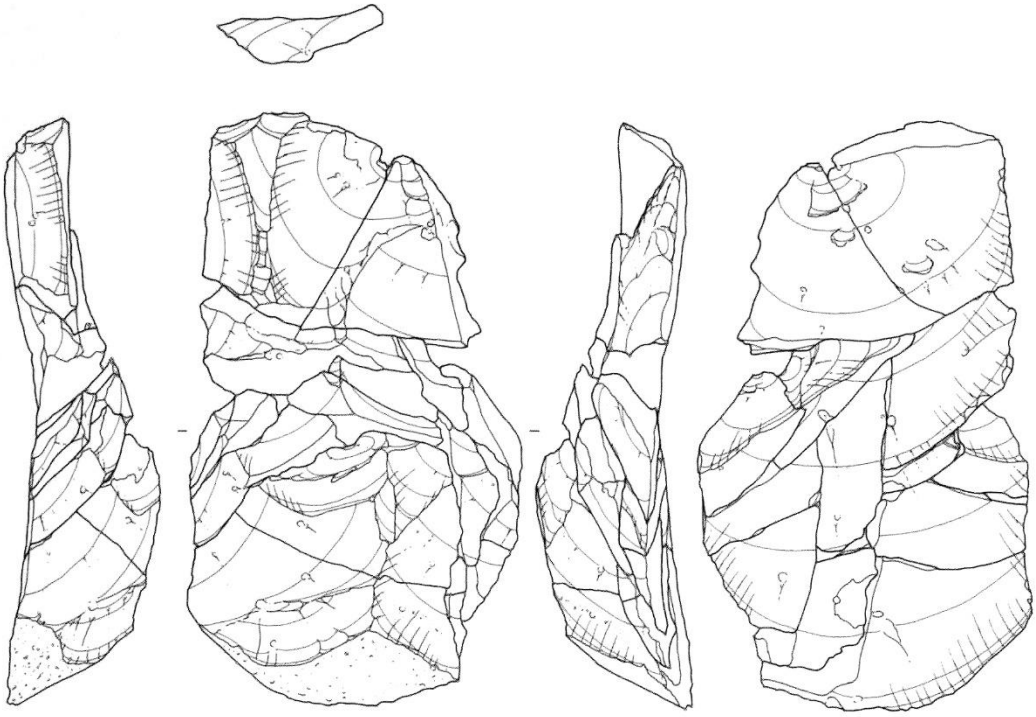
第21図　第２地点出土遺物実測図（５）



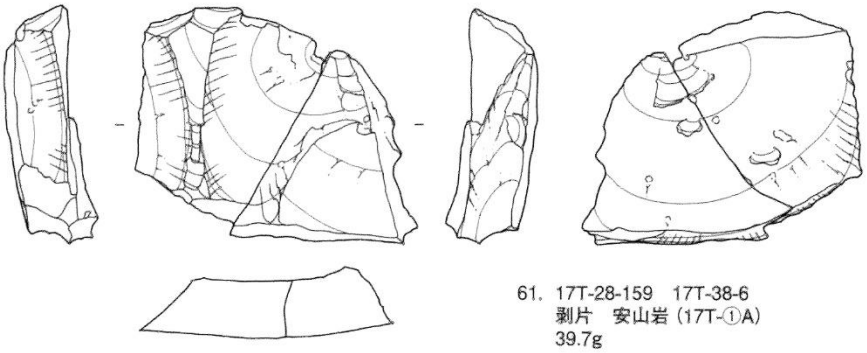
第22図　第２地点出土遺物実測図（６）



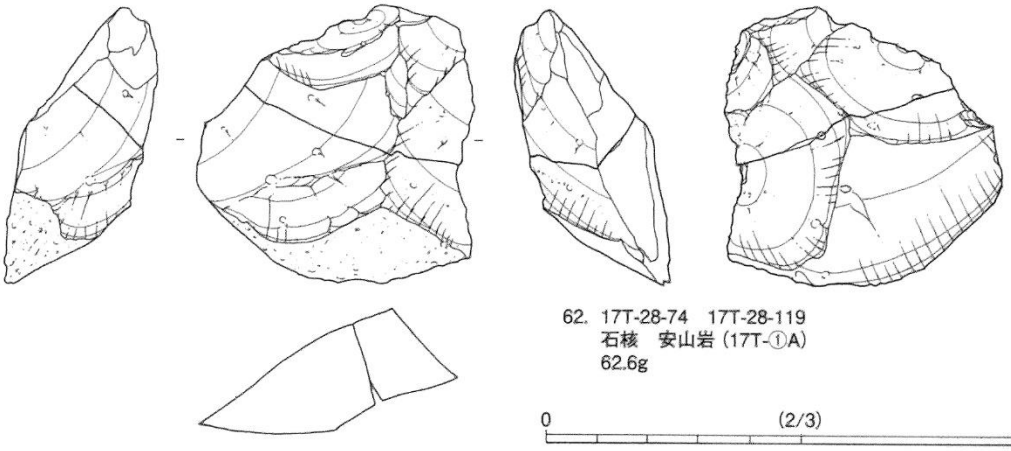
第23図　第２地点出土遺物実測図（７）



60. 17T-19-7　17T-19-63　17T-28-33　17T-28-36
17T-28-52　17T-28-55　17T-28-74　17T-28-79
17T-28-82　17T-28-119　17T-28-132　17T-28-133
17T-28-141　17T-28-152　17T-28-159　17T-29-20
17T-38-5　17T-38-6
安山岩（17T-①A）
165.9g



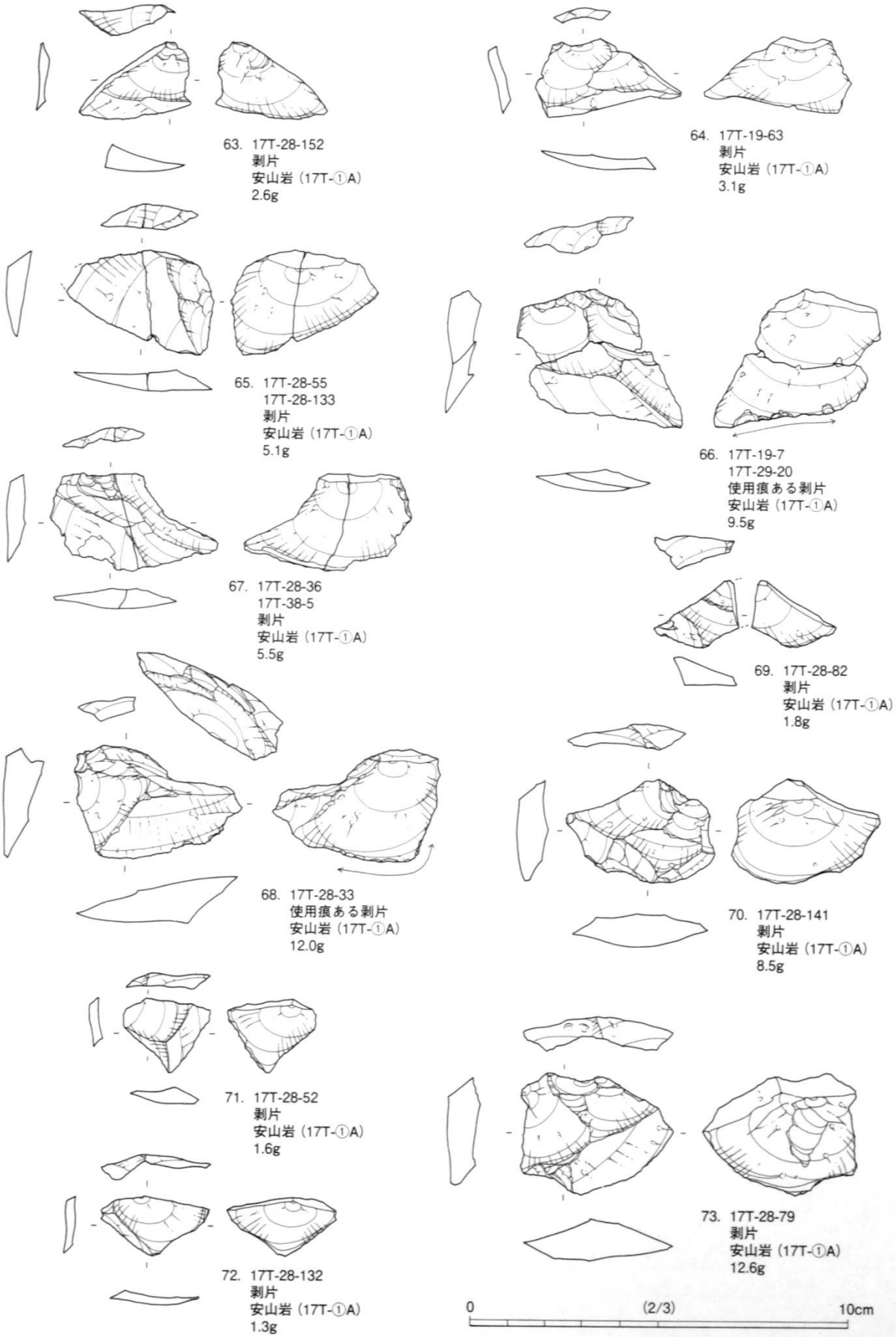
61. 17T-28-159　17T-38-6
剥片　安山岩（17T-①A）
39.7g



62. 17T-28-74　17T-28-119
石核　安山岩（17T-①A）
62.6g

0　(2/3)　10cm

第24図　第２地点出土遺物実測図（８）



第25図　第２地点出土遺物実測図（９）

第４表　第２地点出土遺物組成表１　－母岩別組成表－

母岩番号	石　材	Ｋｎ	Ｔｒ	Ｓｓ	Ｐｉ	Ｂｌ	Ｒｆ	Ｕｆ	Ａｂ	Ｆｌ	Ｃｈ	Ｃｏ	合　計	礫	重　量
17T-①	安山岩						1	3		15		2	21		179.6
17T-②	安山岩					2							2		36.9
17T-③	安山岩				1					2			3		50.0
17T-④	安山岩							1		3			4		38.3
17T-⑤	安山岩							1		1			2		19.3
17T-⑥	安山岩				1							1	2		28.1
17T-⑦	安山岩				1			1		1		1	4		106.7
17T-⑧	安山岩				1							1	2		72.7
17T-⑨	安山岩									2		2	4		45.4
17T-⑩	安山岩									2			2		3.6
17T-⑪	安山岩	1					1			3			5		13.7
17T-⑫	安山岩									2			2		7.7
17T-⑬	安山岩									2			2		14.6
17T-⑭	安山岩				1					1			2		7.2
17T-⑮	安山岩									2		1	3		30.0
17T-⑯	安山岩				1					5			6		23.7
17T-⑰	安山岩							1		1			2		14.6
17T-⑱	安山岩			1		1				1			3		15.7
17T-⑲	安山岩				3					6			9		110.8
17T-⑳	安山岩									3			3		13.1
17T-㉑	安山岩			2	1							2	5		96.5
17T-㉒	安山岩					2							2		53.5
17T-㉓	安山岩					3							3		20.1
17T-㉔	安山岩									1			1		5.8
17T-㉕	安山岩									1			1		4.4
17T-㉖	安山岩					1							1		9.5
17T-㉗	安山岩					1							1		4.3
17T-㉘	安山岩				1								1		23.2
17T-㉙	頁岩Ｃ									37		2	39		162.1
17T-㉚	頁岩Ｃ				1					3	1		5		6.4
17T-㉛	頁岩Ｃ			2									2		58.3
17T-㉜	頁岩Ｃ					3							3		16.8
17T-㉝	チャート			1									1		28.4
17T-㉞	流紋岩									4		1	5		39.1
17T-㉟	砂岩									2		1	3		34.3
17T-㊱	瑪瑙	2									1		3		10.8
17T-㊲	瑪瑙	1						1		1			3		16.6
17T-㊳	瑪瑙									1			1		2.6
その他	安山岩	1		1	6		1	1		100	2	2	114		205.1
17T-R①	砂岩												0	4	137.9
17T-R②	砂岩												0	1	6.5
17T-R③	流紋岩												0	1	56.6
17T-R④	チャート												0	2	180.4
合　計		5	0	7	18	13	3	9	0	202	4	16	277	8	2010.9

第５表　第２地点出土遺物組成表２　－石材別組成表－

石　材	Ｋｎ	Ｔｒ	Ｓｓ	Ｐｉ	Ｂｌ	Ｒｆ	Ｕｆ	Ａｂ	Ｆｌ	Ｃｈ	Ｃｏ	合　計	礫	重　量
安山岩	2		4	17	10	3	8		154	2	12	212		1254.1
流紋岩									4		1	5		39.1
頁岩Ｃ			2	1	3				40	1	2	49		243.6
チャート			1									1		28.4
砂岩									2		1	3		34.3
瑪瑙	3						1		2	1		7		30.0
流紋岩												0	1	56.6
砂岩												0	5	144.4
チャート												0	2	180.4
合　計	5	0	7	18	13	3	9	0	202	4	16	277	8	2010.9

・17T-⑨母岩（第23図51～53・57～59）

51は，小型不定型の剥片１点（52）と石核１点（53）の接合資料である。厚手の剥片を石核の素材として，交互剥離の手順と求心的な打点の移動によって，中・小型不定型の剥片を生産している。

57は，小型の縦長剥片（58）と小型の石核（59）の接合資料である。基本的なあり方は17T-⑱母岩の54と同じで，はじめに大型の剥片が58を含む部分と59とに分離し，その後，一方からは58が剥離され，もう一方（59）からは剥片数枚が剥離される。

・17T-⑱母岩（第23図54～56）

54は，小型の石刃１点（55）と削器（56）の接合資料である。両者は，折れ面で接合しているが，55の石刃を剥離した本体は出土していない。おそらく，大型の削器が折れた段階で一方を石核に転用し，それから55が剥離されたと考えられる。これは，房総半島における立川ローム層Ⅶ層からⅥ層にかけての層準で，おもに東北産頁岩を用いてなされる「下総型石刃再生技法」と共通の手法といえる。

・17T-①母岩（第24図60～62，第25図63～73）

60は，使用痕ある剥片３点（２個体；66・68），剥片13点（10個体；61・63～65・67・69～73），石核２点（１個体；62）の接合資料である。作業手順は，以下のとおりである。

①大型厚手の不整形な縦長剥片を石核の素材とする，②素材の打面周辺部を切断する（61），③表面を打面，裏面（主要剥離面）を作業面として固定し，左右に振れながら横長の剥片を連続して剥離する（63→64→65→66→／Ａ67／Ｂ68→69→70→71→72→73：ＡとＢの前後関係は不明），この際，打面は素材剥片の表面をそのまま用いており，打面調整等はみられない，④末端に石核が残る（62）。

なお，45の加工痕ある剥片は，接合はしないものの，本母岩に帰属すると判断した。

３．第３地点（第26～41図，第６・７表）

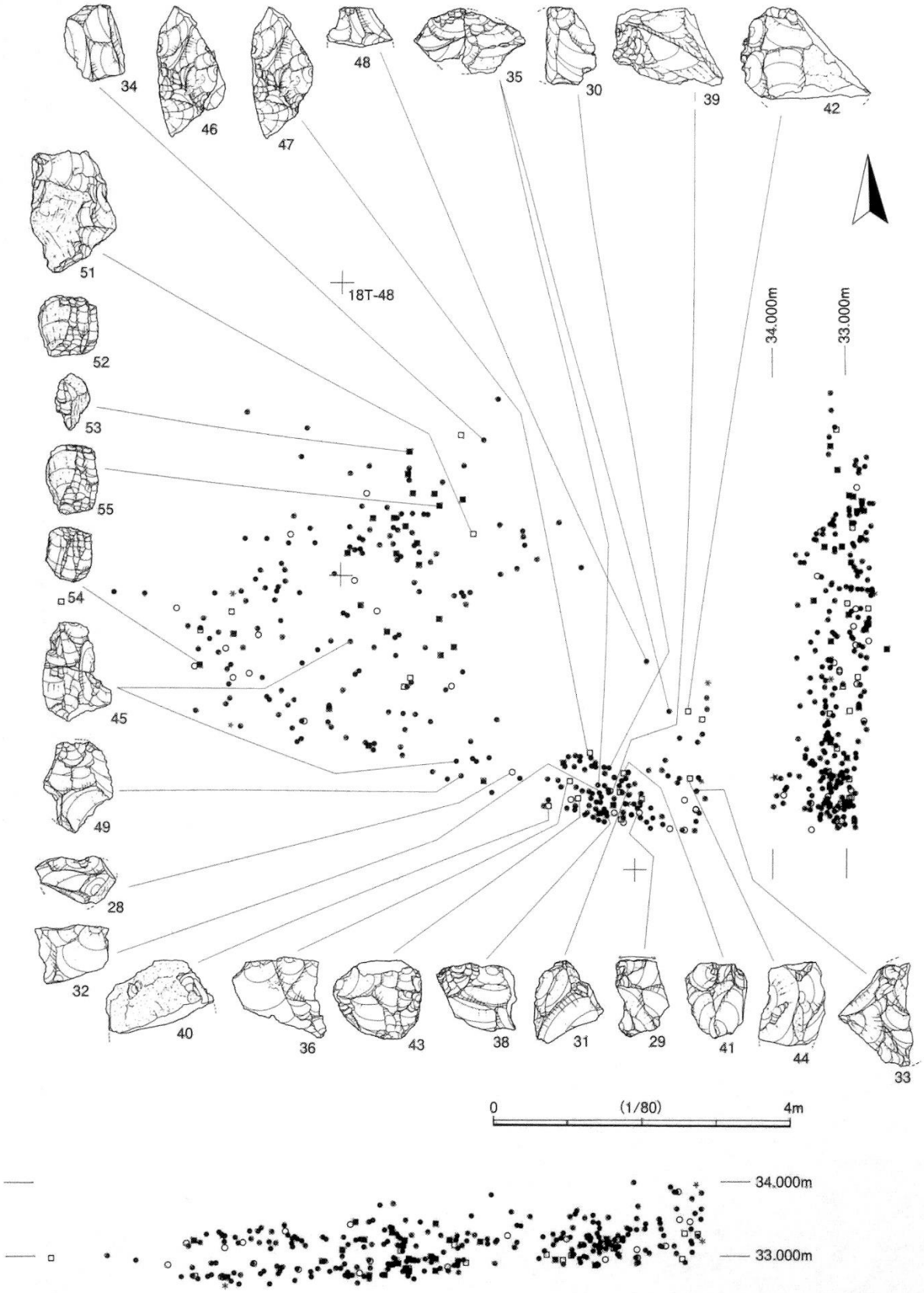
１）概　要

第３地点は，調査範囲の南端で，台地の中央やや西寄りの地点に位置する。石器群の出土したグリッドは，18T-47・48・57～59グリッドの５か所である。

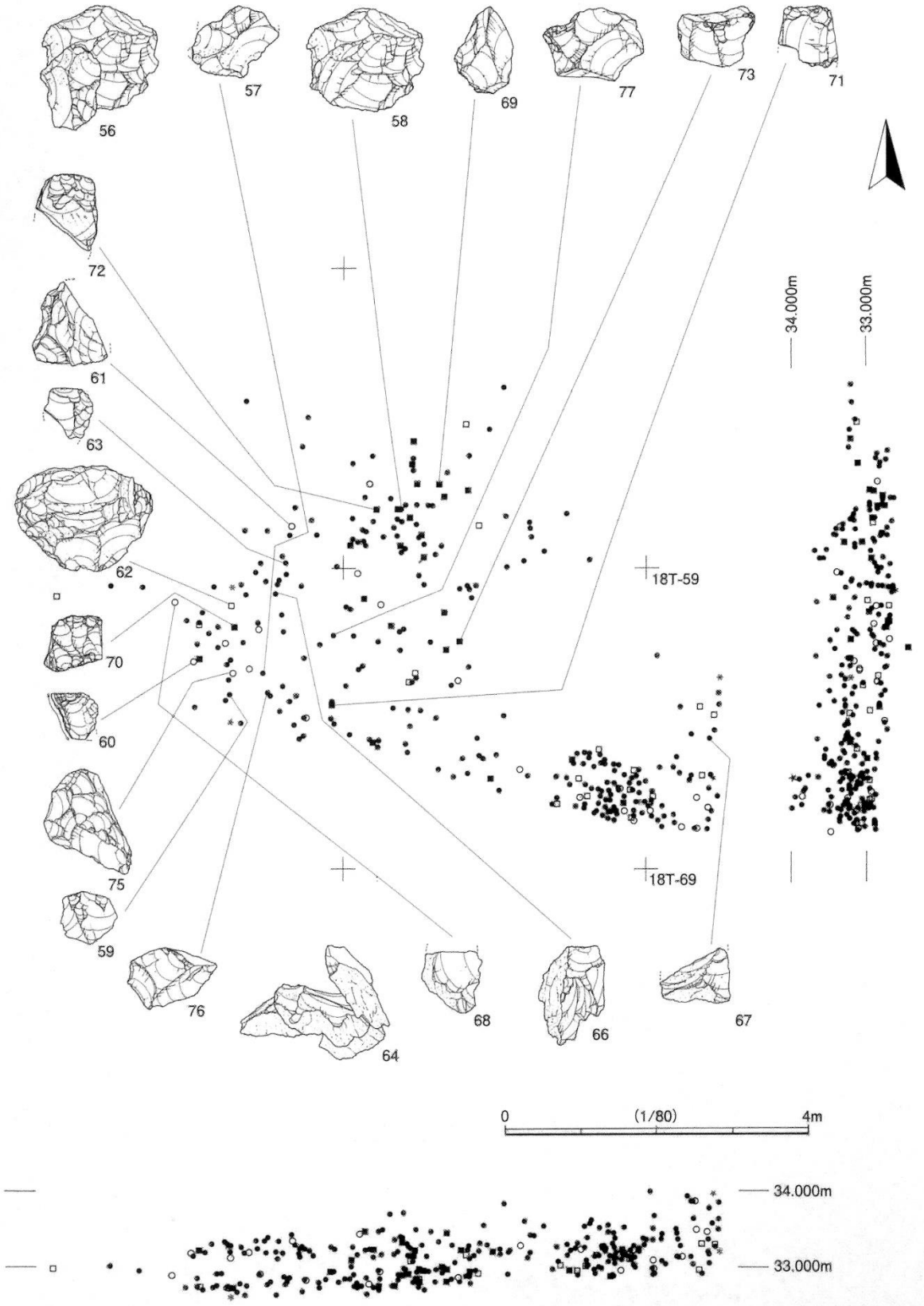
ブロックの規模と形状は，長軸９ｍ，短軸５ｍほどの範囲に，395点の石器・礫が分布する。ただし，出土状況からみると，調査区外にブロックの広がることが予想される。

出土層位は立川ローム層Ⅶ層下部を中心として，１ｍほどの高低差をもって包含されている。なお，ブロックの立地は，南北方向は，おおむね水平であるが，東西方向は，西に向かって下っている。

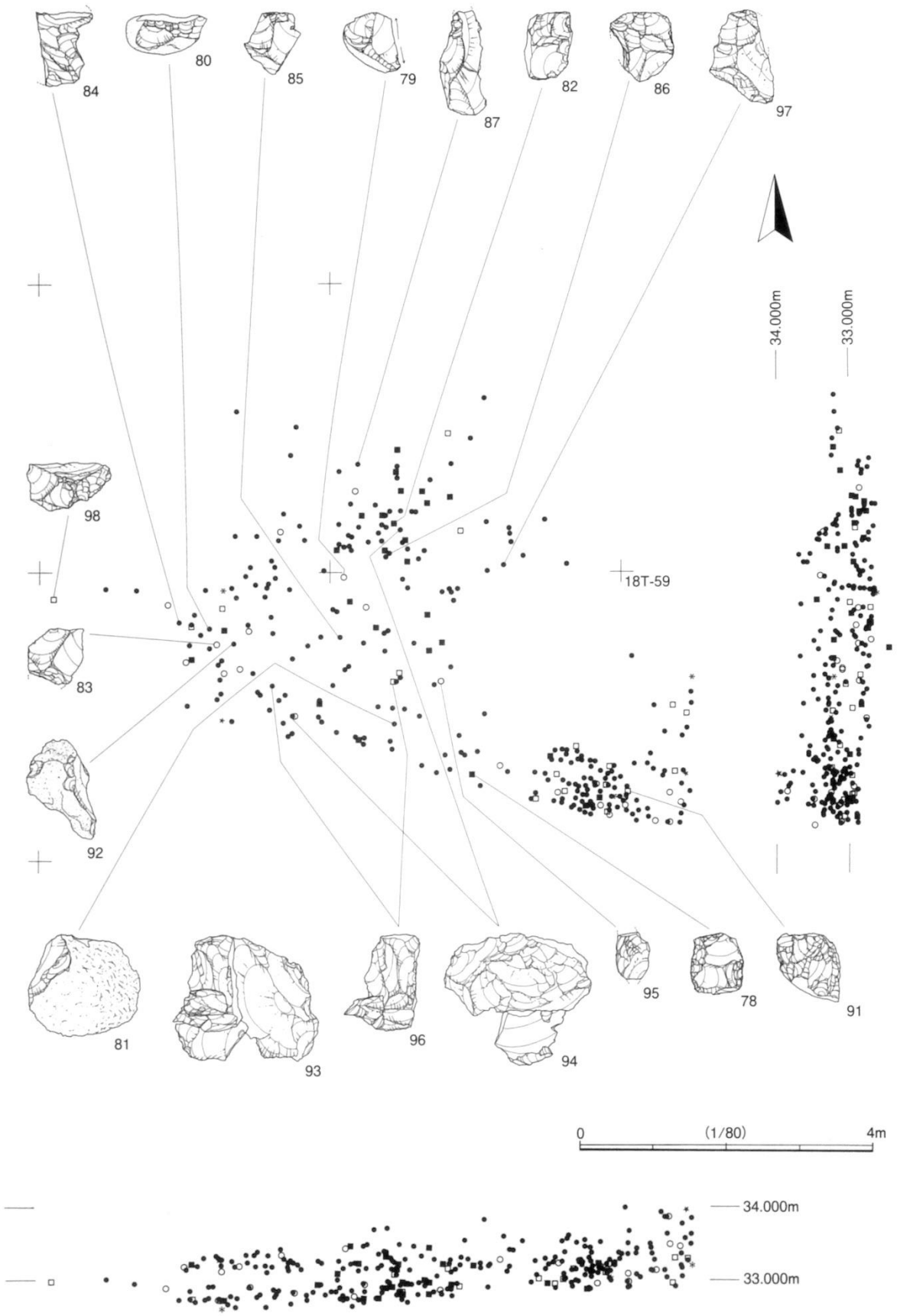
第26図　第３地点出土遺物分布図（１）　－石器別分布図（１）－



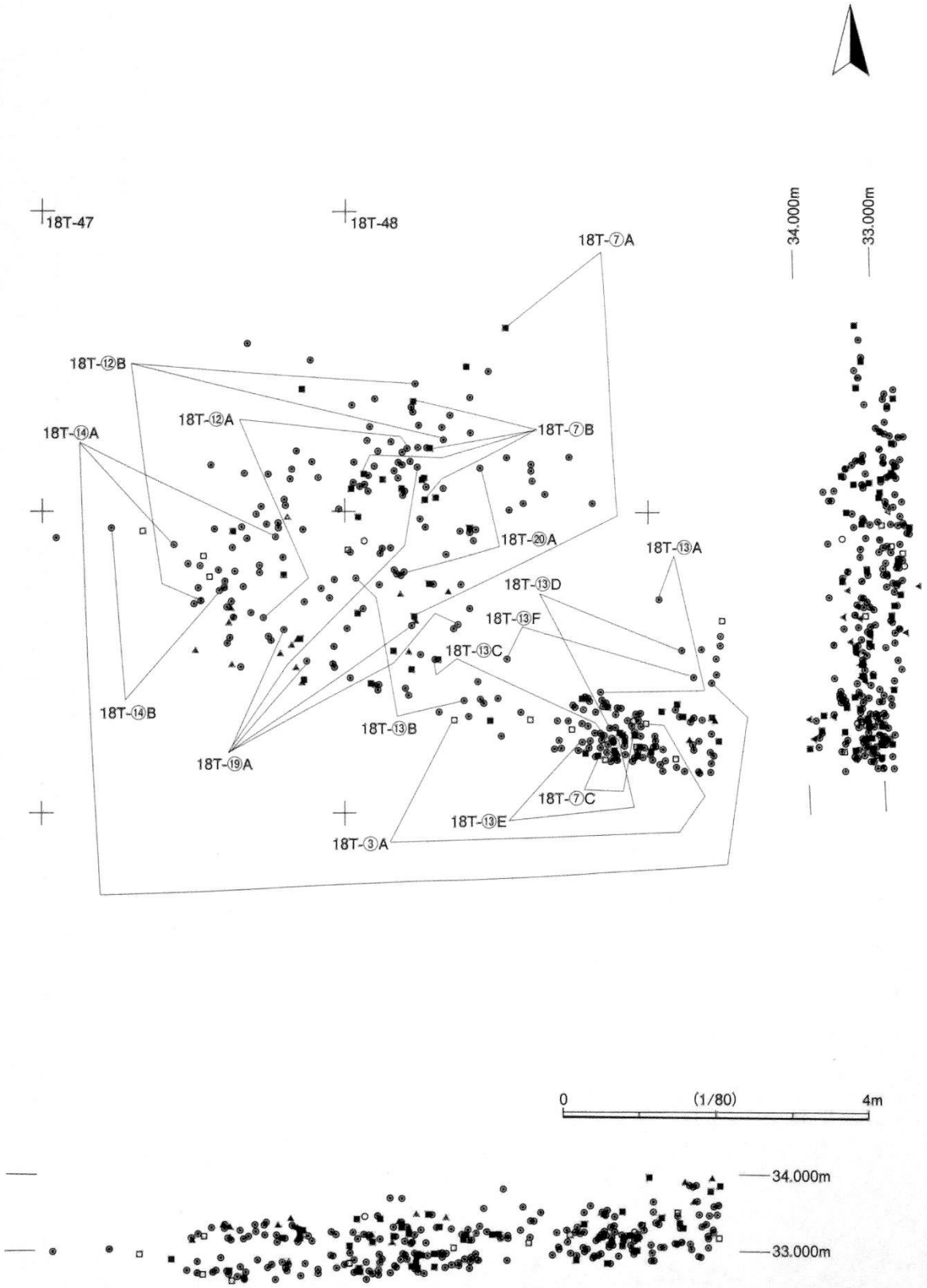
第27図　第３地点出土遺物分布図（２）　－石器別分布図（２）－



第28図　第３地点出土遺物分布図（３）　－石器別分布図（３）－



第29図　第３地点出土遺物分布図（４）　－石器別分布図（４）－



第30図　第３地点出土遺物分布図（５）　－石材別分布図－

石器組成は，ナイフ形石器２点，台形石器１点，削器１点，楔形石器25点，加工痕ある剥片15点，使用痕ある剥片７点，台石１点，剥片321点，石核19点，礫３点，石器の石材は，安山岩20点，流紋岩７点，房総半島南部嶺岡産の頁岩（頁岩Ａ）37点，東北地方南部産の頁岩（頁岩Ｂ）２点，産地不明の頁岩（頁岩Ｃ）９点，凝灰岩５点，チャート299点，砂岩９点，瑪瑙４点，礫の石材は，流紋岩３点である。

流紋岩の礫は，いずれも同一母岩には分類できない資料である。このうち２点は，直径３㎝程度の小円礫の破損品で，被熱の有無ははっきりしない。もう１点は，中型以上の円礫のごく一部で，もとの大きさは不明であるが，赤化しており，被熱した可能性がある。

２）母岩の特徴と内容

本地点では，石器392点のうち299点について母岩分類した（76％）。内訳は，安山岩２母岩（18T-①・②；11点），流紋岩２母岩（18T-③・⑱；７点），砂岩２母岩（18T-④・⑤；７点），凝灰岩１母岩（18T-⑥；４点），頁岩Ａ２母岩（18T-⑦・⑧；32点），頁岩Ｂ１母岩（18T-⑰；１点），頁岩Ｃ２母岩（18T-⑨・⑩；２点），チャート16母岩（18T-⑪～⑯・⑲～㉘；235点）である。主体となるチャートについては，被熱によって色調，質感の変化したと考えられるものが一定量含まれており，これらは接合資料以外，母岩分類できなかった。以下，各母岩の内容を記す。

18T-①：内部，自然面ともに淡黒灰色～灰褐色に風化した安山岩である。自然面は紙ヤスリ状で，緩やかな曲面となっている。φ１㎜以下の夾雑物を少量含む。同一母岩は，楔形石器１点（中型品），中・小型不定型の剥片９点で，総重量は77.5ｇである。

18T-②：内面，自然面ともに淡黒灰色に風化した安山岩である。自然面には爪痕状の傷が多く，緩やかな曲面になっている。楔形石器１点（中型品）の単独資料（10.5ｇ）である。

18T-③：自然面は緑がかった黄白色，内部は青みがかった灰緑色で，φ１～２㎜の夾雑物を多量に含む流紋岩である。同一母岩は，中・小型の不定型の剥片６点で，総重量は52.5ｇである。

接合資料は，打面を共有すると想定される中型不定型の剥片２点が，表裏で接合する。表面を構成する剥離面は，裏面（主要剥離面）と一致するものと90度異なるもの，180度異なるものなど多様で，剥片剥離作業にあたっては，求心的な打点の移動が考えられる。なお，接合資料等からみて，本母岩は，母岩消費半ば以前の作業工程に関与する資料と考えられる。

18T-④：黒灰色に風化した，粒子の比較的粗い砂岩である。原石は，表裏に平坦面をもつ，８㎝×８㎝×３㎝ほどの円礫と想定される。本母岩は，もともと台石として機能していたが，途中で石核に転用されたものである。同一母岩は，台石本体（石核）１点，中型不定型の剥片３点（接合して２個体）で，総重量は180.1ｇである。

接合資料は，Ａ；台石本体に剥片１点が接合したもの，Ｂ；折れた剥片が接合して１個体になったものの２者がある。

18T-⑤：緑がかった淡黒灰色に風化した，きめ細かな砂岩である。同一母岩は，中・小型不定型の剥片３点で，総重量は11.3ｇである。剥片の表面に研磨痕のみられる例があることから，本母岩は，刃部磨製石斧の刃部再生に関与した資料の可能性がある。

18T-⑥：緑がかった灰色に風化した凝灰岩である。大小の夾雑物を多量に含む。同一母岩は，小型不定型の剥片４点で，総重量は6.1ｇである。剥片の形状，石材等から，本母岩も刃部磨製石斧の製作ないしは再生に関与した資料と考えられる。

18T-⑦：灰緑色に風化した，節理の発達する頁岩Ａ（嶺岡産の頁岩）である。珪化度が高く，チャートに近い質感である。同一母岩は，楔形石器４点（中・型各２点），中・小型不定型の剥片24点，石核３

点（接合して２個体）で，総重量は233.8ｇである。

接合資料は，Ａ；作業中に折れた石核２点が接合して１個体になったもの，Ｂ；楔形石器１点に中型不定型の剥片３点が接合したもの，Ｃ；石核１点に中型不定型の剥片１点が接合したものの３者がある。

同一母岩全体をみると，資料は多いものの大型品が少なく，また自然面の付着率も小さいことから，原石が持ち込まれて初期の作業工程から実施されているわけではなく，数個に分割された石核の素材が持ち込まれ，両極打撃と交互剥離によって，中・小型不定型の剥片を生産する，後半期の工程に関与した資料と想定される。

18T-⑧：部分的に褐色を帯びた灰緑色に風化した，珪化度の高い頁岩Ａである。削器１点の単独資料（6.4ｇ）である。

18T-⑨：淡黒灰色に風化した，珪化度の高い頁岩Ｃ（産地不明の頁岩）である。自然面は爪痕状の傷が無数にあり，曲面をなすことから，原石は円礫と想定される。中型不定型の剥片１点の単独資料（34.2ｇ）である。

18T-⑩：黄白色に風化した，軟質の頁岩Ｃ（産地不明の頁岩）である。大型不整形の縦長剥片１点の単独資料（17.4ｇ）である。

18T-⑪：内部は灰緑色で，節理面は橙褐色の，良質なチャートである。同一母岩は，台形石器１点，楔形石器４点（いずれも中型品），使用痕ある剥片１点，中・小型不定型の剥片10点で，総重量は88.2ｇである。接合資料はないが，剥片類の形状から，交互剥離とこれと部分的に関わる両極打撃とによって剥片生産が実施されていること，本遺跡内には作業途中の石核が持ち込まれ，再び持ち出されていることが想定される。

18T-⑫：内部は紫がかった褐色，自然面は明灰緑色で，節理がきわめて発達した粗悪なチャートである。同一母岩は，楔形石器４点（小型品），中・小型不定型の剥片13点，石核２点で，総重量は205.7ｇである。

接合資料は，Ａ；中型不定型の剥片が表裏で接合したもの，Ｂ；小型の楔形石器３点が表裏で接合したものの２者がある。

石核は，分割礫を素材として，打面・作業面転移を繰り返して各所により中型不定型の剥片を生産したものである。得られた剥片の一部は，両極打撃によって，さらに小型の剥片が剥離されたと考えられる。上記18T-⑦母岩と同様，原石ではなく分割礫が持ち込まれてと想定される。

18T-⑬：灰緑色を主体として，黄褐色や暗灰緑色，灰白色などの部分が斑になっており，灰白色の節理が発達する，きわめて粗悪なチャートである。同一母岩は，楔形石器３点，加工痕ある剥片７点，使用痕ある剥片２点，剥片86点（接合して82個体），石核９点（接合して８個体）で，総重量は469.2ｇである。なお，数量的には，本遺跡においてもっともまとまっている母岩ではあるが，剥片剥離作業の工程を理解し得るような，良好な接合資料はない。

接合資料は，Ａ；分割礫素材の石核１点に小型不定型の剥片が接合したもの，Ｂ；二つ以上に折れた剥片素材の石核２点が接合して１個体になったもの，Ｃ；打点で二つに折れた小型不定型の剥片が接合して１個体になったもの，Ｄ；打点で二つに折れた中型不定型の剥片が，接合して１個体になったもの，Ｅ；二つ以上に折れた大型不定型の剥片が接合して１個体になったもの，Ｆ；二つに折れた小型不定型の剥片が接合して１個体になったものがある。

石核は分割礫，剥片素材等で多数存在するが，大型で自然面の付着する剥片がみられないこと，原

石本体の中心的な石核が出土していないことから，剥片剥離作業の進行した石核が持ち込まれ，本遺跡で作業がなされた後，再び持ち出されたか，あるいはよそで製作された石核素材の分割礫，厚手の剥片等が持ち込まれて，剥片生産がなされたのか，はっきりしない。

18T-⑭：内部は青みがかった灰色～灰緑色，自然面は明緑灰色で，節理の発達した粗悪なチャートである。同一母岩は，楔形石器１点（小型品），加工痕ある剥片３点，使用痕ある剥片２点，中・小型不定型の剥片39点，石核１点で，総重量は194.5ｇである。

接合資料は，Ａ；加工痕ある剥片１点，中型不定型の剥片３点が表裏で接合したもの，Ｂ；小型不定型の剥片２点が表裏で接合したものがある。

拳の半分程度の石核，自然面の付着した剥片等が含まれるが，原石からの工程で生じる大型の剥片はみられないこと，全体の資料が少ないことから，作業後半の石核が持ち込まれ，剥片剥離作業が行われた母岩と考えられる。

18T-⑮：黒褐色～灰色，褐色などの縞が顕著なチャートである。自然面は光沢があり，曲率が大きいことから，原石は小円礫と想定される小型厚手の不定型な剥片１点の単独資料（7.9ｇ）である。

18T-⑯：灰白色の地に赤褐色や黒褐色の縞が入るチャートである。同一母岩は，中・小型不定型の剥片２点，石核１点で，総重量は30.4ｇである。

18T-⑰：暗褐色に風化した硬質緻密な頁岩Ｂ（東北産の頁岩）である。小型不定型の薄手の剥片を用いた使用痕ある剥片１点の単独資料（5.1ｇ）である。

18T-⑱：内部は灰緑色，自然面は黄褐色で，大小の夾雑物が多量に含まれる流紋岩である。剥離面は礫片と同様，滑らかではなく，粗悪な石質である。中型厚手の不定型の剥片１点の単独資料（22.8ｇ）である。

18T-⑲：赤褐色ないしは橙褐色の地に，黒灰色の縞が入る粗悪なチャートである。同一母岩は，加工痕ある剥片２点，使用痕ある剥片１点，中・小型不定型の剥片18点（接合して17個体），小型で分割礫素材の石核３点（接合して２個体）で，総重量は139.1ｇである。

接合資料は，加工痕ある剥片１点，大型不定型の剥片２点（接合して１個体），石核２点（接合して１個体）で構成される。構成資料は少ないが，分割礫を石核の素材として剥片剥離作業を行い，終了するまでの各資料が含まれている。

なお，遺跡内には複数個体の石核が存在し，それぞれで作業を行ったと考えられる。

18T-⑳：青灰色の地に赤褐色の縞が入るチャートである。同一母岩は，中型不定型の剥片４点（接合して３個体）で，総重量は23.7ｇである。

接合資料は，二つ以上に折れた不定型厚手の剥片が接合して１個体になったものである。

18T-㉑：灰色がかった緑色の地に，褐色の小さな斑が入るチャートである。同一母岩は，楔形石器１点（小型品），中型不定型の剥片１点で，総重量は15.9ｇである。これ以外には，細かな資料もみられないことから，搬入品と考えられる。

18T-㉒：黄白色の地に，黒色の斑が入るチャートである。同一母岩は，楔形石器１点（小型品），加工痕ある剥片１点，中・小型不定型の剥片４点で，総重量は21.5ｇである。

18T-㉓：灰色の地に，黒灰色の縞が入る，節理の少ない良質なチャートである。同一母岩は，中型不定型の剥片２点で，総重量は9.3ｇである。

18T-㉔：緑がかった灰白色の地に，明褐色の縞が入るチャートである。中型不定型の剥片１点の単独資料（6.5ｇ）である。

18T-㉕：灰緑色の良質なチャートである。小型不定型の剥片１点の単独資料（3.3ｇ）である。

18T-㉖：灰白色の地に，褐色の斑が入るチャートである。小型不定型の剥片を用いた 加工痕ある剥片１点の単独資料（3.2ｇ）である。

18T-㉗：内部は灰白色の地に，黄灰色の縞が多数入り，自然面は橙褐色のチャートである。小型の石核（分割礫素材）１点の単独資料（11.8ｇ）である。

18T-㉘：青みがかった淡黒色の地に，灰色のモヤが入るチャートである。 楔形石器１点（小型品）の単独資料（2.5ｇ）である。

以上のほかに，母岩分類できなかった資料として，安山岩にナイフ形石器２点，剥片７点，頁岩Ａに剥片５点，頁岩Ｂに剥片１点，頁岩Ｃに剥片７点，チャートに楔形石器３点，加工痕ある剥片１点，剥片60点砂岩に剥片２点，凝灰岩に剥片１点がある。チャートや頁岩Ａのなかには，被熱により色調や質感などが変化しているものを一定量含んでおり，母岩分類を困難なものにしている。

３）出土遺物（第31～41図）

ここでは，石材，母岩ごとに石器群の内容について記す。

安山岩（第31図１～８）

１は，横長剥片を用いた２側縁調整のナイフ形石器である。左側面は裏側からの調整加工だけであるが，右側縁は裏側からとともに表側からの調整加工を併用している。２・３は，中型の楔形石器である。２は，素材の主要剥離面が表面左側に残り，上下両端がわずかではあるが，潰れている。３は，調整加工が片面に偏るが，表面（左側の面）は多方向からの剥離面で構成される。右面は，調整加工がほとんど及んでいない。４～８は，大・中型不定型の剥片である。剥片の表面は，基本的には，主要剥離面と同方向の剥離面で構成される。なお，３～８は，同一母岩（18T-①母岩）と判断した。

流紋岩（第32図９～12）

・18T-③母岩（第32図９～12）

９は，剥片２点（10・11）が表裏で接合した資料である。打点を時計回りにずらしていった結果，10のように表面と裏面にある剥離面の剥離方法が90度異なることとなった。12は，表裏両面が自然面と上下方向からの剥離面で構成されており，打瘤が発達していないこと，打面が線状であることなどを勘案して，両極打撃によると考えられる。

砂岩（第33図13～15，第40図89・90）

・18T-④母岩（第33図13～15）

13は，台石を転用した石核（15）と剥片（14）の接合資料である。台石は，もともとは８㎝×８㎝×３㎝ほどの小振りの扁平な円礫と推定されるが，表面中央部には短い線状の傷が無数に付いており，楔形石器の台として使用されていたことが想起される。小振りの円礫を用いた台石は，房総半島東部の楔形石器多出地域では，しばしば認められている（例えば山武郡松尾町赤羽根遺跡）。台石として使用された後，裏面を主たる作業面にあて，自然面を打面として，不定型な剥片を剥離している。14は，15に接合した不定型の剥片で，表面は自然面で覆われている。なお，同一母岩としてもう１点，14に類似した剥片がある。

・18T-⑤母岩（第40図89・90）

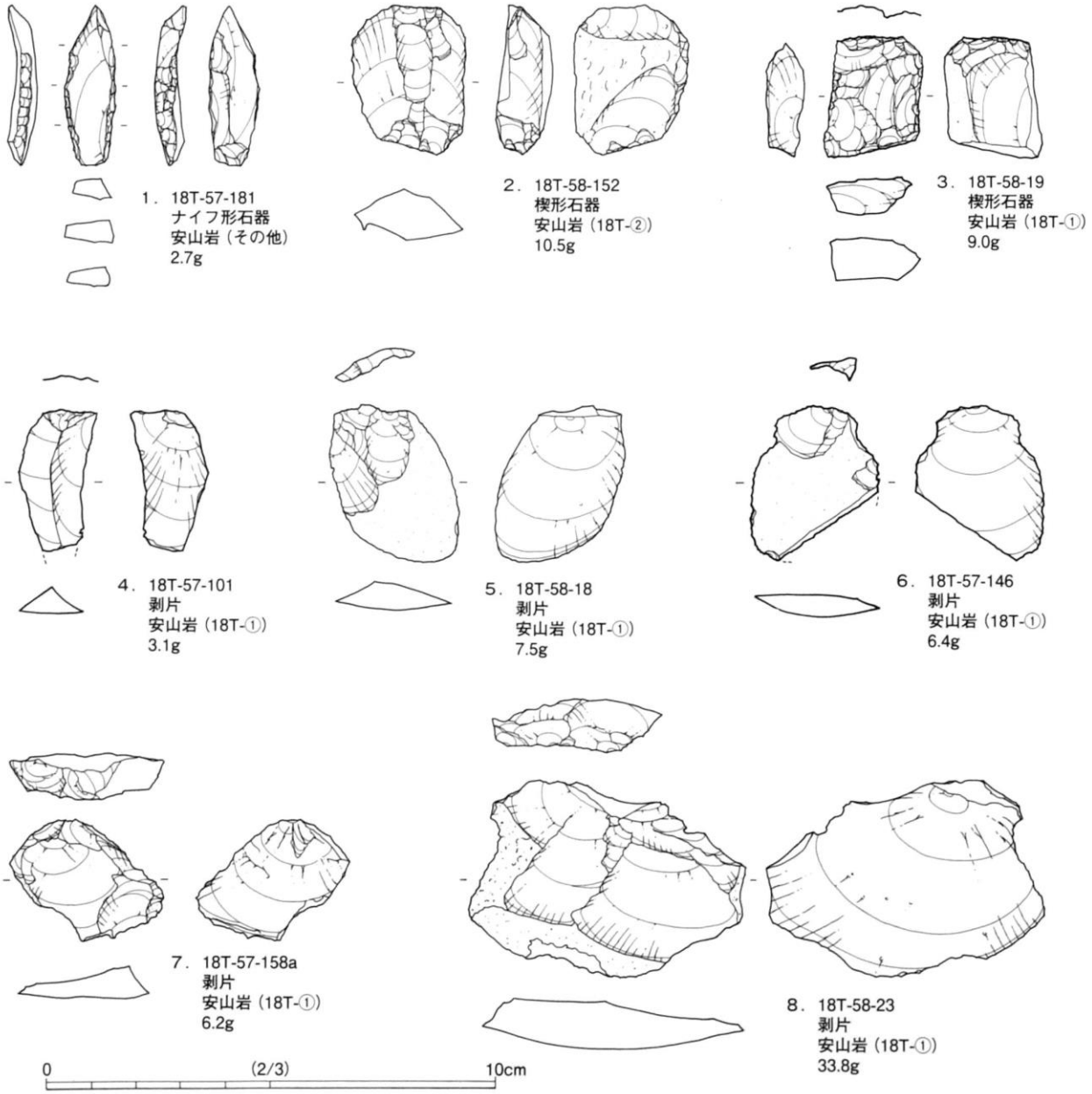
89は，表面の剥離面が研磨によって，部分的に消されている剥片である。90は，表面上部の自然面にわずかながら研磨痕跡が認められる。本例は，周囲の剥離面の方が研磨面よりも新しい。以上，89・90とも，刃部磨製石斧の刃部再生作業に伴う剥片と考えられる。

頁岩A（第34図16～27，第39図78）

・18T-⑦母岩（第34図16～27）

16は，楔形石器１点（17）と剥片３点（18～20）の接合資料である。接合資料については，①分割礫を石核の素材として，その上位に打面を設定する，②上位の打面を用いて，周囲から19→18・20の剥片が剥離される，③最終的に残された17には，打面が線状で，下端部に小規模な損傷があるなど，わずかではあるが両極打撃の痕跡がある，という手順である。ただし，接合資料では，小型の石核を用いた通常の剥片生産である。なお，19の剥片に限って，黒変，熱破砕など被熱の形跡が顕著である。

21は，剥片１点（22）と石核１点（23）の接合資料である。厚手の剥片ないしは分割礫を石核の素材として，上端部を中心に，一部横，下端部をも打面として，不定型の剥片を生産している。22も，上端の打面から剥離されている。なお，下端部には節理面が残るが，それ以外はネガティブな剥離面に覆われており，石



第31図　第３地点出土遺物実測図（１）

核の素材時の剥離面は明らかでない。

24～26は，上記接合資料と同一母岩の剥片，27は，石核である。27は，分割礫を素材として，各所より中・小型不定型の剥片を生産しているが，素材時の面も残されており，あまり多くの剥片を剥離した様子はない。26の剥片は，大型厚手で，石核の素材になりうるものである。おそらく，よそで原石を分割し，26・27のような塊を本遺跡に持ち込んで，剥片生産がなされたのであろう。

・18T-⑧母岩（第39図78）

78は，小型の削器である。中型の不定型な剥片を用いて，表面右側縁全体と左側園の一部に調整加工がなされている。本石器は，ほかに同一母岩はみられないが，上記18T-⑦母岩と同様の工程で得られた剥片を用いたと考えられる。

頁岩Ｂ（第39図79）

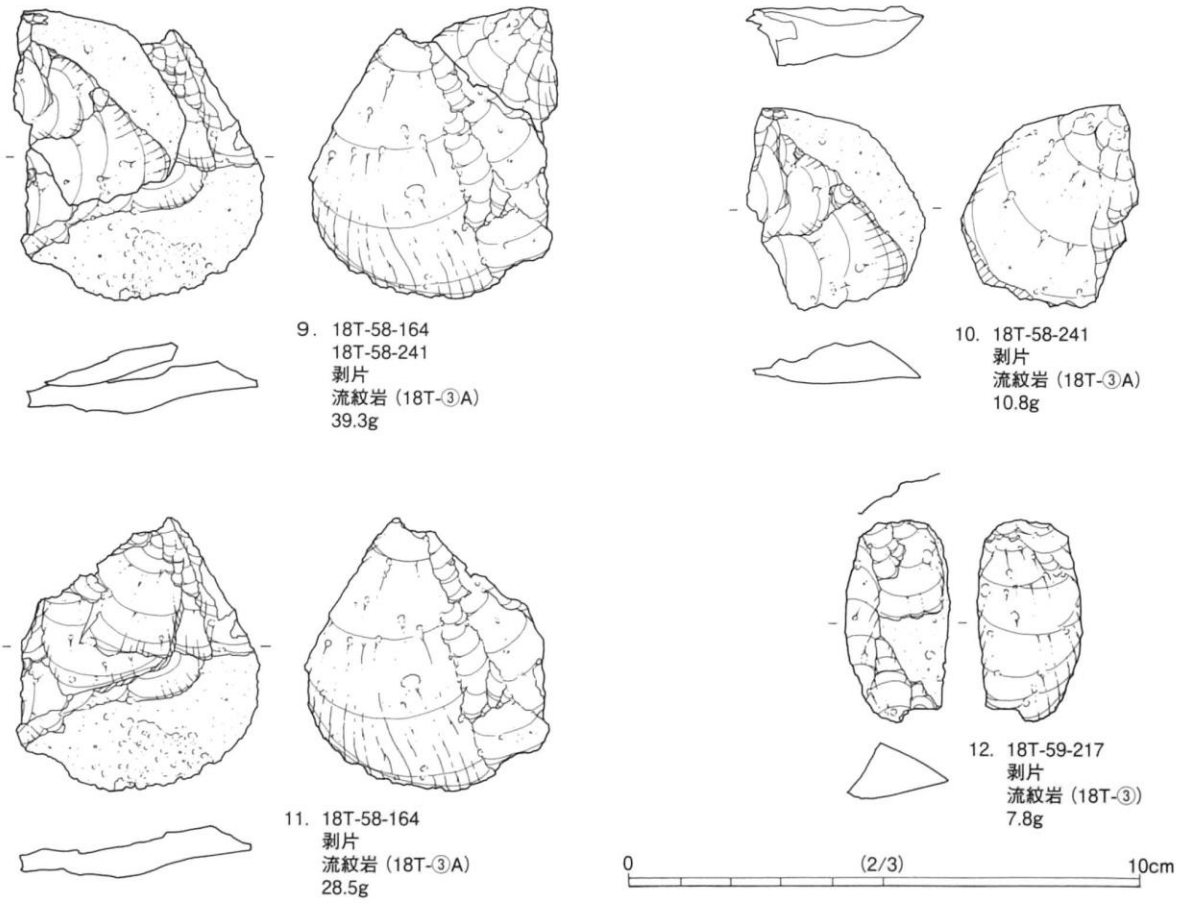
・18T-⑰母岩（第39図79）

79は，暗褐色に風化した頁岩Ｂ（東北産の頁岩）による使用痕ある剥片である。小型不定型の剥片を用いており，表面右側縁の鋭利な縁辺部に刃こぼれが見られる。

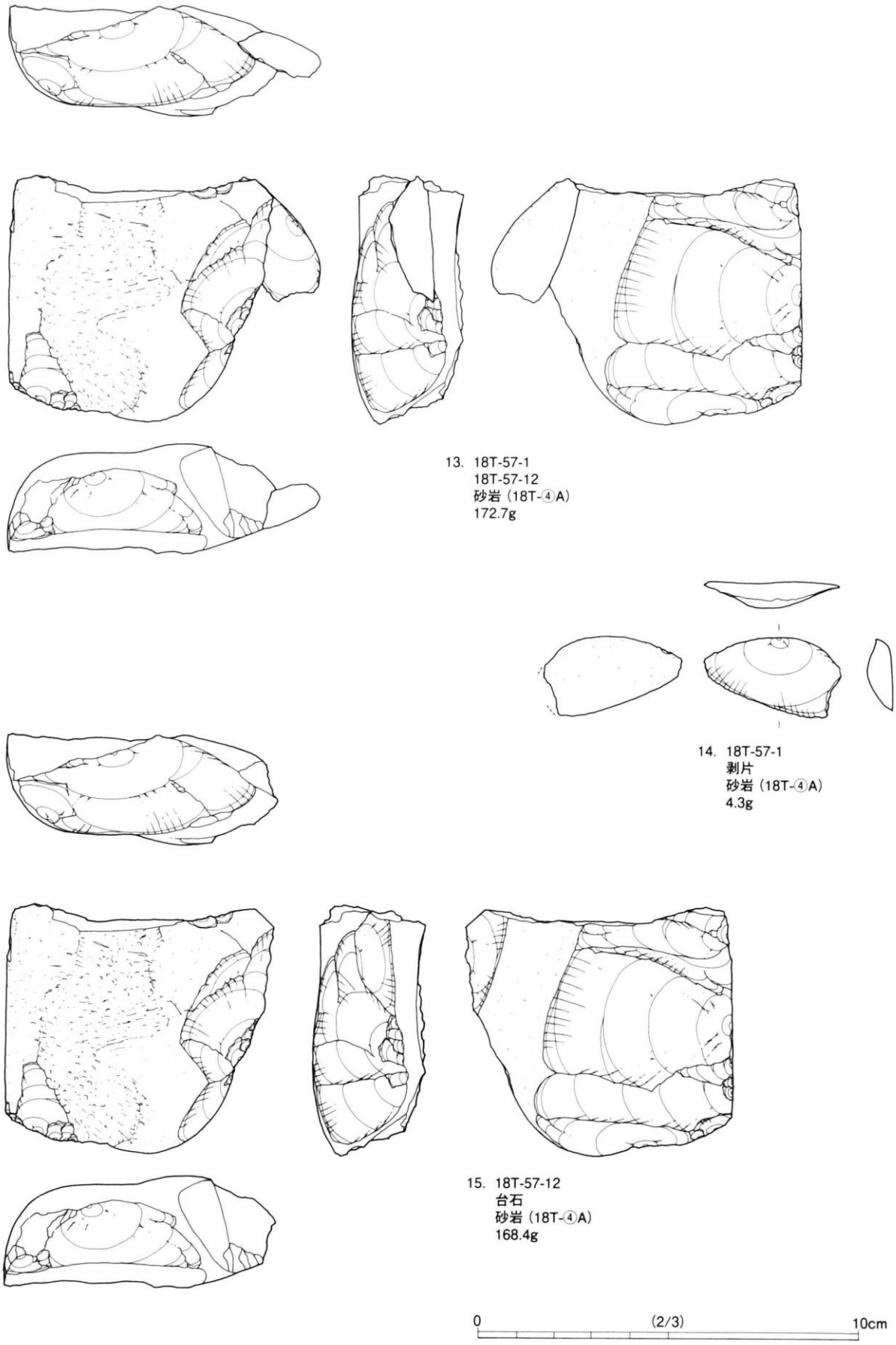
頁岩Ｃ（第40図88）

・18T-⑩母岩（第40図88）

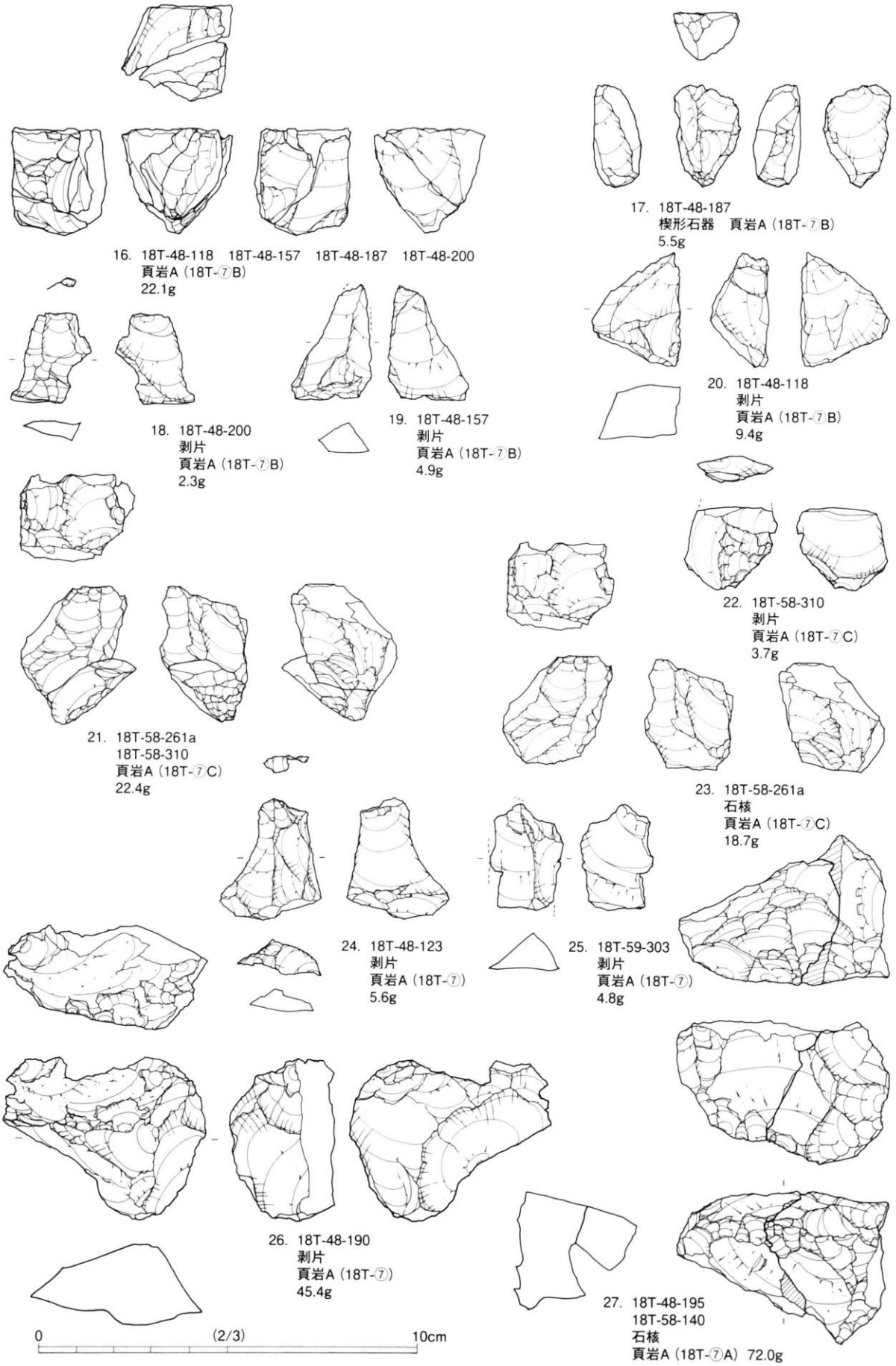
88は，黄灰色に風化した頁岩Ｃ（産地不明の頁岩）による剥片である。石刃に似た形状ではあるが，表面を構成する剥離面が不規則なため，石刃とはしなかった。表面中央の剥離面が形成された後，これを打面と



第32図　第３地点出土遺物実測図（２）



第33図　第３地点出土遺物実測図（３）



第34図　第３地点出土遺物実測図（４）

して主要剥離面とは直交する方向に剥離がなされている。剥片生産の初期の段階に生じる剥片なのかも知れない。

チャート（第35図28～40，第36図41～48，第37図49～58，第38図59～68，第39図69～77・80，第40図82～87・91・92，第41図93～98）

・18T-⑬母岩（第35図28～40，第36図41～48）

28・39は加工痕ある剥片，29は使用痕ある剥片，30～38・40は，各種剥片である。40は下半部が欠損するが，比較的厚手の剥片で，石核の素材になりうる要素をもっている。それ以外は，通常の中・小型不定型の剥片で，表面を構成する剥離面の剥離方向が，主要剥離面と一致しないものも含まれており，打点を各所に移動しながら剥片生産を行っていたことが窺える。

41～44は，石核である。同一母岩ではあるが，分割礫等を石核の素材に用い，打面と作業面を頻繁に動かしながら，寸詰まりの縦長剥片を剥離するもの（41・43），剥片を石核の素材として，横長の剥片を剥離するもの（44・45），などがあり，単純な構成ではない。

46は，剥片１点（48）と石核１点（47）の接合資料である。作業面を表裏両面にあて，交互剥離を用いて，横長傾向の剥片を生産している。

以上，本母岩は，接合しない中・小型の剥片類が多量にあり，また厚手の剥片や分割礫を用いた石核も多数残されているが，自然面を広く残す大型の剥片は乏しく，残された資料からでは，原石からの作業工程を追うことはできない。したがって，ほかのまとまっている母岩と同様，よそで初期の工程がなされた後に，石核素材や一部作業の進行した石核が持ち込まれ，それぞれから中・小型不定型の剥片が剥離されたと考えられる。

・18T-⑫母岩（第37図49～58）

49は，中型不定型の剥片である。表面は，主要剥離面と同一方向の剥離面とともに逆方向からの剥離面もあり，打点が周囲をめぐる石核から得られたと推定される。50は，不定型の剥片を剥離した石核である。作業面は比較的限定されてはいるが，打点は固定されず，石核の周囲を移動している。51も不定型の剥片を生産した石核である。

52は，楔形石器３点（53～55）の接合資料である。分割礫を素材として，上下方向の加撃によって三つの石器に分かれている。54が石器本体で，53・55は剥片に近い性格のものであるが，接合状況をみると縁辺部を中心にして隙間が多く，それぞれに対してわずかながら調整加工がなされたと考えられる。

56は，不定型の剥片２点（57・58）の接合資料である。求心的な打点移動によって，剥片生産が行われたとみることができる。

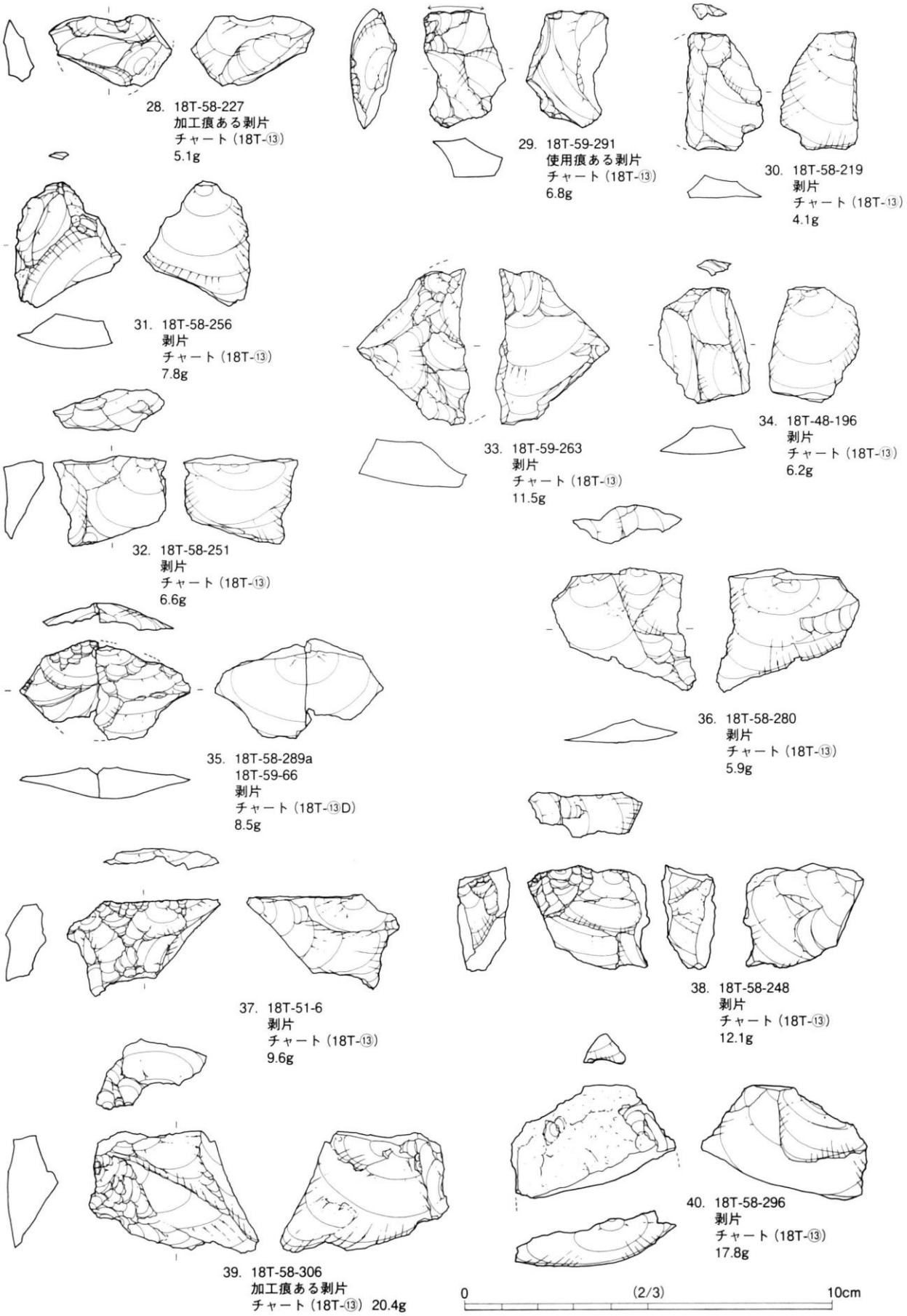
・18T-⑭母岩（第38図59～68）

59・63は，小型不定型の剥片，60は，小型の剥片を用いた使用痕ある剥片である。61は，不定型厚手の剥片の一端（表面左側面）に剥離痕をもつ，加工痕ある剥片である。62は，分割礫を素材とする石核で，表裏両面を作業面として，求心的な打点移動と交互剥離によって，中・小型不定型の剥片を生産している。

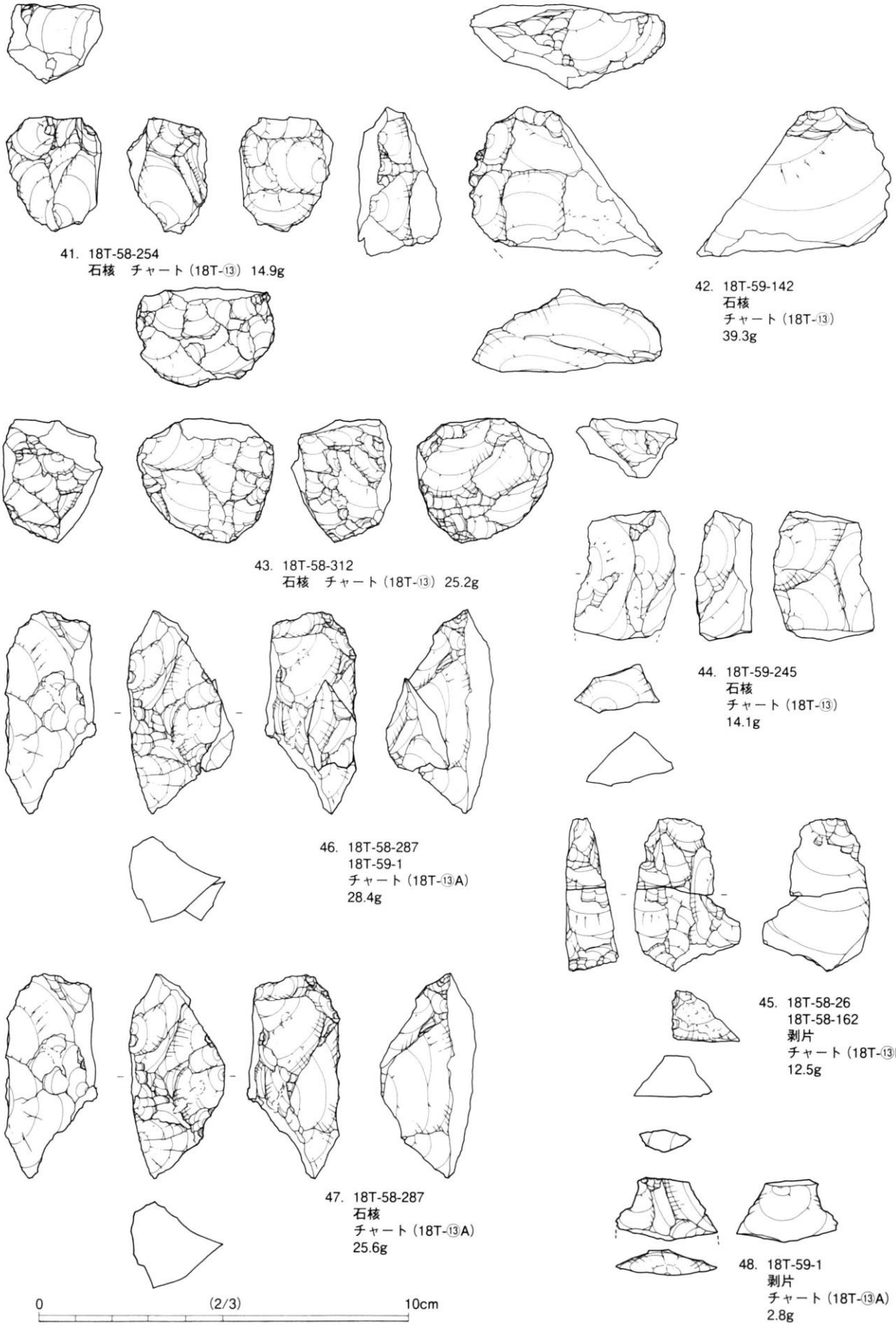
64は，加工痕ある剥片１点（68）と剥片３点（65～67）の接合資料である。66を除くと，打面は欠損するが，おおむね同じ打面を用いて，66→67→68→69の順に不定型の剥片を剥離している。68は，裏面の左側縁に調整痕がみられる。

・18T-⑪母岩（第39図69～77）

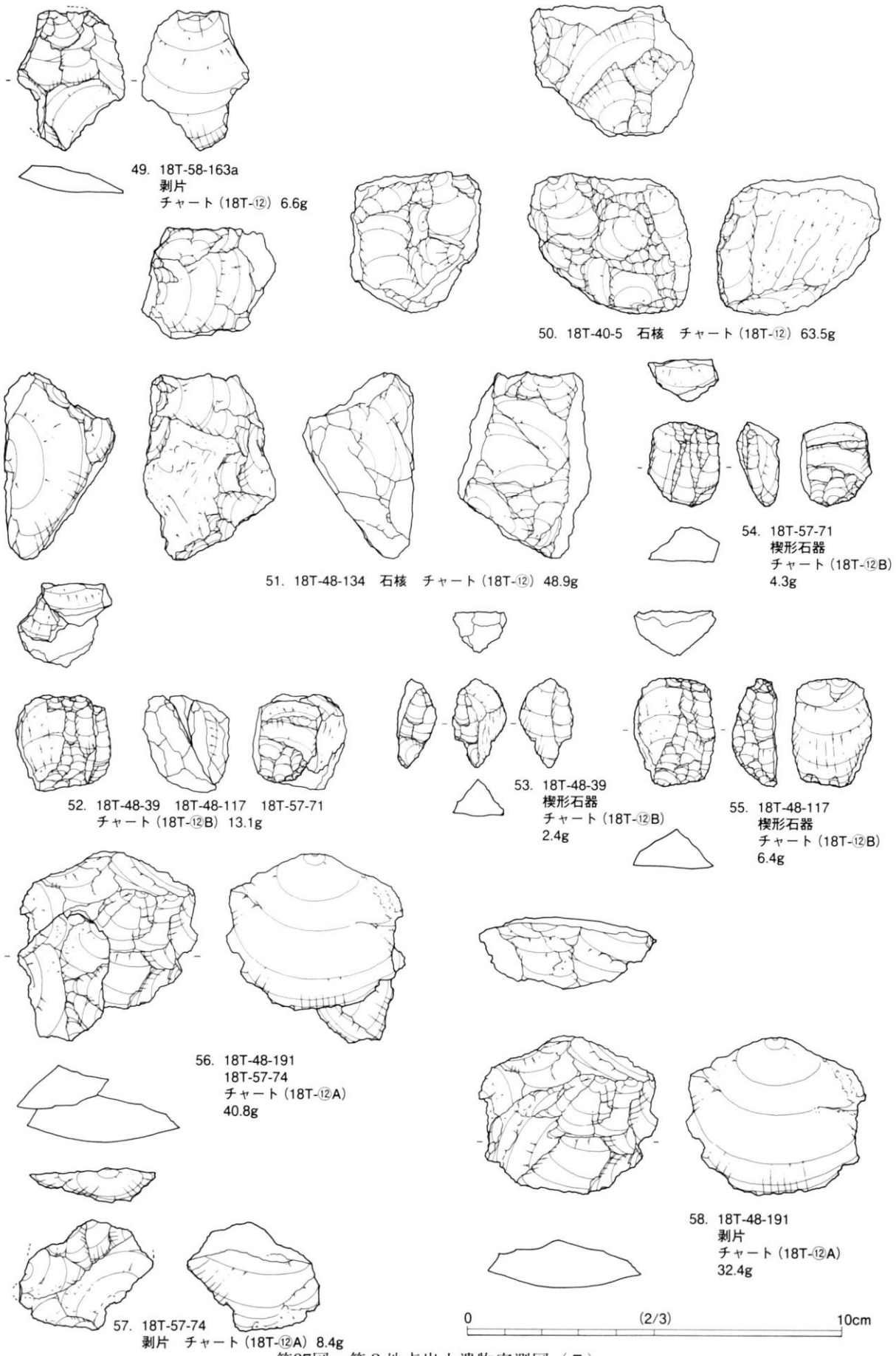
69は，台形石器である。裏面の基部を中心として平坦な調整加工がみられる。70～73は，中型の楔形石器である。71・72ともに下半部が欠損するが，いずれも不定型の剥片を素材としており，楔形石器特有の長軸



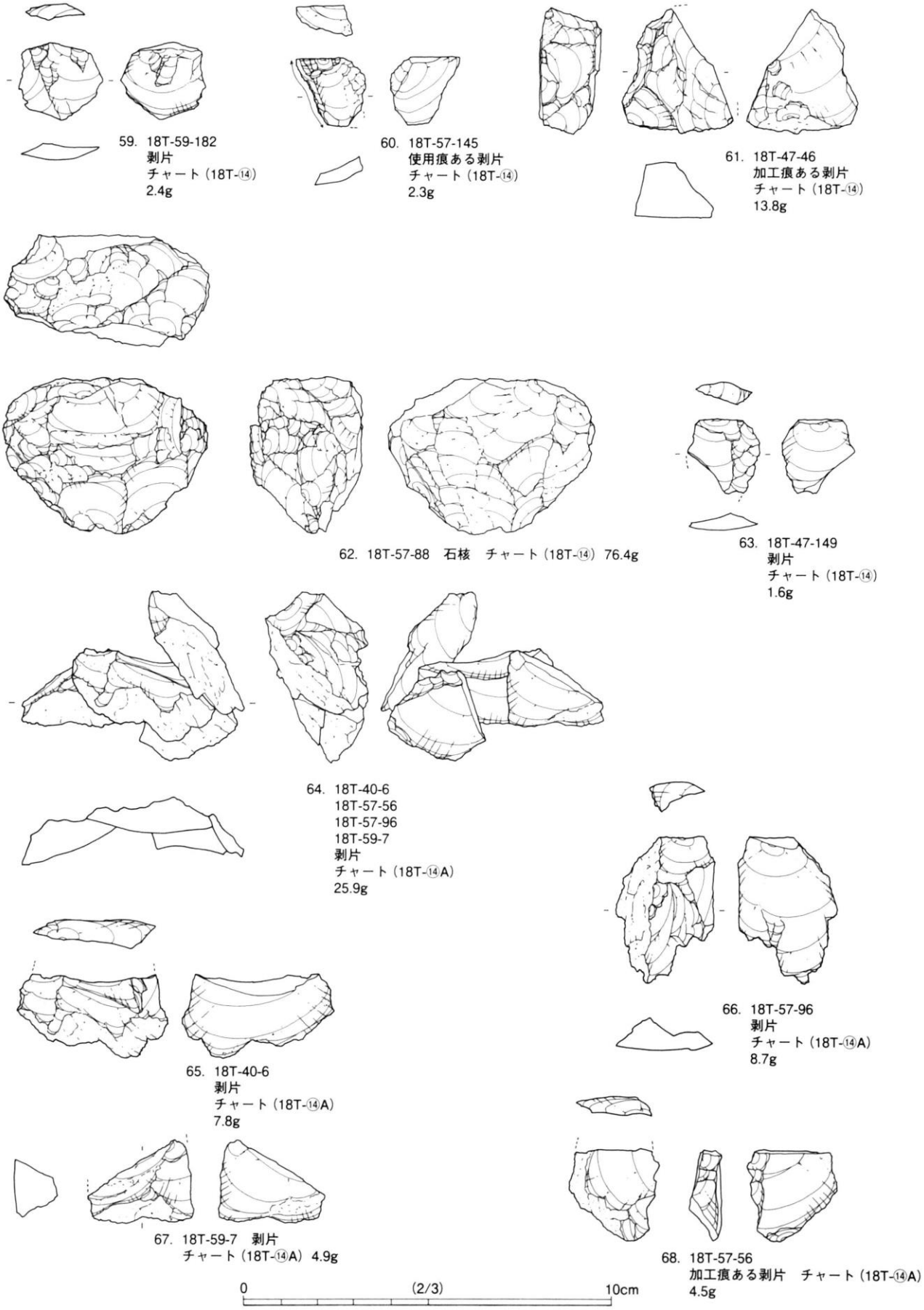
第35図　第３地点出土遺物実測図（５）



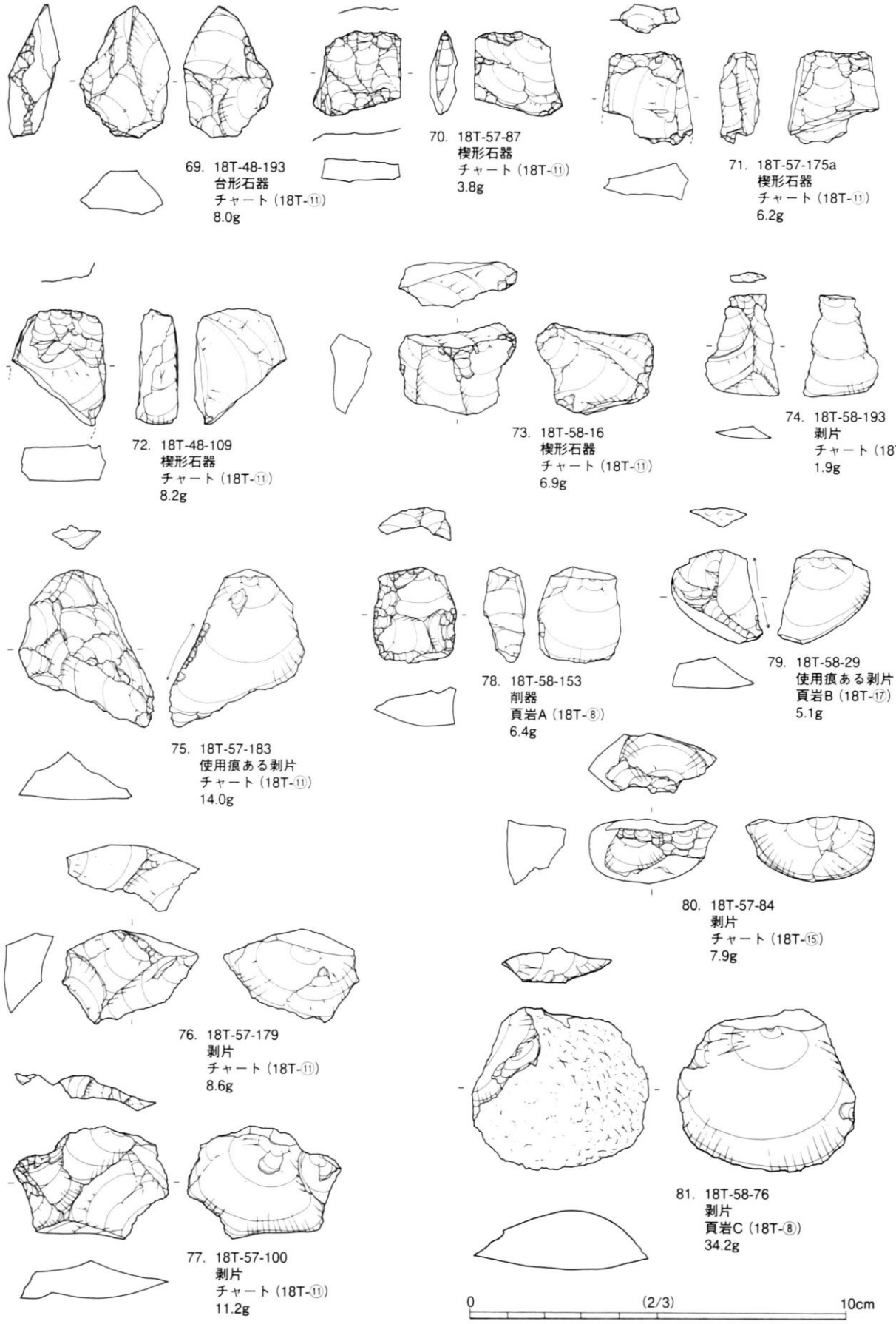
第36図　第３地点出土遺物実測図（６）



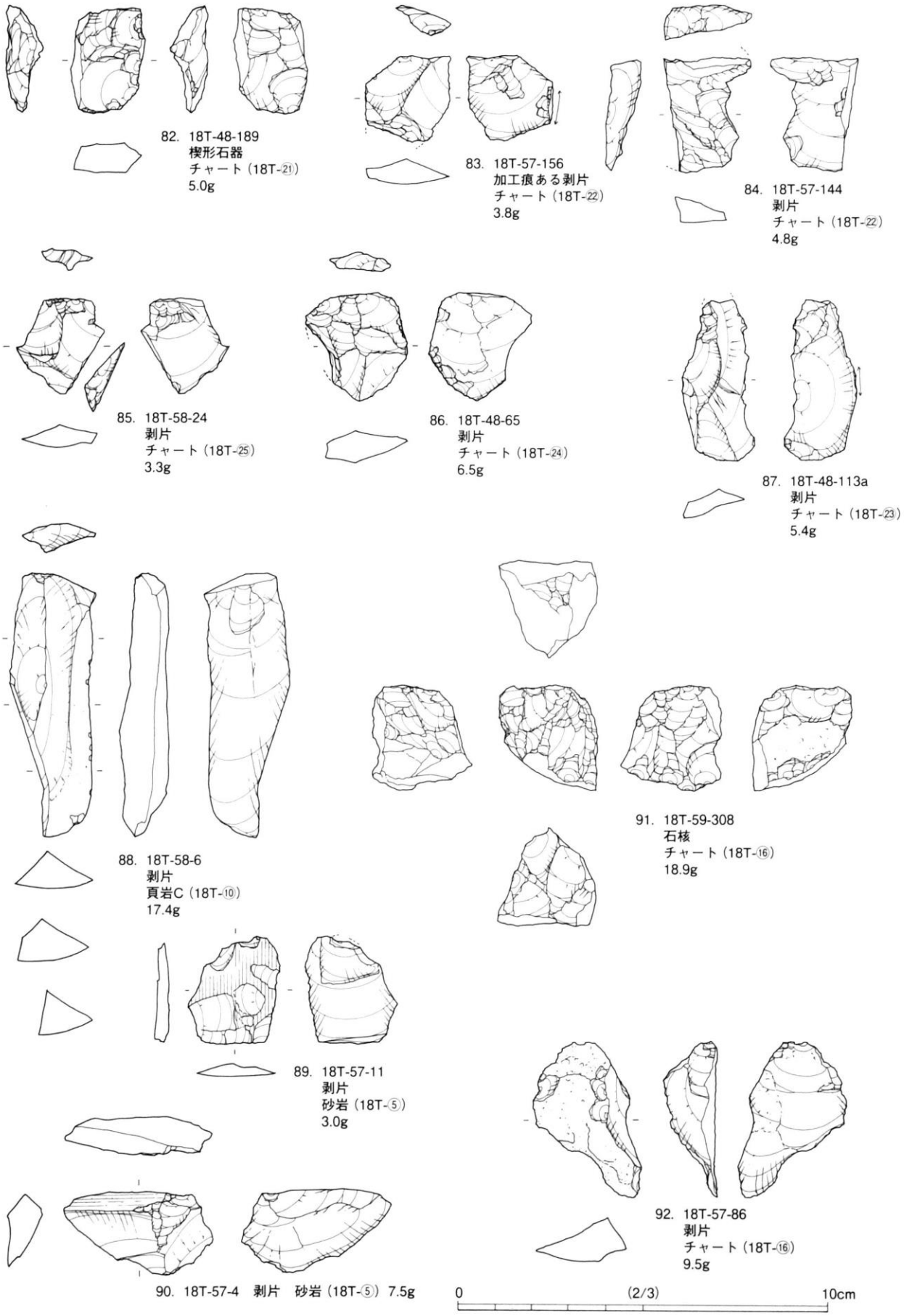
第37図　第３地点出土遺物実測図（７）



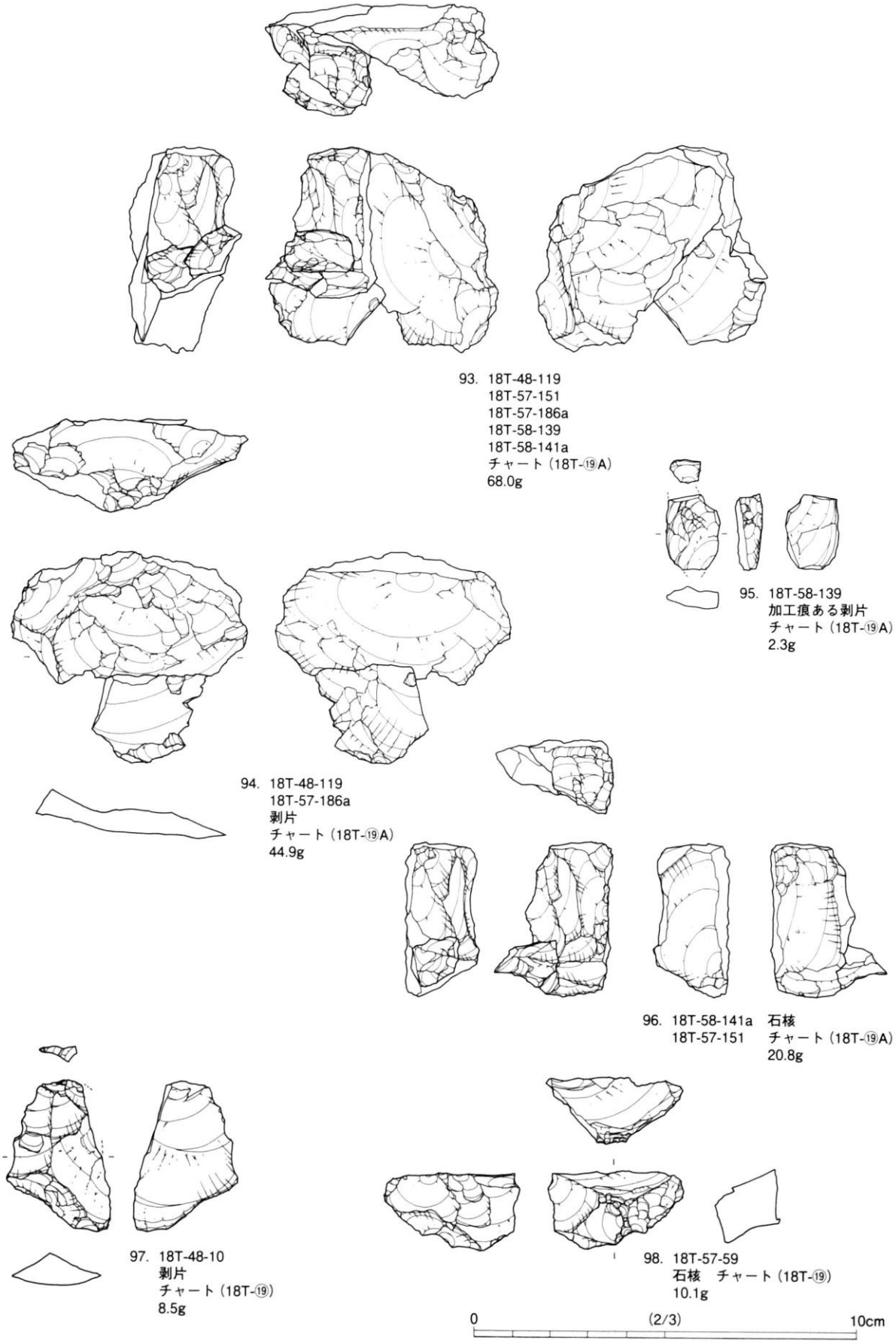
第38図　第３地点出土遺物実測図（８）



第39図　第３地点出土遺物実測図（９）



第40図　第３地点出土遺物実測図（10）



第41図　第３地点出土遺物実測図（11）

第６表　第３地点出土遺物組成表１　－母岩別組成表－

母岩番号	石　材	Ｋｎ	Ｔｒ	Ｓｓ	Ｐｉ	Ｂｌ	Ｒｆ	Ｕｆ	Ａｂ	Ｆｌ	Ｃｈ	Ｃｏ	合　計	礫	重　量
18T-①	安山岩				1					9			10		77.5
18T-②	安山岩				1								1		10.5
18T-③	流紋岩									6			6		52.5
18T-④	砂岩								1	3			4		180.1
18T-⑤	砂岩									3			3		11.3
18T-⑥	凝灰岩									4			4		6.1
18T-⑦	頁岩Ａ				4					24		3	31		233.8
18T-⑧	頁岩Ａ			1									1		6.4
18T-⑨	頁岩Ｃ									1			1		34.2
18T-⑩	頁岩Ｃ									1			1		17.4
18T-⑪	チャート		1		4			1		10			16		88.2
18T-⑫	チャート				4					13		2	19		205.7
18T-⑬	チャート				3		7	2		86		9	107		469.2
18T-⑭	チャート				1		3	2		39		1	46		194.5
18T-⑮	チャート									1			1		7.9
18T-⑯	チャート									2		1	3		30.4
18T-⑰	頁岩Ｂ							1					1		5.1
18T-⑱	流紋岩									1			1		22.8
18T-⑲	チャート						2	1		19		2	24		139.1
18T-⑳	チャート									4			4		23.7
18T-㉑	チャート				1					1			2		15.9
18T-㉒	チャート				1		1			4			6		21.5
18T-㉓	チャート									2			2		9.3
18T-㉔	チャート									1			1		6.5
18T-㉕	チャート									1			1		3.3
18T-㉖	チャート						1						1		3.2
18T-㉗	チャート											1	1		11.8
18T-㉘	チャート				1								1		2.5
その他	チャート				3		1			60			64		117.3
その他	安山岩	2								7			9		24.8
その他	瑪瑙				1					3			4		17.8
その他	頁岩Ａ									5			5		14.5
その他	頁岩Ｂ									1			1		2.9
その他	頁岩Ｃ									7			7		6.3
その他	砂岩									2			2		1.6
その他	凝灰岩									1			1		12.2
その他	流紋岩												0	3	18.4
合　計		2	1	1	25	0	15	7	1	321	0	19	392	3	2106.2

第７表　第３地点出土遺物組成表２　－石材別組成表－

石　材	Ｋｎ	Ｔｒ	Ｓｓ	Ｐｉ	Ｂｌ	Ｒｆ	Ｕｆ	Ａｂ	Ｆｌ	Ｃｈ	Ｃｏ	合　計	礫	重　量
安山岩	2			2					16			20		112.8
流紋岩									7			7		75.3
頁岩Ａ			1	4					29		3	37		254.7
頁岩Ｂ							1		1			2		8.0
頁岩Ｃ									9			9		57.9
凝灰岩									5			5		18.3
チャート		1		18		15	6		243		16	299		1350.0
砂岩								1	8			9		193.0
瑪瑙				1					3			4		17.8
流紋岩												0	3	18.4
合　計	2	1	1	25	0	15	7	1	321	0	19	392	3	2106.2

方向の割れによって，素材の打面がなくなっている。75は，使用痕ある剥片である。石器の中央に稜があり，石刃のクロステッドフレイクのように，稜を打面として右側の剥離面が形成されている。裏面の左側縁に刃こぼれがある。74・76・77は，剥片である。74は縦長の剥片で，表面を構成する剥離面の剥離方向は，おおむね主要剥離面と一致する。76・77は，横長の剥片である。表面には，多方向からの剥離面がみられる。掲載した以外にも剥片類があるが，いずれも接合はしなかった。剥片類は，搬入されたものであろうか。

・18T-⑮母岩（第39図80）

80は，チャートの円礫を素材とする石核の破片（剥片）である。上位に設けた打面を用い，小型不定型の剥片生産を意図したようであるが，作業途中で節理に沿って，大きく割れている。

・18T-㉑～㉕母岩（第40図82～87）

ここでは，数量的にまとまっていない母岩について，まとめて記す。82は，楔形石器である。不定型の剥片を横位にし，末端を切断した後に，上下方向からの加撃によって，形成されている。表面右側縁には，素材剥片の打面が残る。83～87は，中・小型の不定型の剥片類である。83の裏面右側縁には，細かな剥離痕が連続する。

・18T-⑲母岩（第41図93～98）

93は，加工痕ある剥片１点（95），剥片２点（接合して１個体：94），石核２点（接合して１個体：96）の接合資料である。作業工程の手順は，①分割礫を石核の素材として，大型不定型の剥片（94）が剥離される，②94を剥離した剥離面が荒れた節理面であったためか，この面を作業面からはずして，各所から中・小型の剥片を生産しており，その過程で95の素材も剥離される，③小型の石核が残る，という流れである。95は，一部欠損するが，素材の打面周辺に急角度の調整加工が施されている。

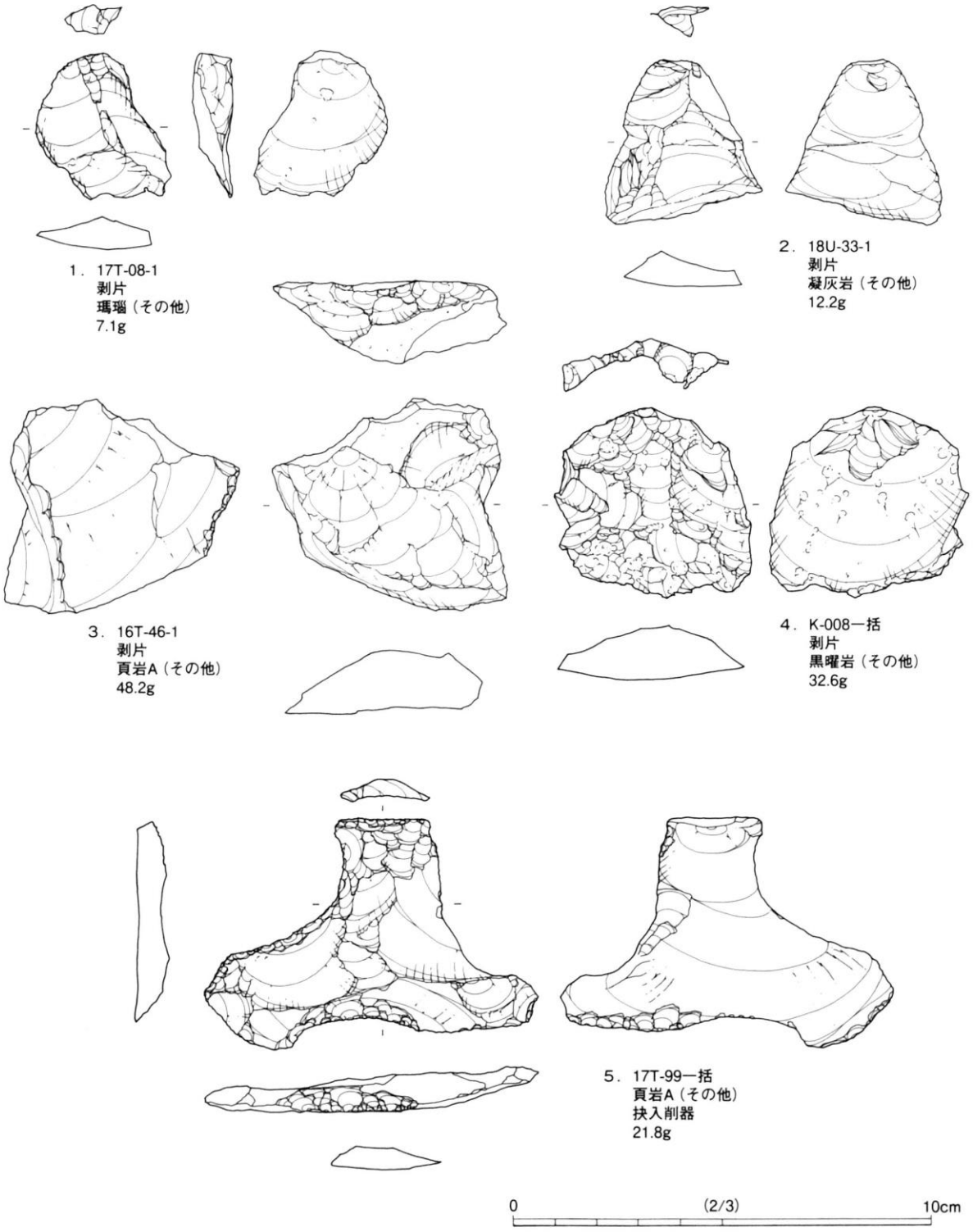
97は，本母岩のなかでは形状の整った剥片，98は，小型不定型の剥片を生産した石核である。

４．第１～３地点周辺の出土遺物（第42図）

第１～３地点周辺から出土した，いずれの地点にも帰属しない石器について記す。

１は，淡黄白色半透明の瑪瑙を用いた中型不整形の縦長剥片である。表面左半部には，裏面とは逆方向からの剥離面が観察されるが，これは石核素材時の剥離面の可能性が高い。２は，灰緑色に風化した凝灰岩を用いた中型不整形の縦長剥片である。表面には，上下両方向からの不整形の剥片面がある。３，橙褐色から黄褐色に風化した珪化した頁岩を用いた大型不定型の剥片である。石材は，県南嶺岡産と想定される。表面は節理面に沿って大きく割れた１枚の剥離面で，石核はかなり大型の剥片を用いたと考えられる。４は，黒

色不透明で，φ２～４㎜の夾雑物を多量に含む黒曜石を用いた中型厚手の不定型の剥片である。石材は，栃木県高原山産の可能性が高い。表面を構成する剥離面は，おおむね裏面に近い剥離方向からのものである。５は，淡灰緑に風化した，県南嶺岡産と想定される頁岩を用いた抉入削器である。大型不整形の縦長剥片を素材として，打面に続く側縁と末端側に裏面から調整加工を施している。１～４は，立川ローム層第２黒色帯周辺からの出土で，第１～３地点とおおむね同時期と想定されるが，５は，ソフトローム層最上部から出土しており，土器出現期に帰属する可能性がある。



第42図　遺構外出土遺物実測図

5．第101地点（第43～45図，第８・９表）

1）概　要

第101地点は，本道を跨ぐ一般道路の拡幅工事で検出した地点で，台地平坦面中央部に位置する。石器群の出土したグリッドは，7N-09グリッド１か所である。

ブロックの規模と形状は，直径２ｍほどの円形の範囲に６点の石器が分布する。出土層位は，立川ローム層Ⅵ層からⅦ層にかけてで，１点を除いて，ほぼ水平に包含されている。

石器組成は，ナイフ形石器２点，剥片３点，石核１点，石器石材は，黒曜石５点，頁岩Ｂ（東北産）１点である。

2）母岩の特徴と内容

本地点では，石器６点すべてに対して母岩分類した。内訳は，黒曜石１母岩（101-①：５点），頁岩Ｂ１母岩（101-②：１点）である。

101-①：部分的に赤みを帯びた黒色不透明で良質の黒曜石である。信州産と考えられる。

同一母岩は，ナイフ形石器１点（先端部破片），小型不定型の剥片３点，剥片素材の小型の石核１点で，総重量は7.4ｇである。ナイフ形石器の先端部破片は，整った形状ではないことから，製作途中に生じたと考えられるものである。また，小型不定型の剥片は，ナイフ形石器の調整剥片ではなく，通常の剥片であること，小型の石核が伴っていることから，ブロック内で，小規模な剥片生産を行っていたと考えられる。

101-②：淡褐色で硬質緻密な頁岩で，東北産と考えられる（頁岩Ｂ）。石刃素材のナイフ形石器１点（完形）の単独資料（9.1ｇ）である。

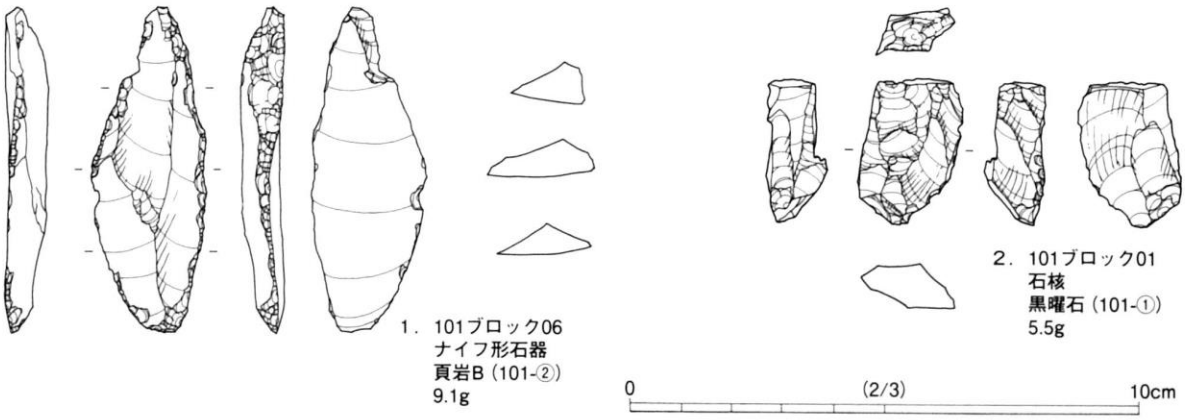
3）出土遺物（第43図）

ナイフ形石器（第43図１）

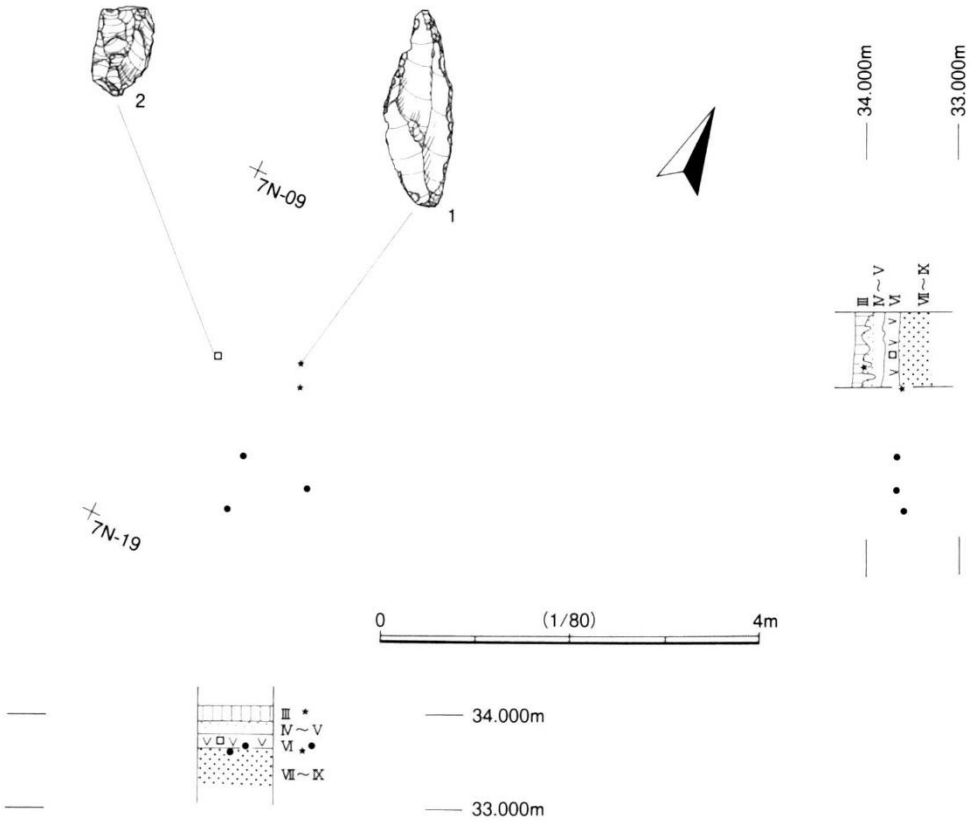
１は，頁岩Ｂによる石刃を用いたナイフ形石器である。表裏の剥離面は，すべて同一方向から剥離されている。素材の打面側を先端部にあて，右側１足縁と左側の基部に調整加工を行っている。先端部以外は細かな調整加工で，素材長軸と石器の長軸がほぼ一致する形態である。

石　核（第43図２）

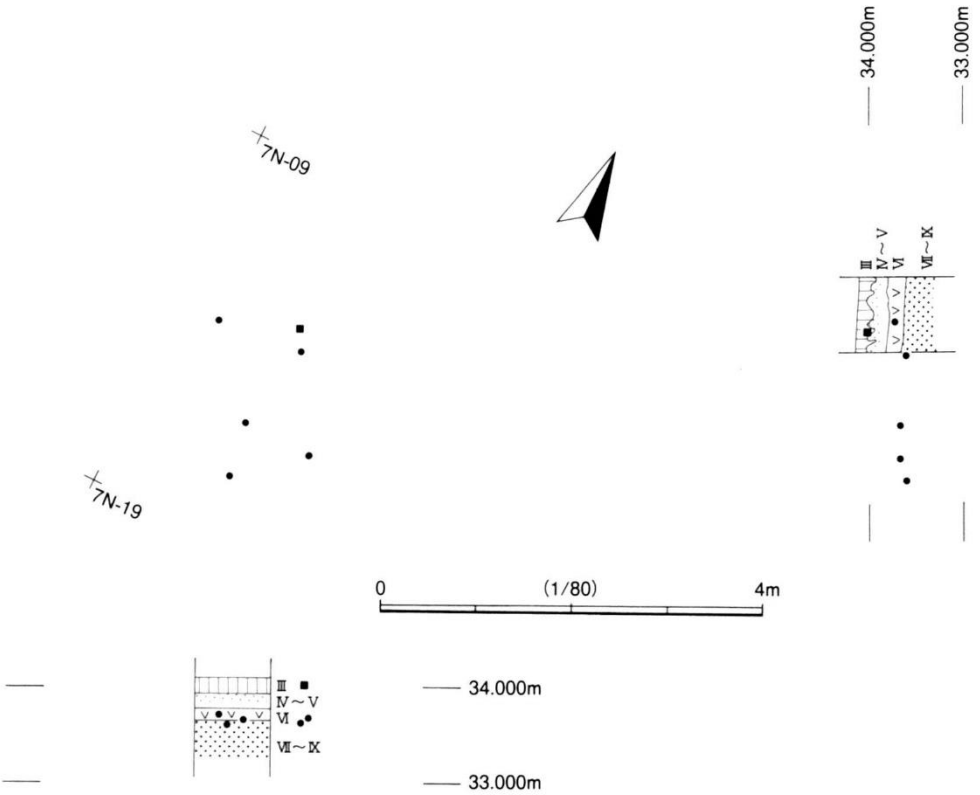
２は，黒曜石による石核である。表裏を構成する剥離面は小型であるが，上下両方向から細身の剥片を剥離している。裏面の一部に素材時の剥離面が残る。上位は，厚手の剥片を切断した面を打面として用いている。



第43図　第101地点出土遺物実測図



第44図　第101地点出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



第45図　第101地点出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－

第８表　第 101 地点出土遺物組成表１　－母岩別組成表－

母岩番号	石　材	Ｋｎ	Ｔｒ	Ｓｓ	Ｐｉ	Ｂｌ	Ｒｆ	Ｕｆ	Ａｂ	Ｆｌ	Ｃｈ	Ｃｏ	合　計	礫	重　量
101-①	黒曜石	1								3		1	5		7.4
101-②	頁岩Ｂ	1											1		9.1
合　計		2	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	6	0	16.5

第９表　第 101 地点出土遺物組成表２　－石材別組成表－

石　材	Ｋｎ	Ｔｒ	Ｓｓ	Ｐｉ	Ｂｌ	Ｒｆ	Ｕｆ	Ａｂ	Ｆｌ	Ｃｈ	Ｃｏ	合　計	礫	重　量
黒曜石	1								3		1	5		7.4
頁岩Ｂ	1											1		9.1
合　計	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	6	0	16.5

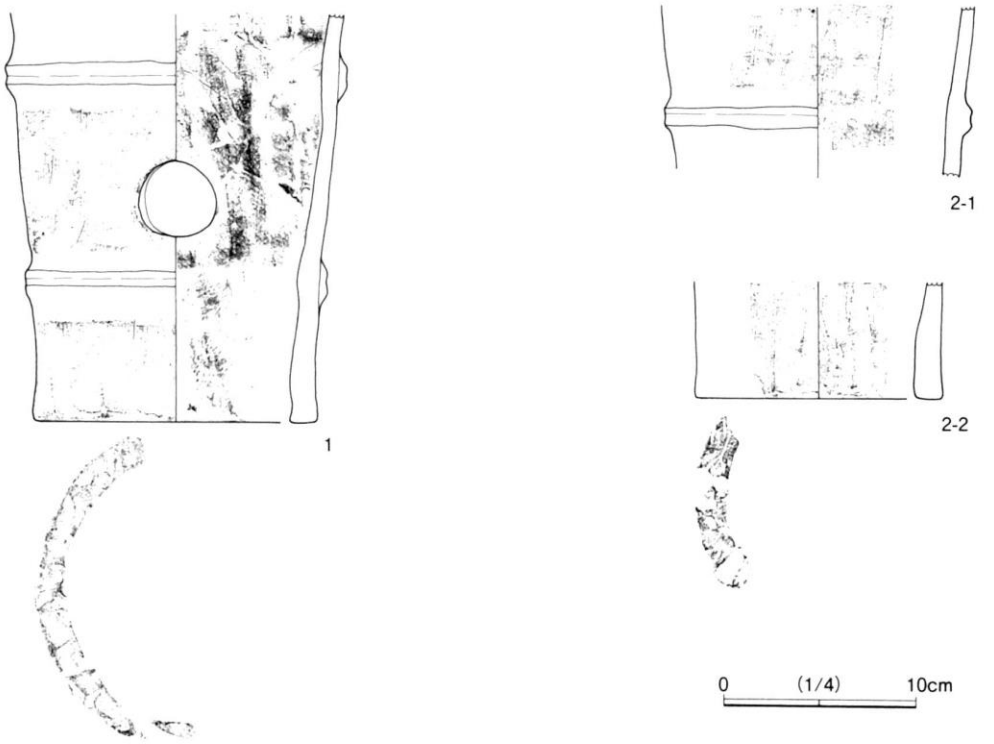
第2章　古墳時代

第1節　古　墳

調査対象となった寺方古墳群は昭和32年当時においては，前方後円墳3基，円墳23基が存在していたが，現在は前方後円墳２基，円墳３基に墳丘が残存するのみである。
今回の調査は，墳丘の残存する６号墳・７号墳・８号墳と表土除去により周溝のみが検出できたＫ－００５・０１１～０２２号である。

６号墳

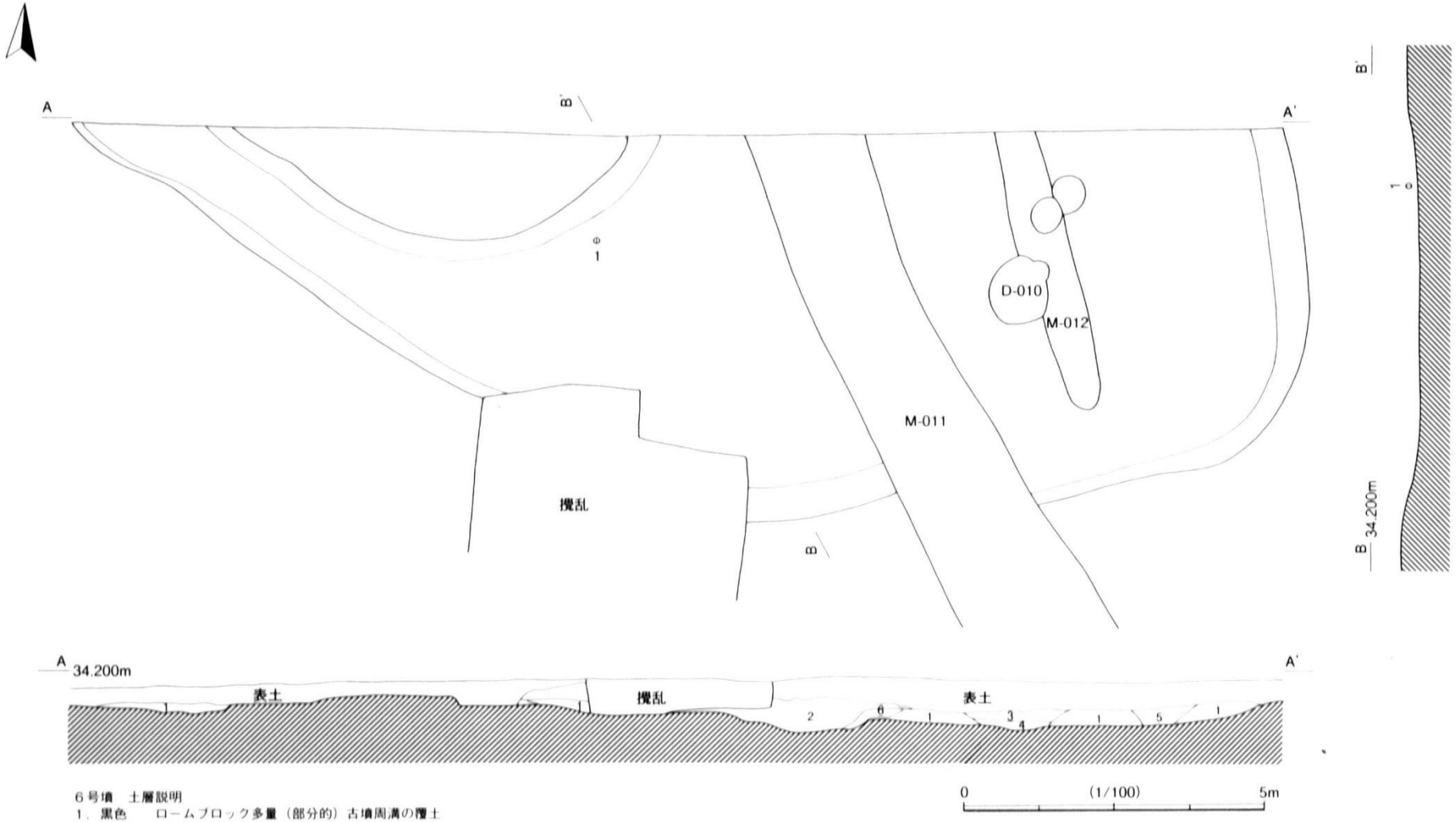
調査区北東部付近に位置する。調査区域外北側に隣接して存在する前方後円墳の周溝の一部と推定できる。調査区で検出できたのは，全体の約４分の１程度と考えられ，古墳の周溝の西コーナー部分にあたると思われる。規模は最大幅で約6m，最小幅で1.5mを測る。深さは西側部分で約30cm，東側部分で10cmを測る。
検出された周溝は遺構確認面であるローム上面からの彫り込みが浅く，特に東側部分に向けて深さを減じて幅も急激に狭まっていく。このことは西側部分がちょうどコーナー部分にあたるのと，東側部分の下場が西側に比して高く，表土層も薄いことから周溝自体が旧地形の傾斜に制約されていたと思われ，西側部分の掘削面が実際にはもっと高かったことが原因と考えられる。



第46図　６号墳出土遺物

６号墳出土遺物観察表

番号	器種	法量　cm	調　整	色　調	依存度	備　考
1	埴輪 円筒埴輪	口径　－ 器高　<21.5> 底径　14.8	胴部内外面ハケ目。	明褐	下端部～底部片	透孔２個アリ
2-1	埴輪 円筒埴輪	口径　－ 器高　< 9.1> 底径　－	胴部内外面ハケ目。	褐	胴部片	
2-2	埴輪 円筒埴輪	口径　－ 器高　< 6.2> 底径　13.0	底辺部内外面ハケ目。	褐	底辺部片	



6号墳　土層説明
1．黒色　　ロームブロック多量（部分的）古墳周溝の覆土
2．暗褐色　ローム粒・ブロック少量
3．茶褐色　ローム粒少量
4．暗褐色　ローム粒少量
5．黒褐色　ロームブロック斑文状に少量
6．暗褐色　ロームブロック多量

第47図　6号墳実測図

33.93
33.48
A'
33.26
33.24
16V-40
16V-42
34.50
35.50
B
35.75
33.65
B'
34.50
16V-70
34.26
33.35
A
0
(1/100)
10m

第48図　7号墳実測図

7号墳

調査区北東部付近に位置する。遺構の東側の約3分の1程度が崖により消滅しているものの，墳丘自体の遺存度は極めて良好である。ただ遺構南辺で墳丘裾部がやや直線的になり，西側には後世の溝調査区外から南下してきた溝が墳丘の裾を削っている部分が等高線を歪めて直線を作り出している。また東側では崖の削平により等高線の急激な回り込みがみられるが，遺存度の良好な部分からは円墳と判断して間違いないであろう。

規模は墳丘部分で南北16m，周溝を含めて23m，東西13m（現状），周溝までを含めて18mを測る。墳丘の高さは地山から2.15m，旧表土からは1.6m（盛土）を測る。周溝は全体に不整形な印象を受ける。特に北西部にみられる等高線の歪みは周溝を破壊する溝のせいだけではなく周溝本来のものである。断面は浅いU字型を呈する。規模は幅2.9m～4.4m，深さ0.2m（確認面）～0.9m（墳丘の旧表土面）を測る。

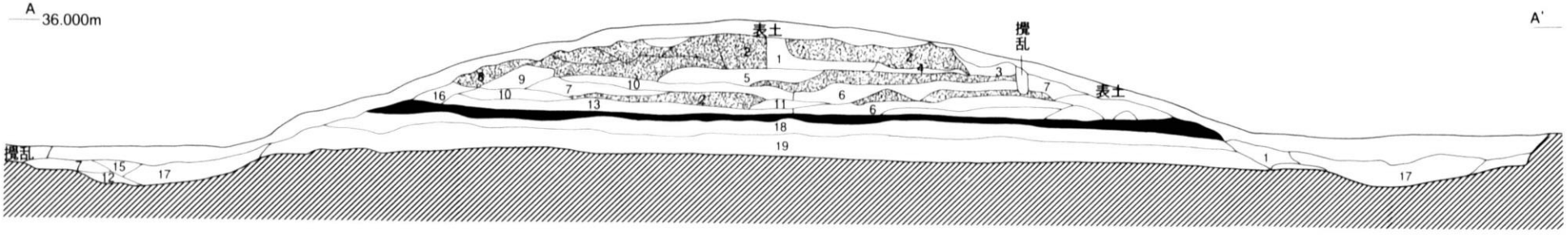
墳丘の築成は土層断面の観察によれば，旧表土面に対してロームブロックを多く含む土層と黒色土・褐色土主体の土層が水平に互層をなしている。旧表土が墳丘裾部で中央に向かって堆積が薄くなっているのは，土圧によるためと考えられる。

埋葬施設は墳丘のほぼ中央部から表土下約70cmから検出された。盛土中の木棺直葬とみえて鉄鏃・直刀及び白色粘土の検出により初めて埋葬施設と判断できた。このため堀方等の存在は確認できなかった。遺物は2.3m×1.2mの範囲から出土した。鉄鏃の出土状況は大まかに3ブロック（A～C）に分かれている。このうちB・Cブロックは刃部が概ね南西方向に向けられているが，Aブロックは北東に向けられていた。直刀は切先を南西に向けて鉄鏃Aブロックに隣接して置かれていた。また鉄鏃や直刀からやや距離を置いて刀子がやはり切っ先を南西に向けて出土している。

遺構南側には隅丸長方形の土坑（長軸2.5m×短軸1.0m，深さ0.2m）は遺物の出土はみられなかったものの，白色粘土の出土や形状から類推すると古墳に係わる埋葬施設の可能性が高い。

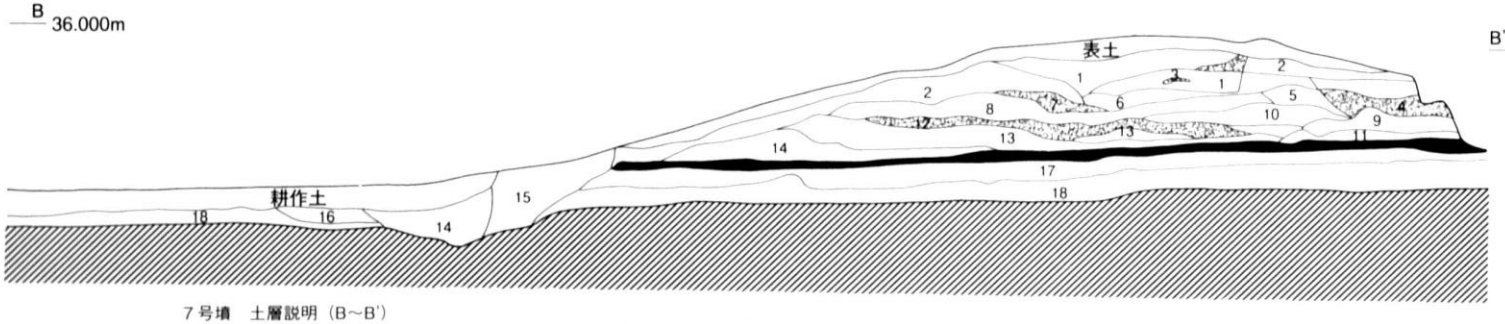
出土遺物は墳丘盛土から多量の土器が出土している。層位でいえば6～11層にかけてとなる。内容は須恵器蓋，多量の土師器坏，高坏，甕，小型壺等からなっている。これらの土器はすべて人為的に廃棄されたものと思われる。注目すべきは多量の手捏土器と石製模造品の存在である。これらは古墳築造過程に地鎮的な祭祀が執り行われた可能性を示唆すると思われる。また，埋葬施設からやや離れた墳丘斜面の表土直下から管玉が1点出土し，石製模造品は墳丘の南側裾部のやはり表土直下から出土しているが，これらの遺物は埋葬終了直後に墳丘上に遺棄されたものが転落したものである可能性が高い。

埋葬施設から出土した鉄鏃は長三角形式の刃部で長茎のものであった。刃部は長さ2.5cm～3cm，幅1cm前後の間に概ね収まる。また腸抉を有するもの（14・15・25・26）も少数みられ，これらは刃部が長さ5cm，幅1.5～2cmとやや大型である。出土状況からみると，多数の長三角形式と数本の腸抉を有する鉄鏃とを組み合わせて副葬されたようである。



7号墳　土層説明（A～A'）

1．褐色　ロームブロック少量
2．褐色　ロームブロック適当量
3．黒色　ロームブロック多量
4．褐色　ロームブロック多量
5．褐色　ロームブロック霜降り状
6．暗褐色　ローム粒少量
7．暗褐色　ロームブロック多量
8．茶褐色　ロームブロック適当量
9．黒色　ローム粒適当量
10．黒色　ロームブロック少量
11．黒色　ロームブロック霜降り状
12．暗褐色　ロームブロック多量
13．暗褐色　ロームブロック少量
14．暗褐色　ローム粒少量
15．褐色　ローム粒少量
16．黒色　ローム粒少量
18．黄褐色
19．黒褐色



7号墳　土層説明（B～B'）

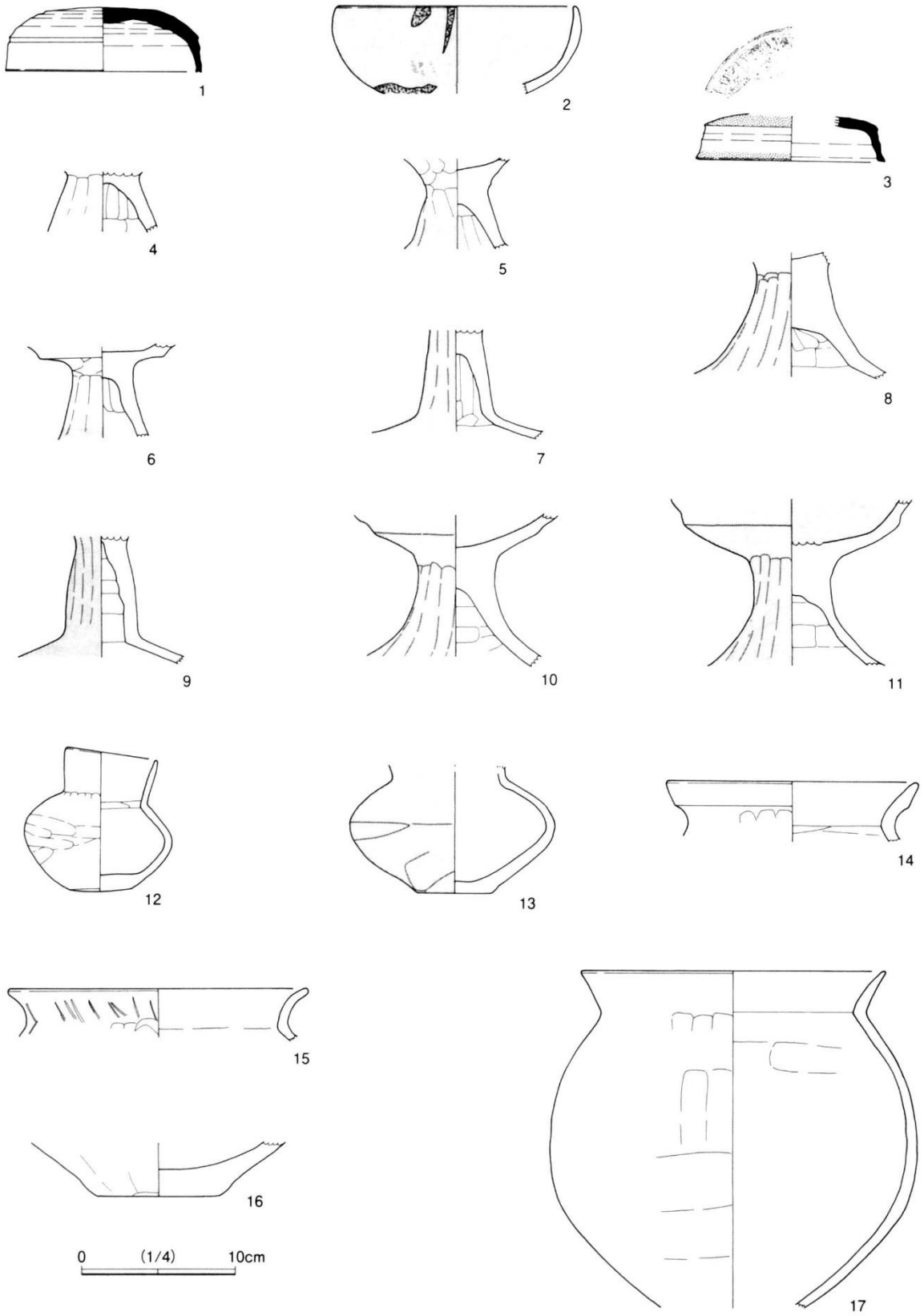
1．褐色　ロームブロック少量
2．茶褐色　ロームブロック多量
3．茶褐色　ローム粒少量
4．茶褐色　ロームブロック・ローム粒少量
5．茶褐色　ロームブロック多量
6．暗褐色　ロームブロック・ローム粒少量
7．茶褐色　ロームブロック適当量
8．黄褐色　ロームブロック多量
9．黒褐色　ローム粒少量
10．褐色　ロームブロック適当量
11．茶褐色　ロームブロック多量、ローム粒少量
12．暗褐色　ロームブロック少量
13．茶褐色　ロームブロック少量
14．褐色　ロームブロック霜降り状
15．暗褐色　ローム粒少量
16．褐色　ローム粒多量
17．黒色　ロームブロック少量
18．黄褐色

ロームブロック多量

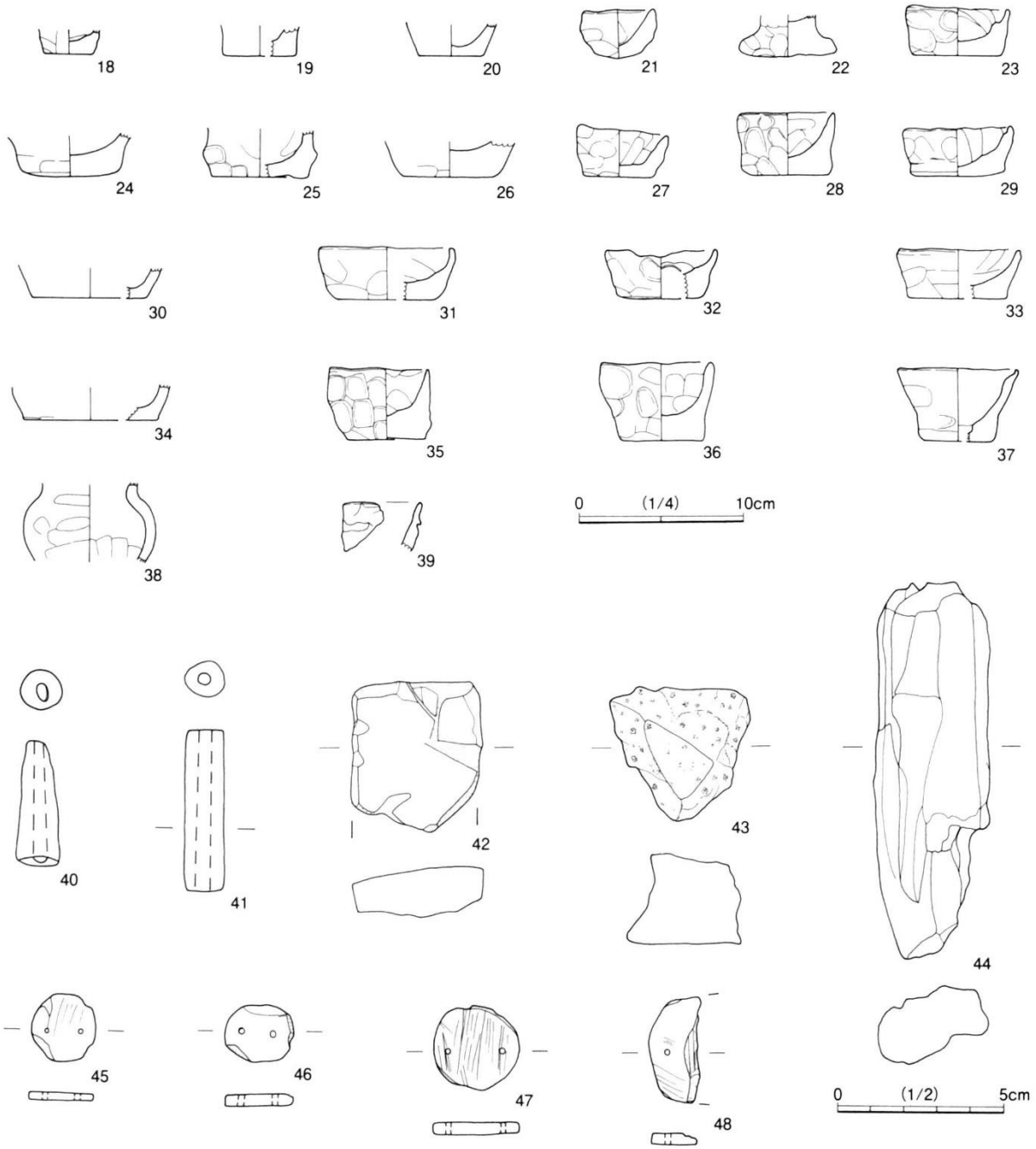
旧表土

0　(1/100)　5m

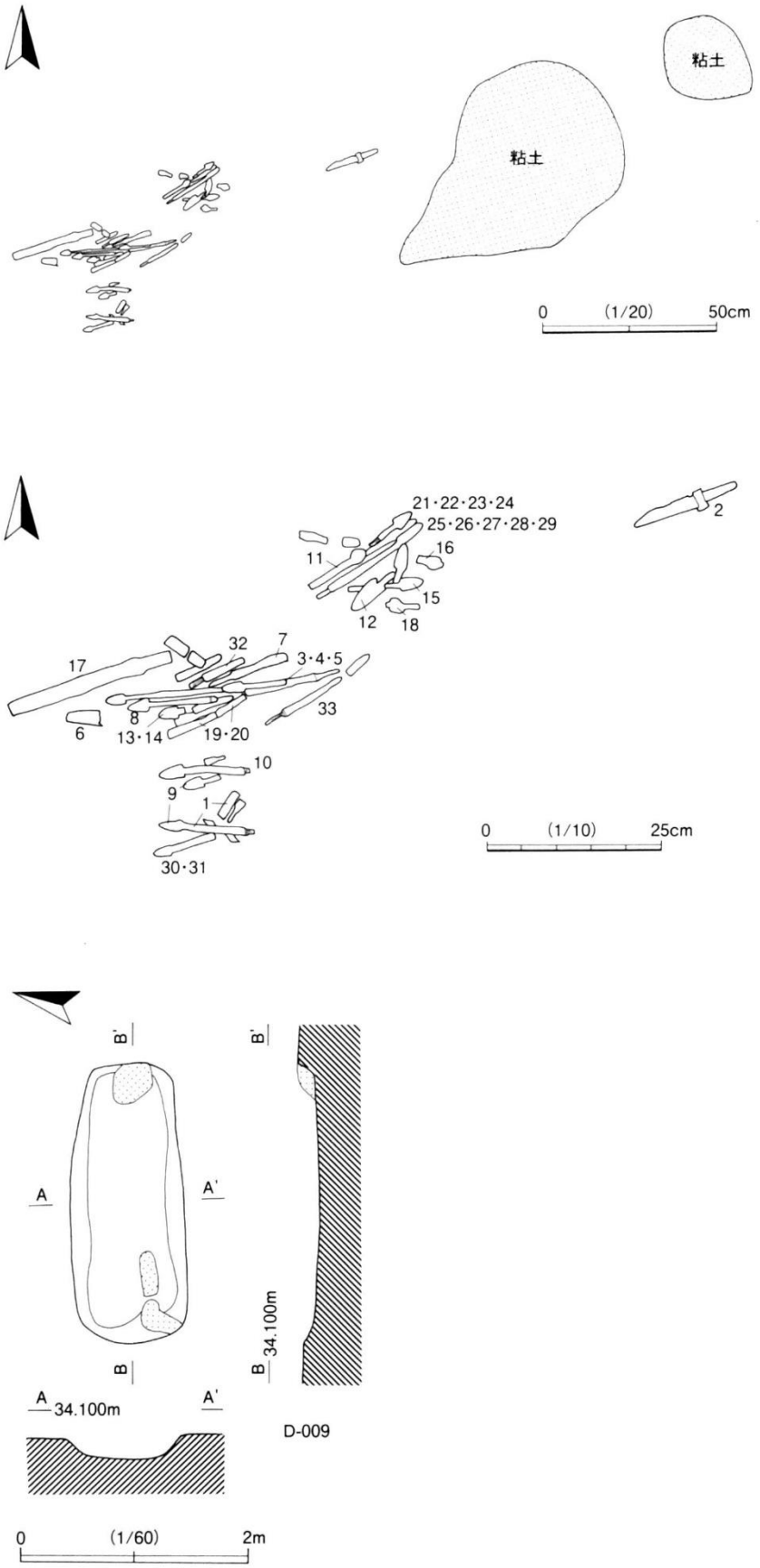
第49図　7号墳墳丘断面図



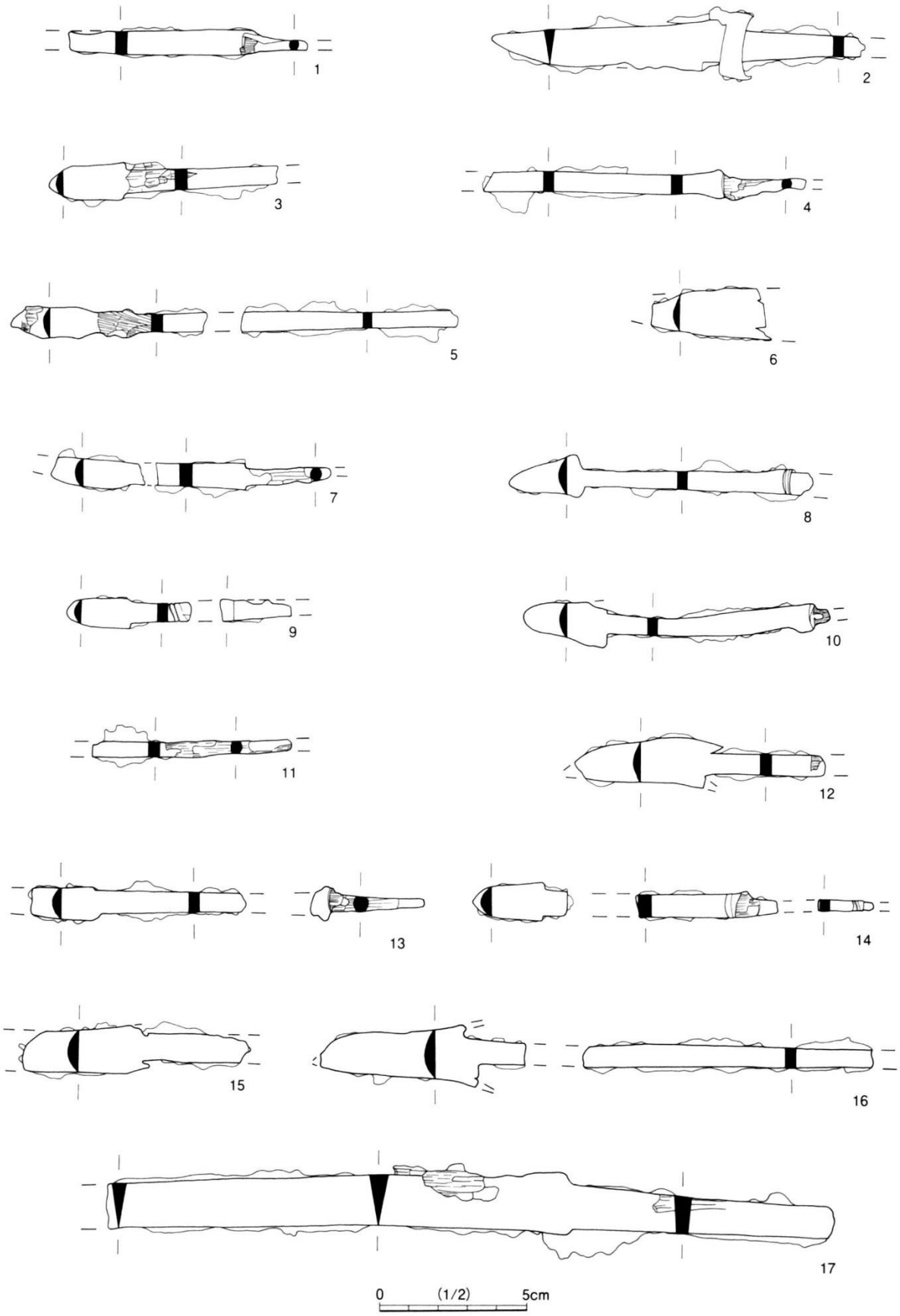
第50図　７号墳出土遺物（１）



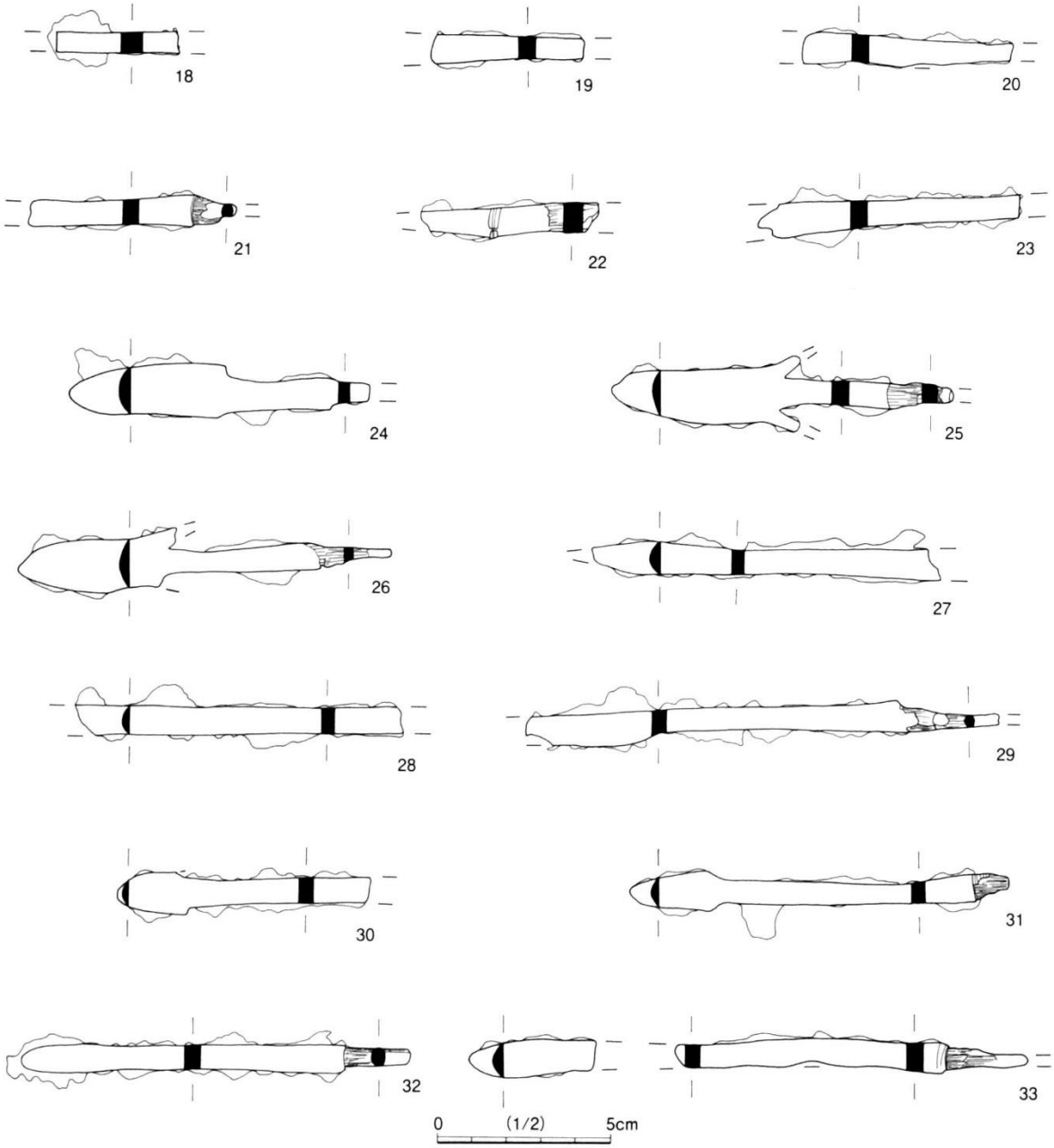
第51図　7号墳出土遺物（2）



第52図　7号墳主体部実測図・主体部鉄鏃及び直刀出土状況図・7号墳内土坑（D-009）実測図



第53図　７号墳主体部出土遺物（１）



第54図　7号墳主体部出土遺物（2）

7号墳出土遺物観察表

番号	器種	法量 cm	調整	色調	依存度	備考
1	須恵器 蓋	口径 13.0 器高 4.2 底径 －	口縁部ナデ。体部内外面ロクロ。	暗灰	口縁部～底部1/2	
2	土師器 坏	口径 (15.8) 器高 <5.8> 底径 －	体部内外面ナデ。	黄褐	口縁部～体部1/4	内外面赤彩　外面スス付着
3	須恵器 蓋	口径 (12.4) 器高 <5.0> 底径 11.4	体部内外面ロクロ。	暗灰	口縁一部　体部～底部1/4	外面（口縁部・底部）釉がかかっている
4	土師器 高坏	口径 － 器高 <4.0> 底径 －	脚部内外面ヘラナデ。	橙	脚部片	
5	土師器 高坏	口径 － 器高 <6.0> 底径 －	坏部底部外面ヘラナデ、内面ナデ。脚部外面ナデ、内面ヘラナデ。	明褐	坏部底部一部　脚部ほぼ完存　裾部欠損	脚部外面赤彩
6	土師器 高坏	口径 － 器高 <6.0> 底径 －	坏部底部内外面ナデ。脚部外面ヘラナデ、内面ヘラケズリ。	淡褐	坏部～脚部1/4　裾部一部	裾部外面赤彩
7	土師器 高坏	口径 － 器高 <7.2> 底径 －	脚部外面ヘラナデ、内面ヘラケズリ。裾部ナデ。	明褐	脚部ほぼ完存　裾部一部	脚部外面赤彩
8	土師器 高坏	口径 － 器高 <8.3> 底径 －	脚部外面ヘラナデ、内面ヘラケズリ。	明褐	脚部1/4	脚部外面赤彩
9	土師器 高坏	口径 － 器高 <8.4> 底径 －	脚部外面ヘラナデ、内面ヘラケズリ。裾部ナデ。	褐	脚部ほぼ完存　裾部一部	脚部外面赤彩
10	土師器 高坏	口径 － 器高 <10.0> 底径 －	坏部底部ナデ。脚部内外面ヘラナデ。	明褐	坏部下端部～脚部	外面全体・坏部内面赤彩
11	土師器 高坏	口径 － 器高 <11.0> 底径 －	坏部体部ナデ。脚部内外面ヘラナデ。	明褐	坏部1/3　脚部1/4	外面全体・坏部内面赤彩
12	土師器 坩	口径 (6.0) 器高 9.1 底径 4.2	口縁部ナデ。胴部外面ヘラナデ、内面ナデ。	暗褐	口縁一部　体部～底部完存	
13	土師器 坩	口径 － 器高 <8.4> 底径 4.8	胴部ヘラナデ、内面ナデ。	褐	体部～底部完存	胴部外面赤彩
14	土師器 甕	口径 (16.4) 器高 <4.0> 底径 －	口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。口辺部外面ヘラナデ、内面ナデ。	褐	口縁～口辺部	
15	土師器 甕	口径 (19.6) 器高 <3.2> 底径 －	口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。口辺部外面ヘラナデ、内面ナデ。	褐	口縁～口辺部1/4	口縁部外面ヘラ書き沈線
16	土師器 甕	口径 － 器高 <3.5> 底径 8.0	底辺部外面ヘラナデ、内面ナデ。	褐	底辺部1/3　底部ほぼ完存	
17	土師器 甕	口径 － 器高 <22.0> 底径 －	口縁部外面ヨコナ、内面ナデ。胴部外面ヘラナデ、内面ナデ。	淡褐	口縁部～胴部1/4	
18	土師器 手捏	口径 － 器高 <1.5> 底径 3.0	体部内外面ヘラナデ。	褐	体部～底部はぼ完存（口縁一部欠損）	
19	土師器 手捏	口径 － 器高 <1.9> 底径 (4.4)	体部外面ナデ、内面ヘラナデ。	褐	体部～底部1/4	
20	土師器 手捏	口径 － 器高 <2.1> 底径 (4.0)	体部内外面ナデ。	褐	体部1/4　底部1/3	

番号	器種	法量 cm	調　整	色　調	依存度	備　考
21	土師器 手捏	口径 (4.4) 器高 3.0 底径 −	体部内外面指頭痕。	褐	口縁部一部　体部～底部1/5	
22	土師器 手捏	口径 − 器高 <2.7> 底径 6.0	体部外面ヘラナデ、内面ナデ。	淡褐	体部一部　底部完存	
23	土師器 手捏	口径 6.2 器高 3.0 底径 5.4	体部外面指頭痕、内面ヘラ先痕。	暗橙	ほぼ完形（口縁部一部）	
24	土師器 手捏	口径 − 器高 <2.7> 底径 5.6	体部外面ヘラナデ、内面ナデ。	淡褐	底辺部～底部3/4	
25	土師器 手捏	口径 − 器高 <3.0> 底径 (6.0)	体部外面指頭痕、内面ヘラナデ。	褐	体部～底部1/4	
26	土師器 手捏	口径 − 器高 <2.2> 底径 5.6	体部外面ヘラナデ、内面ナデ。	褐	体部～底部1/4	
27	土師器 手捏	口径 5.4 器高 2.9 底径 4.2	体部外面指頭痕、内面ヘラナデ。	黒褐	口縁～底部ほぼ完存（口縁一部欠損）	
28	土師器 手捏	口径 5.8 器高 3.8 底径 4.8	体部外面指頭痕、内面ヘラナデ。	暗褐	ほぼ完形　（口縁一部欠損）	
29	土師器 手捏	口径 6.6 器高 3.0 底径 5.8	体部外面指頭痕、内面ヘラナデ。	褐	口縁～底部1/2	
30	土師器 手捏	口径 − 器高 <1.9> 底径 7.0	体部内外面ナデ。	暗褐	底辺部～底部1/4	
31	土師器 手捏	口径 (8.2) 器高 3.2 底径 6.0	体部外面指頭痕、内面ヘラナデ。	淡褐	口縁部～底部1/4	
32	土師器 手捏	口径 6.6 器高 <3.0> 底径 (5.0)	体部外面指頭痕、内面ヘラナデ。	暗橙	口縁～底部1/2　底部1/5	
33	土師器 手捏	口径 (7.2) 器高 3.0 底径 (6.0)	体部内外面ヘラナデ。	褐	口縁～底部1/4	
34	土師器 手捏	口径 − 器高 <2.1> 底径 (8.2)	体部外面ヘラナデ、内面ナデ。	暗褐	底辺部1/4　底部2/5	
35	土師器 手捏	口径 6.1 器高 4.4 底径 4.6	体部外面指頭痕、内面ヘラナデ。	褐	口縁部3/4　体部～底部完存	口径6.1×4.6（歪つ）
36	土師器 手捏	口径 6.7 器高 4.8 底径 5.0	体部外面指頭痕、内面ヘラナデ。	褐	口縁～体部3/4　底部完存	
37	土師器 手捏	口径 (7.4) 器高 4.5 底径 (4.0)	体部外面指頭痕、内面ヘラナデ。	暗橙	口縁一部　体部～底部1/4	
38	土師器 手捏	口径 − 器高 <4.9> 底径 −	体部内外面ヘラナデ。	淡褐	体部1/4	
39	土師器 手捏	口径 − 器高 <3.0> 底径 −	体部外面指頭痕、内面ナデ。	淡褐	口縁部～体部片	

番号	種類	法　　量	依　存　度	備　　考
40	土製品 管玉	残存長　3.8cm　外径　1.3cm　重量　5.5g		孔径（0.4cm）
41	石製品 管玉	長さ　4.9cm　外径　1.2cm　重量　12.3g		孔径（0.4cm）
42	石製品 砥石	残存長　4.6cm　幅　4.0cm　厚さ　1.6cm　重量　38.5g		4面使用
43	石 軽石	長さ　4.2cm　幅　3.5cm　厚さ　2.8cm　重量　22.4g		
44	石 不明	残存長　11.5cm　幅　3.4cm　厚さ　2.5cm　重量　148.6g		
45	石製模造品	外径　2.1×2.0cm　厚さ　0.2cm　重量　1.9g		孔2個アリ（0.15cm）
46	石製模造品	外径　2.1×1.7cm　厚さ　0.3cm　重量　2.5g		孔2個アリ（0.2cm）
47	石製模造品	外径　2.6×2.6cm　厚さ　0.3cm　重量　4.3g		孔2個アリ（0.15cm）
48	石製模造品 鏡？	残存長　3.3×1.4cm　厚さ　0.3cm　重量　2.8g		孔1個アリ（0.15cm）

7号墳（主体部）出土遺物観察表

番号	種類	法　　量	依　存　度	備　　考
1	鉄製品 鉄器	残存長　8.2cm　幅　0.7cm　厚さ　0.4cm　重量　7.7g		
2	鉄製品 直刀	残存長　12.8cm　幅　1.2cm　厚さ　0.35cm　重量　23.1g		
3	鉄製品 鉄鏃	残存長　7.9cm　幅　0.9cm　厚さ　0.4cm　重量　8.5g		
4	鉄製品 鉄鏃	残存長　11.2cm　幅　0.7cm　厚さ　0.35cm　重量　13.0g		
5	鉄製品 鉄鏃	（刃）残存長　6.8cm　幅　1.1cm　厚さ　0.35cm　重量　6.4g		
		（柄）残存長　7.5cm　幅　0.5cm　厚さ　0.35cm　重量　6.9g		
6	鉄製品 鉄鏃	残存長　4.2cm　幅　1.3cm　厚さ　0.2cm　重量　5.5g		
7	鉄製品 鉄鏃	（刃）残存長　3.3cm　幅　1.0cm　厚さ　0.3cm　重量　2.7g		
		（柄）残存長　6.1cm　幅　0.4cm　厚さ　0.35cm　重量　6.0g		
8	鉄製品 鉄鏃	残存長　10.5cm　幅　1.2cm　厚さ　0.35cm　重量　8.9g		
9	鉄製品 鉄鏃	（刃）残存長　4.3cm　幅　0.8cm　厚さ　0.35cm　重量　3.7g		
		（柄）残存長　2.5cm　幅　0.7cm　厚さ　0.45cm　重量　1.2g		
10	鉄製品 鉄鏃	残存長　10.6cm　幅　1.2cm（刃）0.55cm（柄）　厚さ　0.3cm（刃）0.4cm（柄）　重量　9.9g		
11	鉄製品 鉄鏃	残存長　6.9cm　幅　0.5cm　厚さ　0.45cm　重量　4.2g		
12	鉄製品 鉄鏃	残存長　8.7cm　幅　1.4cm（刃）0.8cm（柄）　厚さ　0.25cm（刃）0.4cm（柄）　重量　9.0g		
13	鉄製品 鉄鏃	（刃）残存長　7.4cm　幅　1.1cm　厚さ　0.35cm　重量　7.9g		
		（柄）残存長　4.0cm　幅　0.5cm　厚さ　0.45cm　重量　1.5g		
14	鉄製品 鉄鏃	（刃-1）残存長　3.3cm　幅　1.1cm　厚さ　0.4cm　重量　3.9g		
		（刃-2）残存長　4.9cm　幅　0.8cm　厚さ　0.5cm　重量　4.1g		
		（柄）残存長　1.9cm　幅　0.4cm　厚さ　0.3cm　重量　0.3g		

番号	種類	法　　量	依存度	備　考
15	鉄製品 鉄鏃	残存長　7.8cm　幅　1.4cm　厚さ　0.4cm　重量　8.6g		
16	鉄製品 鉄鏃	（刃）残存長　7.0cm　幅　1.7cm　厚さ　0.35cm　重量　7.5g		
		（柄）残存長　10.0cm　幅　0.7cm　厚さ　0.35cm　重量　11.1g		
17	鉄製品 直刀	残存長　25.1cm　幅　1.7cm　厚さ　0.6cm　重量　75.6g		
18	鉄製品 鉄鏃	残存長　3.6cm　幅　0.6cm　厚さ　0.6cm　重量　4.2g		
19	鉄製品 鉄鏃	残存長　4.5cm　幅　0.6cm　厚さ　0.45cm　重量　4.6g		
20	鉄製品 鉄鏃	残存長　6.2cm　幅　0.8cm　厚さ　0.25cm　重量　5.2g		
21	鉄製品 鉄鏃	残存長　6.1cm　幅　0.8cm　厚さ　0.45cm　重量　6.9g		
22	鉄製品 鉄鏃	残存長　5.3cm　幅　0.9cm　厚さ　0.5cm　重量　5.0g		
23	鉄製品 鉄鏃	残存長　7.7cm　幅　0.8cm　厚さ　0.5cm　重量　7.8g		
24	鉄製品 鉄鏃	残存長　8.8cm　幅　1.4cm　厚さ　0.4cm　重量　8.9g		
25	鉄製品 鉄鏃	残存長　10.0cm　幅　1.3cm　厚さ　0.45cm　重量　11.6g		
26	鉄製品 鉄鏃	残存長　11.0cm　幅　1.4cm　厚さ　0.3cm　重量　9.8g		
27	鉄製品 鉄鏃	残存長　10.3cm　幅　0.9cm　厚さ　0.35cm　重量　10.8g		
28	鉄製品 鉄鏃	残存長　9.6cm　幅　0.8cm　厚さ　0.35cm　重量　10.7g		
29	鉄製品 鉄鏃	残存長　13.9cm　幅　0.7cm　厚さ　0.4cm　重量　13.3g		
30	鉄製品 鉄鏃	残存長　7.4cm　幅　0.7cm（刃）0.8cm（柄）　厚さ　0.2cm（刃）0.4cm（柄）　重量　6.2g		
31	鉄製品 鉄鏃	残存長　11.0cm　幅　0.9cm（刃）0.6cm（柄）　厚さ　0.25cm（刃）0.4cm（柄）　重量　10.0g		
32	鉄製品 鉄鏃	残存長　12.0cm　幅　0.7cm（刃）0.5cm（柄）　厚さ　0.45cm（刃）0.4cm（柄）　重量　13.9g		
33	鉄製品 鉄鏃	（刃）残存長　3.7cm　幅　1.0cm　厚さ　0.35cm　重量　3.4g		
		（柄）残存長　10.2cm　幅　0.8cm　厚さ　0.45cm　重量　8.5g		

8号墳

調査区南西部付近に位置する。遺構の全体の約2分の1程度が調査区外にかかる。墳丘が残存している。規模は残存する墳丘が東西約11.3m，南北約14m，高さ約4mを測る。外周からは東西約50m，南北約32m（現状）を測る。周溝は上辺で4.55m～4.30m，底辺で3.95m～1.55m，深さ0.3m，内周で上辺で3.30m～1.60m，底辺で0.70m～2.20m，深さ0.6m，外周と内周の間は4.02m～2.50mを測る。墳形は確認調査時の状況では後世の削平により方形と思われたが，本調査による周溝の検出により二重に周溝を巡らす円墳と判明した（隣接する未調査区内に前方部の周溝が存在する可能性もあるが，ここでは仮に円墳としておく）。残存する墳丘は，裾部から周溝までの距離が北側で約7m，西側と東側で各約9mとなっており，後世の大規模な削平を受けている。また南側は急崖となっていることからも削平の激しさが伺われる。

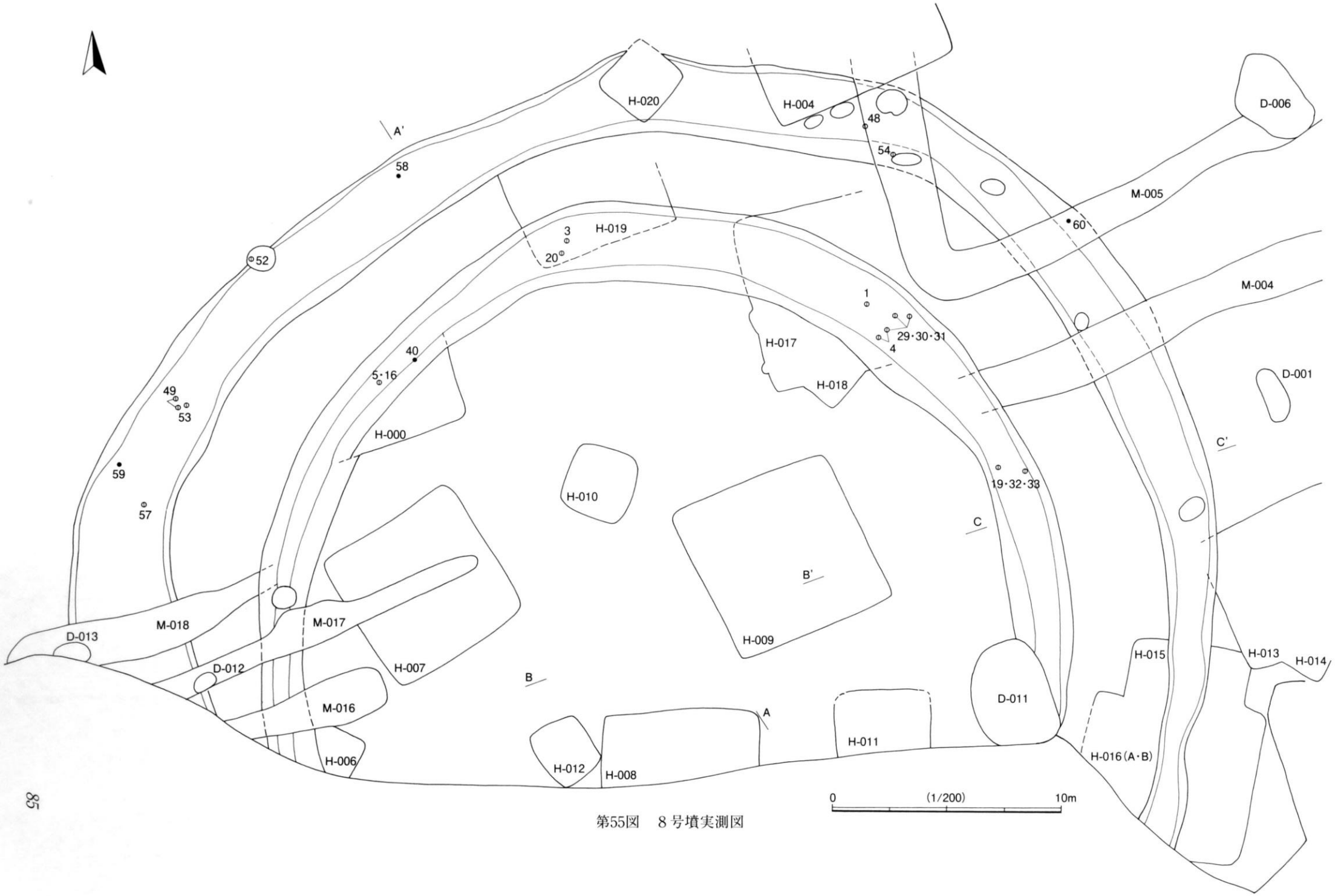
埋葬施設は検出されなかった。調査時点において少なくとも墳丘，あるいは墳丘と周溝の間には残存していなかった。

墳丘の築成は削平により盛土過程のすべてをあきらかにはできないが，断面図の観察により可能な限りの復元を試みる。まず旧表土直上に周溝掘削によると思われるロームブロック主体層を水平に積んでおり，これが盛土の基盤層であるとみられる。次に墳丘企画の中心部に黒色土主体層を小丘状に盛り上げた後，この小丘に向かって，これも周溝の掘削によると思われるロームブロック主体層による土手状の盛土を築いている。さらにこの土手状盛土を足がかりに小丘にむけてローム主体層と暗褐色土を互層に積み上げて，小丘が覆い隠された時点で盛土作業は一旦区切りを迎える。ここから再びローム主体層（2度目の盛土基盤層？）を盛った後，墳丘中央部に黒色土による小丘？を造り，これを覆っていくように再び盛土して墳丘を完成させている。この時点では中央に向けてやや窪む略水平面が築かれており，さらにこの窪みを埋めながら墳頂部を盛り上げ墳丘を完成させている。以上の復元案によれば，大きく分けて２段階の墳丘築造工程が想定できる。第1段階は，一般的な墳丘高2m程度の墳丘を築くのと同じ工程であり，第２工程は第１工程と同じ工程を繰り返している。結局，3mを超える墳丘の高さは，たとえるなら古墳を縦に２つ重ねることによって作り出されている。

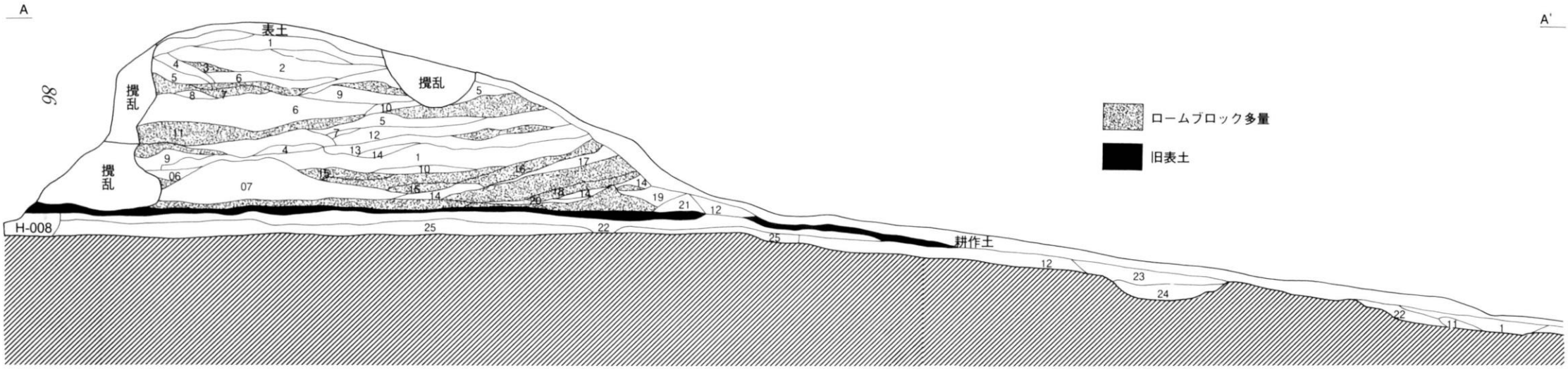
出土遺物（第57図～第65図）は埴輪，土師器，石製品，鉄製品等である。

埴輪は内周・外周とも出土している。ほとんどが覆土上層からの出土で，№71をのぞいて胴中位から下端部の破片がすべてであったといっても過言ではない。出土状況から推測すると，埴輪は比較的最近まで墳丘裾部や内周と外周の間に原位置をとどめていたと考えられるが，後世の削平によりほとんどが土砂とともに消失し，周溝内に転落した個体の下半部のみがようやく残存していたと考えられる。種類は円筒埴輪がほとんどであると考えられるが，朝顔形埴（№1）を思わせる個体もみられる。また形象埴輪片も多くみられ，№24～№33（内周），№52・55・56（外周）は形象埴輪の一部と思われるが，全体を復元できる個体は存在せず，器種は不明といわざるをえない。

土器はほとんどが墳丘盛土内からの出土である。土師器は甕，鉢，壺，高坏，小型壺，小型器台，須恵器は甕片がみられる。このほかに石製品では管玉片，石製模造品（有孔円盤）が出土し，軽石もみられる。出土層位は墳丘築造の第一工程の盛土内に概ね収まる。このため７号墳のケースと同様に地鎮的行為の可能性も想定しなければならないが，本墳の場合は周溝が多くの竪穴式住居を破壊しており，その際，遺物の混入された覆土の可能性も考慮しなければならない。

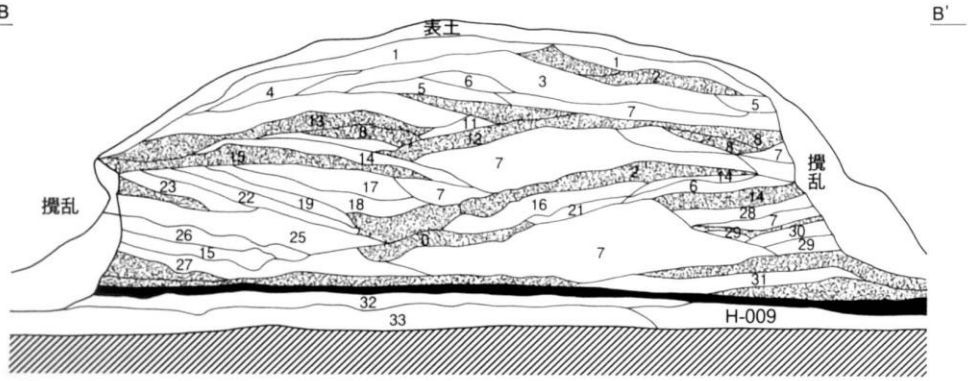

H-020
H-004
48
54
D-006
A'
58
M-005
60
3
H-019
20
52
1
M-004
29・30・31
4
H-017
40
5・16
H-018
D-001
49
53
H-000
C'
59
H-010
19・32・33
57
C
B'
M-018
M-017
D-013
H-009
H-015
H-013
H-014
D-012
H-007
B
D-011
M-016
A
H-011
H-016(A・B)
H-006
H-012
H-008
0
(1/200)
10m

第55図　8号墳実測図



8号墳　土層説明（A～A'）

1．褐色　ロームブロック少量
2．褐色　ローム粒多量、ロームブロック少量
3．暗褐色　ロームブロック多量
4．暗褐色　ロームブロック少量
5．茶褐色　ロームブロック少量
6．黒色　ローム粒少量
7．黒色　ロームブロック多量
8．黒褐色　ロームブロック霜降り状
9．黒色　ロームブロック少量
10．黒褐色　ロームブロック少量
11．褐色　ロームブロック多量
12．暗褐色　ローム粒少量
13．暗褐色　ローム粒多量、ロームブロック少量
14．黒褐色　ローム粒少量
15．黒褐色　ロームブロック多量
16．明褐色　ローム粒多量
17．暗褐色　ロームブロック適当量
18．茶褐色　ロームブロック多量
19．明褐色　ロームブロック少量
20．褐色　ローム粒少量
21．黒褐色　焼土粒多量
22．茶褐色　ローム粒少量
23．黒色　ローム粒多量
24．黒褐色　ローム粒多量
25．暗褐色



8号墳　土層説明（B～B'）

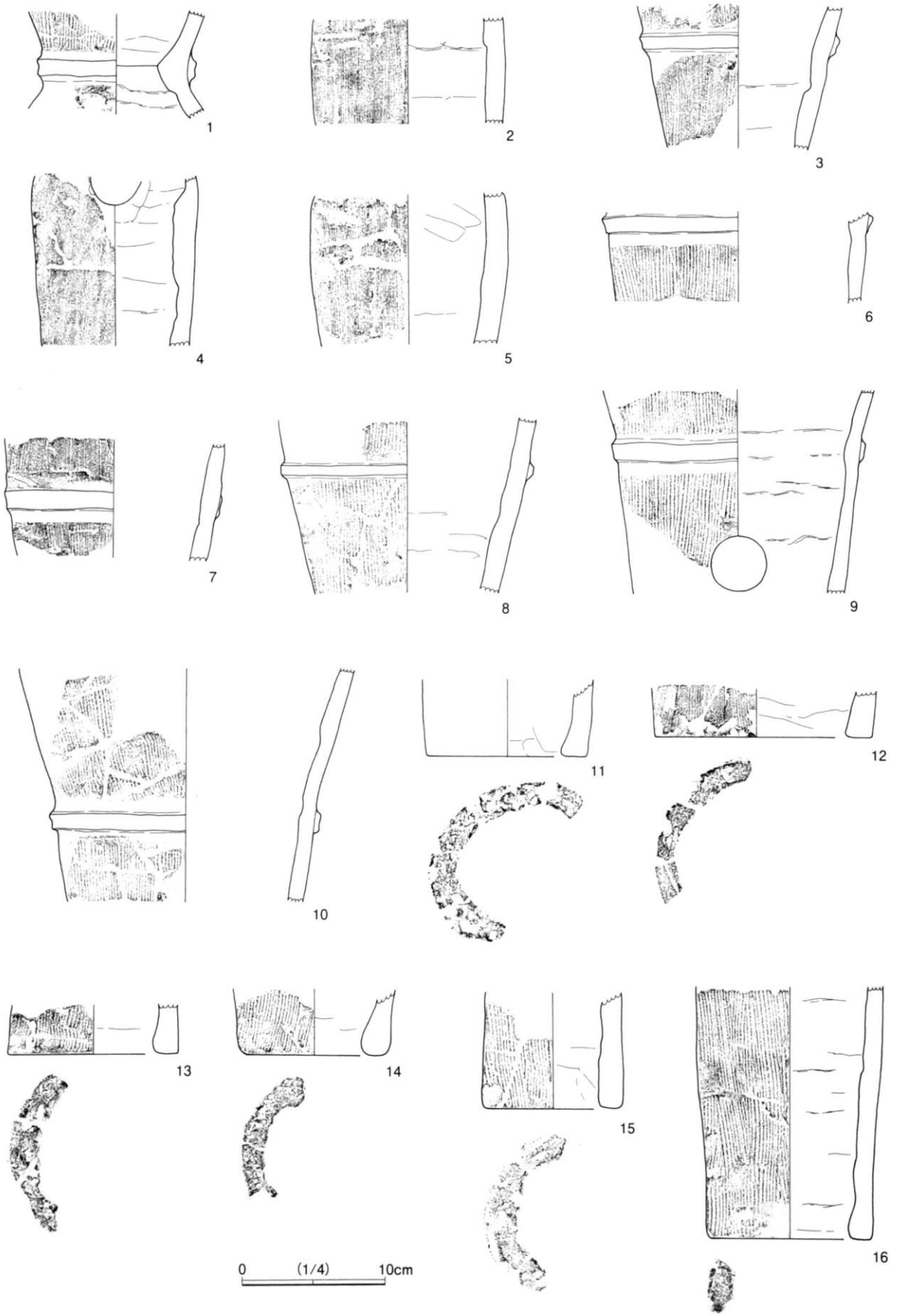
1．褐色　ロームブロック少量
2．褐色　ロームブロック多量
3．褐色　ローム粒多量、ロームブロック少量
4．褐色　ローム粒多量
5．暗褐色　ローム粒少量
6．黒褐色　ロームブロック少量
7．黒色　ローム粒少量
8．黒色　ロームブロック多量
9．明褐色　ロームブロック主体
10．明褐色・茶褐色　ロームブロック主体・多量
11．明褐色　ロームブロック少量
12．黒色　ローム粒・ロームブロック少量
13．明褐色・暗褐色　ロームブロック主体・ロームブロック多量
14．黒褐色　ロームブロック多量
15．暗褐色　ロームブロック多量
16．黒褐色　ロームブロック適当量
17．明褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量
18．暗褐色　ロームブロック霜降り状
19．黒色・褐色　ロームブロック少量
20．黒色　ロームブロック主体
21．茶褐色　ローム粒多量、ロームブロック少量
22．暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量
23．暗褐色　焼土ブロック少量
24．暗褐色　ブロック大型
25．褐色　ロームブロック多量、焼土ブロック少量、炭化粒子少量
26．茶褐色　ロームブロック少量
27．暗褐色　ロームブロック少量
28．黒褐色　ロームブロック霜降り状
29．黒褐色　ローム粒少量
30．黒色　ロームブロック少量
31．黒色　ロームブロック霜降り状
32．暗褐色
33．黒褐色

8号墳　土層説明（C～C'）

1．黒色　ローム粒少量
2．黒褐色　ローム粒少量
3．暗褐色　ローム粒少量

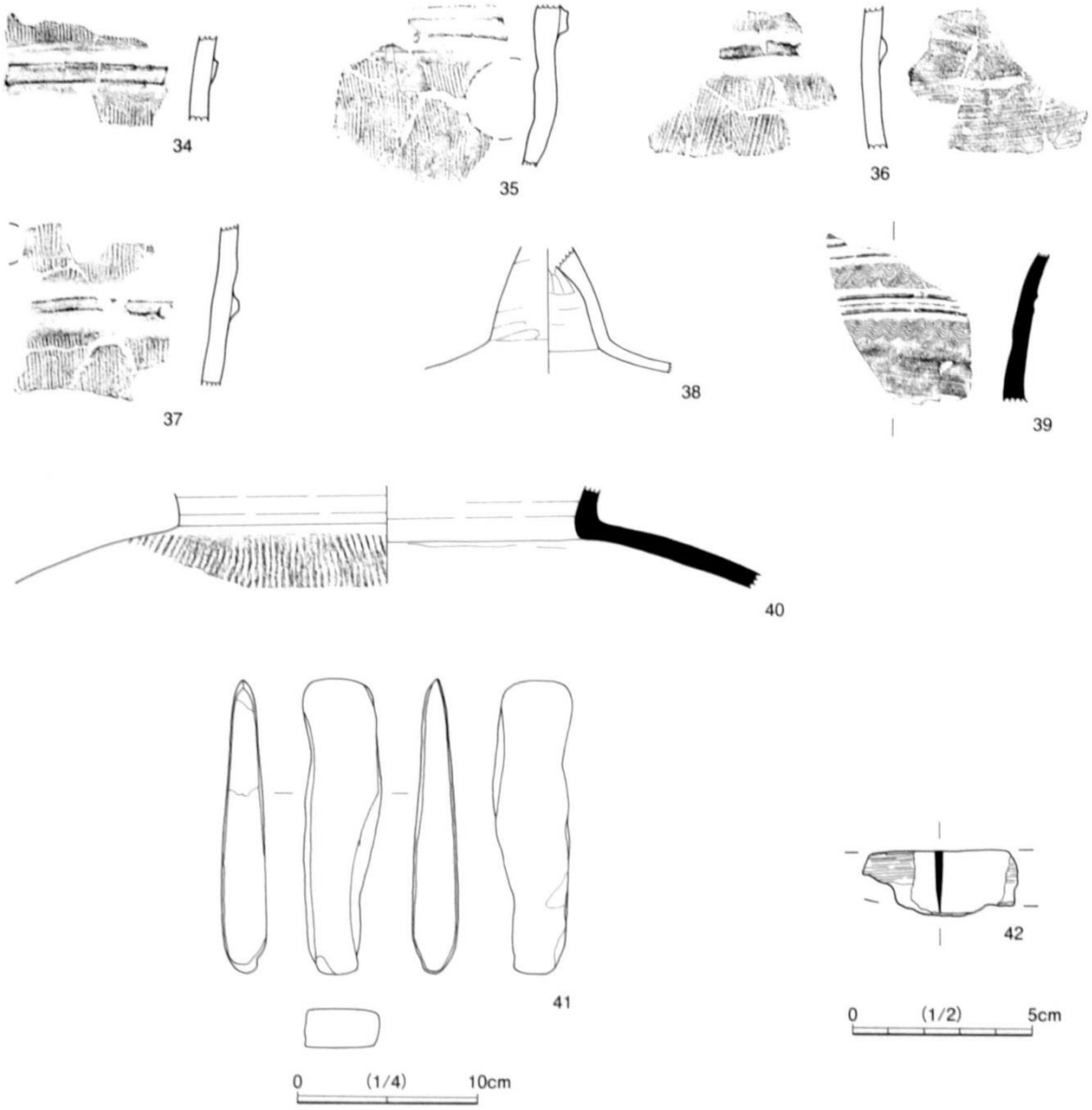
第56図　8号墳墳丘断面図

0　(1/100)　5m



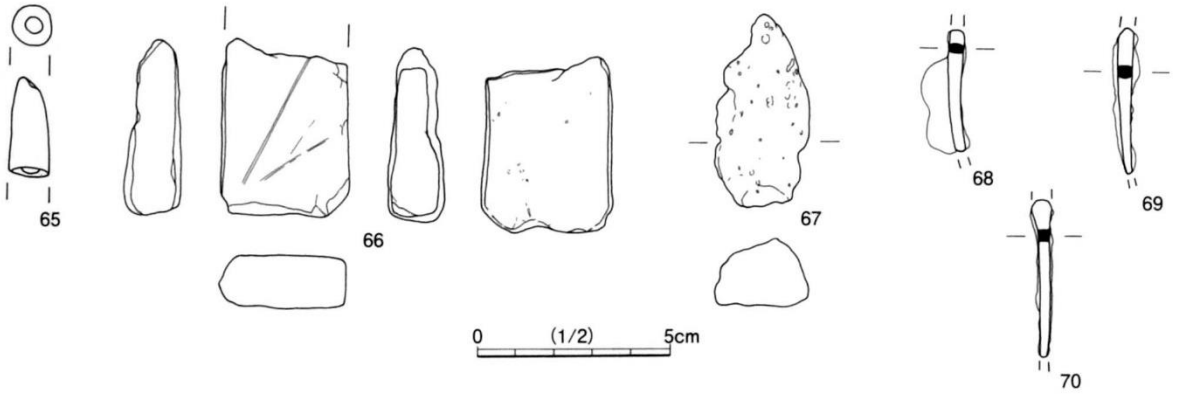
第57図　8号墳内周溝出土遺物（1）

第58図　８号墳内周溝出土遺物（２）

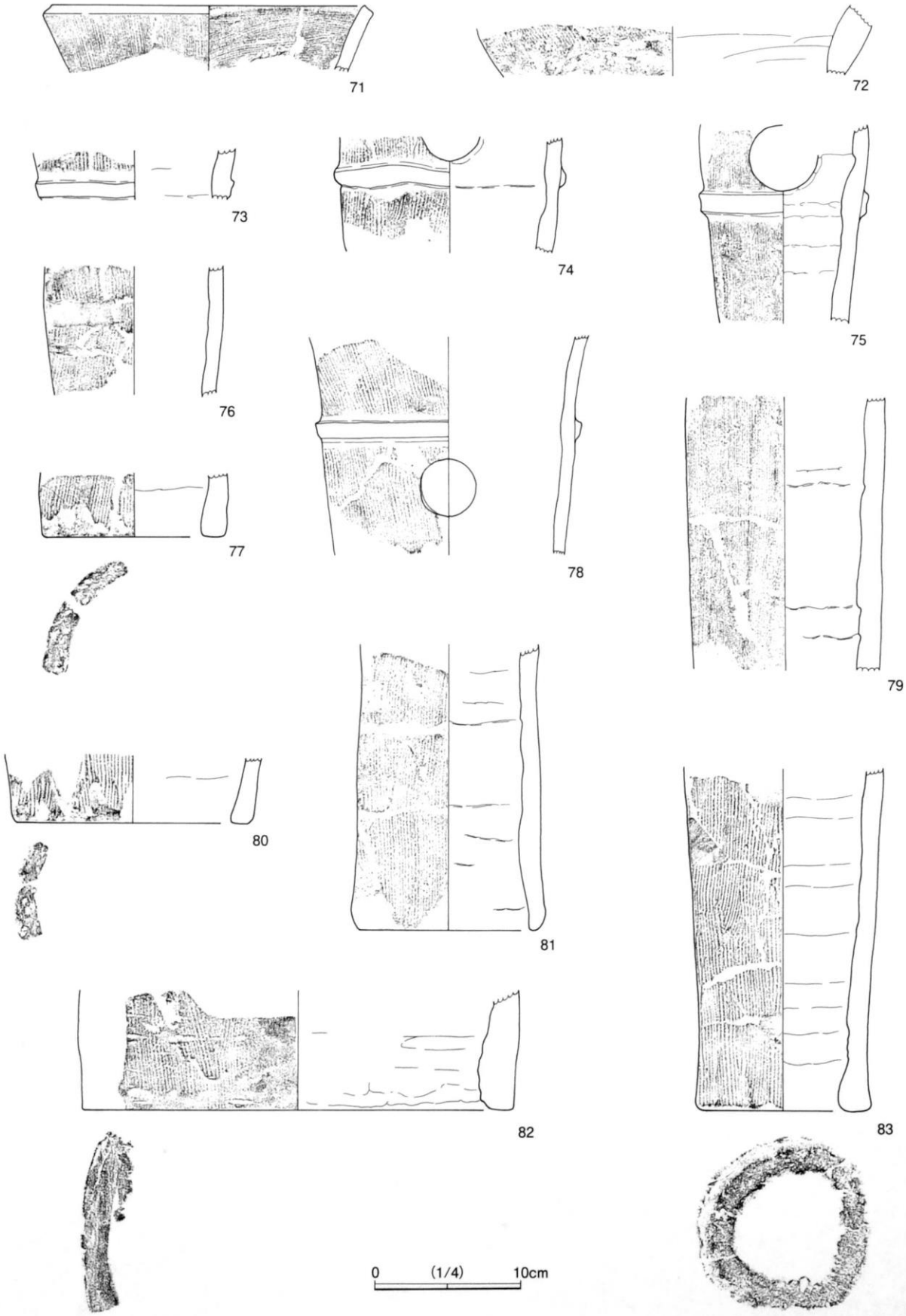


第59図　8号墳内周溝出土遺物（3）

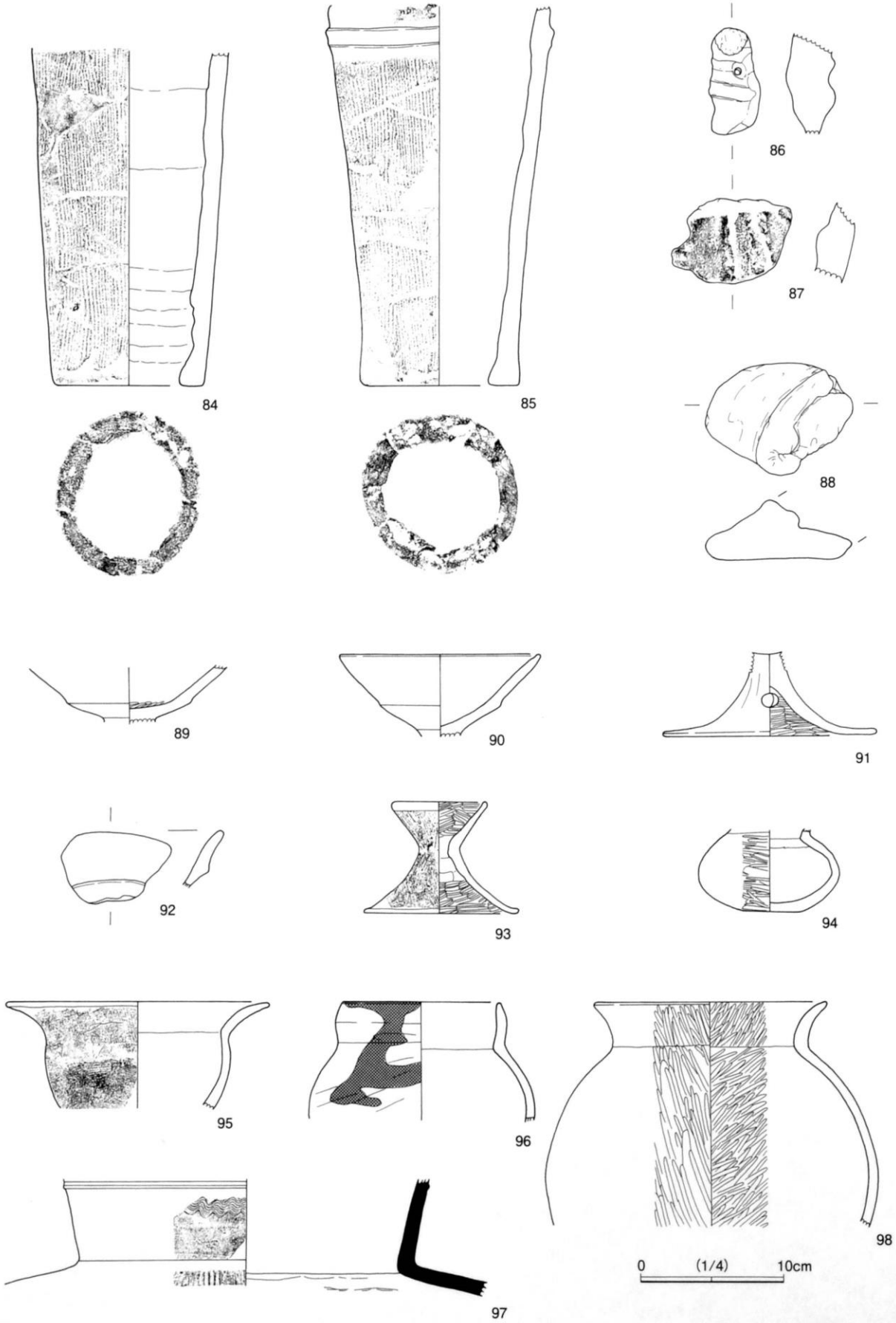
第60図　８号墳外周溝出土遺物（１）



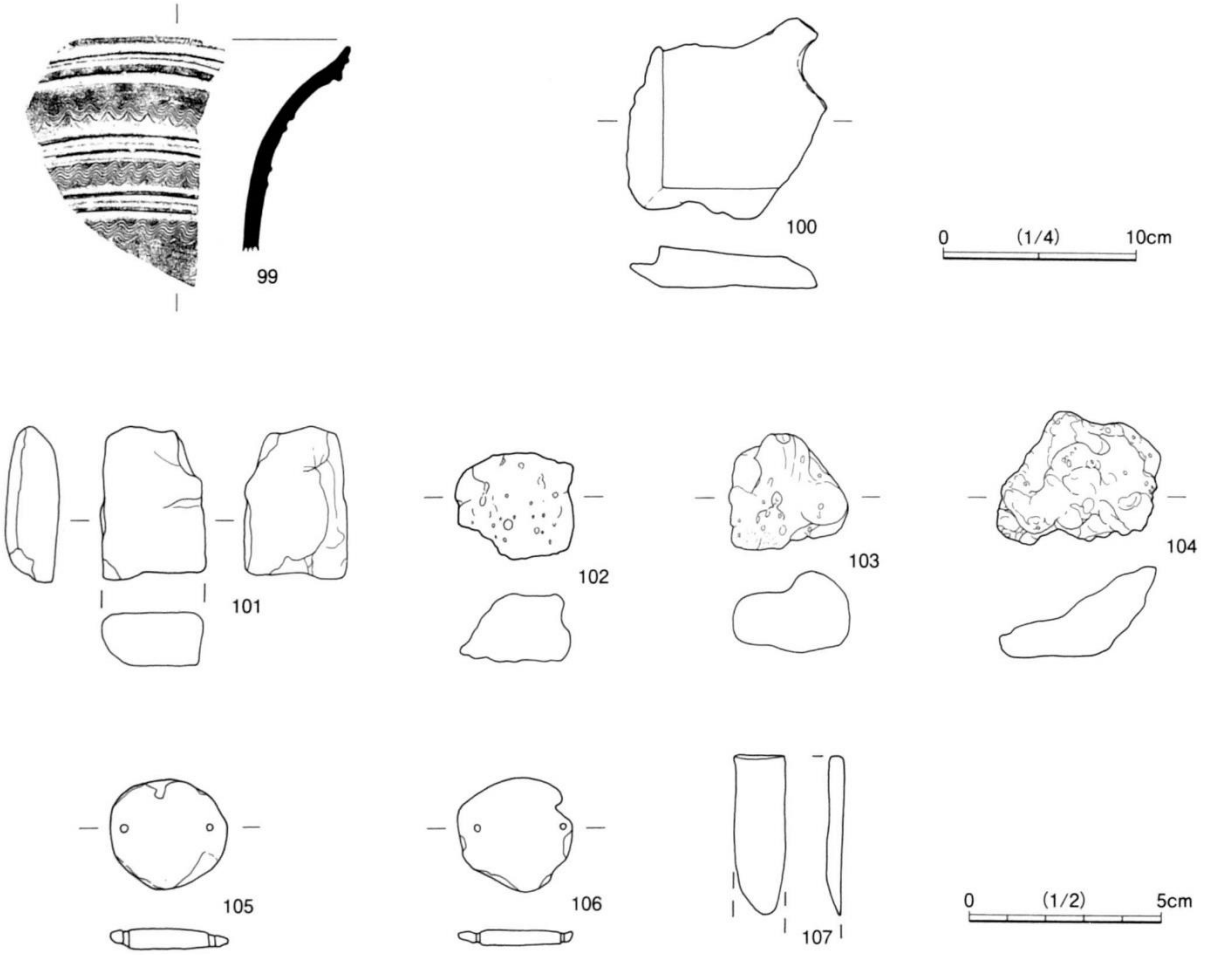
第61図　８号墳外周溝出土遺物（２）



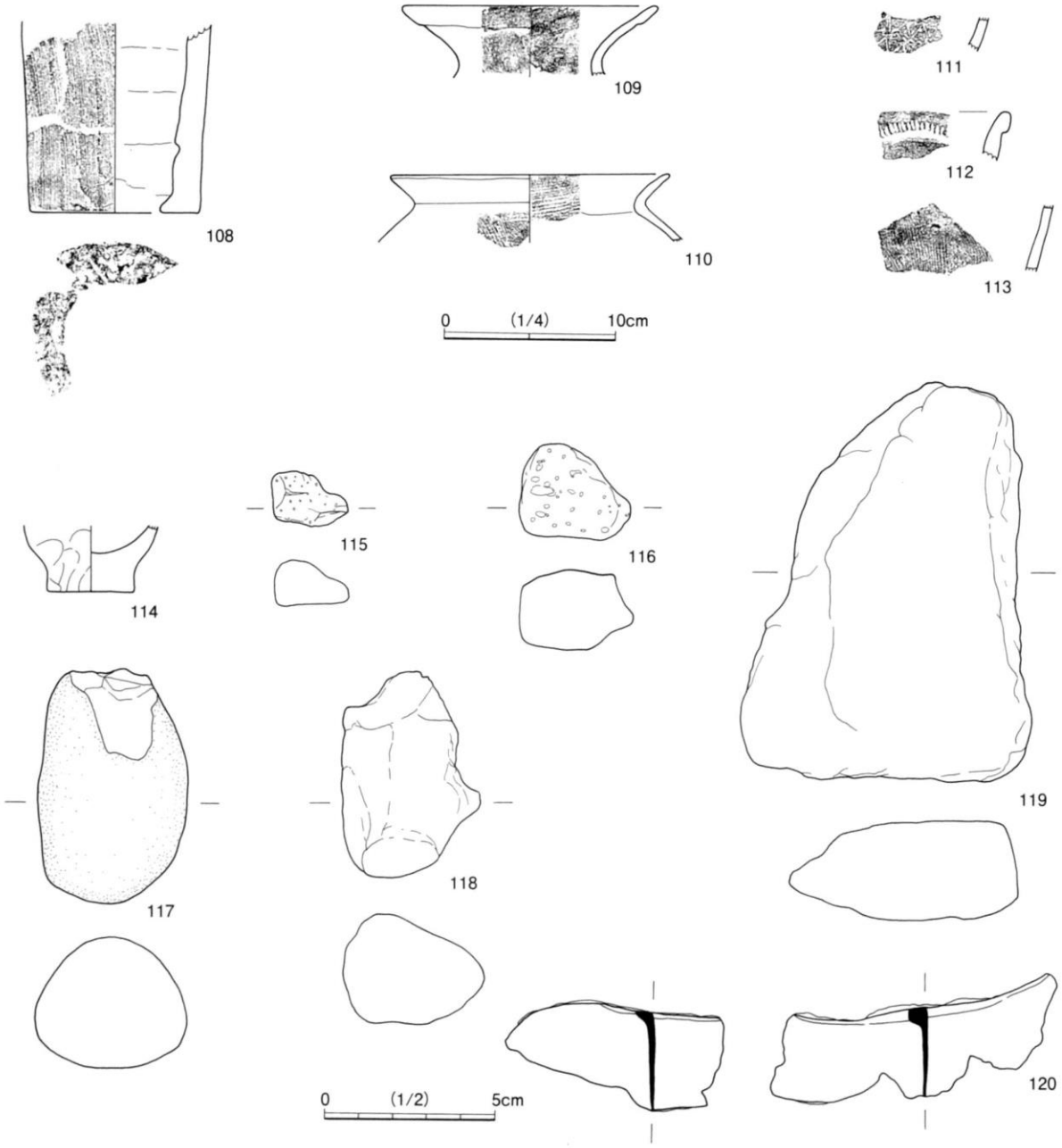
第62図　8号墳盛土出土遺物（1）



第63図　8号墳盛土出土遺物（2）



第64図　8号墳盛土出土遺物（3）



第65図　８号墳その他出土遺物

8号墳内周溝出土遺物観察表

番号	器種	法量 cm	調　整	色　調	依　存　度	備　考
1	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <7.3> 底径 －	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	胴部	
2	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <7.5> 底径 －	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	胴部	
3	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <10.6> 底径 －	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	灰褐	胴部	須恵質
4	埴輪 円筒埴輪？	口径 － 器高 <12.0> 底径 －	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	底辺部	
5	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <10.5> 底径 －	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	灰褐	胴部	須恵質
6	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <6.5> 底径 －	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	胴部	
7	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <8.5> 底径 －	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	胴部	
8	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <12.5> 底径 －	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	胴部	
9	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <14.5> 底径 －	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	胴部	
10	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <16.0> 底径 －	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	胴部	
11	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <5.5> 底径 (11.2)	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	底辺部～底部	
12	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <3.5> 底径 (15.2)	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	底辺部～底部	
13	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <3.5> 底径 (12.0)	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	底辺部～底部	
14	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <4.7> 底径 (10.6)	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	底辺部～底部	
15	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <8.0> 底径 (9.7)	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	底辺部～底部	
16	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <17.5> 底径 (11.6)	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	胴部～底部	
17	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <3.7> 底径 (19.1)	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	底部	
18	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <6.5> 底径 23.6	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	底部	
19	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <14.0> 底径 (16.0)	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	底部	
20	埴輪	口径 － 器高 <5.3> 底径 －	――――	灰明褐	埴輪片	須恵質

番号	器種	法量 cm	調　整	色　調	依存度	備　考
21	埴輪	口径 － 器高 <5.3> 底径 －	――――	明褐	埴輪片	
22	埴輪	口径 － 器高 <6.0> 底径 －	――――	明褐	埴輪片	
23	埴輪	口径 － 器高 2.5 底径 －	――――	明褐	埴輪片	
24	埴輪 形象埴輪	口径 － 器高 <5.9> 底径 －	――――	明褐	形象埴輪片	
25	埴輪 形象埴輪	口径 － 器高 <7.8> 底径 －	――――	明褐	形象埴輪片	
26	埴輪 形象埴輪	口径 － 器高 <7.2> 底径 －	――――	灰明褐	口縁部片	須恵質
27	埴輪 形象埴輪	口径 － 器高 <7.8> 底径 －	――――	明褐	底部片	
28	埴輪 形象埴輪	口径 － 器高 <4.1> 底径 －	――――	明褐	形象埴輪片	
29	埴輪 形象埴輪	口径 － 器高 <5.4> 底径 －	外面飾り付き、内面ナデ。	明褐	胴部片	
30	埴輪 形象埴輪	口径 － 器高 <10.2> 底径 －	外面飾り付き、内面ナデ。	明褐	胴部片	
31	埴輪 形象埴輪	口径 － 器高 <9.0> 底径 －	外面飾り付き、内面ナデ。	明褐	胴部片	
32	埴輪 形象埴輪	口径 － 器高 <7.0> 底径 －	外面線刻アリ、内面ナデ。	明褐	胴部片	
33	埴輪 形象埴輪	口径 － 器高 <11.5> 底径 －	外面線刻アリ、内面ナデ。	明褐	胴部片	
34	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <6.4> 底径 －	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	胴部片	
35	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <10.0> 底径 －	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	胴部片	
36	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <8.2> 底径 －	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	胴部片	
37	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <10.0> 底径 －	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	胴部片	
38	土師器 高坏	口径 － 器高 <7.0> 底径 －	脚部外面ヨコナデ、内面ヘラナデ。	赤褐	脚部～裾部1/4	
39	須恵器 甕	口径 － 器高 <10.0> 底径 －	口辺部外面波状門、内面ナデ。	黒褐	口縁部片	
40	須恵器 甕	口径 － 器高 <5.5> 底径 －	口縁部ロクロ。口辺部外面タタキ目、内面ナデ。	灰	口辺部片	

番号	種類	法　　量	依　存　度	備　　考
41	石製品 砥石	長さ　16.7cm　幅　4.3cm　厚さ　0.2cm　重量　244.3g		4面使用
42	鉄製品 刀子	残存長　4.3cm　幅　1.8cm　厚さ　0.2cm　重量　7.1g		

8号墳外周溝出土遺物観察表

番号	器種	法量　cm	調　　整	色　調	依　存　度	備　　考
43	埴輪 円筒埴輪	口径　－ 器高　<8.1> 底径　－	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	胴部	
44	埴輪 円筒埴輪	口径　－ 器高　<5.5> 底径　－	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	胴部	
45	埴輪 円筒埴輪	口径　－ 器高　<7.5> 底径　(9.3)	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	底辺部～底部	
46	埴輪 円筒埴輪	口径　－ 器高　<4.0> 底径　(11.3)	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	底辺部～底部	
47	埴輪 円筒埴輪	口径　－ 器高　<5.0> 底径　(10.8)	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	底辺部～底部	
48	埴輪 円筒埴輪	口径　－ 器高　<4.0> 底径　(15.8)	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	底辺部～底部1/6	
49	埴輪 円筒埴輪	口径　－ 器高　<5.5> 底径　(11.0)	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	底辺部～底部	
50	埴輪 円筒埴輪	口径　－ 器高　<5.6> 底径　12.0	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	胴部	
51	埴輪	口径　－ 器高　<5.2> 底径　－	――――	明褐		
52	埴輪 形象埴輪	口径　－ 器高　<10.1> 底径　－	――――	明褐	埴輪片	
53	埴輪 円筒埴輪	口径　－ 器高　<8.0> 底径　－	胴部外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	胴部片	
54	埴輪	口径　－ 器高　<10.2> 底径　－	――――	明褐	胴部片	
55	埴輪 形象埴輪	口径　－ 器高　<1.2> 底径　－	――――	明褐	――――	
56	埴輪 形象埴輪	口径　－ 器高　<1.7> 底径　－	――――	明褐	――――	
57	埴輪	口径　－ 器高　<2.3> 底径　－	――――	明褐	――――	
58	土師器 高坏	口径　－ 器高　<4.0> 底径　－	脚部外面ヘラナデ、内面ヘラ先痕。	明褐	脚部上部	
59	土師器 高坏	口径　－ 器高　<5.0> 底径　－	脚部外面ヘラナデ、内面ヘラ先痕。	明褐	脚部上部	
60	土師器 高坏	口径　－ 器高　<5.0> 底径　－	脚部外面ヨコナデ、内面ヘラ先痕。	赤褐	脚部上部	

番号	器種	法量 cm	調　整	色　調	依　存　度	備　考
61	土師器 高坏	口径 － 器高 <5.4> 底径 －	脚部外面ヘラナデ、内面ヘラ先痕。	明褐	脚部	
62	土師器 手捏	口径 － 器高 <1.5> 底径 3.0	体部内外面指頭痕。	明褐	底辺部～底部4/5	
63	土師器 手捏	口径 5.8 器高 2.8 底径 3.8	体部内外面指頭痕。	明褐	体部1/2　底部2/3	
64	土師器 手捏	口径 (5.7) 器高 2.8 底径 (4.0)	体部内外面指頭痕。	明褐	口縁～底部1/3	

番号	種類	法　　量	依　存　度	備　考
65	土製品 土錘	残存長 2.6cm 外径 1.1cm 厚さ 0.2cm 重量 2.5g		孔径0.4cm
66	石製品 砥石	残存長 4.7cm 幅 3.4cm 厚さ 1.3cm 重量 32.1g		5面使用
67	石 軽石	残存長 5.1cm 幅 2.5cm 厚さ 1.8cm 重量 6.0g		
68	鉄製品 釘	残存長 3.2cm 幅 0.4cm 厚さ 0.3cm 重量 2.8g		
69	鉄製品 釘	残存長 3.8cm 幅 0.4cm 厚さ 0.3cm 重量 2.6g		
70	鉄製品 釘	残存長 4.2cm 幅 0.3cm 厚さ 0.3cm 重量 2.3g		

8号墳盛土出土遺物観察表

番号	器種	法量 cm	調　整	色　調	依　存　度	備　考
71	埴輪	口径 (22.8) 器高 <4.7> 底径 －	外面タテハケ、内面ハケ目。	明褐	口縁部1/4	
72	埴輪	口径 － 器高 <3.5> 底径 －	外面タテハケ、内面ナデ。	明褐	胴部片	
73	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <3.6> 底径 －	外面タテハケ、内面ナデ。	明褐	胴部	
74	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <8.2> 底径 －	外面タテハケ、内面ナデ。	明褐	胴部	
75	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <13.8> 底径 －	外面タテハケ、内面ナデ。	明褐	胴部	
76	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <9.1> 底径 －	外面タテハケ、内面ナデ。	明褐	胴部	
77	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <4.5> 底径 (12.8)	外面タテハケ、内面ナデ。	明褐	底辺部～底部1/4	
78	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <15.4> 底径 －	外面タテハケ、内面ナデ。	明褐	胴部	
79	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <19.1> 底径 －	外面タテハケ、内面ナデ。	灰褐	胴部	須恵質
80	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <4.5> 底径 (16.8)	外面タテハケ、内面ナデ。	明褐	底辺部～底部1/8	

番号	器種	法量 cm	調　整	色　調	依　存　度	備　考
81	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <19.9> 底径 －	外面タテハケ、内面ナデ。	明褐	胴部～底部	
82	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <8.3> 底径 (30.0)	外面タテハケ、内面ナデ。	明褐	底部	
83	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <24.0> 底径 －	外面タテハケ、内面ナデ。	明褐	胴部～底部	底径11.3×12.3cm（歪つ）
84	埴輪 円筒埴輪	口径 － 器高 <23.8> 底径 －	外面タテハケ、内面ナデ。	明褐	胴部～底部ほぼ完存	底径10.0×12.3cm（歪つ）
85	埴輪 円筒埴輪	口径 14.8 器高 <27.2> 底径 11.2	外面タテハケ、内面ナデ。	淡明褐	胴部～底部	
86	埴輪 形象埴輪	口径 － 器高 <7.7> 底径 －	――――	明褐	――――	
87	埴輪 形象埴輪	口径 － 器高 <6.6> 底径 －	――――	明褐	――――	
88	埴輪 形象埴輪	口径 － 器高 <8.1> 底径 －	――――	明褐	――――	
89	土師器 高坏	口径 － 器高 <4.0> 底径 －	坏部内外面ナデ。底部ミガキ。	明褐	坏部1/3	
90	土師器 高坏	口径 (14.3) 器高 <5.7> 底径 －	坏部内外面ナデ。	褐	坏部1/3	
91	土師器 器台	口径 － 器高 <5.8> 底径 (15.0)	脚部外面ナデ、内面ハケ目。	明褐	脚部～裾部	２個穴アリ
92	土師器 高坏	口径 － 器高 <4.9> 底径 －	内外面ナデ。	黄褐	坏部の口縁片	
93	土師器 器台	口径 (6.8) 器高 7.9 底径 11.0	内外面ハケ目。	黄褐	坏部1/2　脚部1/3	
94	土師器 坩	口径 － 器高 <5.8> 底径 3.8	胴部外面ヘラケズリ後ミガキ、内面ナデ。	赤褐	口縁部欠損　胴部～底部完存	
95	土師器 鉢	口径 (18.6) 器高 <7.5> 底径 －	外面ハケ目、内面ナデ。	褐　淡明褐	口縁～胴上部1/6	
96	土師器 甕	口径 11.2 器高 <8.4> 底径 －	外面ヨコナデ、内面ナデ。	褐	口縁～胴上部3/4	外面タール状付着物アリ
97	須恵器 甕	口径 － 器高 <7.6> 底径 －	外面タタキ目、内面ナデ。	灰褐	口縁部	口縁部外面波状文アリ
98	土師器 甕	口径 (16.4) 器高 <15.8> 底径 －	口縁部外面ヨコナデ後ミガキ。胴部外面ヘラケズリ後ミガキ、内面ミガキ。	褐　明褐	口縁部1/3　胴上部1/4	
99	須恵器 甕	口径 － 器高 <13.4> 底径 －	外面波状文、内面ナデ。	黒褐	口縁部片	

番号	種類	法　　量	依　存　度	備　　考
100	陶器 不明品	残存長　10.6cm　幅　9.9cm　厚さ　2.1cm　重量　235.5g		
101	石製品 砥石	残存長　4.1cm　幅　2.7cm　厚さ　1.4cm　重量　21.3g		3面使用
102	石 軽石	長さ　2.9cm　幅　3.0cm　厚さ　1.8cm　重量　5.5g		
103	石 軽石	長さ　3.1cm　幅　3.0cm　厚さ　2.1cm　重量　2.7g		
104	鉄製品 わん形滓	長さ　3.5cm　幅　4.4cm　厚さ　0.5cm　重量　11.8g		
105	石製模造品	長さ　2.9cm　幅　3.1cm　厚さ　0.5cm　重量　7.5g		孔2個アリ（0.1cm）
106	石製模造品	長さ　3.1cm　幅　3.0cm　厚さ　0.4cm　重量　6.0g		孔2個アリ（0.1cm）
107	石製品 管玉	残存長　4.2cm　幅　1.4cm　残存厚　0.4cm　重量　3.9g		

8号墳その他出土遺物観察表

番号	器種	法量　cm	調　　整	色　調	依　存　度	備　　考
108	埴輪 円筒埴輪	口径　－ 器高　<11.2> 底径　10.0	外面ハケ目（タテハケ）、内面ナデ。	明褐	底辺部～底部	
109	土師器 壺	口径　(15.2) 器高　<4.2> 底径　－	口縁部外面ヨコハケ。口辺部外面タテハケ、内面粗いハケ。	明褐	口縁部1/2	
110	土師器 甕	口径　(16.6) 器高　<4.0> 底径　－	口縁部外面ヨコハケ、内面タテハケ。	褐	口縁部片	
111	土師器 甕片	口径　－ 器高　－ 底径　－	――――	明褐	――――	
112	土師器 壺片	口径　－ 器高　－ 底径　－	――――	明褐	口縁部片	
113	土師器 甕片	口径　－ 器高　－ 底径　－	――――	褐	胴部片	
114	土師器 ミニチュア	口径　－ 器高　<2.0> 底径　2.6	外面指頭痕、内面ナデ。	淡褐	口縁部欠損	

番号	種類	法　　量	依　存　度	備　　考
115	石 軽石	長さ　1.6cm　幅　2.3cm　厚さ　1.4cm　重量　1.5g		
116	石 軽石	長さ　2.9cm　幅　3.3cm　厚さ　2.3cm　重量　5.0g		
117	石	残存長　7.0cm　幅　4.5cm　厚さ　3.9cm　重量　169.4g		
118	石 石英	長さ　6.1cm　幅　4.2cm　厚さ　3.3cm　重量　81.8g		
119	石	残存長　12.0cm　幅　6.8cm　厚さ　3.0cm　重量　421.7g		
120	鉄製品 不明品	残存長　6.4cm　幅　2.9cm　厚さ　0.1cm　重量　16.1g		
		残存長　8.5cm　幅　2.3cm　厚さ　0.1cm　重量　23.4g		

Ｋ－０１１号

調査区南東部付近に位置する。調査区域の表土はぎ終了後，遺構確認面であるローム上面に周溝のみが検出された。したがって墳丘は後世の削平により消失したものと考えられる。

墳形は周溝の形態から円墳であったものと思われる。規模は墳丘部分で東西18m，周溝を含めて25m，南北18.5m，周溝を含めて23.8mを測る。周溝は上辺で6m～2.30m，底辺で4.40m～1.00m，深さ0.7m～0.3mを測る。

周溝は墳丘側では上場・下場ともほぼ円形に整形されているのに比して，外側は不整形であり特に南東部では大きく外に張り出す部分もみられる。一見すると造出部の突出に伴うようにも見えるが，墳丘側には痕跡はみられない。断面は緩やかなＵ字形である。

主体的な埋葬施設は墳丘部に存在したとみられ，残存していなかったものの，周溝内には従属的な埋葬施設が６基検出された。これらの土坑はＫＤ－002に鉄鏃が副葬されていた程度で，他の土坑からは遺物の出土はみられなかった。しかし土層を観察すると，すべての土坑が周溝の主な堆積土層である黒色土を主体とし，なおかつ類似した形態と規模であることから，ＫＤ－002と同様に古墳に伴う埋葬施設と判断した。ＫＤ－００１は東側の周溝の外縁に存在する。形状は隅丸長方形でやや不整形である。長軸1.8m×短軸0.8m，深さ0.6mを測る。遺物は出土しなかった。ＫＤ－002は南側の周溝の内縁に存在する。形状は隅丸長方形で，規模は長軸2.3m×短軸1.1m，深さ0.5mを測る。出土遺物は鉄鏃が2点（№16・17）であった。ＫＤ－003は南西側の周溝の外縁に存在する。規模は長軸1.28m×短軸0.7m，深さ0.3mを測る。ＫＤ－004は北西側の周溝の内縁に存在する。規模は長軸2.13m×短軸0.7m，深さ0.5mを測る。遺物は出土しなかった。ＫＤ－005は東側の周溝の内縁に存在する。規模は長軸1.30m×短軸0.63m，深さ0.1mを測る。遺物は出土しなかった。ＫＤ－006は南側の周溝の外縁に存在する。規模は長軸2.42m×短軸0.98m，深さ0.48mを測る。遺物は出土しなかった。

なお，墳丘の内側にみられる不整方形の周溝状の遺構は，プラン確認当初は二重周溝の内側の周溝とも見えたが，精査により北東コーナー部分がＫ－０１１号の周溝を切っており，古墳とは別の後世の遺構と判明した。東西11m，周溝を含めて13m，南北9.2m，周溝を含めて12mを測る。周溝は上辺で1.5m～0.6m，底辺で1.0m～0.2m，深さ0.1mを測る。遺物は出土しなかった。

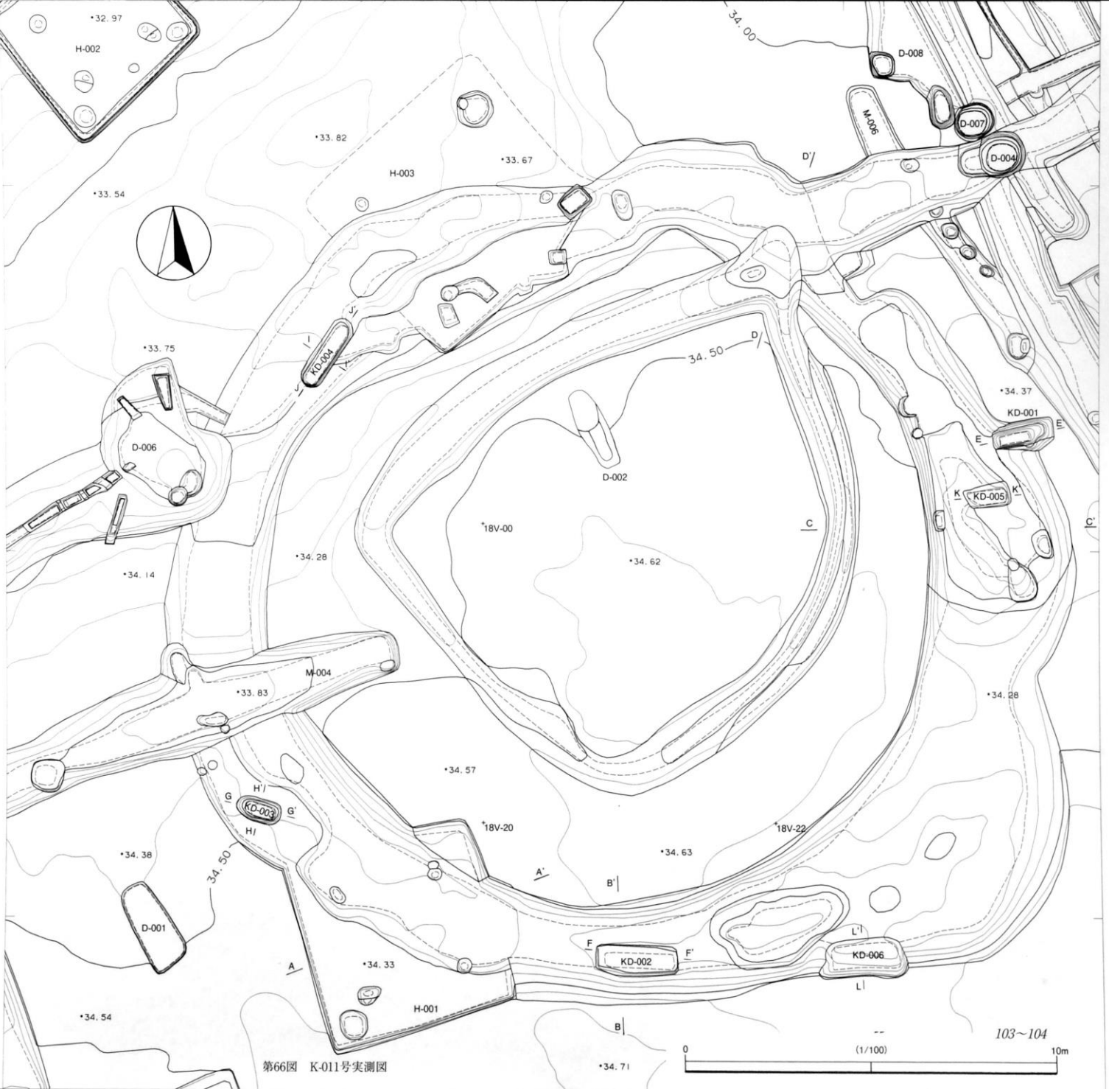
Ｋ－０１２号

調査区南部に位置する。調査区域の表土はぎ終了後，遺構確認面であるローム上面に周溝のみが検出された。したがって墳丘は後世の削平により消失したものと考えられる。また遺構の約2分の1（円墳と想定した場合で，南半分）は調査区域外に存在すると思われる。

墳形は周溝の形態から円墳であったものと思われる。規模は墳丘部分で東西17m，周溝を含めて20.6m，南北（6.9）m，周溝を含めて（8.7）mを測る。周溝は上辺で4.5m～1.7m，底辺で2.9m～0.7m，深さ0.5mを測る。

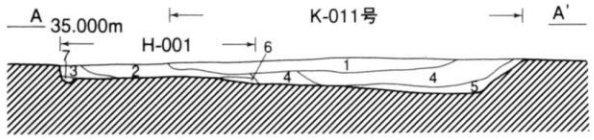
墳丘はほぼ正円形であるが，周溝外縁はやや不整形であり東側調査区際で 広がっていく様相を見せる。周溝覆土は黒色土を主体とする自然堆積であった。

墳丘内部にはＫ－０１１号と同様に円形の周溝状の遺構がみられるが，覆土は暗褐色土層を主体とするもので後世の所産であろう。東西4.2m，周溝を含めて7m，南北2.4m，周溝を含めて3.7mを測る。周溝は上辺で2m～0.7m，底辺で0.8m～0.3m，深さ0.4mを測る。遺物は出土しなかった。

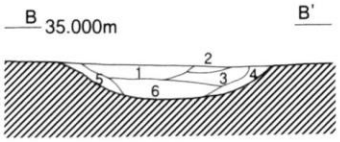


第66図　K-011号実測図

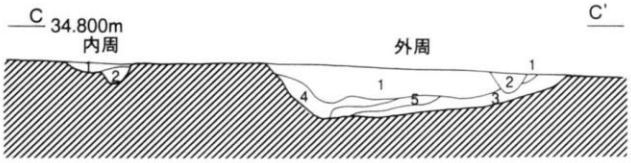
103～104



K－011　土層説明（A～A'）
1．黒色　ローム粒少量
2．暗褐色　ローム粒・ロームブロック少量
3．茶褐色　ローム粒少量
4．黒褐色　ロームブロック少量
5．黒褐色　ローム粒霜降り状
6．褐色　ローム粒少量
7．暗褐色　ローム粒多量

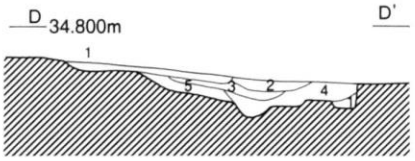


K－011　土層説明（B～B'）
1．黒色　ローム粒少量
2．黒褐色　ローム粒少量
3．黒褐色　ローム粒霜降り状
4．暗褐色　ローム粒多量、ロームブロック少量
5．茶褐色　ローム粒少量
6．黒褐色　ローム粒霜降り状、ロームブロック少量



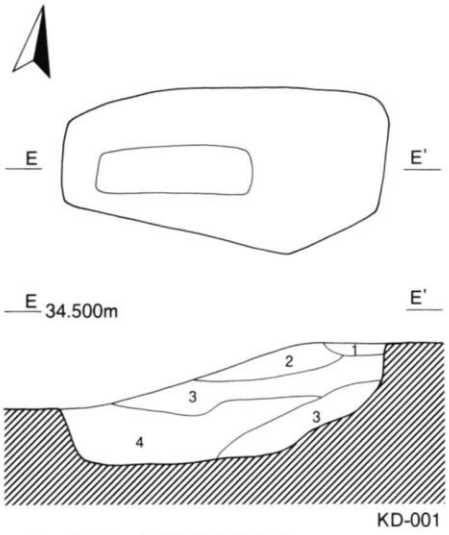
K－011　土層説明（C～C'）内周
1．暗褐色　ローム粒霜降り状
2．暗褐色　ロームブロック霜降り状

K－011　土層説明（C～C'）外周
1．黒色　ローム粒霜降り状、ロームブロック少量
2．明褐色　ローム粒・ロームブロック霜降り状
3．黒褐色　ローム粒少量
4．褐色　ローム粒多量
5．茶褐色　ローム粒少量

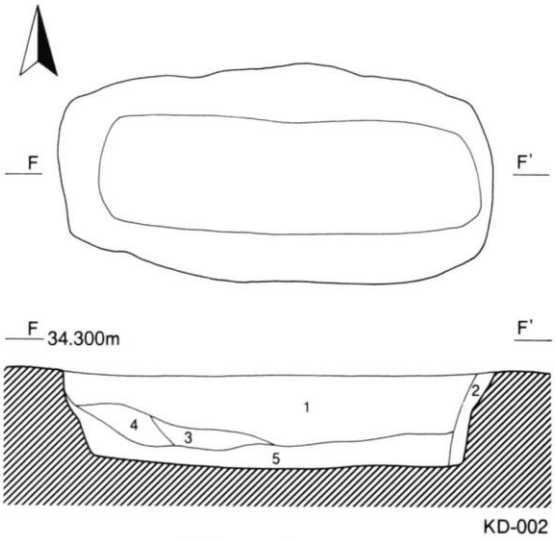


K－011　土層説明（D～D'）
1．茶褐色　ローム粒少量
2．黒色　ローム粒少量
3．黒色　ロームブロック多量
4．茶褐色　ロームブロック多量
5．暗褐色　ロームブロック多量

0　(1/100)　5m



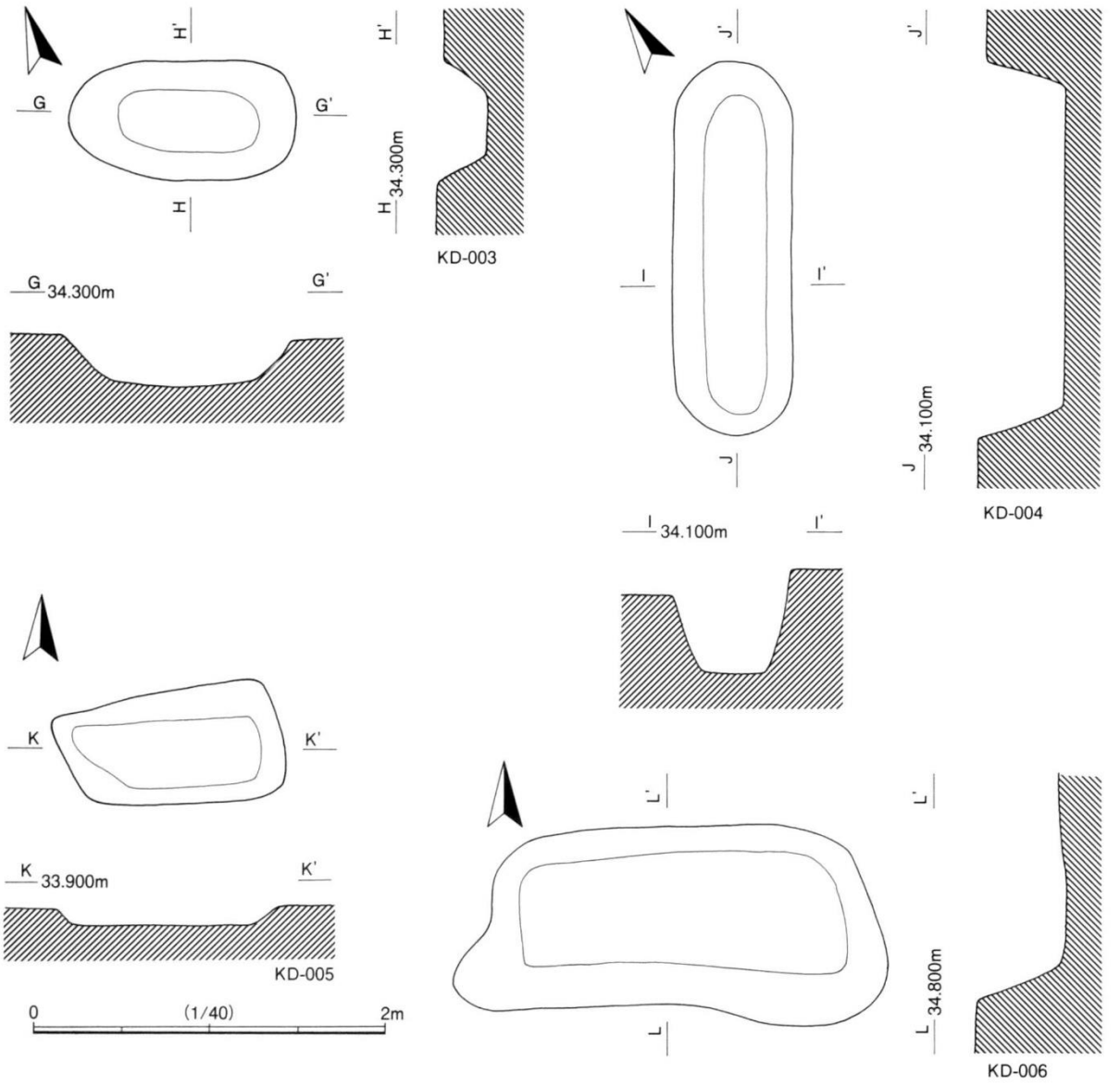
K－011　土層説明（KD-001）
1．茶褐色　ローム粒少量
2．黒褐色　ローム粒適当量
3．暗褐色　ロームブロック多量
4．黒色　ローム粒霜降り状



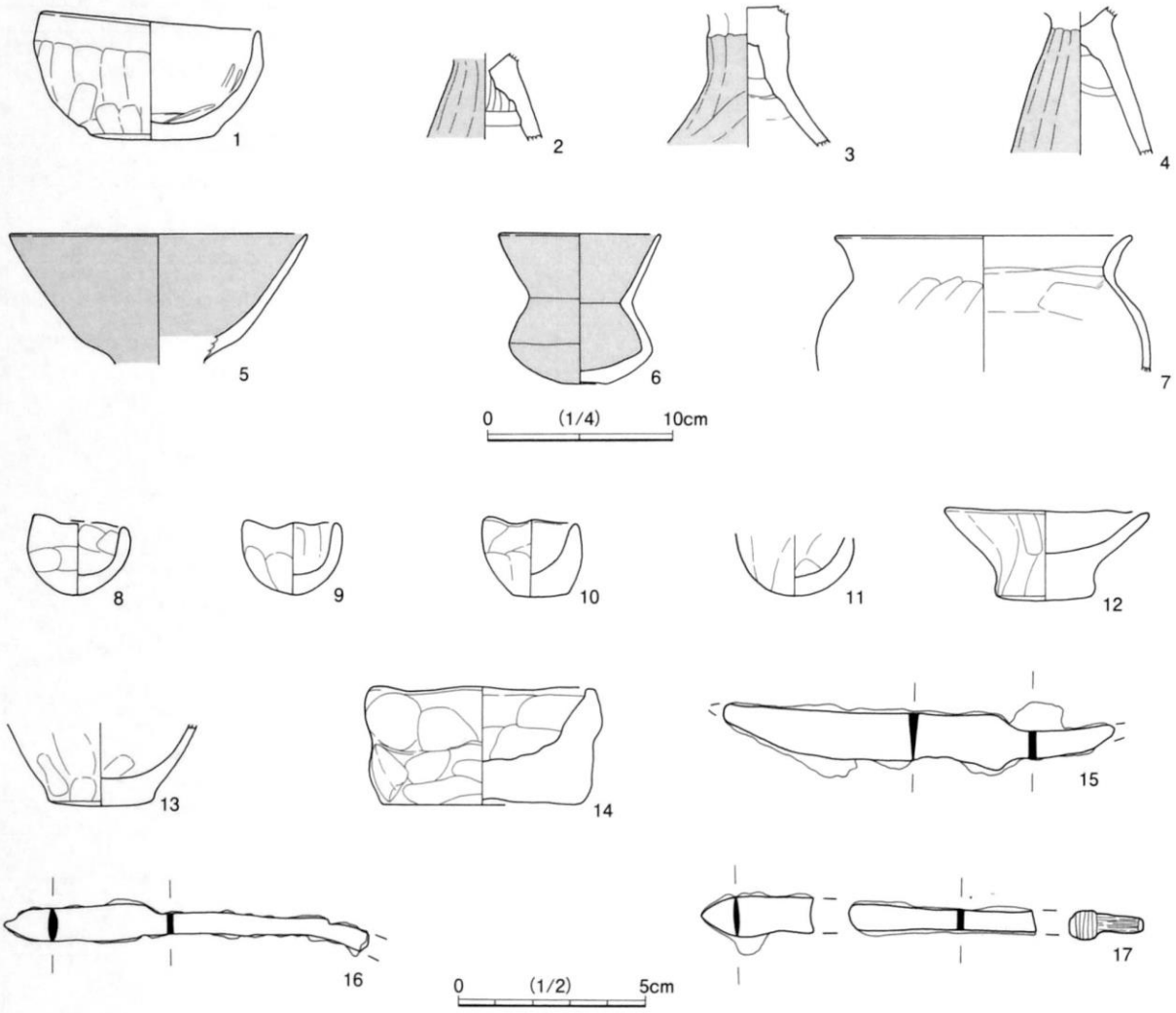
K－011　土層説明（KD-002）
1．黒色　ローム粒適当量・ロームブロック少量
2．茶褐色　ロームブロック霜降り状
3．黒褐色　ロームブロック適当量
4．黒褐色　ロームブロック多量
5．茶褐色　ロームブロック多量

0　(1/40)　2m

第67図　K-011号断面図・K-011号内（KD-001・002）実測図



第68図　K-011号内（KD-003～006）実測図

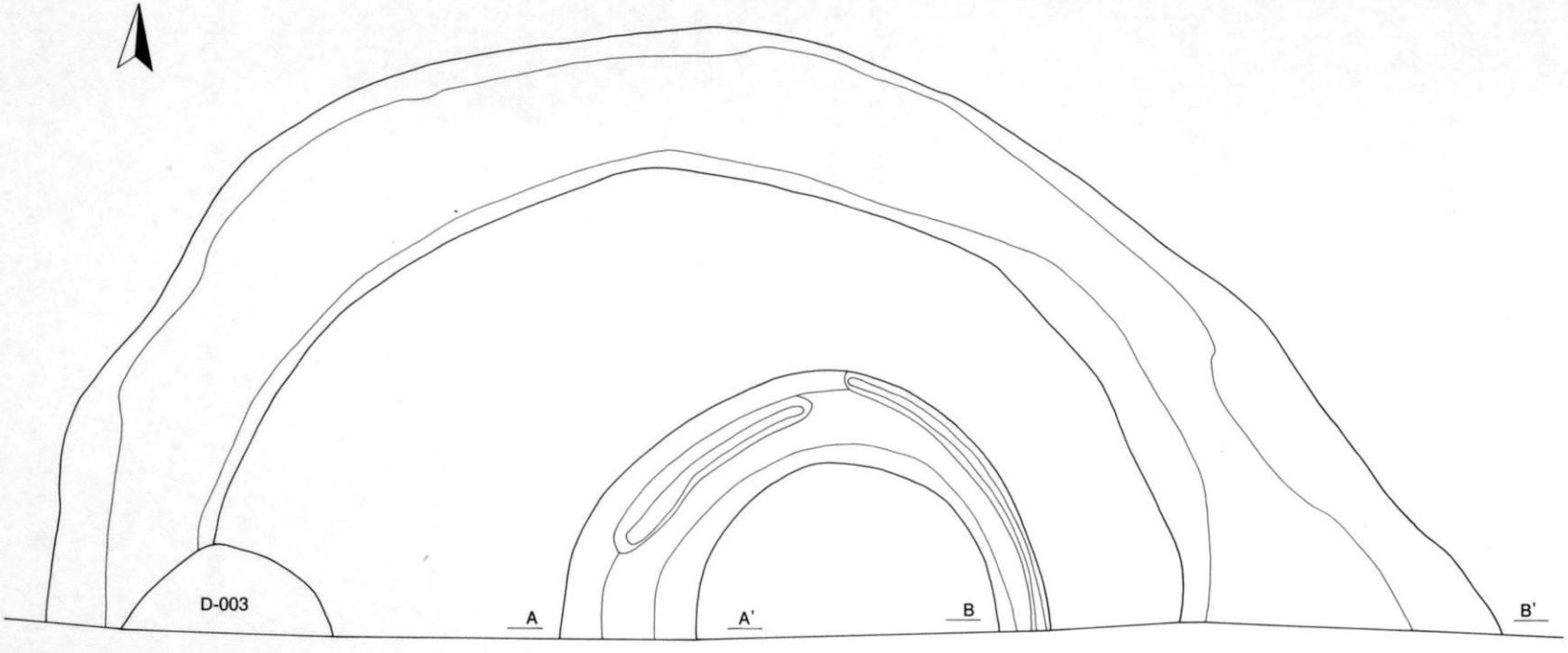


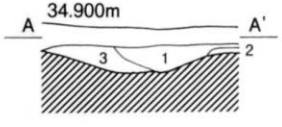
第69図　K-011号出土遺物

K-011号出土遺物観察表

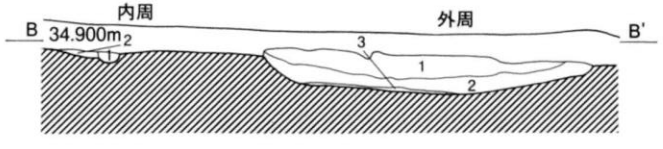
番号	器種	法量 cm	調整	色調	依存度	備考
1	土師器 椀	口径 11.8 器高 6.5 底径 6.8	口縁部ヨコナデ。体部外面ヘラナデ、内面ナデ。	褐	口縁～体部3/4 底部完存	内面ヘラ先痕アリ
2	土師器 高坏	口径 － 器高 <4.7> 底径 －	脚部外面ヘラナデ、内面ヘラケズリ。	明褐	脚部片	外面赤彩
3	土師器 高坏	口径 － 器高 <7.4> 底径 －	脚部外面ヘラナデ、内面ヘラケズリ。	明褐	脚部片	坏部底部・脚部外面赤彩
4	土師器 高坏	口径 － 器高 <7.7> 底径 －	脚部外面ヘラナデ、内面ヘラケズリ。	明褐	脚部片	外面赤彩
5	土師器 高坏	口径 16.2 器高 <7.1> 底径 －	坏部内外面ナデ。	明褐	坏部のみ	内外面赤彩
6	土師器 坩	口径 8.8 器高 8.7 底径 2.4	内外面ナデ。	明褐	ほぼ完形	内外面赤彩
7	土師器 甕	口径 16.0 器高 <7.5> 底径 －	口縁部ヨコナデ、内面ナデ。胴部内外面ヘラナデ。	灰褐	口縁部～胴部	
8	土師器 手捏	口径 2.6 器高 2.0 底径 －	内外面ヘラナデ。	褐	完形	外面黒斑アリ
9	土師器 手捏	口径 2.6 器高 2.0 底径 －	内外面ヘラナデ。	褐	完形	
10	土師器 手捏	口径 2.6 器高 2.1 底径 1.4	外面ヘラナデ、内面ナデ。	褐	完形	
11	土師器 手捏	口径 － 器高 <1.7> 底径 －	内外面ナデ。	褐	口縁部欠損	
12	土師器 手捏	口径 5.6 器高 2.4 底径 2.6	外面ヘラナデ、内面ナデ。	褐	口縁～体部1/4 底部完存	
13	土師器 手捏	口径 － 器高 <2.2> 底径 2.8	外面指頭痕、内面ナデ。	褐	体部～底部1/2	
14	土師器 手捏	口径 6.2 器高 3.2 底径 5.4	外面指頭痕、内面ヘラケズリ。	褐	ほぼ完形	外面輪積み痕アリ

番号	種類	法量	依存度	備考
15	鉄製品 刀子	残存長 10.6cm 幅 1.2cm 厚さ 0.25cm 重量 14.1g		
16	鉄製品 刀子	残存長 9.9cm 幅 0.9cm 厚さ 0.2cm 重量 4.9g		
17	鉄製品 刀子	残存長 3.1cm 幅 1.0cm 厚さ 0.1cm 重量 2.5g		(刃-1)
		残存長 5.1cm 幅 0.5cm 厚さ 0.15cm 重量 2.1g		(刃-2)
		長さ 2.0cm 幅 0.5cm 重量 0.5g		(柄)





K－012　土層説明
1．暗褐色　ロームブロック少量
2．暗褐色　ローム粒少量
3．暗褐色　焼土粒霜降り状



K－012　土層説明内周
1．暗褐色　ロームブロック少量
2．暗褐色　焼土粒霜降り状

K－012　土層説明外周
1．黒色　ローム粒少量
2．黒褐色　ロームブロック少量
3．暗褐色　ロームブロック多量

0　(1/100)　5m

第70図　K-012号実測図

Ｋ－０１３号

調査区南東部に位置する。調査区域の表土はぎ終了後，遺構確認面であるローム上面に周溝のみが検出された。したがって墳丘は後世の削平により消失したものと考えられる。また遺構の約2分の1は台地の削平により消滅している。

墳形は周溝の形状から方墳と判断できる。 規模は墳丘部分で東西（6.8）m，周溝を含めて（8）m，南北10.1m，周溝を含めて12.6mを測る。周溝は上辺で1m～0.9m，底辺で0.7m，深さ0.2m～0.5mを測る。周溝の断面はU字形を呈する。周溝内からは土師器片が出土しているが時期を判断できるものではない。

Ｋ－０１４号

調査区東部に位置する。調査区域の表土はぎ終了後，遺構確認面であるローム上面に周溝のみが検出された。したがって墳丘は後世の削平により消失したものと考えられ，検出された周溝も確認面からの彫り込みが浅いため，西側と南東部の一部が消滅していた。また遺構の約4分の1は台地の削平により消滅している。

墳形は周溝の形状から円墳と判断できる。 規模は墳丘部分で東西（7.8）m，周溝を含めて（9）m，南北9.4m，周溝を含めて12mを測る。周溝は上辺で1.5m～0.9m，底辺で1m～0.5m，深さ0.2mを測る。周溝の断面は逆台形を呈する。遺物は出土しなかった。

Ｋ－００５号（160地点）

調査区南東部に位置する。幅約3m程度のトレンチによる周溝の一部のみの検出であり，畑地である現表土面は平らであるため，後世の開墾等により墳丘も消失している。ただし墳丘の一部の可能性を残す高まりが存在する。

規模は墳丘部分で東西16.6m，周溝を含めて20.2mを測る。周溝は北側上辺で2.2m，底辺で1.45m，深さ0.15m，南側上辺で2.15m，底辺で1.70m，深さ0.20mを測る。周溝の断面は逆台形を呈する。遺物は出土しなかった。

Ｋ－０１５号（160地点）

調査区中央部に位置する。幅約3m程度のトレンチによる周溝の一部のみの検出であり，畑地である現表土面は平らであるため，後世の開墾等により墳丘も消失している。規模は現況で東西21.0m（周溝までを含む）を測る。周溝は北側上辺で3.2m，底辺で1.23m，深さ0.40mを測る。周溝の断面は逆台形を呈する。

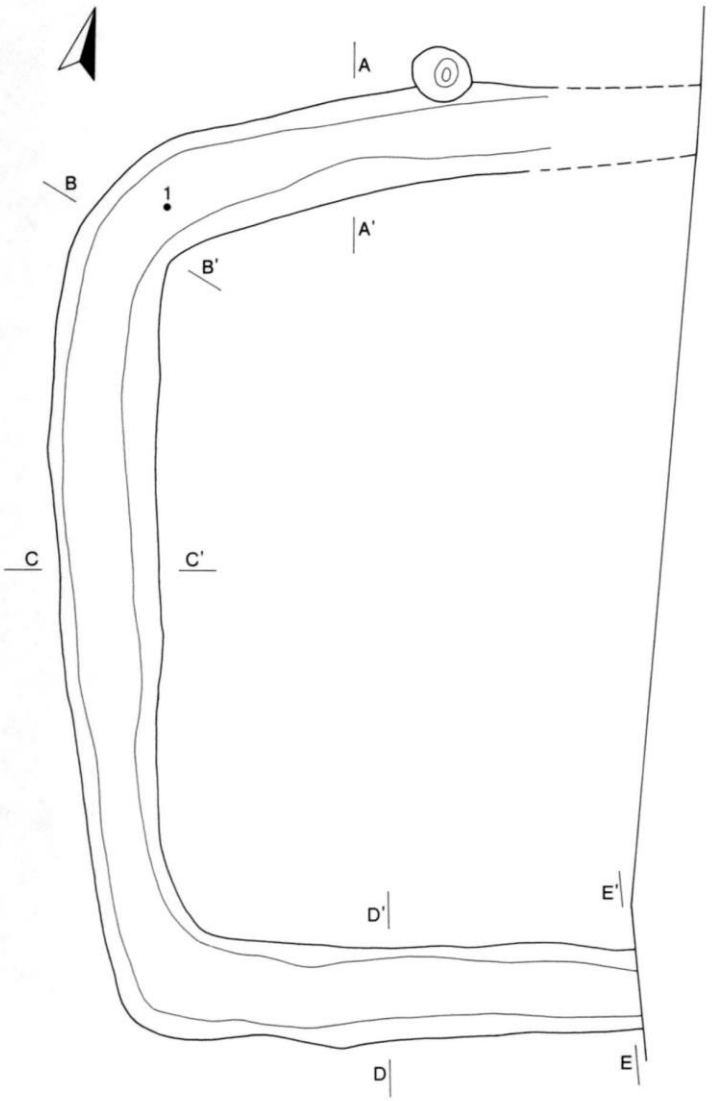
遺物は土師器坏2点，ミニチュア土器1点，石製模造品勾玉1点，滑石1点が出土したが，いずれもＨ－023からの流れ込みと思われる。

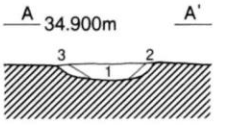
Ｋ－０１６号（160地点）

調査区北西部に位置する。周溝の極一部分を検出したのみで，遺物の出土もみられず覆土から古墳の周溝と判断した。

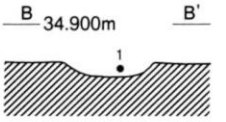
Ｋ－０１７号（160地点）

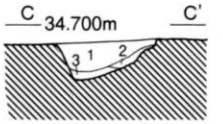
調査区北部に位置する。周溝のコーナー部分を検出したのみであった。遺物の出土もみられず覆土から古墳の周溝と判断した。



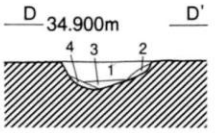


K－013　土層説明（A～A'）
1．暗褐色　ローム粒少量
2．暗褐色　ローム粒霜降り状
3．茶褐色　ローム粒多量

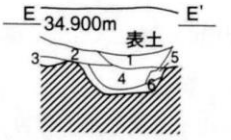




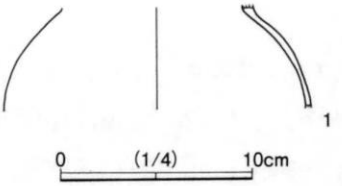
K－013　土層説明（C～C'）
1．暗褐色　ローム粒少量
2．茶褐色　ロームブロック適当量
3．茶褐色　ロームブロック多量



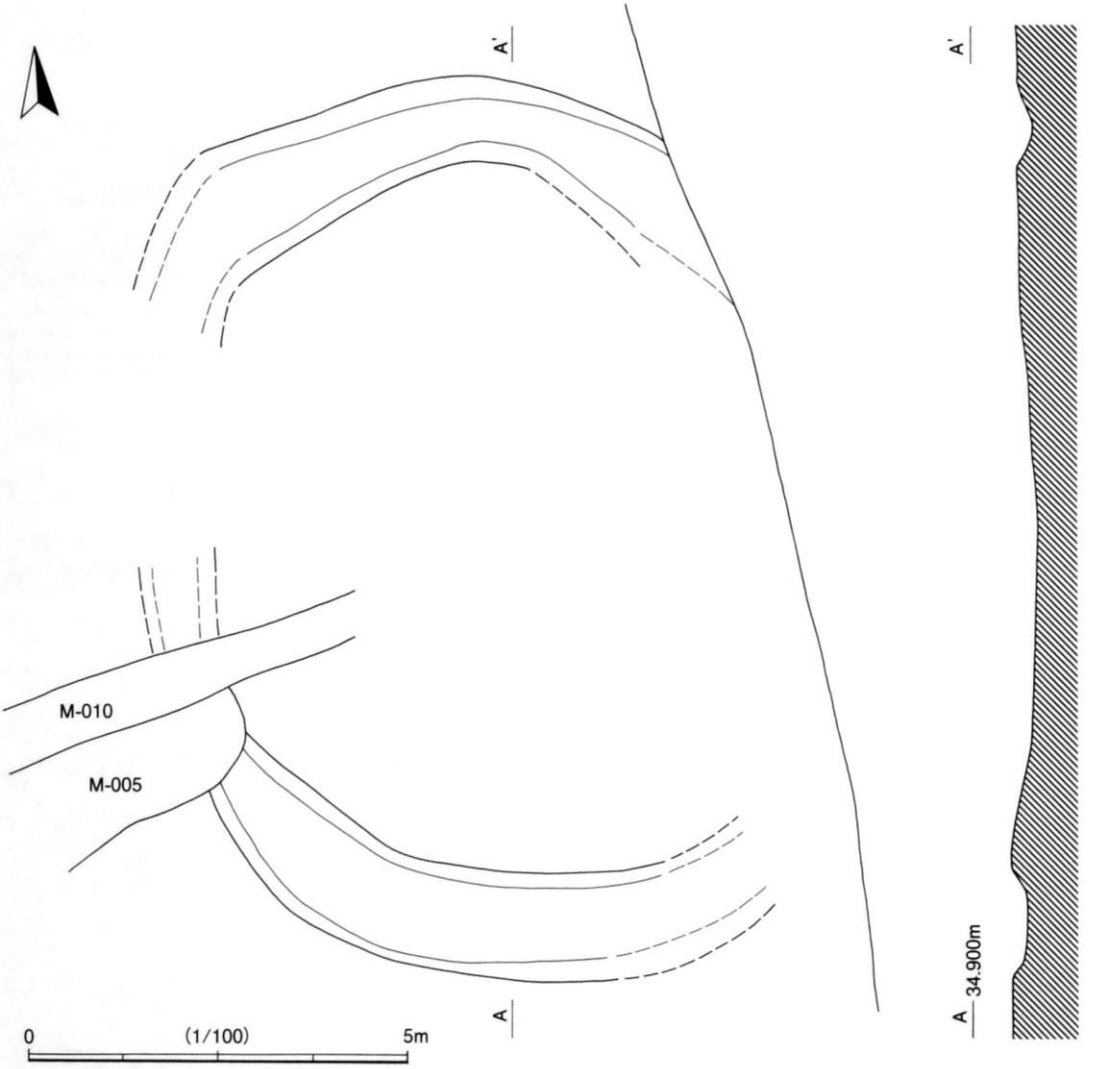
K－013　土層説明（D～D'）
1．黒褐色　ローム粒少量
2．明褐色　ロームブロック多量
3．茶褐色　ロームブロック適当量
4．茶褐色　ロームブロック多量



K－013　土層説明（E～E'）
1．暗褐色　ローム粒少量
2．茶褐色　ロームブロック適当量
3．茶褐色　ロームブロック多量



第71図　K-013号実測図・出土遺物



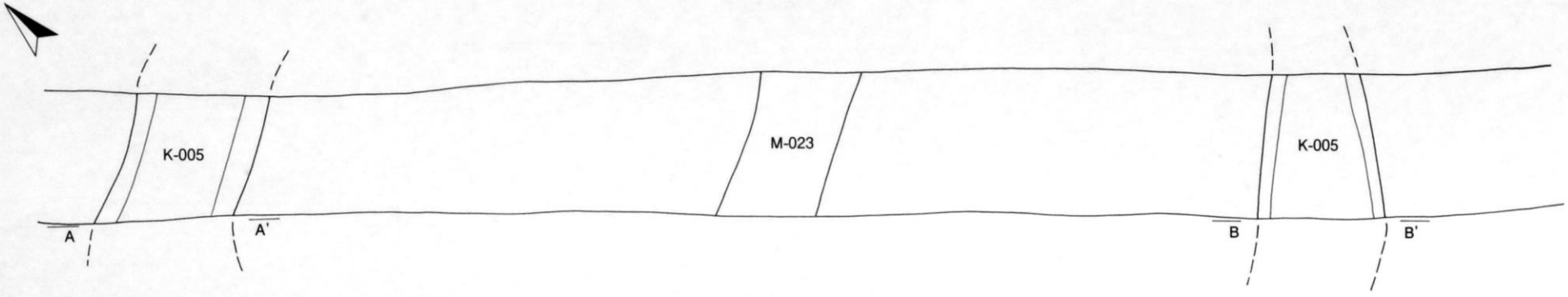
第72図　K-014号実測図

K－０１８号（160地点）

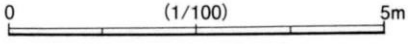
調査区北西部に位置する。H－023（A）・（B）を破壊する。幅約3m程度のトレンチによる周溝の一部のみの検出であり，畑地である現表土面は平らであるため，後世の開墾等により墳丘も消失している。規模は現況で南北21.0m，周溝を含めて30mを測る。周溝は北側上辺で2.3m，底辺で1.9m，深さ0.40m，南側上辺で6m，底辺で5m，深さ0.60mを測る。周溝の断面は逆台形を呈する。

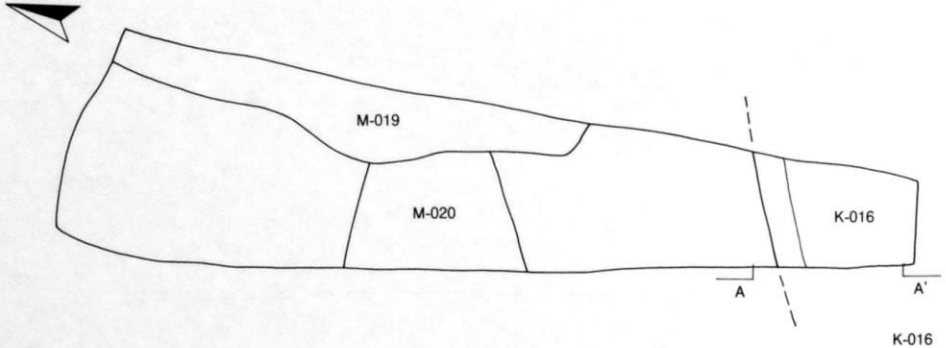
K－０１９号（160地点）

調査区中央部に位置する。幅約3m程度のトレンチによる周溝の一部のみの検出であり，畑地である現表土面は平らであるため，後世の開墾等により墳丘も消失している。規模は現況で南北22.0m，周溝を含めて30mを測る。周溝は北側上辺で1.0m，底辺で0.5m，深さ0.15m，南側上辺で4.5m，底辺で1.5m，深さ0.40mを測る。周溝の断面は逆台形を呈する。



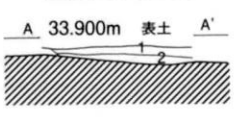
K－005　土層説明
1．黒褐色　ローム粒子多量、ロームブロック少量、締まり有り
2．明褐色　ローム粒子やや多く、ロームブロックやや少ない、締まり有り



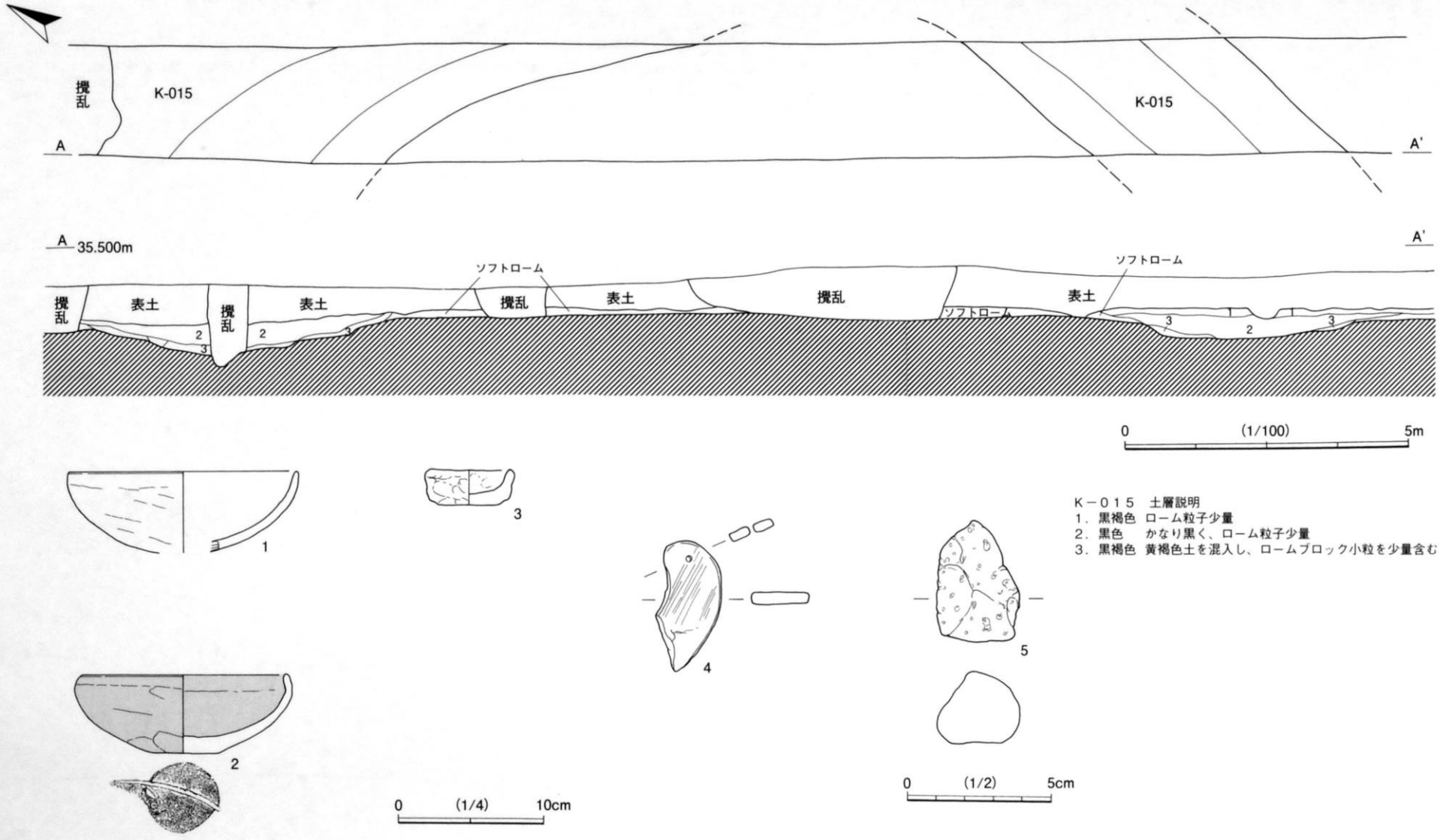


K-016

K－016　土層説明
1．黒褐色　ローム粒子多く、ロームブロック小粒を含む
2．明褐色　やや粗い黒褐色土混入、ロームブロック小粒やや多く、ローム粒多量

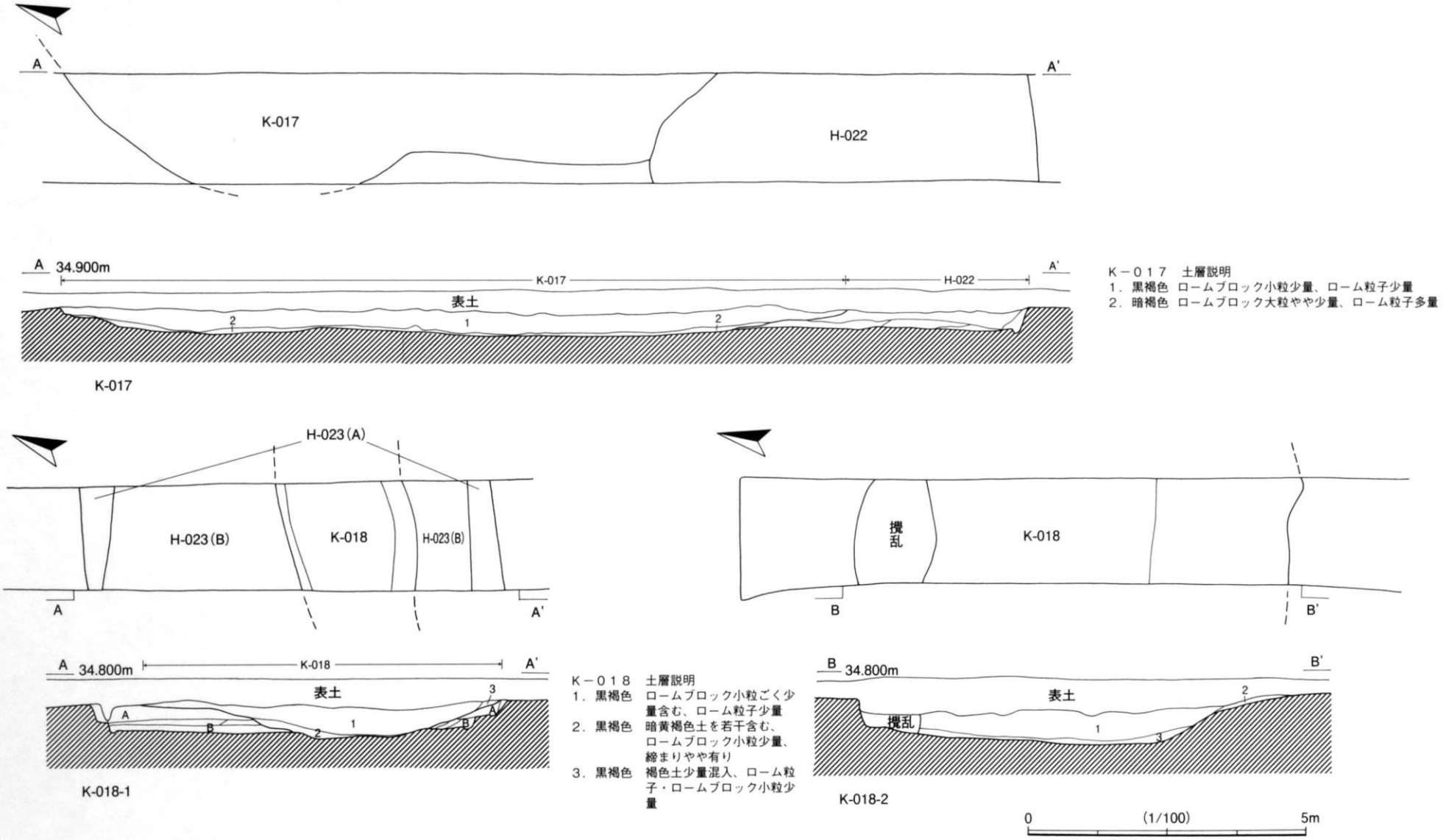


第73図　K-005号・016号実測図

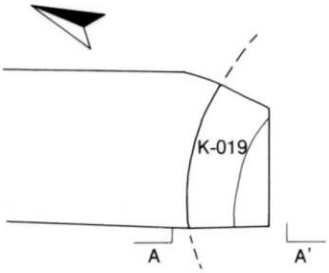


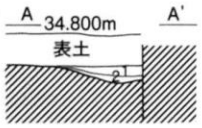
K－015　土層説明
1．黒褐色　ローム粒子少量
2．黒色　　かなり黒く、ローム粒子少量
3．黒褐色　黄褐色土を混入し、ロームブロック小粒を少量含む

第74図　K-015号実測図・出土遺物

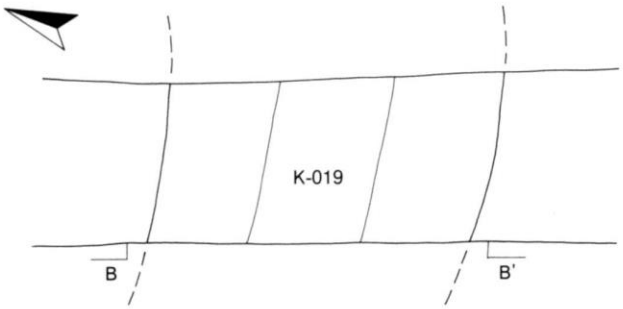


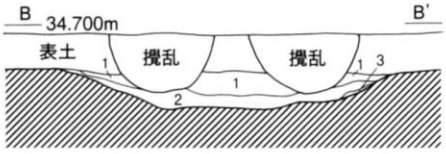
第75図　K-017号・018号実測図





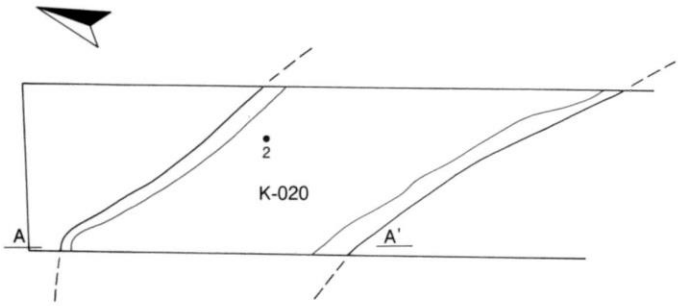
K-019-1

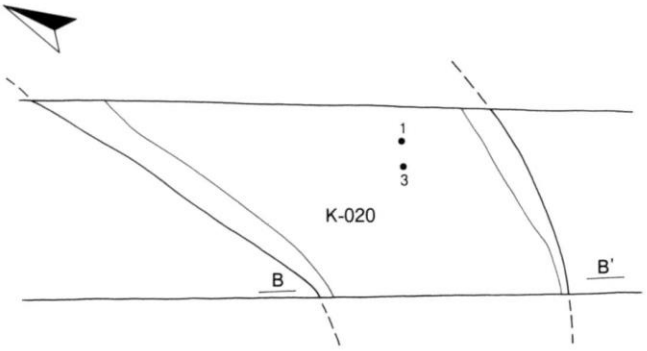


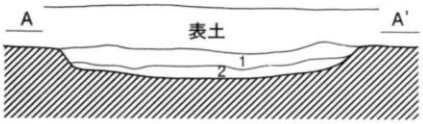


K-019-2

K－０１９　土層説明
1．黒褐色　ローム粒子やや多く、ロームブロック少量含む、締まりやや有り
2．褐色　ロームブロックやや多く、ローム粒子多量、やや明るく締まり有り
3．明褐色　ロームブロック小粒少量・大粒をやや多く含む、ローム粒子多量、締まりやや有り

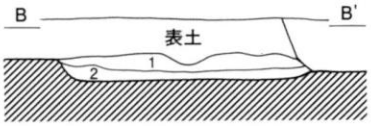






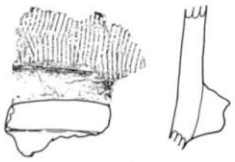
K-020-1

K－０２０　土層説明
1．黒褐色　ローム粒子多量、ロームブロック中粒少量、締まり有り
2．暗褐色　ローム粒子やや多く、ロームブロック中粒多量、締まり有り

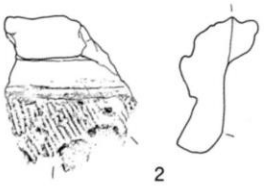


K-020-2

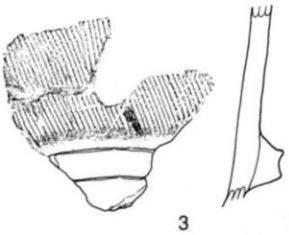
0　(1/100)　5m



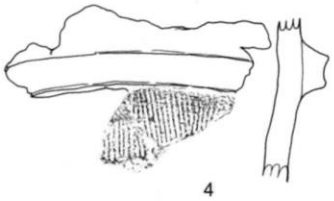
1



2



3



4

0　(1/4)　20cm

第76図　K-019号・020号実測図・出土遺物

K－０２０号（160地点）

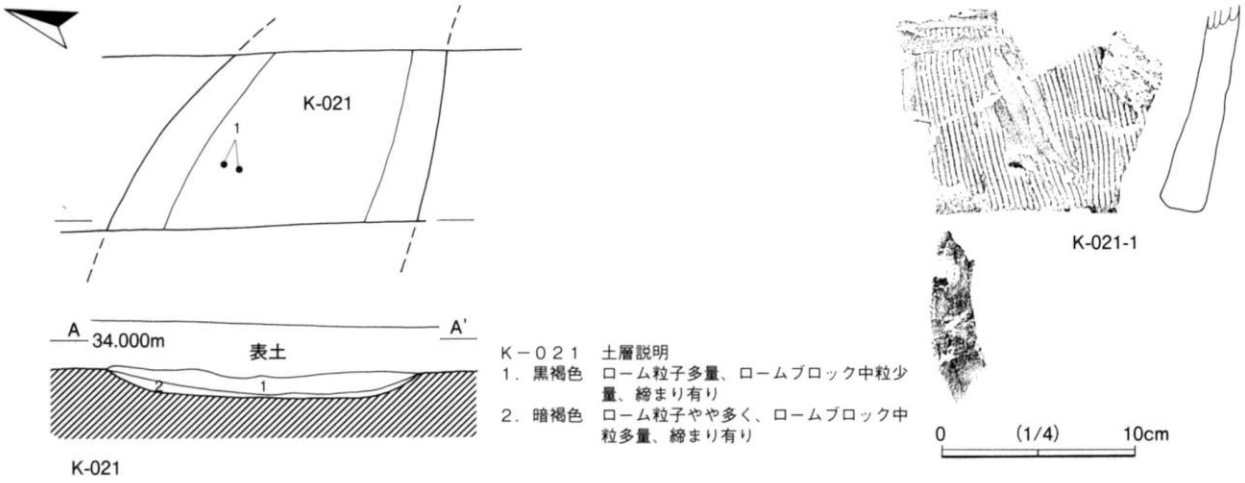
調査区中央部に位置する。幅約3m程度のトレンチによる周溝の一部のみの検出であり，畑地である現表土面は平らであるため，後世の開墾等により墳丘も消失している。規模は現況で南北20.0m，周溝を含めて38mを測る。周溝は北側上辺で2.8m，底辺で2.2m，深さ0.20m，南側上辺で3.5m，底辺で2.8m，深さ0.40mを測る。周溝の断面は逆台形を呈する。

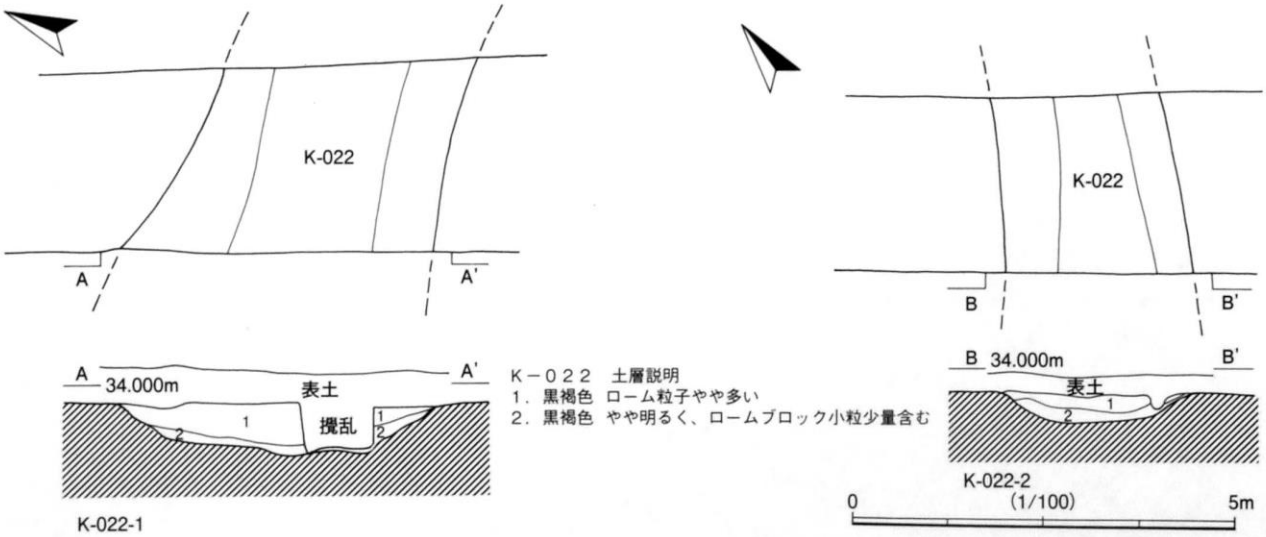
遺物は埴輪片が4点出土した。

K－０２１号（160地点）

調査区中央部に位置する。幅約3m程度のトレンチによる周溝の一部のみの検出であり，畑地である現表土面は平らであるため，後世の開墾等により墳丘も消失している。北側の周溝のみ検出。周溝は北側上辺で4.0m，底辺で2.3m，深さ0.30m。

遺物は埴輪片が1点出土した。





第77図　K-021号・022号実測図・出土遺物

K－０２２号（160地点）

調査区南部に位置する。幅約3m程度のトレンチによる周溝の一部のみの検出であり，畑地である現表土面は平らであるため，後世の開墾等により墳丘も消失している。規模は現況で南北24.0m，周溝を含めて30mを測る。周溝は北側上辺で4.10m，底辺で2.0m，深さ0.70m，南側上辺で2.5m，底辺で1.30m，深さ0.35mを測る。周溝の断面は逆台形を呈する。

K-013号出土遺物観察表

番号	器種	法量 cm	調　整	色　調	依　存　度	備　考
1	土師器 甕	口径　－ 器高　<5.4> 底径　－	胴部内外面ナデ。	褐	胴上半部	

K-015号出土遺物観察表

番号	器種	法量 cm	調　整	色　調	依　存　度	備　考
1	土師器 坏	口径　16.0 器高　<5.7> 底径　－	体部内外面ナデ。	淡明褐	体部3/4	外面赤彩の痕アリ
2	土師器 坏	口径　14.4 器高　5.5 底径　4.8	口縁部外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	赤彩	4/5　（口縁一部欠損）	内外面赤彩　底部線刻アリ
3	土師器 手捏	口径　(5.6) 器高　2.5 底径　5.0	外面指頭痕。	明褐	3/4	

番号	種類	法　量	依　存　度	備　考
4	石製品 勾玉	残存長　4.1cm　幅　2.3cm　厚さ　0.4cm　重量　8.0g		孔１個アリ（0.15cm）
5	石 軽石	長さ　4.3cm　幅　2.9cm　厚さ　0.4cm　重量　7.5g		

K-020号出土遺物観察表

番号	器種	法量 cm	調　整	色　調	依　存　度	備　考
1	埴輪 円筒埴輪	口径　－ 器高　<7.6> 底径　－	外面タテハケ、内面ナデ。	淡明褐	胴部片	
2	埴輪 円筒埴輪	口径　－ 器高　<7.1> 底径　－	外面タテハケ、内面ナデ。	明褐	胴部片	
3	埴輪 円筒埴輪	口径　－ 器高　<10.3> 底径　－	外面タテハケ、内面ナデ。	淡明褐	胴部片	
4	埴輪 円筒埴輪	口径　－ 器高　<8.5> 底径　－	外面タテハケ、内面ナデ。	淡明褐	胴部片	

K-021号出土遺物観察表

番号	器種	法量 cm	調　整	色　調	依　存　度	備　考
1	埴輪 円筒埴輪	口径　－ 器高　<11.0> 底径　－	外面タテハケ、内面ナデ。	明褐	底辺部片	

第２節　竪穴式住居跡

寺方古墳群で検出された竪穴式住居跡は，時期不明のＨ－０１０・０１２を除いてはすべて５世紀代の竪穴式住居跡であった。このため竪穴式住居跡の記載はすべてここでおこなう。

Ｈ－０００（第78図・図版63・67）

調査区南西部，18Ｔ-27・28・37・38グリッドに位置する。８号墳の内周に3分の2程度を破壊される。遺存度は不良である。形状は方形を呈する。

覆土は，暗褐色土の単一土層。

床面は比較的堅緻な平坦面である。壁高は東南部で約44cmを測る。周溝は南部コーナー付近のみ検出でき，幅22cm，深さ4.8cmを測る。ピットは床面に2本検出された。柱穴はP-１（径70cm×65cm，深さ51.7cm）・P-2（径34cm×30cm，深さ79cm）を測る。

本跡から出土した2点を図示した。

Ｈ－００１（第79・80図・図版18・19・63・67）

調査区中央部やや南寄り，18Ｕ-19・28・29・38，18Ｖ-20・30グリッドに位置する。Ｋ－011号の外周に一部を破壊される。遺存度は良好である。規模は判る範囲で544cm×530cm を測る。

覆土は，人為堆積で4層に分層される。

床面は比較的堅緻な平坦面である。壁高は南東部付近で約29.0cmを測る。周溝は西～南部で検出，幅28cm～22cm，深さ6.6cmを測る。ピットは床面に5箇所検出された。主柱穴はP-１（径48cm×35cm，深さ44cm）・P-2（径60cm×32cm，深さ27.6cm）・P-3（径40cm×34cm，深さ15.4cm）・P-4（径64cm×58cm，深さ66cm）4本検出された。南東コーナーに位置する長方形のピットは貯蔵穴と思われ，長軸82cm×短軸75cm，深さ35cmを測る。

本跡から出土した12点を図示した。

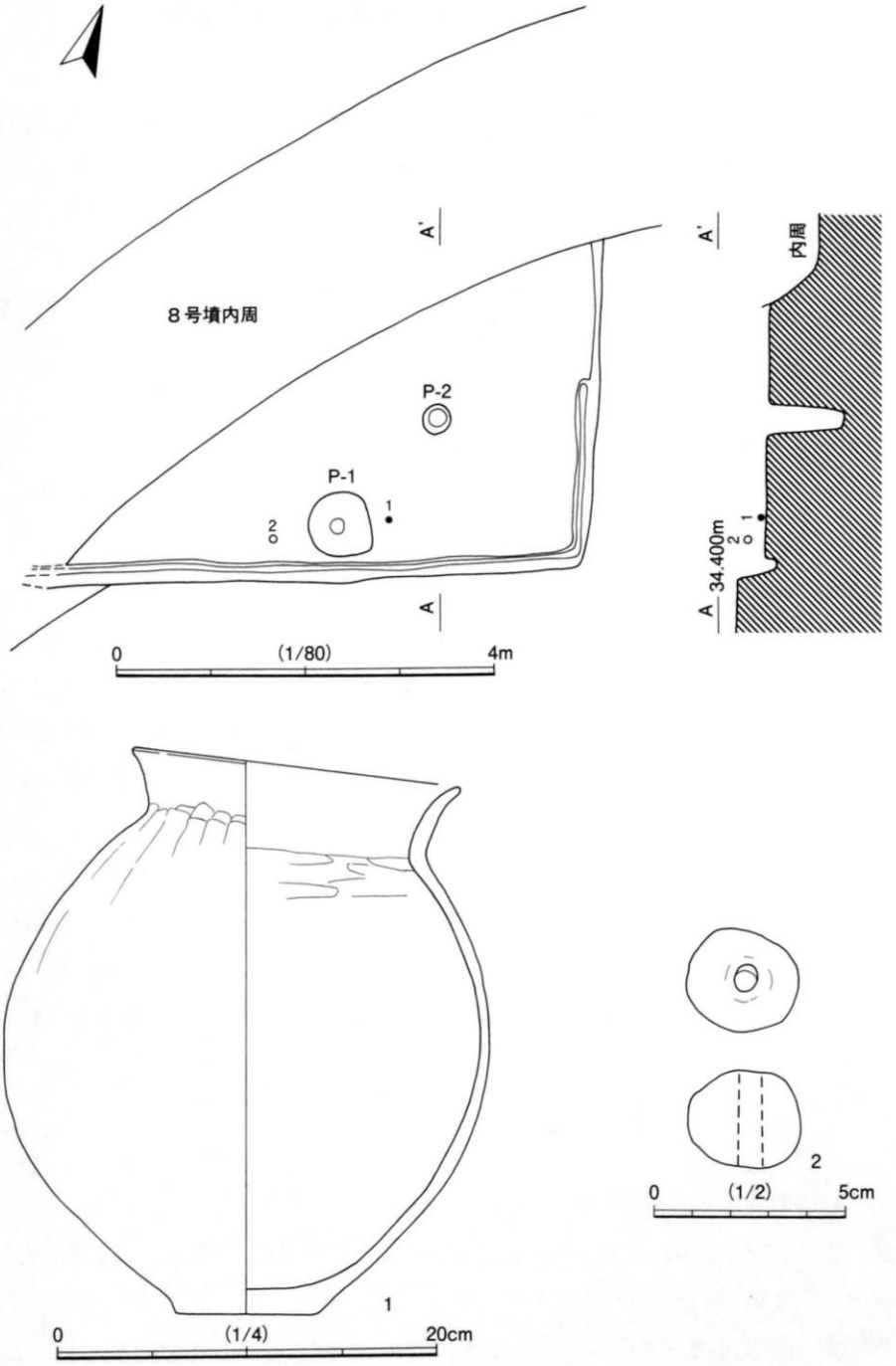
Ｈ－００２（第81図・図版20・63・67）

調査区中央部，17Ｕ-57・66・67・77グリッドに位置する。単独で検出された。遺存度は良好である。規模は426cm×456cm を測り，形状は方形を呈する。

覆土は，人為堆積で4層に分層される。

床面は堅緻で，主柱穴と貯蔵穴を結んだラインの内側が特に硬化している。壁高は南東部で約44cmを測る。周溝は全周し，幅24cm～16cm，深さ6cmを測る。ピットは床面に8箇所検出された。主柱穴はP-１（径52cm×48cm，深さ77.4cm）・P-2（径62cm×60cm，深さ73.3cm）・P-3（径64cm×48cm，深さ82cm）・P-4（径57cm×48cm，深さ73.9cm）4本検出された。P-5は出入口施設に伴うピットで径24cm×24cm，深さ33cmを測る。P-5を囲うように平面半円状の土手状に隆起した硬化面がみられる。この硬化面上にはP-8（径22cm×20m，20cm，深さ29.0cm）が存在するがこれも梯子穴の可能性がある。P-6（径62cm×55m，深さ37.6cm）・P-7（径68cm×63cm，深さ44.1cm）はいずれも貯蔵穴であろう。

本跡から出土した5点を図示した。



第78図　H-000実測図・出土遺物

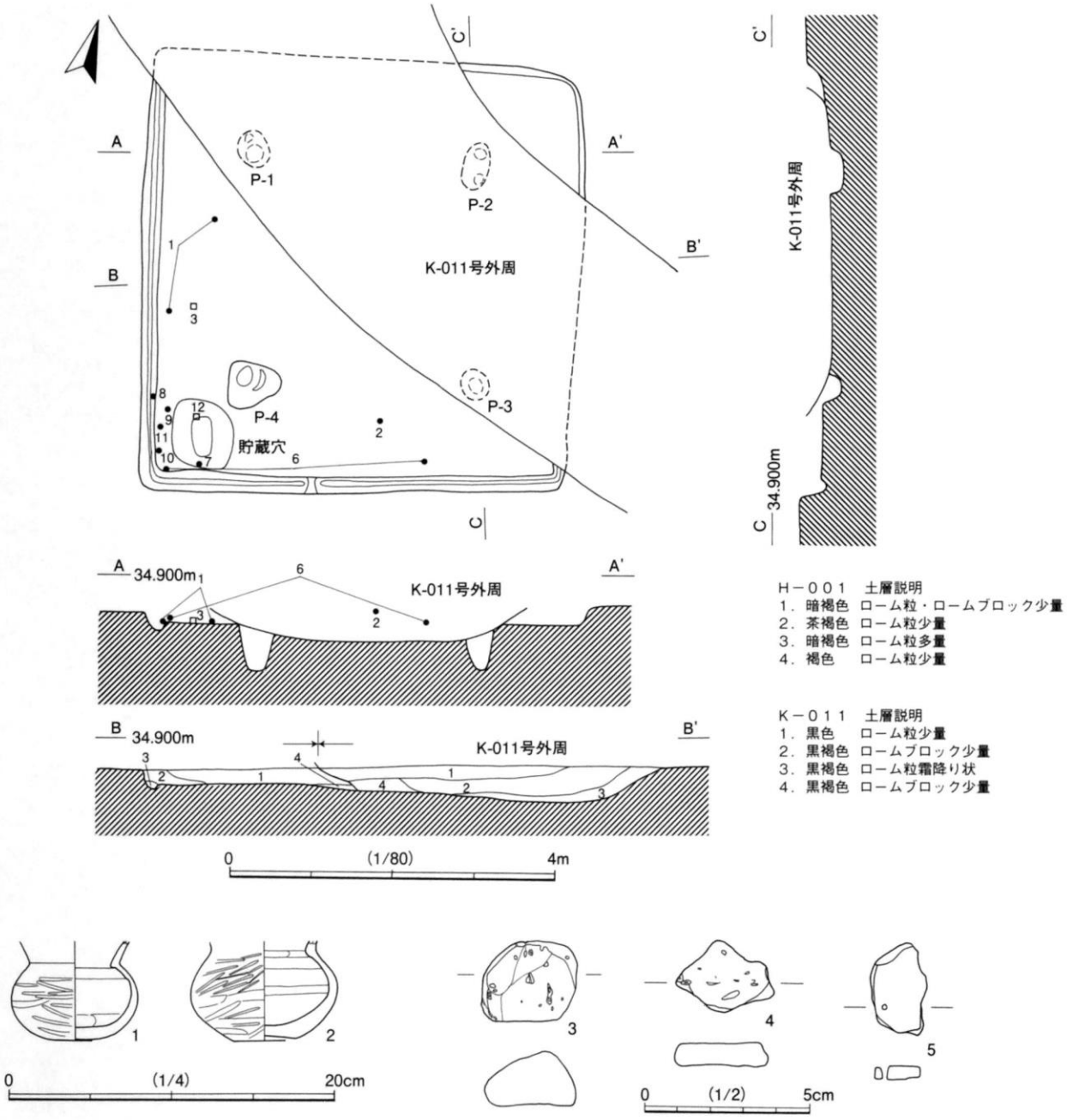
H－000出土遺物観察表

番号	器種	法量　cm	調　整	色　調	依　存　度	備　考
1	土師器 甕	口径　17.4 器高　29.2 底径　7.4	口縁部ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ後ナデ、内面ナデ。底部ナデ。	明褐	ほぼ完形　（胴部一部欠損）	胴部外面摩耗している

番号	種類	法　　量	依　存　度	備　考
2	土製品 土錘	外径　2.8×2.8cm　内径　0.65×0.5cm　厚さ　2.6cm　重量　19.1g		

H－001出土遺物観察表

番号	器種	法量　cm	調　整	色　調	依　存　度	備　考
1	土師器 坩	口径　－ 器高　<6.1> 底径　2.8	口縁部ヨコナデ。胴部外面ミガキ、内面ナデ。	淡褐	頸部一部　体部～底部	

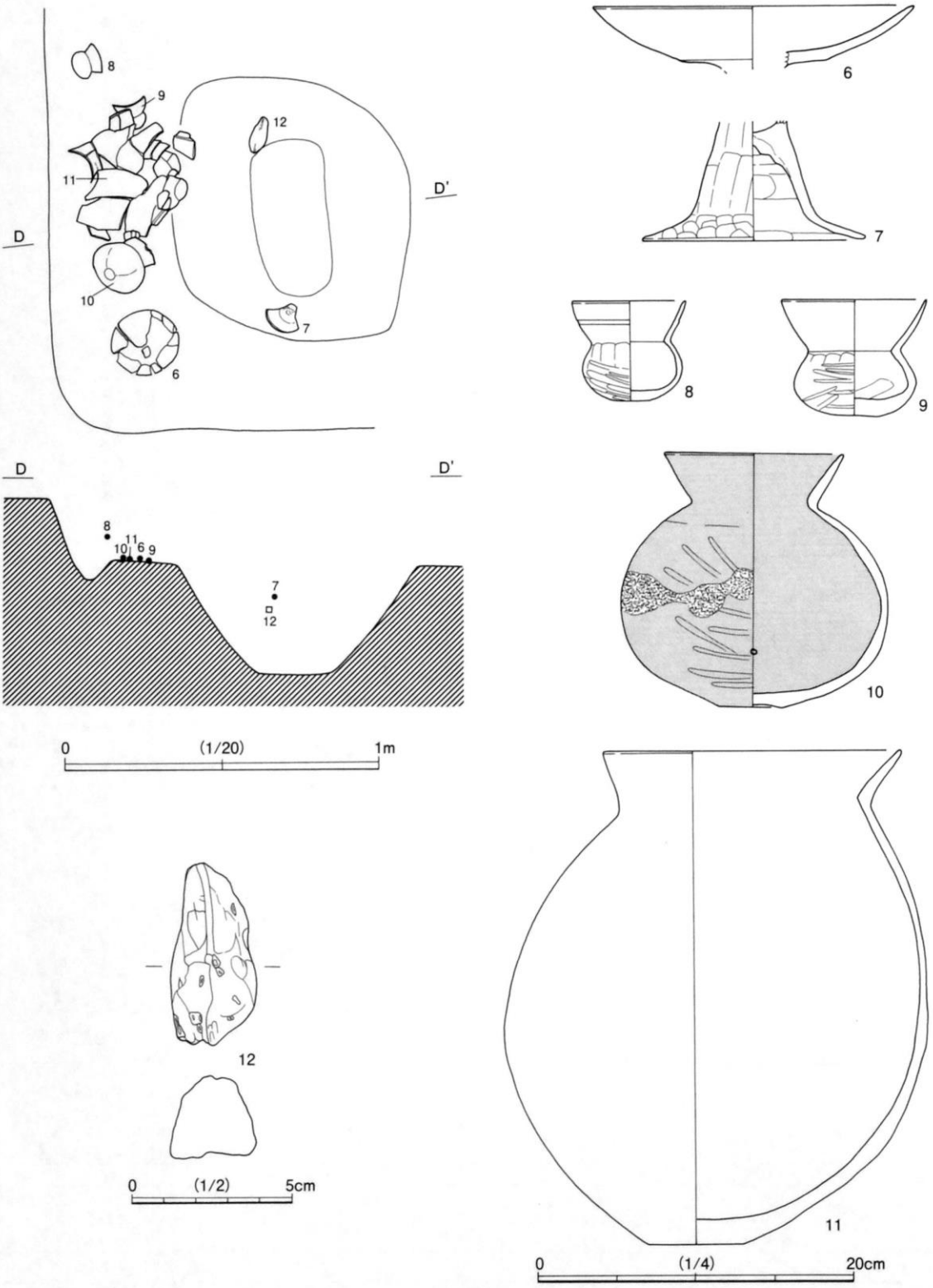


第79図　H-001実測図・出土遺物（1）

番号	器種	法量　cm	調　整	色　調	依　存　度	備　考
2	土師器 坩	口径　－ 器高　<6.1> 器高　3.8	胴部外面ミガキ、内面ナデ。	暗褐	体部～底部完存（口縁部欠損）	

番号	種類	法　量	依　存　度	備　考
3	石 軽石	長さ　4.9cm　幅　5.9cm　厚さ　3.5cm　重量　14.9g		
4	石 軽石	長さ　2.2cm　幅　3.0cm　厚さ　0.7cm　重量　0.6g		
5	石製模造品 鏡	長さ　2.8cm　幅　1.8cm　厚さ　0.4cm　重量　3.0g		孔１個アリ（0.3×0.1cm）

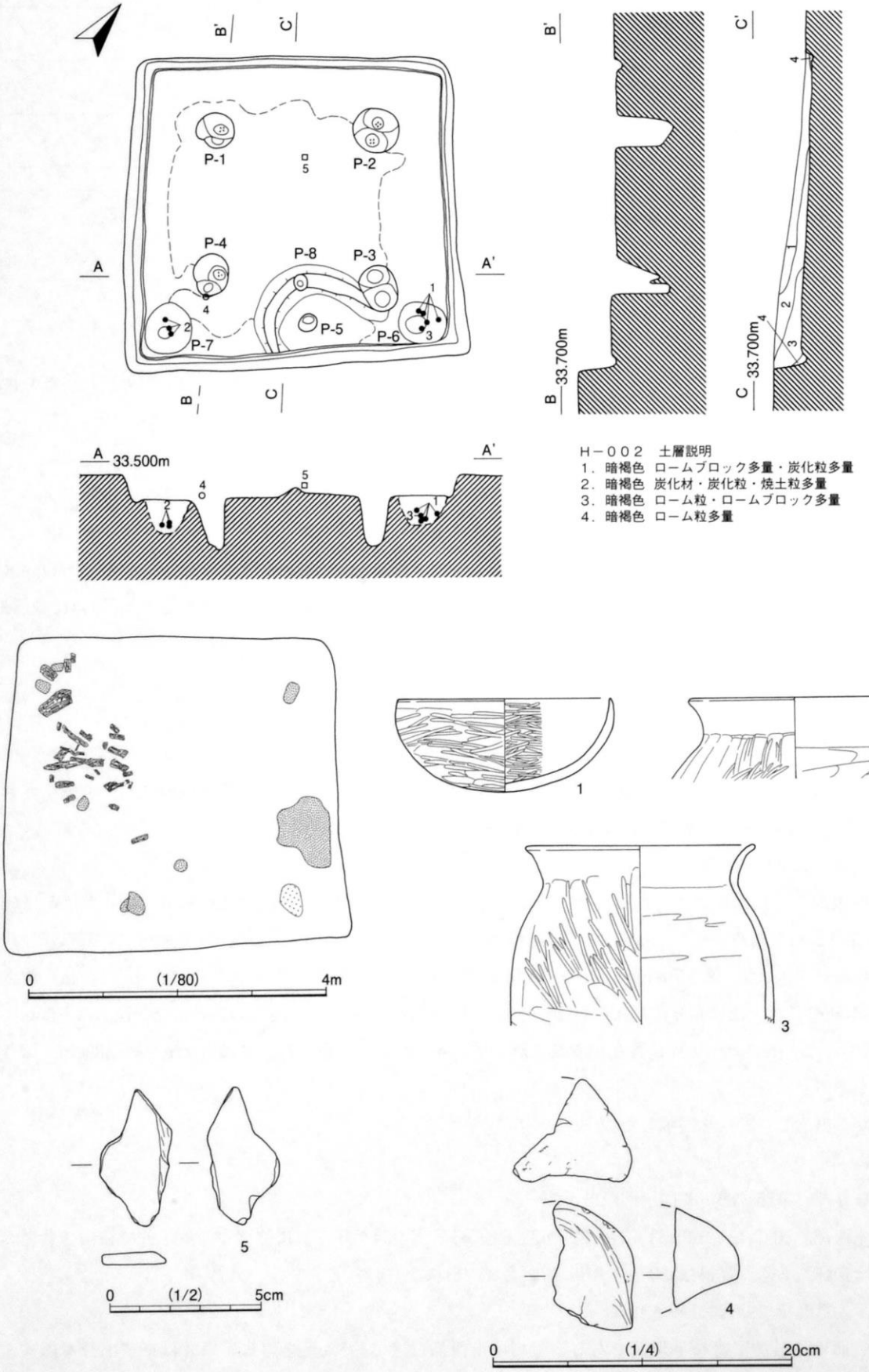
番号	器種	法量　cm	調　整	色　調	依　存　度	備　考
6	土師器 高坏	口径　20.4 器高　<4.0> 底径　－	坏部外面ナデ、内面ナデ。	褐	坏部3/4	
7	土師器 高坏	口径　－ 器高　<7.6> 底径　14.0	脚部内外面ヘラケズリ。	黄褐	脚部のみ	
8	土師器 坩	口径　7.2 器高　6.4 底径　2.6	口縁部ヨコナデ。胴部外面上部ヘラケズリ・下部ミガキ、内面ナデ。	淡褐	完形	



第80図　H-001遺物出土状況図・出土遺物（2）

番号	器種	法量 cm	調　整	色　調	依　存　度	備　考
9	土師器 坩	口径　9.2 器高　7.4 底径　3.0	口縁部ナデ。胴部外面ミガキ、内面ナデ。	明褐	完形	
10	土師器 甕	口径　11.4 器高　16.1 底径　4.0	口縁部ナデ。胴部内外面ミガキ。底部ナデ。	赤	ほぼ完形（口縁部一部欠損）	孔１個アリ（0.4×0.4cm）内外面赤彩・スス付着
11	土師器 甕	口径　(18.8) 器高　31.1 底径　26.8	口縁部ヘラナデ。胴部外面ヨコナデ、内面ナデ。	明褐	口縁1/3　胴部～底部完存	

番号	種類	法　　量	依　存　度	備　考
12	石 軽石	長さ　11.5cm　幅　5.2cm　厚さ　5.3cm　重量　61.7g		



第81図　H-002実測図・炭化材及び焼土出土状況図・出土遺物

H－002出土遺物観察表

番号	器種	法量 cm	調　整	色　調	依　存　度	備　考
1	土師器 坏	口径　14.2 器高　6.3 底径　－	体部外面ヘラケズリ後ミガキ、内面ミガキ。	褐		
2	土師器 甕	口径　(14.4) 器高　5.5 底径　－	口縁部ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ所々ミガキ、内面ヘラケズリ。	黄淡褐	口縁～口辺部1/5	
3	土師器 甕	口径　(15.4) 器高　<12.0> 底径　－	口縁部ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ所々ミガキ、内面ナデ。	暗褐	口縁～胴上部1/4	

番号	種類	法　量	依　存　度	備　考
4	土製品 不明	残存長　8.7cm　残存幅　5.4cm　重量　192.8g		
5	石製品 滑石	長さ　4.6cm　幅　2.4cm　厚さ　0.4cm　重量　5.6g		未成品

H－００３（第82図・図版63）

調査区中央部，17U-69・78・79・89，17V-60・70・80グリッドに位置する。K－011号の外周に一部を破壊される。遺存度は不良である。規模は588cm（南北　推定）を測り，形状は方形を呈する。

覆土は，存在しない。

床面は削平されていて主柱穴，貯蔵穴，炉，周溝の一部のみ検出。周溝は南西コーナー部分と北壁部分のみ残存して，幅20cm，深さ5.8cmを測る。ピットは床面に5箇所検出された。主柱穴はP-1（径42m×42cm，深さ83cm）・P-2（径106cm×102cm，深さ78cm）・P-3（径36cm×34cm，深さ72cm）・P-4（径50cm×46cm，深さ80cm）の4本検出された。南西コーナーに存在する長方形のピットは貯蔵穴と思われ，長軸96cm×短軸60cm，深さ40cmを測る。炉はP-1とP-2の間の床面に付設されよく焼けている。

本跡から出土した4点を図示した。

H－００４（第83・84図・図版21・63・64・67）

調査区中央部，17U-71・72・73・82・83・92・93グリッドに位置する。８号墳の外周に一部を破壊される。遺存度は不良である。規模は780cm×825cm を測り，形状は方形を呈する。

覆土は，人為的堆積の暗褐色土の単一土層。

床面は中央部に硬化面が認められる。壁高は南東部で約45.5cmを測る。周溝は北西部分を除き全周し，幅18cm，深さ3cmを測る。ピットは床面に7箇所検出された。主柱穴はP-1（径30cm×30cm，深さ60cm）・P-2（径45cm×35cm，深さ70cm）・P-3（径40cm×34cm，深さ38.7cm）・P-4（径30cm×24cm，深さ8cm）4本検出され，他にも補助柱穴P-5（径20cm×16cm，深さ39cm）・P-6（径38cm×30cm，深さ8cm）2本検出された。南西コーナーに存在する長方形のピットは貯蔵穴と思われ，長軸118cm×短軸82cm，深さ18.6cmを測る。

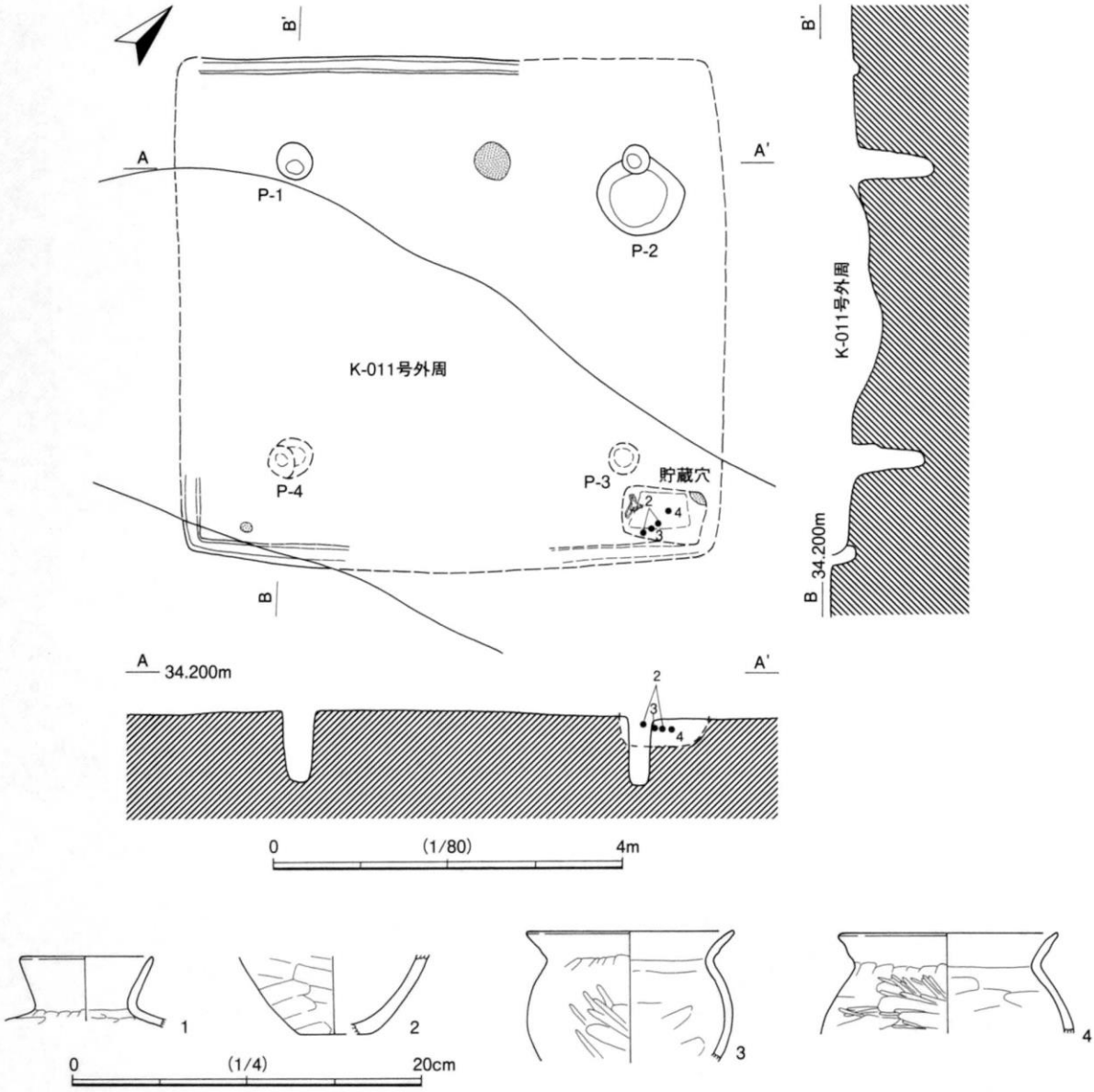
本跡から出土した20点を図示した。

H－００５（第85・86・87図・図版21・22・23・64・68）

調査区北西部，16U-43・52・53・54・62・63・64・65・73・74グリッドに位置する。単独で検出された。遺存度は良好である。規模は830cm×810cm を測り，形状は方形を呈する。

覆土は，人為堆積で9層に分層される。

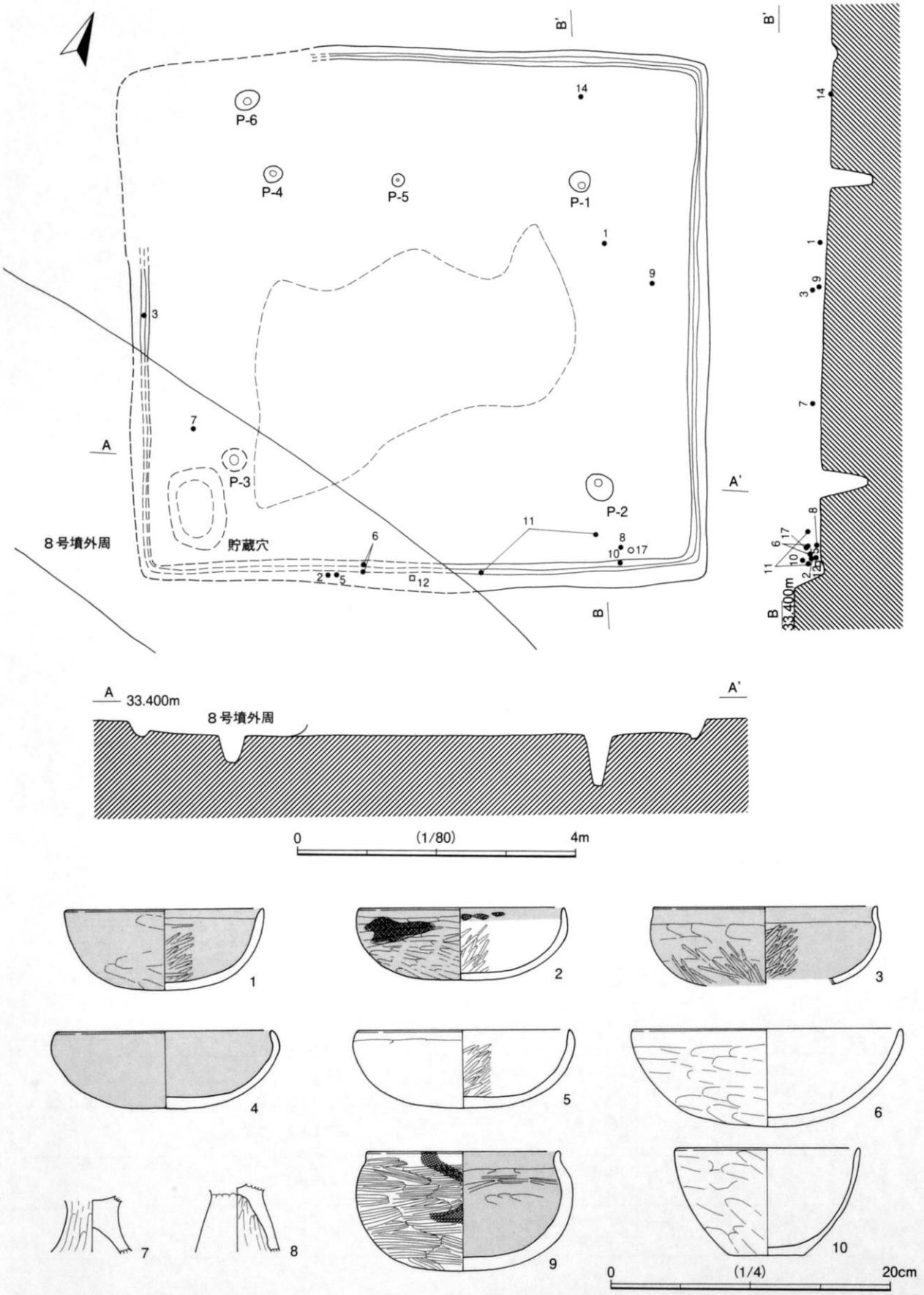
床面は床面は比較的堅緻な平坦面である。壁高は南西部付近で約50cmを測る。周溝は東壁部分を除き全周し，幅24cm，深さ5cmを測る。ピットは床面に6箇所検出された。主柱穴はP-1（径46cm×36cm，深さ



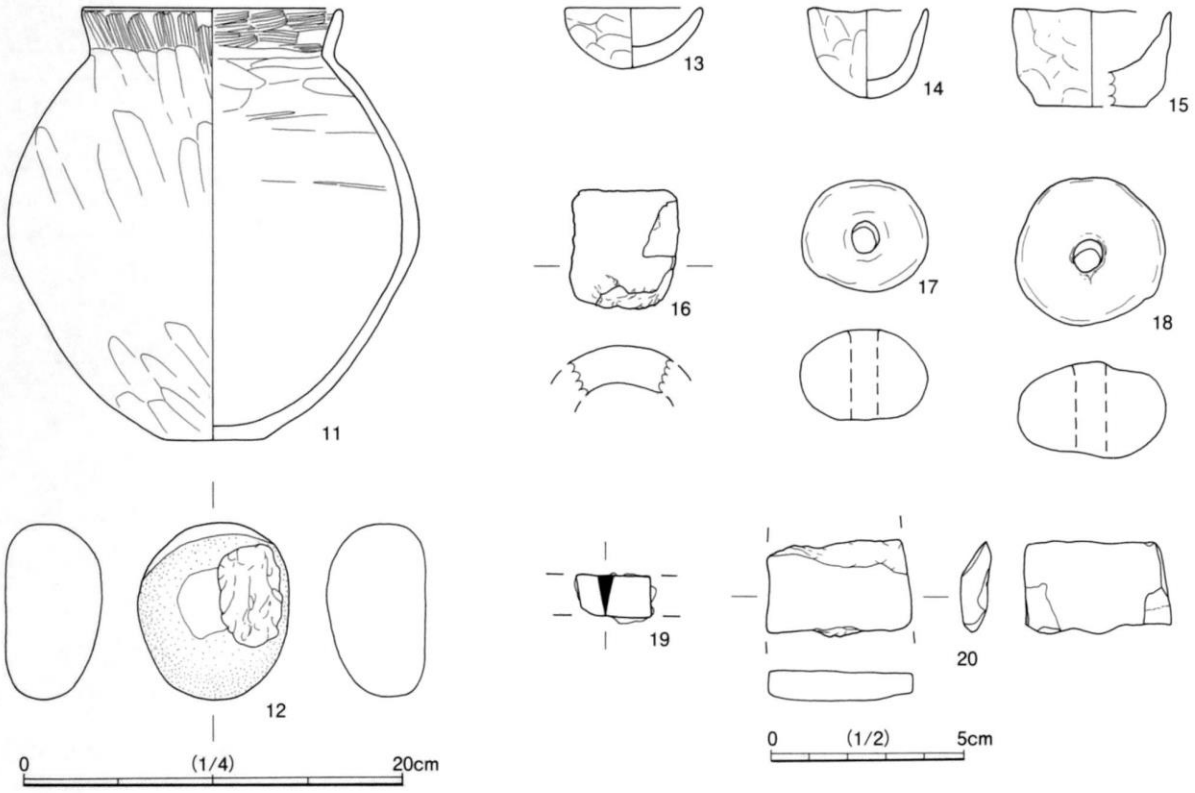
第82図　H-003実測図・出土遺物

H－003出土遺物観察表

番号	器種	法量　cm	調　整	色　調	依　存　度	備　考
1	土師器 小甕	口径　(7.6) 器高　<3.7> 底径　－	口縁部ヨコナデ。胴部内外面ナデ。	明褐	口縁部1/3	
2	土師器 小甕	口径　－ 器高　<4.5> 底径　(4.0)	胴部外面ヘラケズリ、内面ナデ。	褐	底辺部1/3　底部1/5	
3	土師器 小甕	口径　(12.0) 器高　<7.5> 底径　－	口縁部ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ、内面ナデ。	褐	口縁～胴上部1/6	
4	土師器 甕	口径　(12.6) 器高　<5.8> 底径　－	口縁部ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ所々ミガキ、内面ナデ。	褐	口縁1/4　胴上部1/2	



第83図　H-004実測図・出土遺物（1）



第84図　H-004出土遺物（2）

H－004出土遺物観察表

番号	器種	法量　cm	調　整	色　調	依　存　度	備　考
1	土師器 坏	口径　(14.3) 器高　5.8 底径　－	体部外面ヘラケズリ後ナデ、内面ミガキ。	赤彩	1/2	内外面赤彩
2	土師器 坏	口径　(14.8) 器高　5.2 底径　－	口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ、内面ミガキ。	赤彩	4/5	外面赤彩 内外面タール状付着物アリ
3	土師器 坏	口径　(16.0) 器高　<5.6> 底径　－	口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ後ミガキ、内面ミガキ。	赤彩	体部1/4	内外面赤彩
4	土師器 坏	口径　(15.4) 器高　5.5 底径　－	体部内外面ナデ。	赤彩	1/4	内外面赤彩
5	土師器 坏	口径　15.0 器高　5.6 底径　－	口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ後ナデ、内面ミガキ。	明褐	3/4	
6	土師器 大型坏	口径　19.2 器高　7.0 底径　－	口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラナデ、内面ナデ。	明褐	完形	外面黒斑アリ
7	土師器 高坏	口径　－ 器高　<3.7> 底径　－	脚部外面ヘラケズリ、内面ナデ。	黄明褐	脚部上部	
8	土師器 高坏	口径　－ 器高　<4.5> 底径　－	脚部外面ナデ、内面ヘラケズリ。	明褐	脚部上部	
9	土師器 わん	口径　13.9 器高　8.5 底径　－	口縁部外面ヨコナデ。体部外面ハケ目、内面ナデ。	赤彩	完形	内面赤彩　外面タール状付着物アリ
10	土師器 わん	口径　(13.2) 器高　7.6 底径　5.4	体部外面ヘラケズリ、内面ナデ。	明褐	体部1/3　底部完存	
11	土師器 甕	口径　(13.7) 器高　22.8 底径　5.1	口縁部ハケ目。胴部外面ヘラナデ、内面ナデ。	明褐	口縁部1/4　胴部1/3 底部3/4	

番号	種類	法　　量	依　存　度	備　　考
12	石 磨石	長さ　9.2cm　幅　8.0cm　厚さ　5.2cm　重量　607.1g		剥落部分・磨り跡アリ

番号	器種	法量　cm	調　　整	色　調	依　存　度	備　　考
13	土師器 ミニチュア	口径　3.6 器高　1.6 底径　－	体部外面指頭痕、内面ナデ。	明褐	完形	
14	土師器 ミニチュア	口径　3.2 器高　2.4 底径　－	体部外面指頭痕、内面ナデ。	明褐	完形	
15	土師器 手捏	口径　(4.0) 器高　2.5 底径　－	体部外面指頭痕、内面ナデ。	褐	体部1/3　底部1/4	

番号	種類	法　　量	依　存　度	備　　考
16	土製品 羽口	残存長　3.1cm　幅　1.0cm　重量　12.7g		
17	土製品 土錘	外径　3.3×3.0cm　内径　0.9×0.75cm　厚さ　2.4cm　重量　22.9g		
18	土製品 土錘	外径　4.0×3.8cm　内径　0.8×0.8cm　厚さ　2.45cm　重量　38.8g		
19	鉄製品 鉄器	残存長　2.0cm　幅　1.1cm　厚さ　0.4cm　重量　2.6g		
20	石製品 砥石	残存長　2.5cm　幅　3.8cm　厚さ　0.7cm　重量　12.2g		3面使用

75cm）・P-2（径84cm×60cm，深さ78cm）・P-3（径65cm×54cm，深さ82cm）・P-4（径87cm×74cm，深さ100cm）4本検出された。炉と正対して位置するP-5は出入口施設に伴うピットで径154cm×72cm，深さ44cmを測る。南壁中央に存在する不正楕円形のピットは貯蔵穴と思われ，長軸190cm×短軸114cm，深さ24.3cmを測る。炉はP-1とP-2の間の床面に付設され，長径120cm×短径75cm，厚さ24cmを測る。

本跡から出土した16点を図示した。

H－006（第88図・図版68）

調査区南西部，18T-67グリッドに位置する。M－016と8号墳の内周に大半を破壊され，北東コーナー付近に貯蔵穴と思われるピットのみが検出された。遺存度は不良である。

覆土は，人為的堆積の暗褐色土の単一土層。

床面は軟弱。壁高は約20cmを測る。周溝は幅29cm，深さ3.8cmを測る。ピットは貯蔵穴が床面に1箇所検出され，長軸88cm×短軸82cm，深さ24.8cmを測る。

本跡から出土した3点を図示した。

H－007（第89・90図・図版23・64・65・68・71）

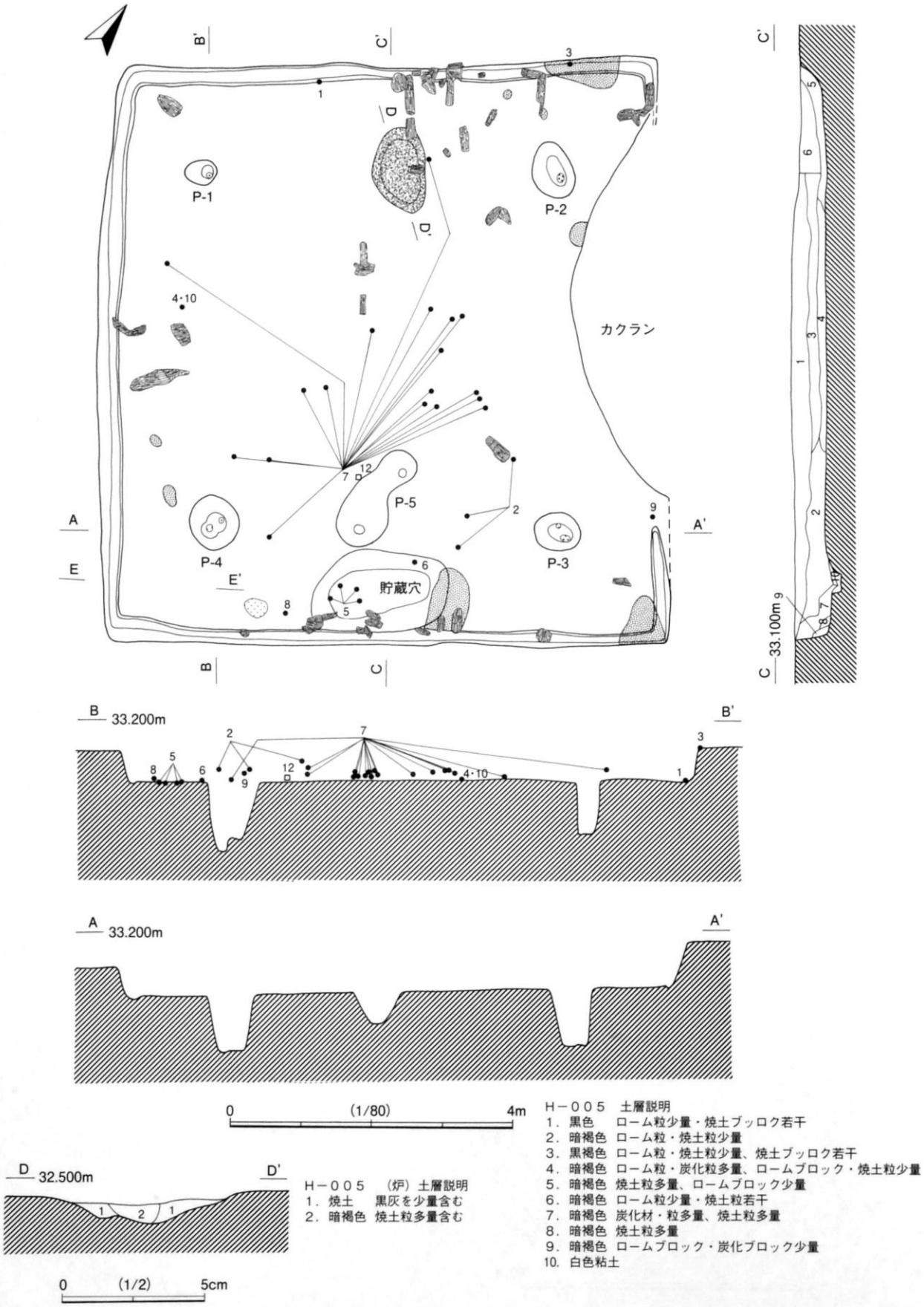
調査区南西部，18T-38・47・48・49・57・58・59グリッドに位置する。M－017に一部を破壊される。遺存度は良好である。規模は660m×670cm を測り，形状は方形を呈する。

覆土は，人為堆積で5層に分層される。

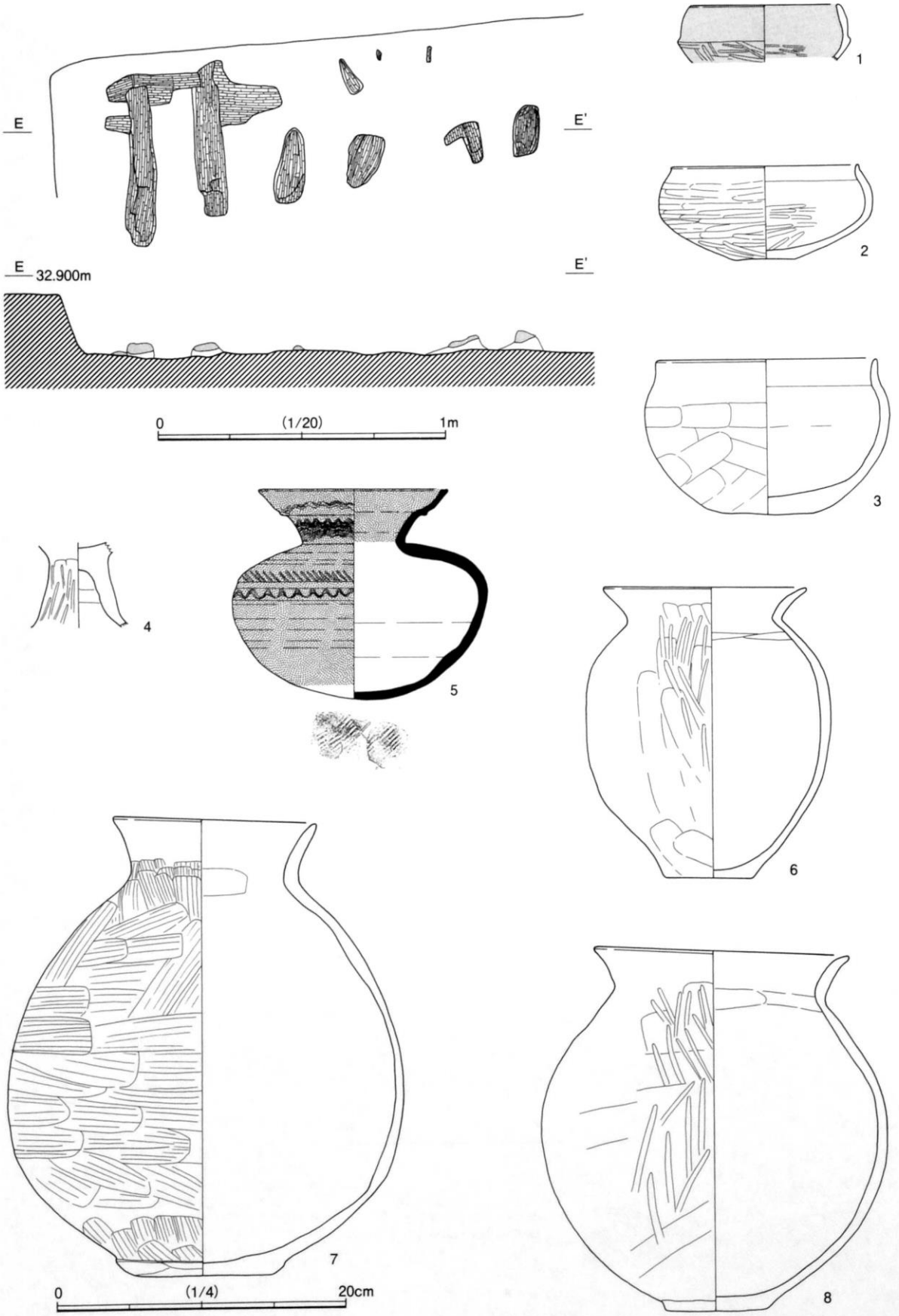
床面は堅緻で硬化面が全面的に広がる。壁高は約30cmを測る。周溝は全周し，幅35cm，深さ9.cmを測る。ピットは床面に5箇所検出された。主柱穴はP-1（径48cm×46cm，深さ92cm）・P-2（径40cm×42cm，深さ92.4cm）・P-3（径44cm×40cm，深さ89.3cm）・P-4（径52cm×44cm，深さ89.6cm）4本検出された。南西コーナーに存在する隅丸方形のピットは貯蔵穴と思われ，長軸90cm×短軸85cm，深さ45.9cmを測る。炉はP-1とP-2の間の床面に付設され，長径72cm×短径54cm，厚さ5cmを測る。

覆土下層から多量の焼土と炭化材を検出したため，焼失家屋と思われる。

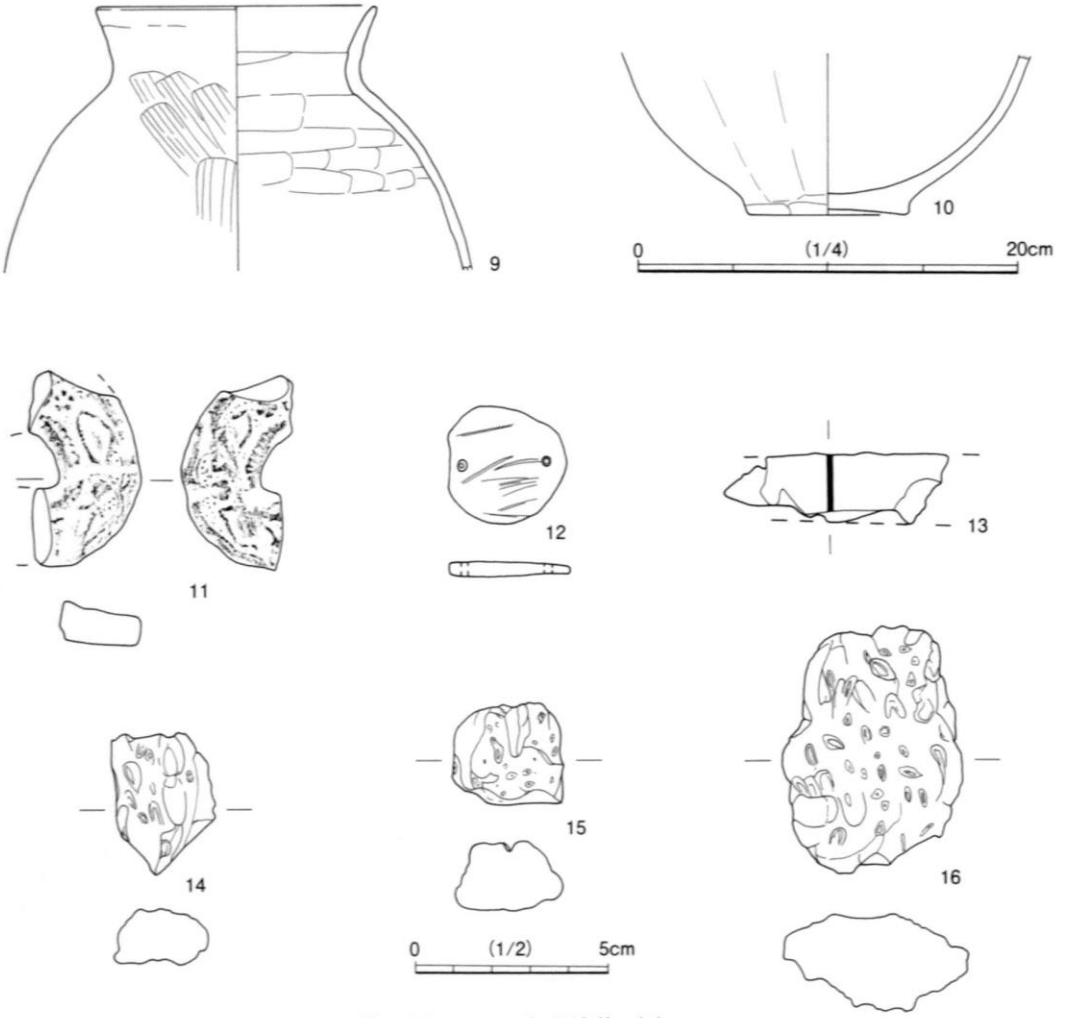
本跡から出土した17点を図示した。



第85図　H-005実測図・炉断面図



第86図　H-005炭化物出土状況図・出土遺物（1）

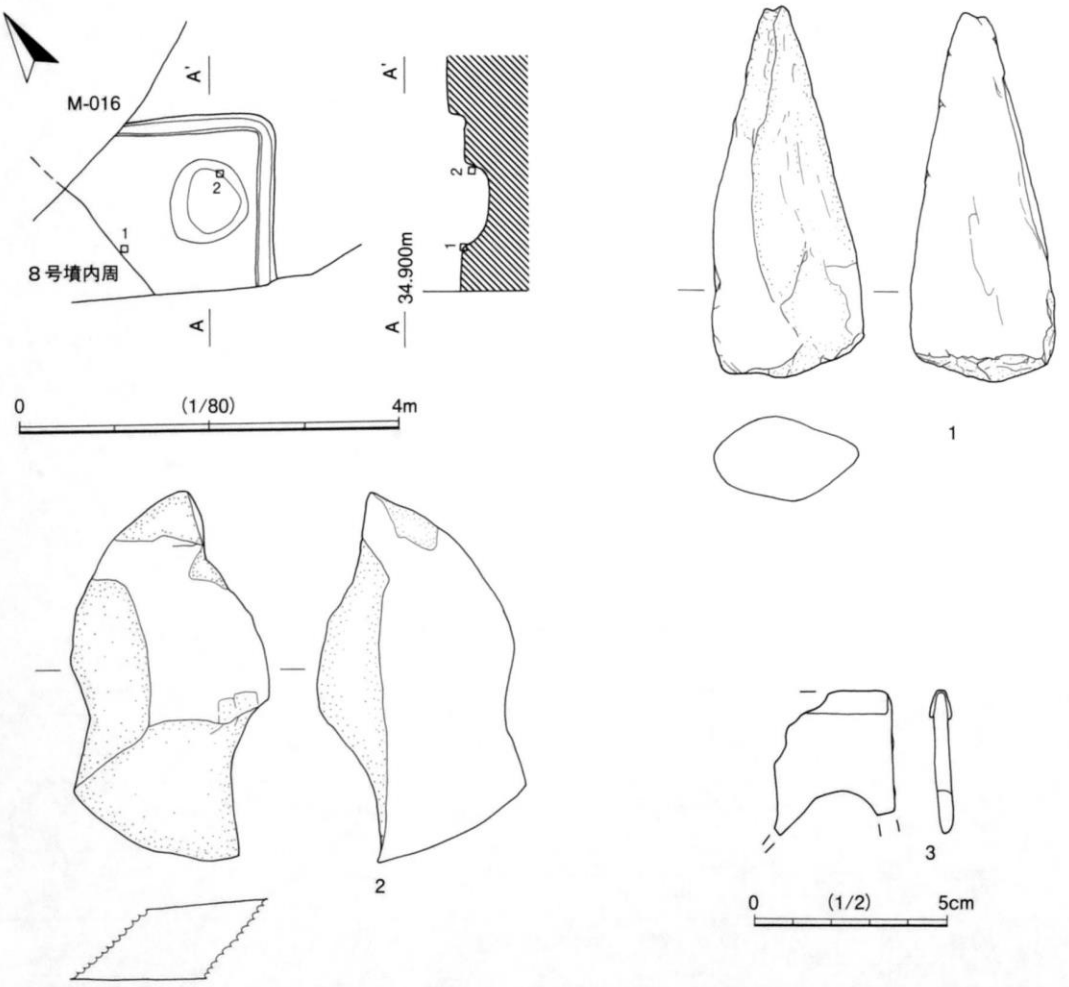


第87図　H-005出土遺物（2）

H－005出土遺物観察表

番号	器種	法量 cm	調整	色調	依存度	備考
1	土師器 坏	口径 (10.2) 器高 <4.0> 底径 －	口縁部ナデ。体部内外面ミガキ。	赤彩	口縁～体部	内外面一部赤彩
2	土師器 坏	口径 13.0 器高 6.5 底径 4.0	口縁部内面ナデ。体部内外面ミガキ。	明褐	口縁～体部1/2　底部一部	
3	土師器 鉢	口径 15.4 器高 10.8 底径 6.4	口縁部ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ、内面ナデ。	暗褐	口縁～体部1/4　底部3/4	
4	土師器 高坏	口径 － 器高 <6.0> 底径 －	脚部外面ミガキ、内面ヘラケズリ。	明褐	脚部上部	
5	須恵器 壺	口径 13.2 器高 14.6 底径 －	口縁部外面波状文、内面ロクロ。胴部内外面ロクロ。	暗灰	口縁1/4弱　頸部完存 胴部1/2　底部完存	外面全体・口縁～頸部内面釉 胴部外面櫛描・波状文アリ
6	土師器 甕	口径 14.2 器高 20.3 底径 6.0	口縁ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ後ミガキ、内面ナデ。	明褐	口縁・胴下端部一部欠損　底部完存	
7	土師器 甕	口径 14.2 器高 31.6 底径 10.0	口縁ヨコナデ。胴部外面ヘラ先痕、内面ナデ。	明褐	口縁～胴部3/4　底部完存	外面輪積み痕アリ
8	土師器 甕	口径 17.6 器高 25.0 底径 6.8	口縁ヨコナデ。胴部外面ミガキ、内面ナデ。	明褐	完形	
9	土師器 甕	口径 14.8 器高 <14.0> 底径 －	口縁ヨコナデ。胴部外面ヘラ先痕、内面ヘラケズリ。	明褐	口縁完存　胴上半部1/2	外面黒斑アリ　内面所々剥落している
10	土師器 甕	口径 － 器高 <8.5> 底径 8.2	胴部内外面ナデ。	淡褐	底辺部1/3　底部完存	

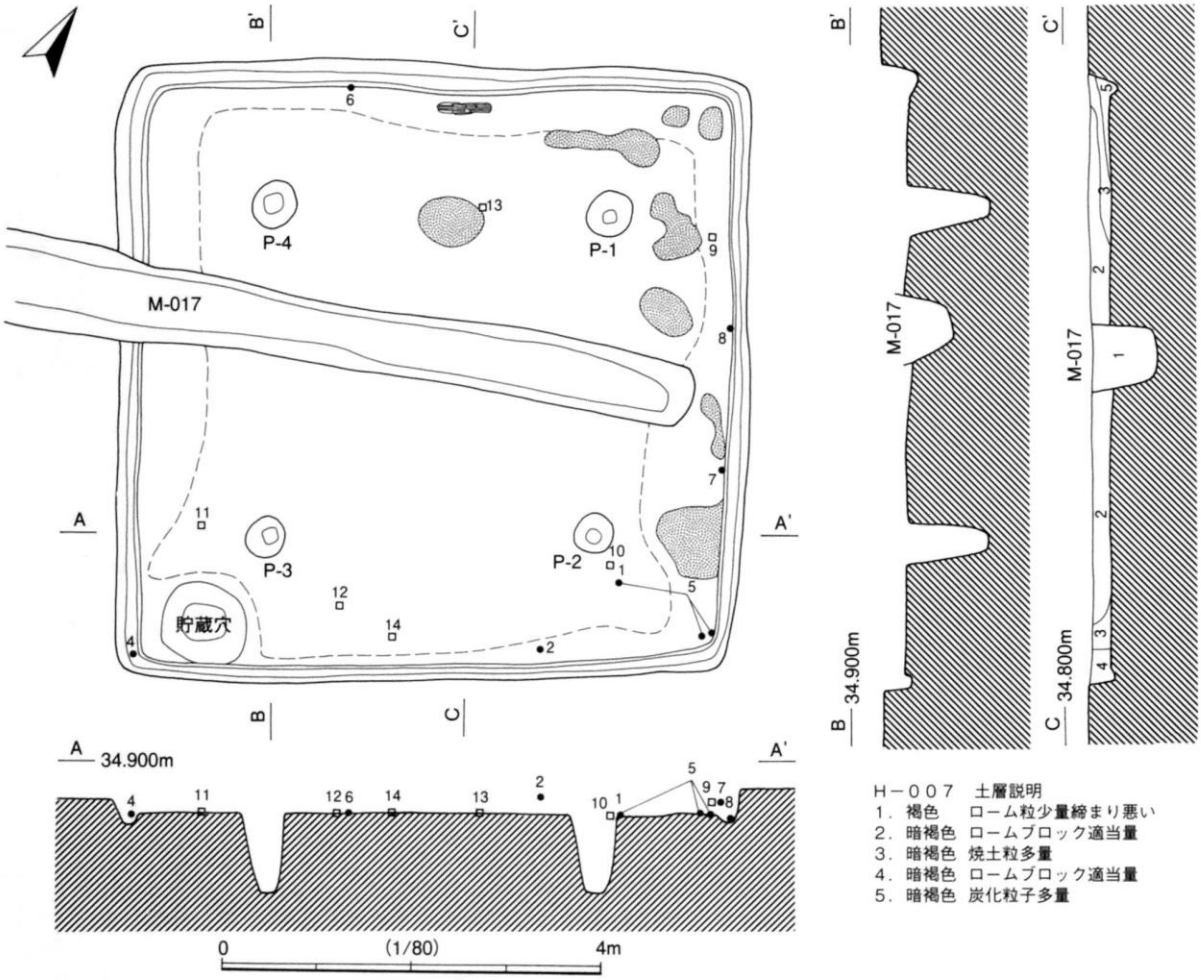
番号	種類	法　　量	依 存 度	備　　考
11	土製品 不明	残存長　5.2cm　幅　2.0cm　厚さ　1.2cm　重量　14.4g		
12	石製模造品 鏡	長さ　3.2cm　幅　3.2cm　厚さ　0.4cm　重量　6.6g		孔２個アリ（0.2cm）
13	鉄製品 不明	残存長　6.0cm　幅　（測定不能）　厚さ　0.5cm　重量　2.7g		
14	石 軽石	長さ　3.7cm　幅　2.8cm　厚さ　1.5cm　重量　5.1g		
15	石 軽石	長さ　2.8cm　幅　2.9cm　厚さ　1.8cm　重量　4.3g		
16	石 軽石	長さ　6.5cm　幅　4.8cm　厚さ　2.7cm　重量　38.6g		



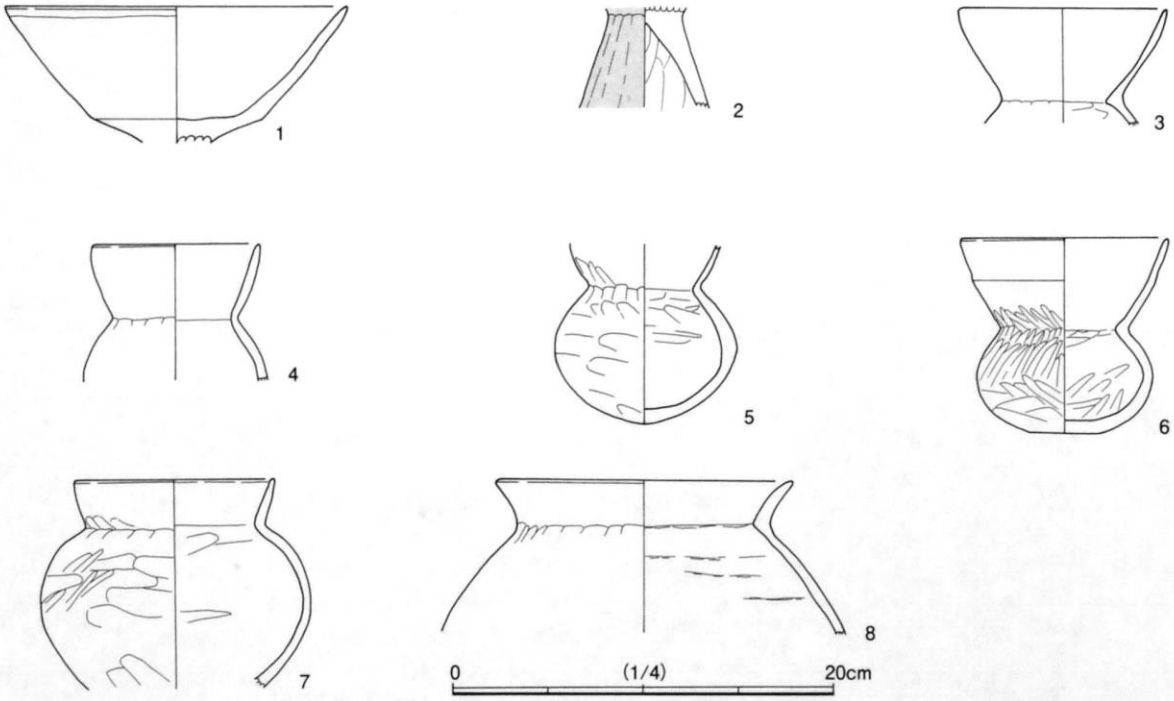
第88図　H-006実測図・出土遺物

H－006出土遺物観察表

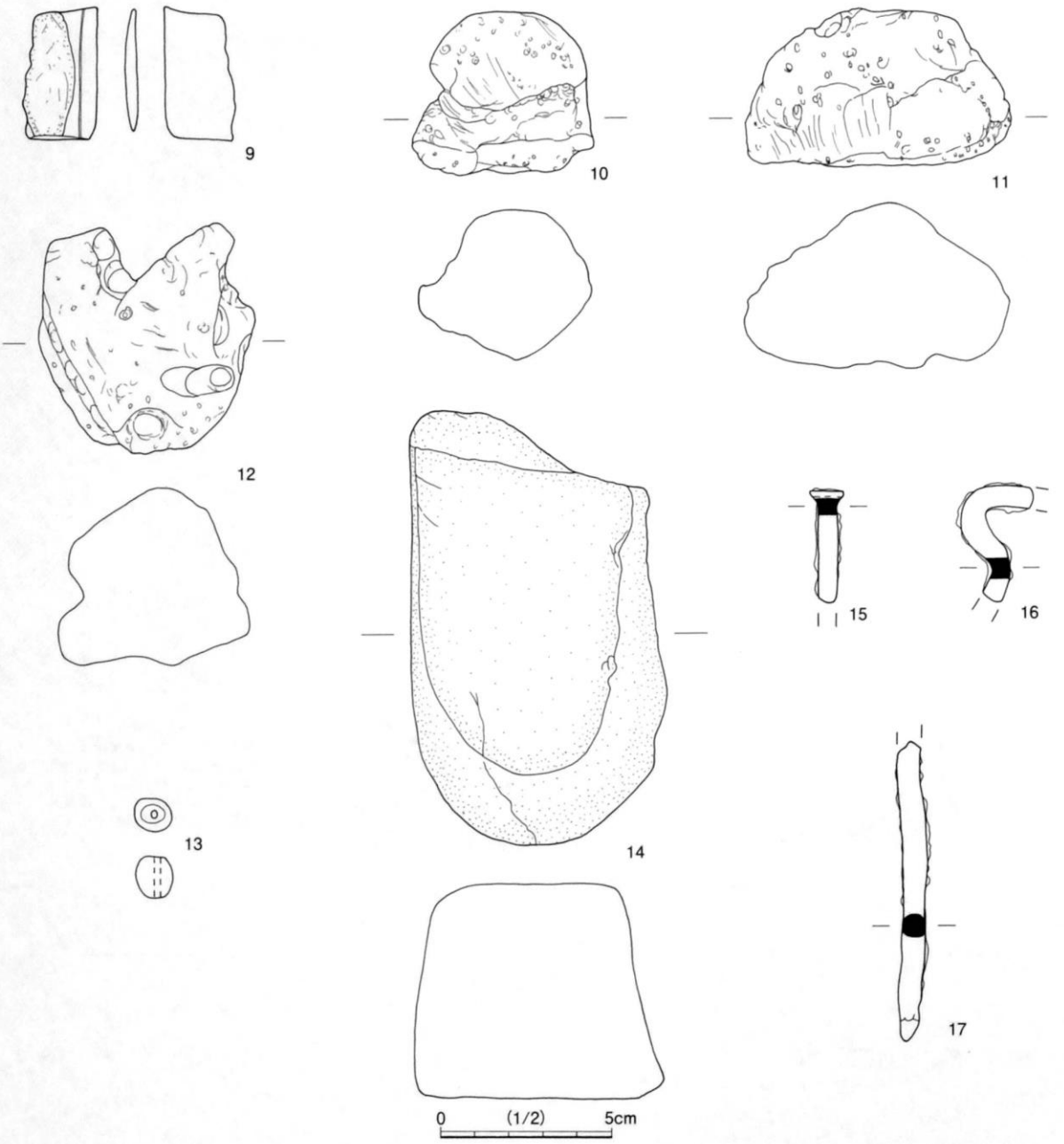
番号	種類	法　　量	依 存 度	備　　考
1	石製品 砥石	残存長　9.7cm　幅　4.0cm　厚さ　2.1cm 重量　77.1g		２面使用
2	石製品 砥石	残存長　9.8cm　幅　5.1cm　厚さ　2.1cm 重量　94.1g		２面使用
3	鉄製品 不明	残存長　3.8cm　幅　3.1cm　厚さ　0.4cm 重量　9.8g		



H－００７　土層説明
1．褐色　ローム粒少量締まり悪い
2．暗褐色　ロームブロック適当量
3．暗褐色　焼土粒多量
4．暗褐色　ロームブロック適当量
5．暗褐色　炭化粒子多量



第89図　H-007実測図・出土遺物（1）



第90図　H-007出土遺物（2）

H－007出土遺物観察表

番号	器種	法量　cm	調　整	色　調	依存度	備　考
1	土師器 高坏	口径　18.0 器高　<7.3> 底径　－	口縁部外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	明褐	坏部5/6	
2	土師器 高坏	口径　－ 器高　<5.3> 底径　－	脚部外面ナデ、内面ヘラケズリ。	赤彩	脚部上部	外面赤彩
3	土師器 坩	口径　(10.9) 器高　<6.0> 底径　－	口縁部ナデ。胴部内外面ナデ。	明褐	口縁1/2	
4	土師器 坩	口径　(8.9) 器高　<7.2> 底径　－	口縁部ナデ。胴部内外面ナデ。	明褐	口縁1/2　口辺部1/4	
5	土師器 坩	口径　－ 器高　<8.4> 底径　－	口縁部ヨコナデ。胴部外面ヘラナデ、内面ナデ。	明褐	底部1/2欠損	底部外面黒班アリ
6	土師器 坩	口径　(10.8) 器高　10.2 底径　3.5	口縁部ナデ。胴部外面ヘラミガキ、内面ナデ。	暗褐	口縁1/2　胴部～底部完存	胴部内面剥落している

番号	器種	法量 cm	調整	色調	依存度	備考
7	土師器 小甕	口径 (10.5) 器高 <11.0> 底径 －	口縁部ヨコナデ。胴部外面ヘラナデ、内面ナデ。	褐	口縁1/8 胴部1/3	胴部内面剥落している
8	土師器 甕	口径 15.6 器高 <8.0> 底径 －	口縁部ヨコナデ。胴部内外面ナデ。	橙褐	口縁部完存 口辺部1/4	胴部内面輪積み痕アリ

番号	種類	法量	依存度	備考
9	石製品 砥石	残存長 3.9cm 幅 2.1cm 厚さ 0.3cm 重量 6.2g		3面使用
10	石製品 軽石	長さ 5.2cm 幅 4.8cm 厚さ 4.4cm 重量 16.9g		
11	石製品 軽石	長さ 7.9cm 幅 4.7cm 厚さ 4.8cm 重量 28.7g		
12	石製品 軽石	長さ 6.8cm 幅 5.7cm 厚さ 5.2cm 重量 32.4g		
13	石製品 玉	外径 1.1×1.0cm 長さ 1.1cm 厚さ 0.7cm 重量 2.0g		孔径(0.2cm)
14	石 台石	長さ 12.9cm 幅 7.4cm 厚さ 6.4cm 重量 888.4g		
15	鉄製品 釘	残存長 3.3cm 幅 0.5cm 厚さ 0.5cm 重量 3.9g		
16	鉄製品 釘	残存長 3.5cm 幅 0.3cm 厚さ 0.5cm 重量 7.6g		
17	鉄製品 釘	残存長 8.9cm 幅 0.6cm 厚さ 0.65cm 重量 15.3g		

H－００８（第91図・図版23・65）

調査区南部，18U-50・51・60・61・62グリッドに位置する。遺構の約３分の２は調査区域外に存在する。遺存度は不良である。規模は690m（東西推定）を測り，形状は方形を呈すると思われる。

覆土は，人為堆積で７層に分層される。

床面は，検出できた部分においては硬化面が広く存在している。壁高はセクションの観察によれば約40cmを測る。周溝は，幅20cm，深さ8.5cmを測る。ピットは床面に5箇所検出された。主柱穴はP-１（径45cm×44cm，深さ61cm）・P-2（径44cm×44cm，深さ74cm）2本検出された。P-3（径42cm×41cm，深さ24.6cm）・P-4（径30cm×30cm，深さ23cm）は補助柱穴と思われる。北西コーナーに存在するピットは貯蔵穴と思われる。炉はP-１とP-2の間の床面に付設され，長径74cm×短径54cm，厚さ2cmを測る。

本跡から出土した3点を図示した。

H－００９（第92・93・94・95図・図版24・25・65・66・68・69・71）

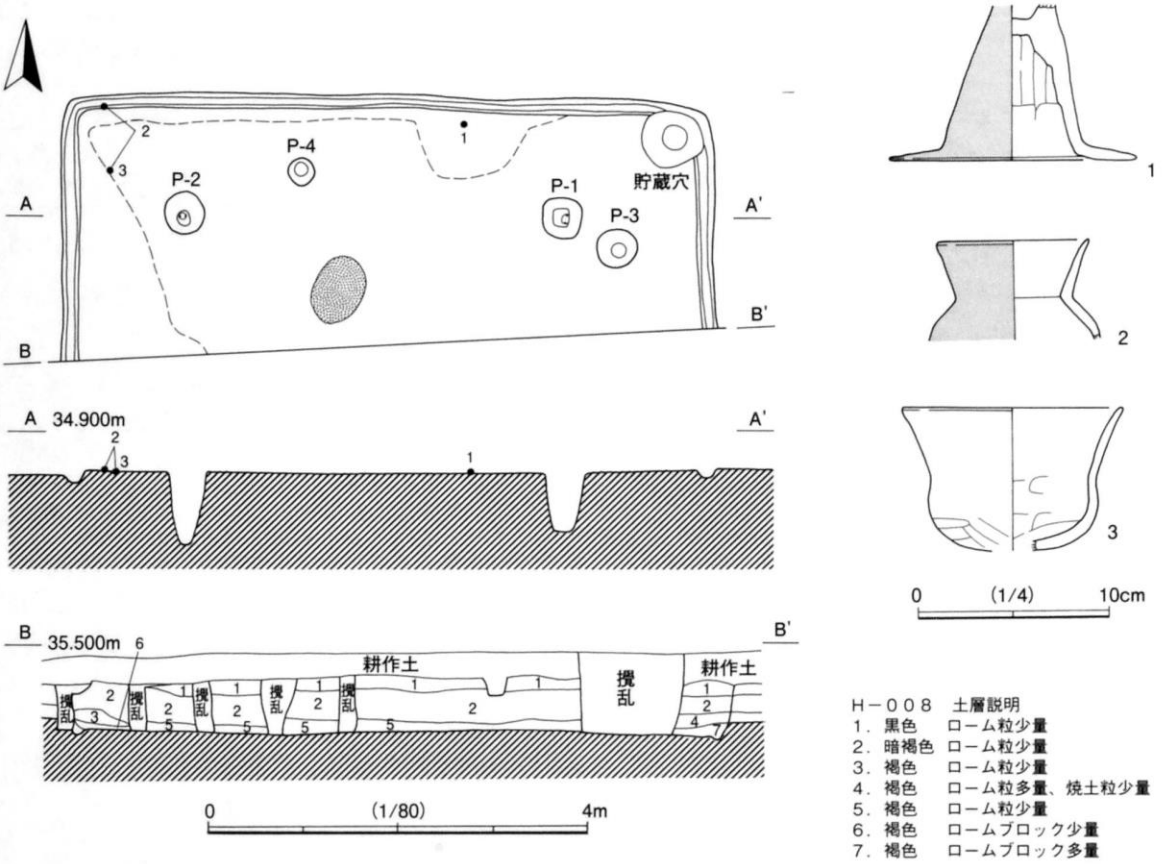
調査区南西部，18U-31・32・33・41・42・43・51・52グリッドに位置する。単独で検出された。遺存度は良好である。規模は730cm×740cm を測り，形状は方形を呈する。

覆土は，人為堆積で7層に分層される。

床面は堅緻で主柱穴の内側が硬化している。壁高は北西部で約31.6cmを測る。周溝は全周し，幅20cm，深さ4cmを測る。ピットは床面に11箇所検出された。主柱穴はP-１（径36m×34cm，深さ60.5cm）・P-2（径35cm×40cm，深さ100cm）・P-3（径34cm×32cm，深さ94cm）・P-4（径37cm×27cm，深さ93cm）4本検出された。炉と正対して位置するP-5は出入口施設に伴うピットで径36cm×29cm，深さ11cmを測る。南東コーナーの長方形のピットは貯蔵穴と思われ，長軸120cm×短軸90cm，深さ26.3cmを測る。炉はP-１とP-2の間の西よりの床面に付設され，長径70cm×短径54cm，厚さ17.4cmを測る。

炉と正対して位置するP-5に近接して平面コ字形の土手状の盛り上がりがみられる。

本跡から出土した49点を図示した。



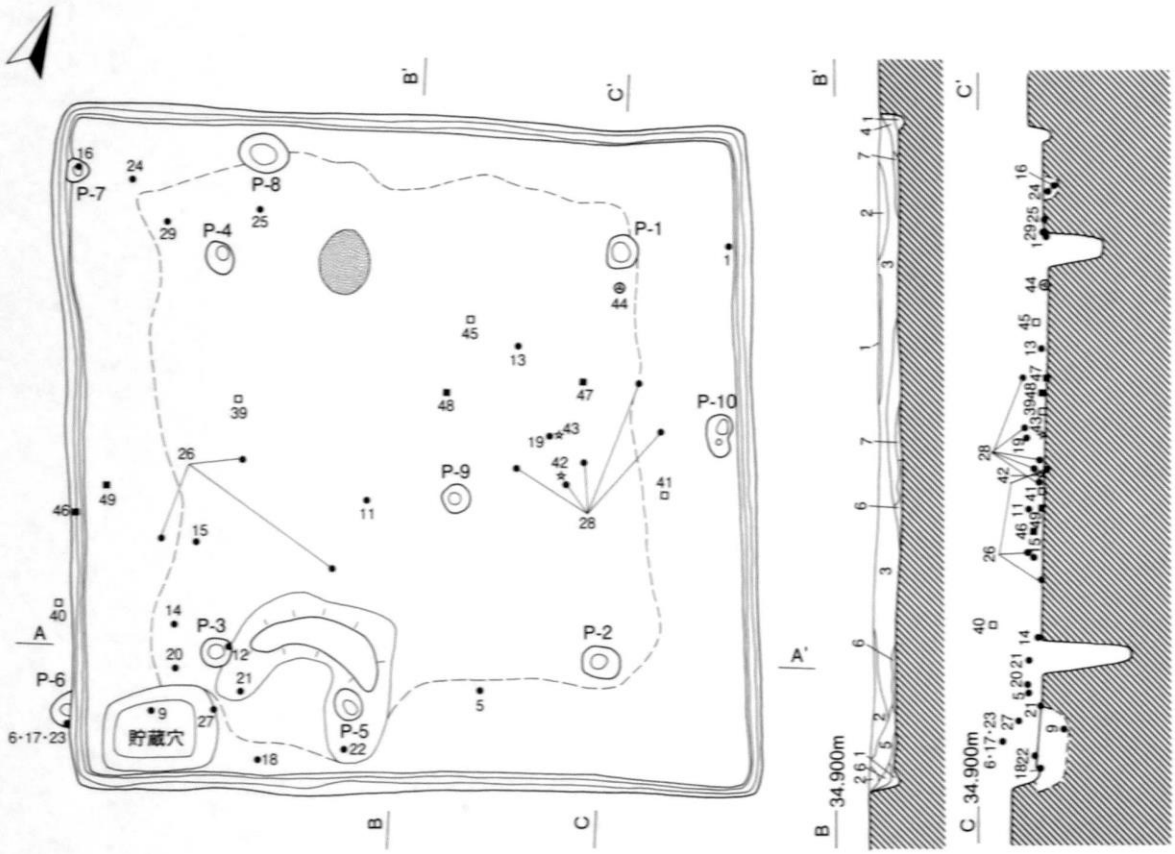
第91図 H-008実測図・出土遺物

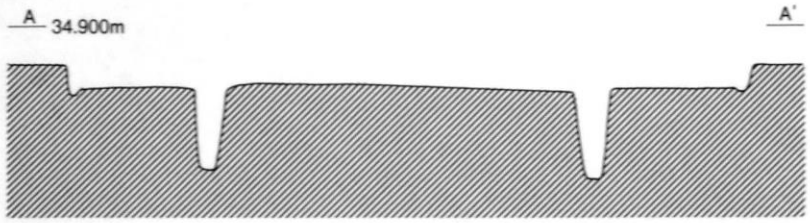
H－008出土遺物観察表

番号	器種	法量 cm	調整	色調	依存度	備考
1	土師器 高坏	口径 － 器高 <8.2> 底径 13.0	脚部外面ヘラナデ、内面ヘラケズリ。	赤彩	脚部ほぼ完存 裾部一部欠損	脚部外面赤彩
2	土師器 坩	口径 8.0 器高 <5.2> 底径 －	内外面ナデ。	赤彩	口縁完存 胴部上半部1/5	外面赤彩
3	土師器 高坏	口径 11.6 器高 <7.6> 底径 －	口縁部ナデ。胴部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。	淡褐	口縁～底部1/4	

H－009出土遺物観察表

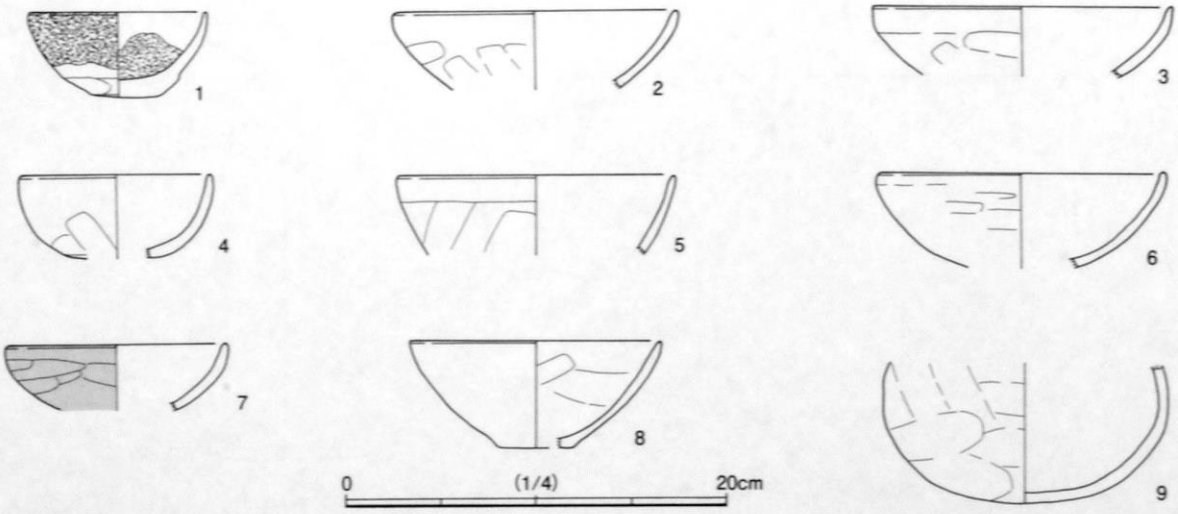
番号	器種	法量 cm	調整	色調	依存度	備考
1	土師器 坏	口径 9.4 器高 4.6 底径 3.6	口縁部ナデ。体部外面上部ナデ・下部ヘラケズリ、内面ナデ。	暗褐	ほぼ完形 口縁一部欠損	外面上部・内面スス付着
2	土師器 坏	口径 (15.0) 器高 <3.1> 底径 －	口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ後ナデ、内面ナデ。	明褐	口縁～体部1/4	
3	土師器 坏	口径 (15.6) 器高 <3.7> 底径 －	口縁部ナデ。体部外面ヘラナデ、内面ナデ。	暗褐	口縁～体部1/4	
4	土師器 坏	口径 (10.2) 器高 <4.4> 底径 －	体部外面ヘラケズリ後ナデ、内面ナデ。	暗褐	口縁～体部1/4	
5	土師器 坏	口径 (14.6) 器高 <4.1> 底径 －	口縁部ナデ。体部外面ヘラナデ、内面ナデ。	褐	口縁～口辺部1/4	
6	土師器 坏	口径 (15.0) 器高 <5.0> 底径 －	口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ後ナデ、内面ナデ。	暗褐	口縁～底部1/4	
7	土師器 坏	口径 (11.4) 器高 <5.5> 底径 －	口縁部ナデ。体部外面ヘラケズリ後ナデ、内面ナデ。	明褐	口縁～体部1/3	外面赤彩



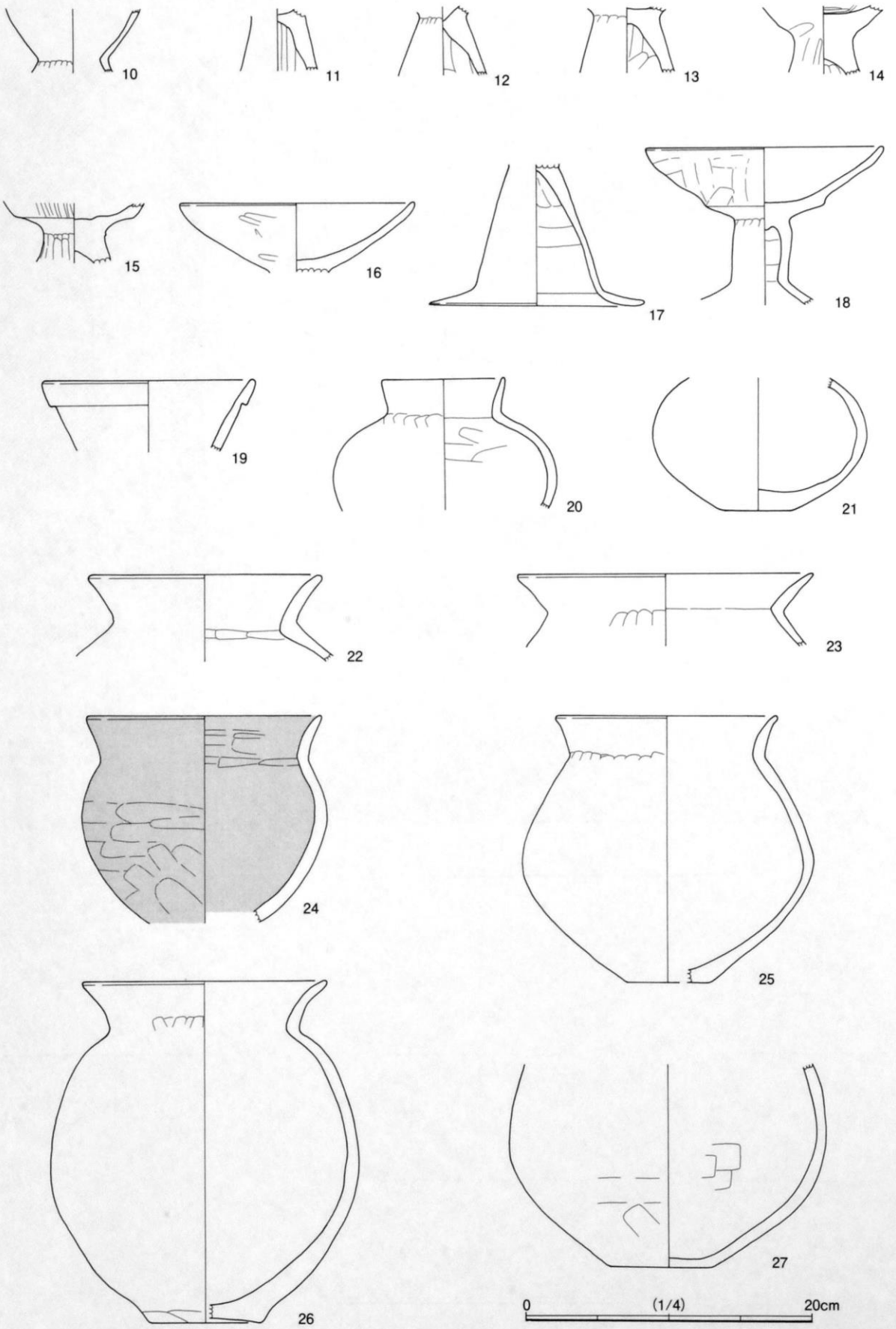


H－009　土層説明
1．ソフトローム　黒色土少量混入
2．黒色　ローム粒少量混入
3．黒色　ローム粒少量、炭化物混入
4．黒色　ローム粒少量、炭化物やや多く混入
5．ソフトローム　焼土・炭化物・黒色土混入
6．焼土
7．炭化物

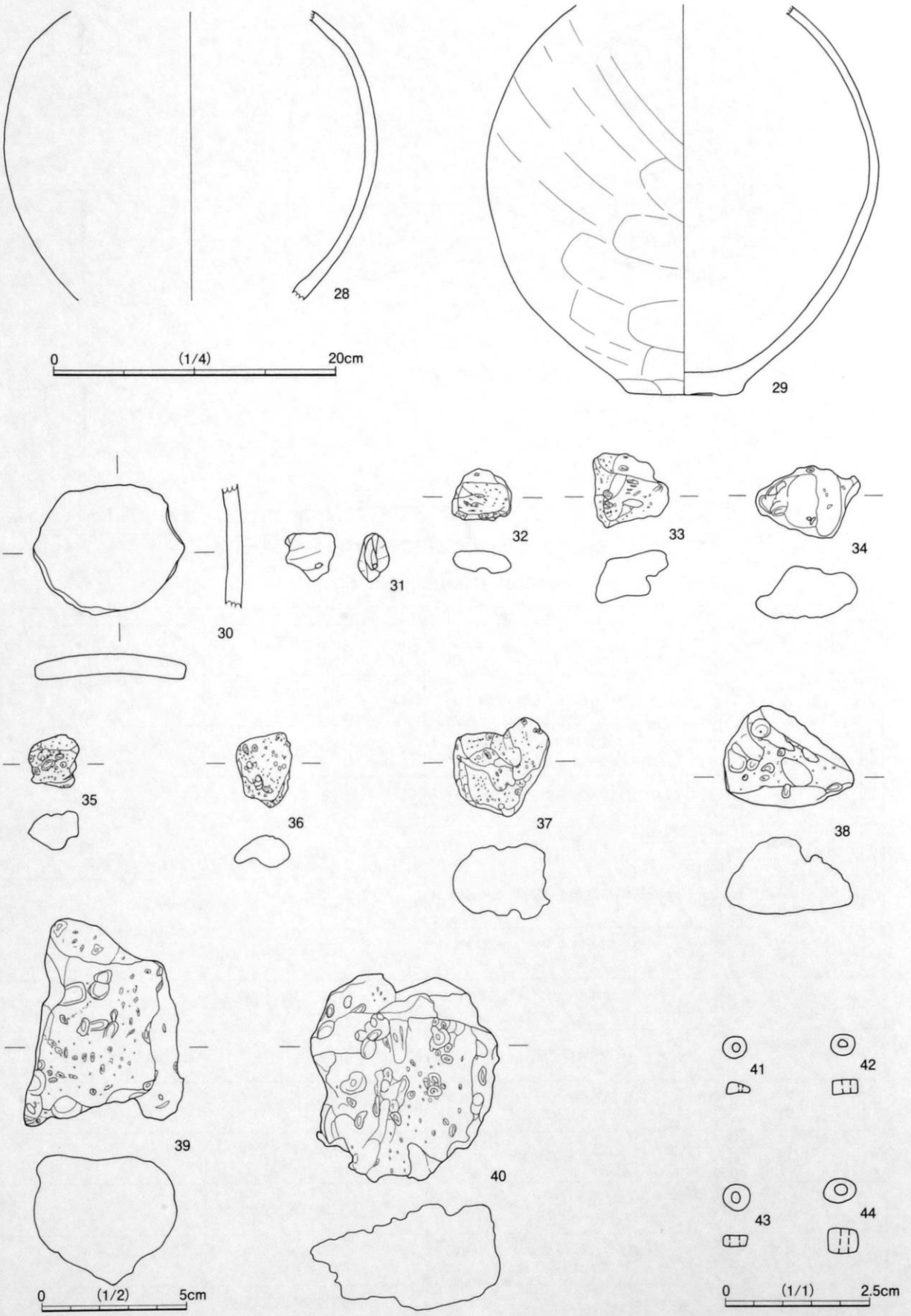
0　(1/80)　4m



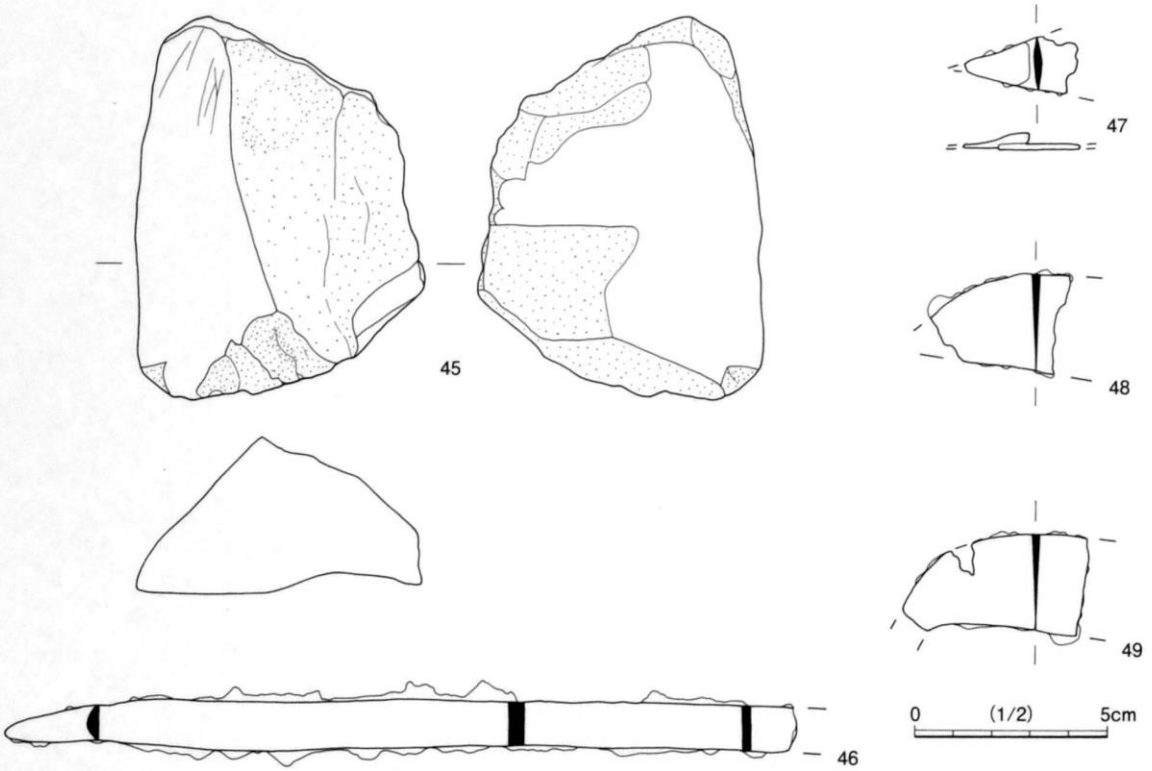
第92図　H-009実測図・出土遺物（1）



第93図　H-009出土遺物（2）



第94図　H-009出土遺物（3）



第95図　H-009出土遺物（4）

番号	器種	法量　cm	調　整	色　調	依存度	備　考
8	土師器 坏	口径　13.2 器高　5.6 底径　4.0	体部外面ナデ、内面ヘラナデ。	明褐	口縁～体部1/4　底部一部	
9	土師器 埦	口径　－ 器高　<7.3> 底径　－	体部外面ヘラナデ、内面ナデ。	暗褐	口縁部欠損　体部1/2　底部完存	
10	土師器 坩	口径　－ 器高　<4.5> 底径　－	口辺部外面ヘラナデ、内面ナデ。	褐	底辺部1/3	
11	土師器 高坏	口径　－ 器高　<4.4> 底径　－	脚部外面ナデ、内面ヘラケズリ。	暗褐	脚部片	
12	土師器 高坏	口径　－ 器高　<4.8> 底径　－	脚部外面ナデ、内面ヘラケズリ。	暗褐	脚部片	
13	土師器 高坏	口径　－ 器高　<4.6> 底径　－	脚部外面ナデ、内面ヘラケズリ。	褐	脚部片	
14	土師器 高坏	口径　－ 器高　<5.0> 底径　－	坏部内面ミガキ。脚部外面ナデ、内面ヘラケズリ。	褐	坏部底辺部～脚部片	
15	土師器 高坏	口径　－ 器高　<4.2> 底径　－	坏部外面ハケ目。脚部内外面ヘラケズリ。	褐	坏底辺部1/4　脚部上部一部	
16	土師器 高坏	口径　16.4 器高　<4.9> 底径　－	坏部内外面ナデ。	褐	坏部3/4	底部内面火をうけている
17	土師器 高坏	口径　－ 器高　<9.9> 底径　15.2	脚部外面ヘラナデ、内面ヘラケズリ。裾部ナデ。	明褐	脚部ほぼ完存	
18	土師器 高坏	口径　16.6 器高　<11.1> 底径　－	口縁部ヨコナデ。坏部内外面ヘラナデ。脚部外面ヘラナデ、内面ヘラケズリ。	明褐	坏部～脚部完存　裾部1/3	
19	土師器 壺	口径　(15.0) 器高　<5.0> 底径　－	口縁部ヨコナデ。口辺部内外面ナデ。	褐	口縁～胴上半部1/5	
20	土師器 壺	口径　－ 器高　<9.2> 底径　－	口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。胴部内外面ヘラナデ。	褐	口縁部ほぼ完存　胴部上部1/4	
21	土師器 壺	口径　－ 器高　<9.3> 底径　4.6	胴部外面ヘラナデ。	褐	口縁部欠損　胴部～底部ほぼ完存	

番号	器種	法量 cm	調　整	色　調	依　存　度	備　考
22	土師器 甕	口径　16.4 器高　<6.1> 底径　－	内外面ナデ。	淡褐	口縁～胴上半部完存	
23	土師器 甕	口径　20.6 器高　<5.0> 底径　－	口縁部ヨコナデ。胴上部ヘラケズリ後ナデ、内面ナデ。	褐	口縁～胴上半部1/2弱	
24	土師器 甕	口径　16.4 器高　<14.5> 底径　－	口縁部ヘラナデ。胴部外面ヘラナデ、内面ナデ。	赤彩	口縁部1/2　胴部ほぼ完存　底部欠損	内外面赤彩
25	土師器 甕	口径　15.4 器高　18.7 底径　(6.0)	口縁部ナデ。胴部外面ヘラナデ、内面ナデ。	暗褐	口縁～底辺部ほぼ完存　底部1/3	
26	土師器 甕	口径　17.0 器高　23.8 底径　7.6	口縁部ヨコナデ。胴部外面ヘラナデ、内面ナデ。	明褐	口縁部ほぼ完存　胴部～底部3/4	
27	土師器 甕	口径　－ 器高　<14.2> 底径　(6.0)	胴部内面ナデ。	褐	胴中央部～底部1/3	外面磨耗している
28	土師器 甕	口径　－ 器高　<20.5> 底径　－	胴部内外面ナデ。	暗褐	胴部3/4	
29	土師器 甕	口径　－ 器高　<27.6> 底径　8.0	胴部外面ヘラナデ、内面ナデ。	明褐	胴上部～底部ほぼ完存	内面剥落している

番号	種類	法　量	依　存　度	備　考
30	土製品 土錘	残存長　4.6cm　幅　5.3cm　厚さ　1.0cm　重量　18.7g		
31	土製品 不明	残存長　1.7cm　残存幅　1.8cm　厚さ　1.1cm　重量　2.6g		孔２個アリ（0.2cm）
32	石 軽石	長さ　1.9cm　幅　2.1cm　厚さ　0.9cm　重量　1.0g		
33	石 軽石	長さ　2.7cm　幅　2.6cm　厚さ　1.8cm　重量　1.8g		
34	石 軽石	長さ　2.5cm　幅　3.7cm　厚さ　1.8cm　重量　2.4g		
35	石 軽石	長さ　1.8cm　幅　1.7cm　厚さ　1.4cm　重量　1.2g		
36	石 軽石	長さ　2.6cm　幅　1.9cm　厚さ　1.1cm　重量　1.5g		
37	石 軽石	長さ　3.5cm　幅　3.4cm　厚さ　2.7cm　重量　8.9g		
38	石 軽石	長さ　3.5cm　幅　4.6cm　厚さ　2.7cm　重量　10.6g		
39	石 軽石	長さ　7.3cm　幅　5.7cm　厚さ　4.6cm　重量　47.9g		
40	石 軽石	長さ　7.5cm　幅　6.7cm　厚さ　3.8cm　重量　53.7g		
41	石製品 玉	外径　0.4×0.4cm　厚さ　0.2cm　重量　0.1g		孔径（0.1cm）
42	石製品 玉	外径　0.4×0.4cm　厚さ　0.25cm　重量　0.1g		孔径（0.15cm）
43	石製品 玉	外径　0.45×0.45cm　厚さ　0.2cm　重量　0.1g		孔径（0.15cm）
44	ガラス 玉	外径　0.5×0.5cm　内径　厚さ　0.4cm　重量　0.1g		孔径（0.15cm）
45	石製品 砥石	長さ　10.0cm　幅　7.6cm　厚さ　4.2cm　重量　342.3g		２面使用
46	鉄製品 槍鉋？	残存長　20.8cm　幅　1.1cm　厚さ　0.4cm　重量　39.5g		
47	鉄製品 不明	残存長　3.0cm　幅　1.4cm　厚さ　1.5cm　重量　1.5g		
48	鉄製品 鎌	残存長　3.6cm　幅　2.5cm　厚さ　0.2cm　重量　5.0g		
49	鉄製品 鎌	残存長　4.9cm　幅　0.2cm　厚さ　2.5cm　重量　6.3g		

Ｈ－０１０（第96図・図版25・69）

調査区南西部，18Ｔ-39，18Ｕ-30グリッドに位置する。単独で検出された。遺存度は良好である。規模は320cm×310cm を測り，形状は隅丸方形を呈する。

覆土は，人為堆積で5層に分層される。

床面は直床で硬化面がみられる。。壁高は北西部付近で約39.2cmを測る。周溝，ピットは検出されなかった。床面北西部に存在する焼土は炉と思われ，長径18cm×短径18cm，厚さ5.2cmを測る。また炉に正対して砂質粘土塊が壁際に検出されたが，堅く引き締まっており階段状の出入り口施設であろうか。

本跡から出土した2点を図示した。

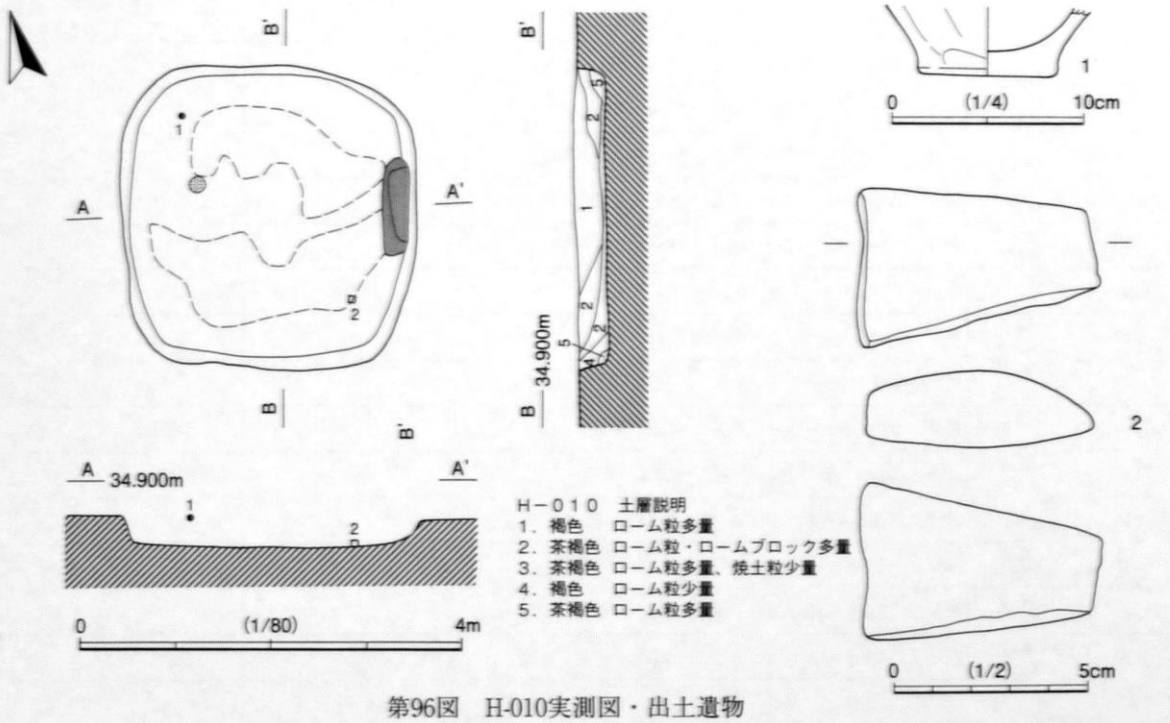
Ｈ－０１１（第97図・図版26）

調査区南部，18Ｕ-52・53・62・63グリッドに位置する。遺構の約３分の２は調査区域外に存在する。遺存度は不良である。規模は404cm（東西推定）を測り，形状は方形を呈する。

覆土は，人為堆積で2層に分層される。

床面はP-2付近から中央にかけて硬化面がみられる。壁高東部付近で約9.3cmを測る。周溝は北東コーナー部を除き全周し，幅16cm，深さ3.7cmを測る。ピットは床面に2箇所検出された。主柱穴はP-１（径30cm×26cm，深さ49cm）・P-2（径32cm×32cm，深さ53cm）2本検出された。

本跡からは図示できる遺物は出土しなかった。

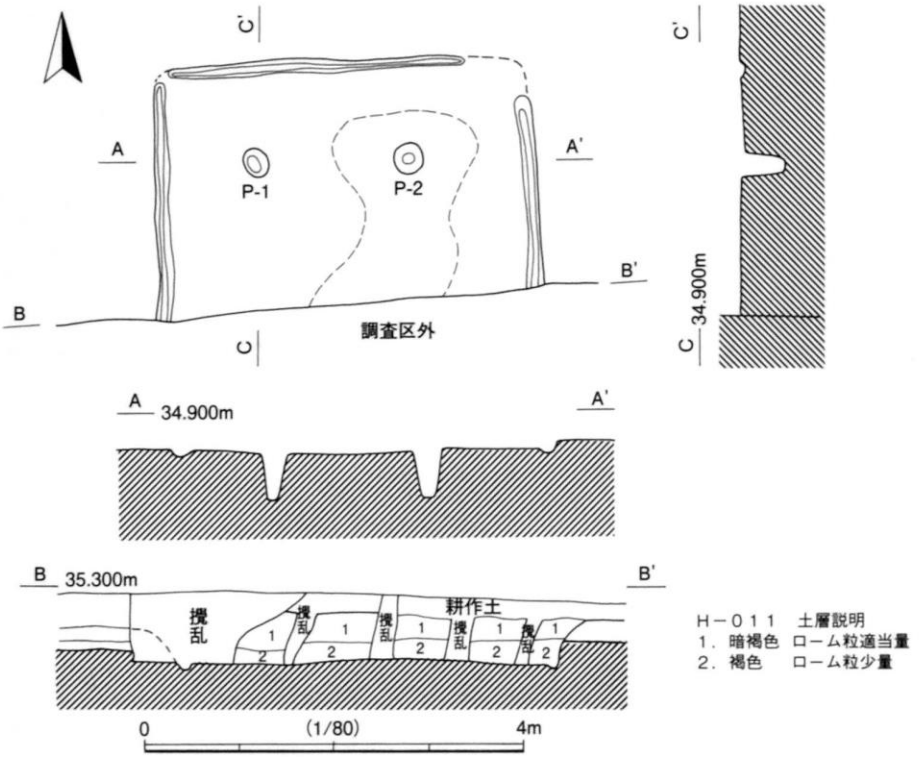


第96図　H-010実測図・出土遺物

Ｈ－010出土遺物観察表

番号	器種	法量　cm	調　整	色　調	依　存　度	備　考
1	土師器 甕	口径　－ 器高　<3.6> 底径　7.4	底辺部内外面ナデ。底部ヘラケズリ。	暗褐	底辺部～底部	

番号	種類	法　　量	依　存　度	備　考
2	石製品 砥石	残存長　4.3cm　幅　6.4cm　厚さ　2.0cm　重量　71.2g		３面使用



第97図　H-011実測図

H－012（第98図）

調査区南西部，18T-69，18U-60グリッドに位置する。単独で検出された。遺存度は不良である。規模は268cm×234cm を測り，形状は隅丸方形を呈する。

床面は軟弱。壁高は北東付近で約52cmを測る。周溝は検出されなかった。ピットは検出されなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

H－013（第99・100図・図版26・66・69・71）

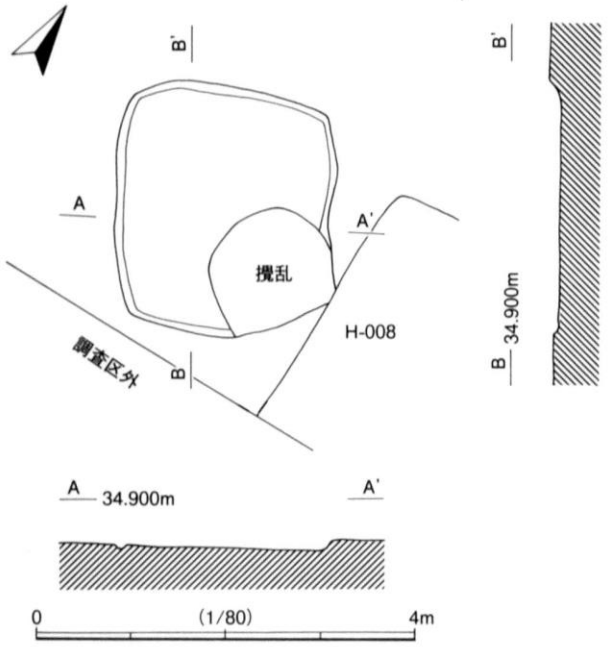
調査区南部，18U-37・38・47・48・57・58グリッドに位置する。H－014を破壊する。遺存度は良好である。規模は660cm×638cm を測り，形状は方形を呈する。

覆土は，人為堆積で7層に分層される。

床面は直床で平坦である。壁高は北東部付近で約32cmを測る。周溝は北西コーナー部分を除き全周し，幅30cm，深さ6.2cmを測る。ピットは検出されなかった。

本住居は床面が使用された痕跡がみられず，柱穴も検出されなかったことから何らかの理由により，途中で建築が放棄されたものと思われる。

本跡から出土した17点を図示した。



第98図　H-012実測図

Ｈ－０１４（第99図・図版26・66）

調査区中央部，18U-57・58グリッドに位置する。Ｈ－013に殆どを破壊される。遺存度は不良である。形状は方形を呈すると思われる。

覆土は，人為堆積で2層に分層される。

床面は堅緻である。壁高は南東付近で約18cmを測る。周溝は南東部分のみ検出し，幅22cm，深さ8.8cmを測る。ピットは床面に1箇所検出され，貯蔵穴と思われる。径64cm×42cm，深さ40.8cmを測る。

本跡から出土した1点を図示した。

Ｈ－０１５（第101図・図版26・27・66・67・69）

調査区南部，18U-56・57・66・67・グリッドに位置する。８号墳の周溝に遺構中央を破壊される。遺存度は不良である。規模は520m×510cm を測り，形状は方形を呈する。

床面は平坦で堅緻である。Ｈ－016に対して一部貼り床している。壁高は北西部付近で約20.7cmを測る。周溝は南西～南東コーナーを除き全周し，幅24cm，深さ14.3cmを測る。ピットは床面に5箇所検出された。主柱穴はP-１（径45cm×28cm，深さ59cm）・P-2（径45cm×38cm，深さ59cm）・P-3（径40cm×36cm，深さ61cm）・P-4（径45cm×43cm，深さ43cm）4本検出された。4本とも形状が方形であり，角柱を使用していたと思われる。　西壁際の長方形のピットは貯蔵穴と思われ，長軸58cm×短軸70cm，深さ38.5cmを測る。

本跡から出土した9点を図示した。

Ｈ－０１６（Ａ）（第102・103図・図版26・67・70・71）

調査区南部，18U-55・56・57・65・66・67・76・77グリッドに位置する。８号墳の周溝に遺構中央を破壊される。遺存度は不良である。規模は755m×672cm を測り，形状は方形を呈する。

覆土は，人為堆積で3層に分層される。ピットは床面に4箇所検出された。主柱穴はP-１（径55cm×50cm，深さ41cm）・P-2（径90cm×50cm，深さ67cm）・P-3（径55cm×－，深さ23cm）・P-4（径60cm×75cm，深さ36cm）4本検出された。

床面は平坦で軟弱である。壁高は北東部付近で約20.4cmを測る。周溝は幅27cm，深さ8cmを測る。

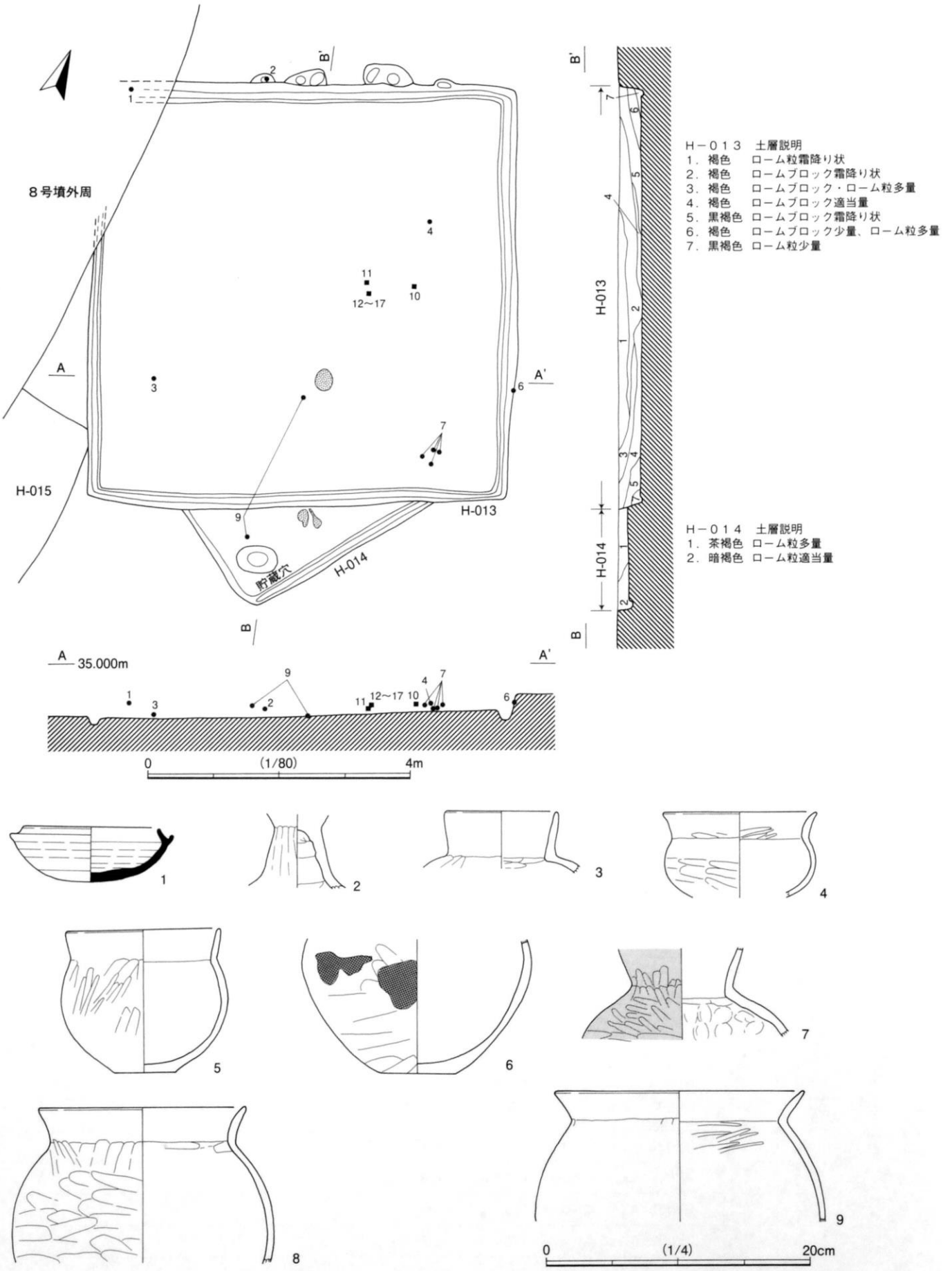
Ｈ－０１６（Ｂ）（第102図・図版26・67・70・71）

調査区南部，18U-56・65・66・67・76グリッドに位置する。８号墳の周溝に遺構中央を破壊される。遺存度は不良である。規模は600m×525cm を測り，形状は長方形を呈する。

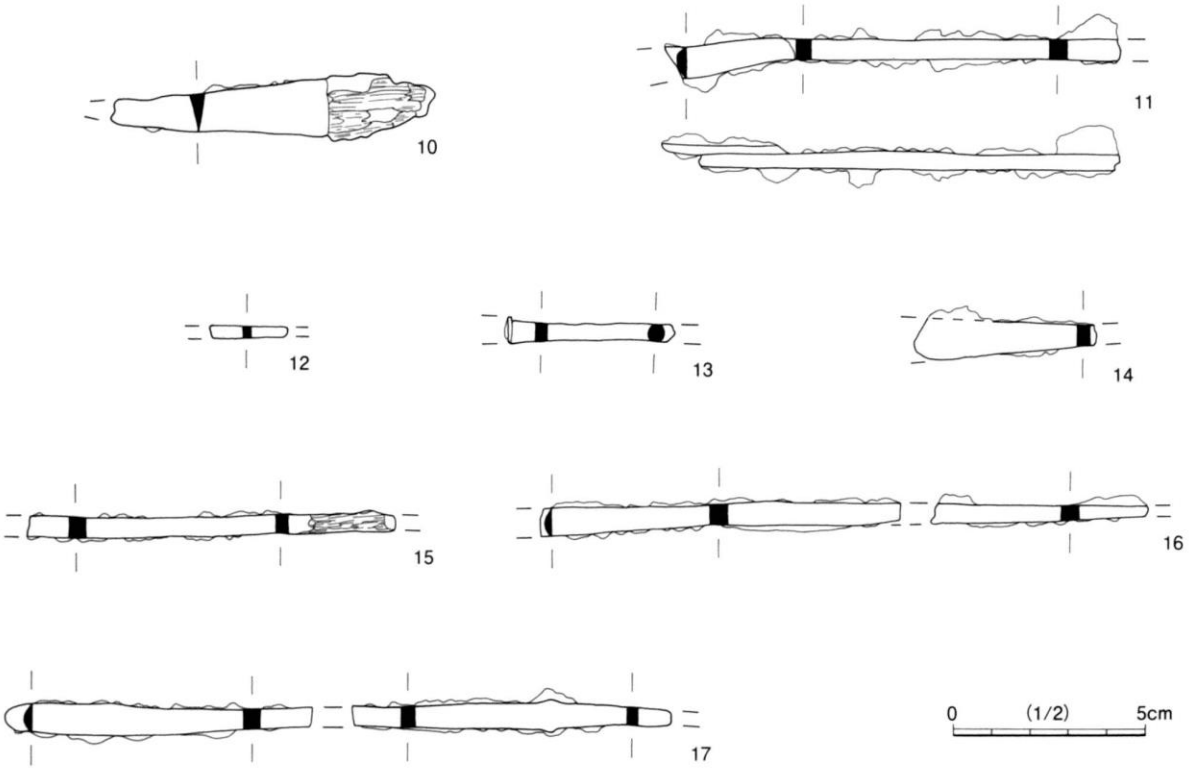
覆土は，人為堆積で3層に分層される。

床面は堅緻で中央部に硬化面がみられる。壁高は西部付近で約1.2cmを測る。

Ｈ－016（Ａ）・（Ｂ）から出土した9点を図示した。



第99図　H-013・014実測図・出土遺物（1）



第100図　H-013出土遺物（2）

H－013出土遺物観察表

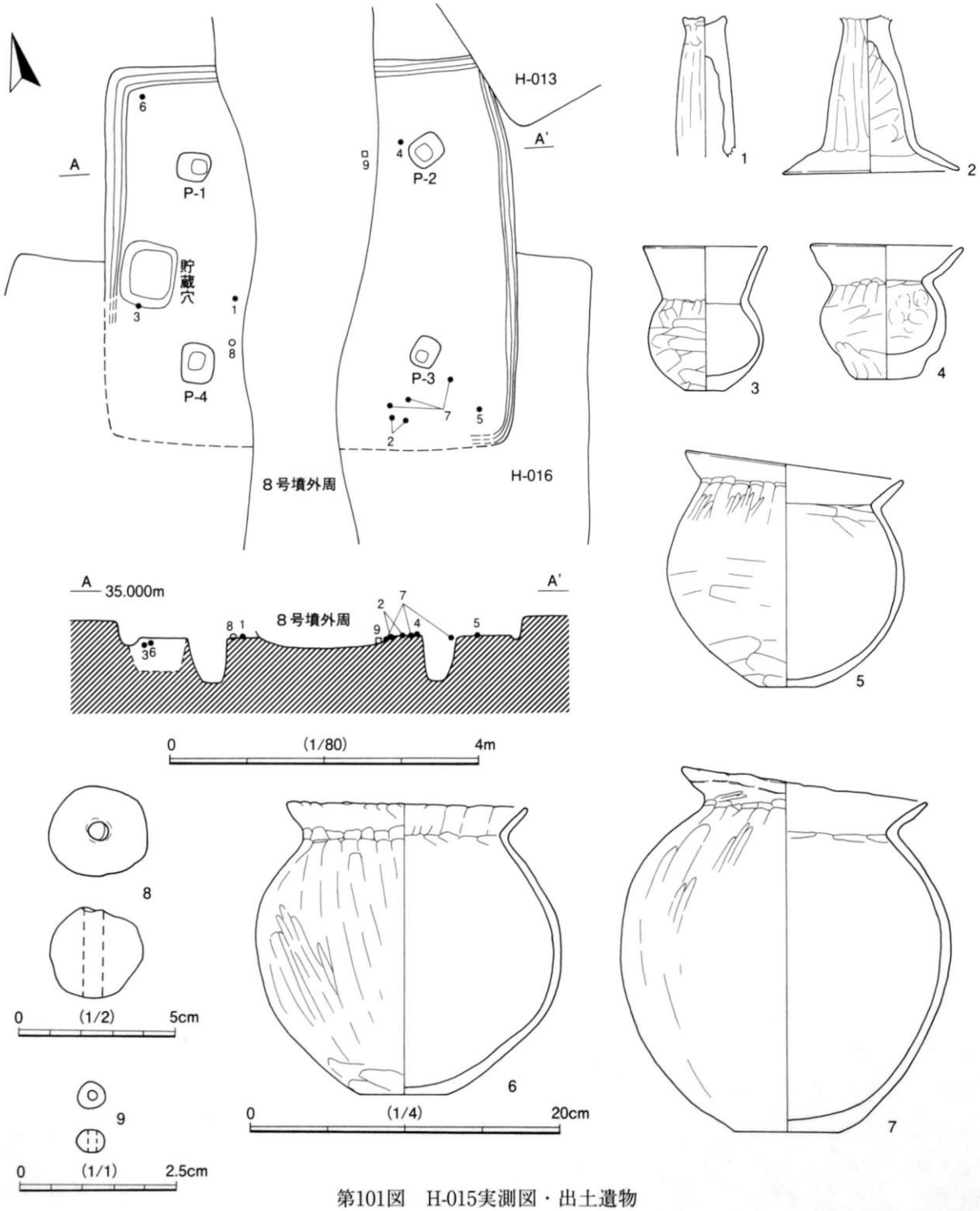
番号	器種	法量 cm	調整	色調	依存度	備考
1	須恵器 身	口径 10.4 器高 4.2 底径 －	口縁部ヨコナデ。体部内外面ロクロ。底辺部回転ヘラケズリ。	灰褐	ほぼ完形	
2	土師器 高坏	口径 － 器高 <6.0> 底径 －	脚部内外面ヘラケズリ。	明褐	脚部ほぼ完存　裾部欠損	
3	土師器 小甕	口径 8.6 器高 <4.4> 底径 －	口縁部内外面ヨコナデ。	明褐	口縁部5/6	
4	土師器 小甕	口径 (11.6) 器高 <6.5> 底径 －	口縁部外面ヨコナデ、内面ヘラナデ。胴部内外面ヘラナデ。	明褐	口縁部1/3　胴部1/4	
5	土師器 小甕	口径 (11.7) 器高 10.8 底径 4.6	口縁部ヨコナデ。胴部外面ヘラナデ、内面ナデ。	明褐　褐	口縁部～胴部1/4　底部完存	外面黒斑アリ
6	土師器 甕	口径 － 器高 <10.2> 底径 6.0	胴部外面ヘラナデ。	褐	底辺部～底部2/3	外面タール状付着物アリ　内面剥落している
7	土師器 甕	口径 － 器高 <7.0> 底径 －	口縁部ヨコナデ。胴部外面ヘラミガキ、内面ナデ。	赤彩	口縁部2/3～胴上部	外面赤彩　胴部内面指頭痕アリ
8	土師器 甕	口径 (15.7) 器高 <11.8> 底径 －	口縁部ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ、内面ナデ。	明褐　褐	口縁部1/4　胴部1/3	

番号	種類	法量	依存度	備考
10	鉄製品 刀子	残存長 8.6cm　幅 1.0cm　厚さ 0.3cm　重量 10.7g		
11	鉄製品 鉄鏃	残存長 6.2cm　幅 0.8cm（刃）0.45cm（柄）　厚さ 0.3cm（刃）0.5（柄）　重量 11.0g		
12	鉄製品 鉄鏃	残存長 2.1cm　幅 0.3cm　厚さ 0.2cm　重量 0.2g		
13	鉄製品 鉄鏃	残存長 4.6cm　幅 0.5cm　厚さ 0.4cm　重量 1.7g		
14	鉄製品 鉄鏃	残存長 4.8cm　幅 0.6cm　厚さ 0.35cm　重量 4.1g		
15	鉄製品 鉄鏃	残存長 9.7cm　幅 0.6cm　厚さ 0.4cm　重量 5.8g		

番号	種類	法　　量	依　存　度	備　　考
16	鉄製品 鉄鏃	（刃）残存長　9.5cm　幅　0.7cm　厚さ　0.45cm　重量　7.1g		
		（柄）残存長　5.8cm　幅　0.4cm　厚さ　0.45cm　重量　2.6g		
17	鉄製品 鉄鏃	（刃）残存長　8.1cm　幅　0.7cm　厚さ　0.45cm　重量　6.3g		
		（柄）残存長　8.4cm　幅　0.6cm　厚さ　0.4cm　重量　5.6g		

H－014出土遺物観察表

番号	器種	法量　cm	調　　整	色　調	依　存　度	備　　考
9	土師器 甕	口径　(19.0) 器高　<10.0> 底径　－	口縁部ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面ヘラナデ。	明褐	口縁部1/3　胴上部1/2	



第101図　H-015実測図・出土遺物

H－015出土遺物観察表

番号	種類	法　　量	依　存　度	備　　考
1	土製品 不明	残存長　9.0cm　重量　91.8g		外面指頭痕アリ

番号	器種	法量　cm	調　　整	色　調	依　存　度	備　　考
2	土師器 高坏	口径　－ 器高　<9.8> 底径　(11.4)	脚部外面ヘラケズリ、内面ナデ。裾部ナデ。	明褐	脚部完存　裾部1/4	
3	土師器 坩	口径　(8.0) 器高　9.4 底径　3.0	口縁部ナデ。胴部外面ヘラケズリ、内面ナデ。	明褐	口縁部一部　胴部～底部ほぼ完存	外面黒班アリ
4	土師器 坩	口径　9.8 器高　8.7 底径　4.6	口縁部ヨコナデ。胴部外面ヘラナデ、内面ナデ。	明黄褐	完形	内面指頭痕アリ
5	土師器 甕	口径　14.1 器高　14.4 底径　4.0	口縁部ヨコナデ。胴部外面ヘラナデ、内面ナデ。	明褐	ほぼ完形	歪形
6	土師器 甕	口径　15.5 器高　18.7 底径　－	口縁部ナデ。胴部外面ヘラケズリ、内面ナデ。底部外面静止糸切り後ヘラケズリ。	明褐　褐	ほぼ完形	
7	土師器 甕	口径　16.0 器高　22.5 底径　6.7	口縁部ヨコナデ。胴部外面ヘラナデ、内面ナデ。	褐	ほぼ完形	歪形　口縁部外面輪積み痕アリ

番号	種類	法　　量	依　存　度	備　　考
8	土製品 土錘	外径　3.2×2.9cm　内径　0.6×0.6cm　厚さ　2.9cm　重量　22.6g		外面指頭痕アリ
9	石製品 臼玉	外径　0.45×0.45cm　厚さ　0.3cm　重量　0.1g		孔径（0.15cm）

H－０１７（第104図・図版27・67・70・71）

調査区西南部，18U02・03・12・13・14・22・23・23グリッドに位置する。H－018の大半を破壊し，８号墳の周溝に遺構中央を破壊される。規模は775m（南北推定）を測り，形状は長方形を呈する。

床面は堅緻で平坦である。壁高は南西部付近で約28.5cmを測る。周溝は，幅26cm，深さ1.5cmを測る。ピットは床面に5箇所検出された。主柱穴はP-2（径40cm×40cm）・P-3（径32cm×27cm，深さ64cm）・P-4（径50cm×40cm，深さ82cm）3本検出された。P-6は壁柱穴であろうか（径50cm×40cm，深さ70cm）。西壁際の長方形のピットは貯蔵穴と思われ，長軸117cm×短軸80cm，深さ38.5cmを測る。炉はP-2の西に付設され遺存状態は不良である。

本跡から出土した13点を図示した。

H－０１８第104図・図版27）

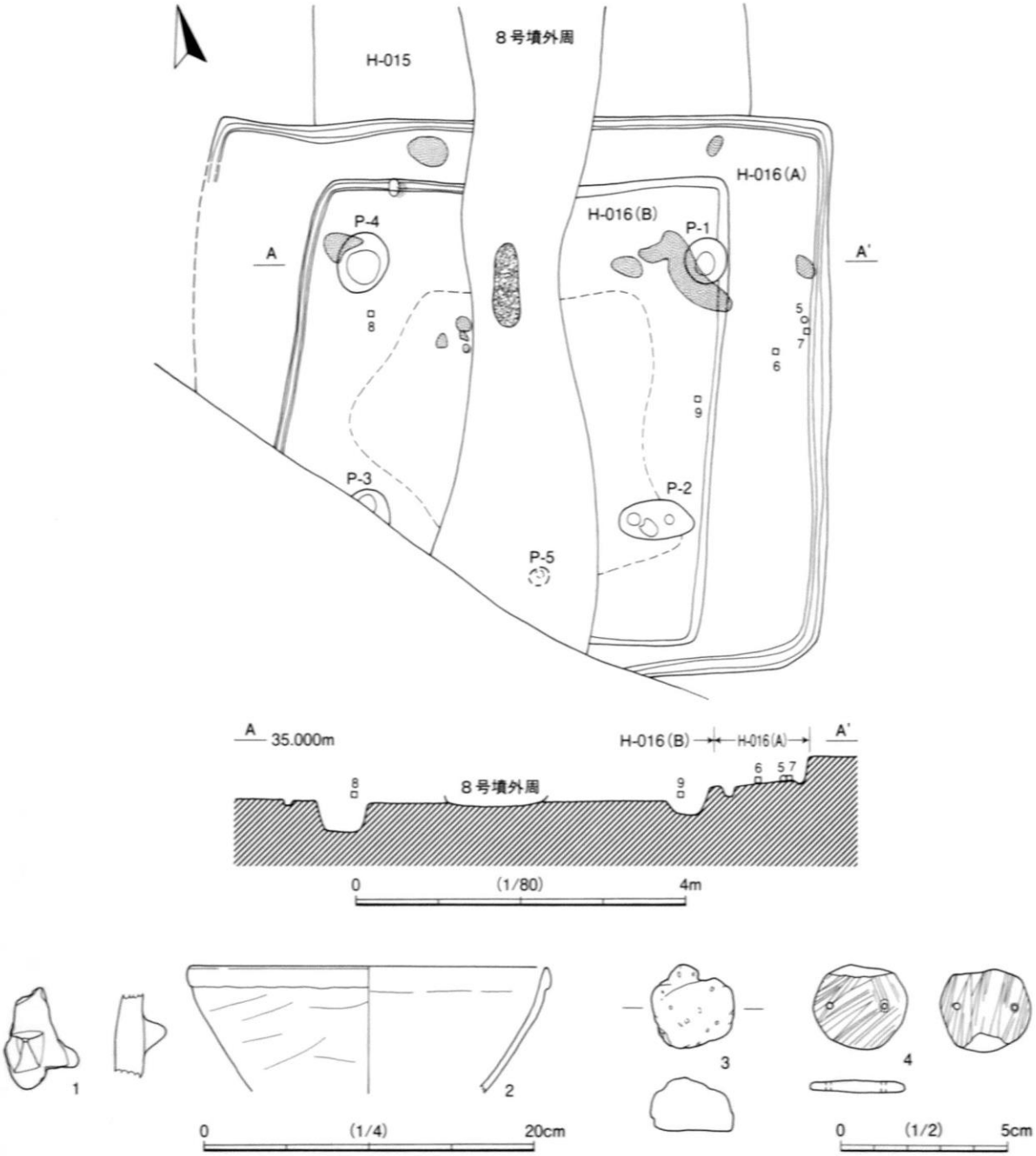
調査区西南部，18-U12・22・23グリッドに位置する。H－017に大半を破壊され，残存するのは南コーナー周辺と西コーナーの痕跡程度である。

床面は軟弱。壁高は南コーナー部付近で約52cmを測る。周溝はわずかに残存する部分で，幅27cm，深さ2.3cmを測る。ピットはH－017の床面に3箇所検出された。主柱穴はP-１（径48cm×47cm，深さ44cm）・P-5（径50cm×40cm，深さ26cm）2本検出された。南東壁際の長方形のピットは貯蔵穴と思われるが，H－017に所属する可能性もある。長軸95cm×短軸80cm，深さ20cmを測る。

H－０１９（第105図・図版67）

調査区西南部，17-U90，18T-09・19，18-U00・01グリッドに位置する。単独で検出された。８号墳外周と内周に破壊されている。規模は622cm（東西推定）を測り，形状は方形を呈すると思われる。

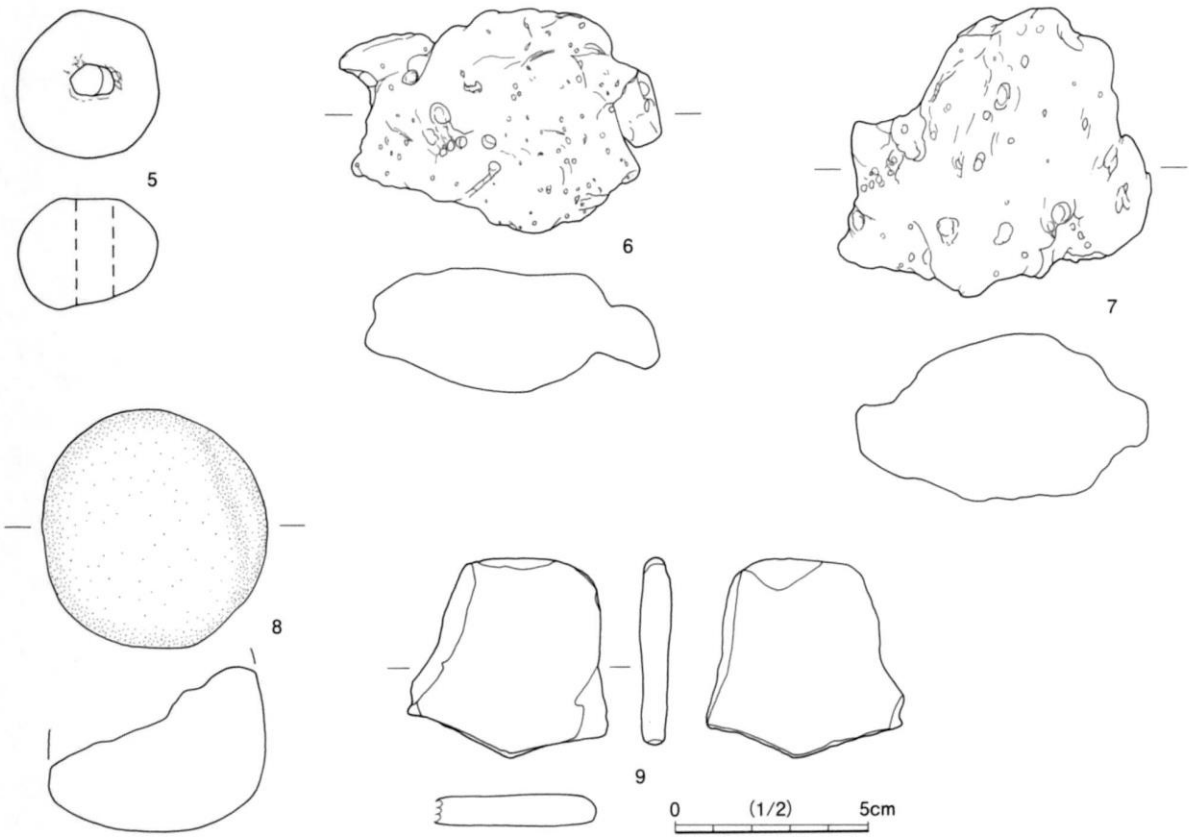
床面は堅緻で中央部が広く硬化している。壁高は南西部付近で約10cmを測る。周溝は南西～南東部分のみ検出し，幅14cm，深さ2cmを測る。ピットは床面に5箇所検出された。主柱穴はP-１（径40cm×35cm，



第102図　H-016（A）・（B）実測図・出土遺物（1）

深さ62cm）・P-2（径48cm×38cm，深さ73cm）・P-3（径48cm×46cm，深さ88.5cm）・P-4（径36cm×36cm，深さ72cm）4本検出された。南壁際の長方形のピットは貯蔵穴と思われる。長軸107cm×短軸78cm，深さ28cmを測る。

本跡から出土した3点を図示した。



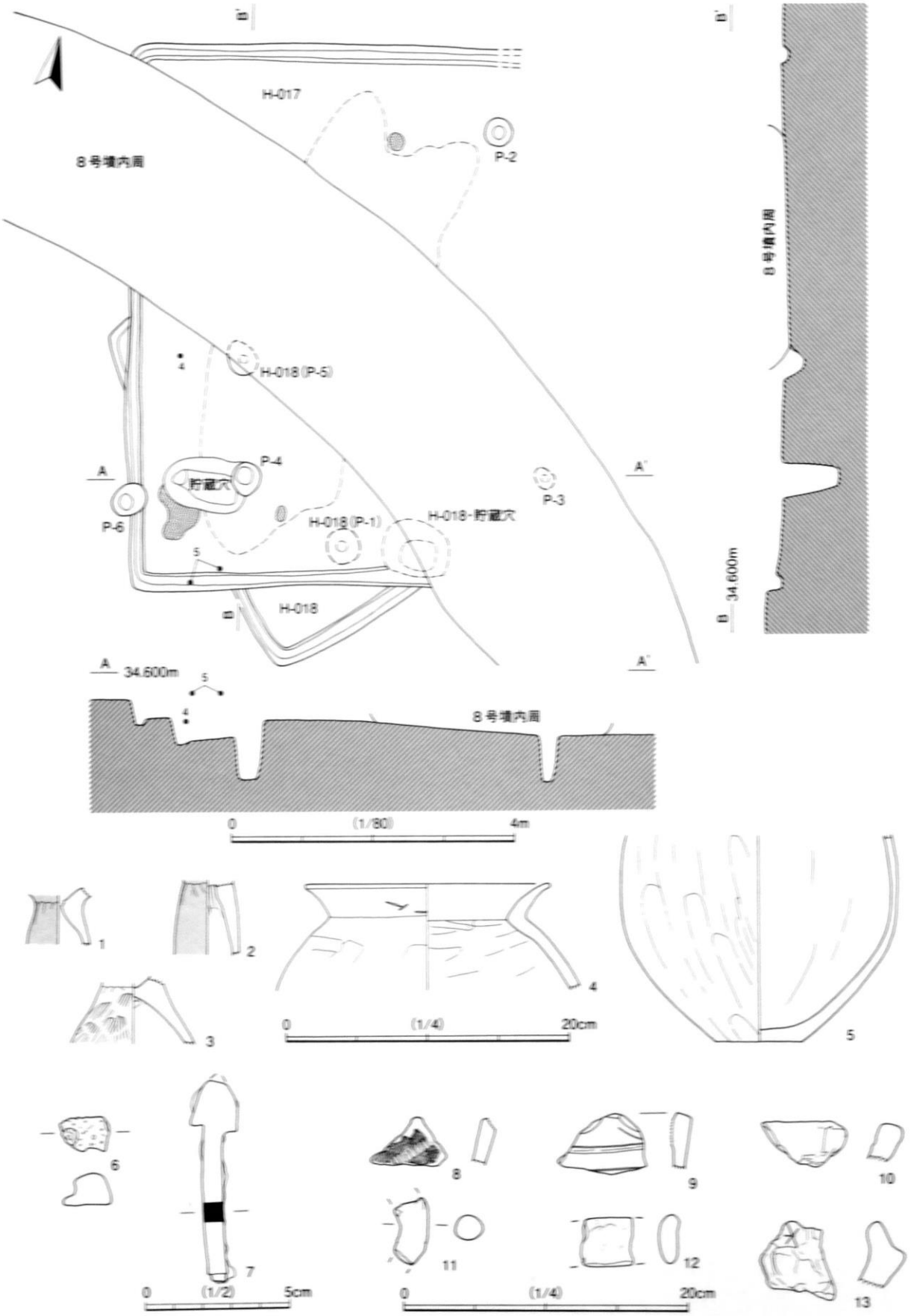
第103図　H-016（A）・（B）出土遺物（2）

H－016（A）・（B）出土遺物観察表

番号	種類	法　　量	依存度	備　考
1	土製品 埴輪片	残存長　6.1cm　幅　4.4cm　厚さ　3.2cm　重量　71.2g		

番号	器種	法量　cm	調　整	色調	依存度	備　考
2	土師器 鉢	口径　(21.8) 器高　<7.8> 底径　－	口縁部ナデ。体部外面ヨコナデ、内面ナデ。	淡橙褐	口縁～体部1/3	

番号	種類	法　　量	依存度	備　考
3	石 軽石	長さ　2.5cm　幅　2.5cm　厚さ　1.6cm　重量　3.6g		
4	石製模造品 鏡？	長さ　2.5cm　幅　2.8cm　厚さ　0.3cm　重量　4.7g		孔２個アリ（0.15cm）
5	土製品 土錘	外径　3.8×3.7cm　内径　0.8×1.1cm　厚さ　2.9cm　重量　43.2g		
6	石 軽石	長さ　7.5cm　幅　8.1cm　厚さ　4.4cm　重量　28.9g		
7	石 軽石	長さ　6.0cm　幅　8.5cm　厚さ　3.4cm　重量　21.4g		
8	石 不明	長さ　6.2cm　幅　5.9cm　残存厚　4.3cm　重量　173.4g		
9	石製品 砥石	長さ　5.3cm　幅　5.2cm　厚　0.8cm　重量　38.6g		３面使用



第104図　H-017・018実測図・出土遺物

H－017出土遺物観察表

番号	器種	法量　cm	調　整	色　調	依　存　度	備　考
1	土師器 高坏	口径　－ 器高　<3.7> 底径　－	脚部内外面ナデ。	赤彩	脚上部1/3	外面赤彩
2	土師器 高坏	口径　－ 器高　<5.3> 底径　－	脚部内外面ナデ。	赤彩	脚部1/3	外面赤彩
3	土師器 高坏	口径　－ 器高　<4.3> 底径　－	脚部外面粗いハケ目、内面ナデ。	黄褐	脚部1/3	
4	土師器 甕	口径　(17.2) 器高　<7.3> 底径　－	口縁部部ヨコナデ。胴部内外面ナデ。	明褐　褐	口縁～口辺部1/4	口縁部外面線刻アリ（文字不明）
5	土師器 甕	口径　－ 器高　<14.6> 底径　6.7	胴部内外面ナデ。	褐	胴下部1/3　底部完存	

番号	種類	法　量	依　存　度	備　考
6	石 軽石	長さ　1.2cm　幅　1.7cm　厚さ　1.1cm　重量　0.6g		
7	鉄製品 鉄器	残存長　7.0cm　幅　0.7cm　厚さ　0.65cm　重量　11.4g		
8	土師器 不明陶器	長さ　5.4cm　幅　3.4cm　厚さ　1.0cm		
9	土師器 不明陶器	長さ　6.1cm　幅　4.3cm　厚さ　1.3cm		
10	土師器 埴輪片	長さ　5.9cm　幅　3.2cm　厚さ　1.8cm		
11	土師器 埴輪片	長さ　4.8cm　幅　2.3cm　厚さ　1.7cm		
12	土師器 埴輪片	長さ　3.6cm　幅　3.4cm　厚さ　1.3cm		
13	土師器 埴輪片	長さ　5.5cm　幅　5.2cm　厚さ　2.4cm		線刻アリ

Ｈ－０２０（第105図）

調査区中央部，17T-80・81・90・91グリッドに位置する。単独で検出された。遺存度は良好である。規模は282cm×266cm を測り，形状は方形を呈する。

床面は軟弱な直床。壁高は南東部付近で約8cmを測る。ピットは床面に2箇所検出された。主柱穴はP-1（径26cm×25cm，深さ51cm）・P-2（径50cm×42cm，深さ24cm）2本検出された。

本跡からは図示できる遺物は出土しなかった。

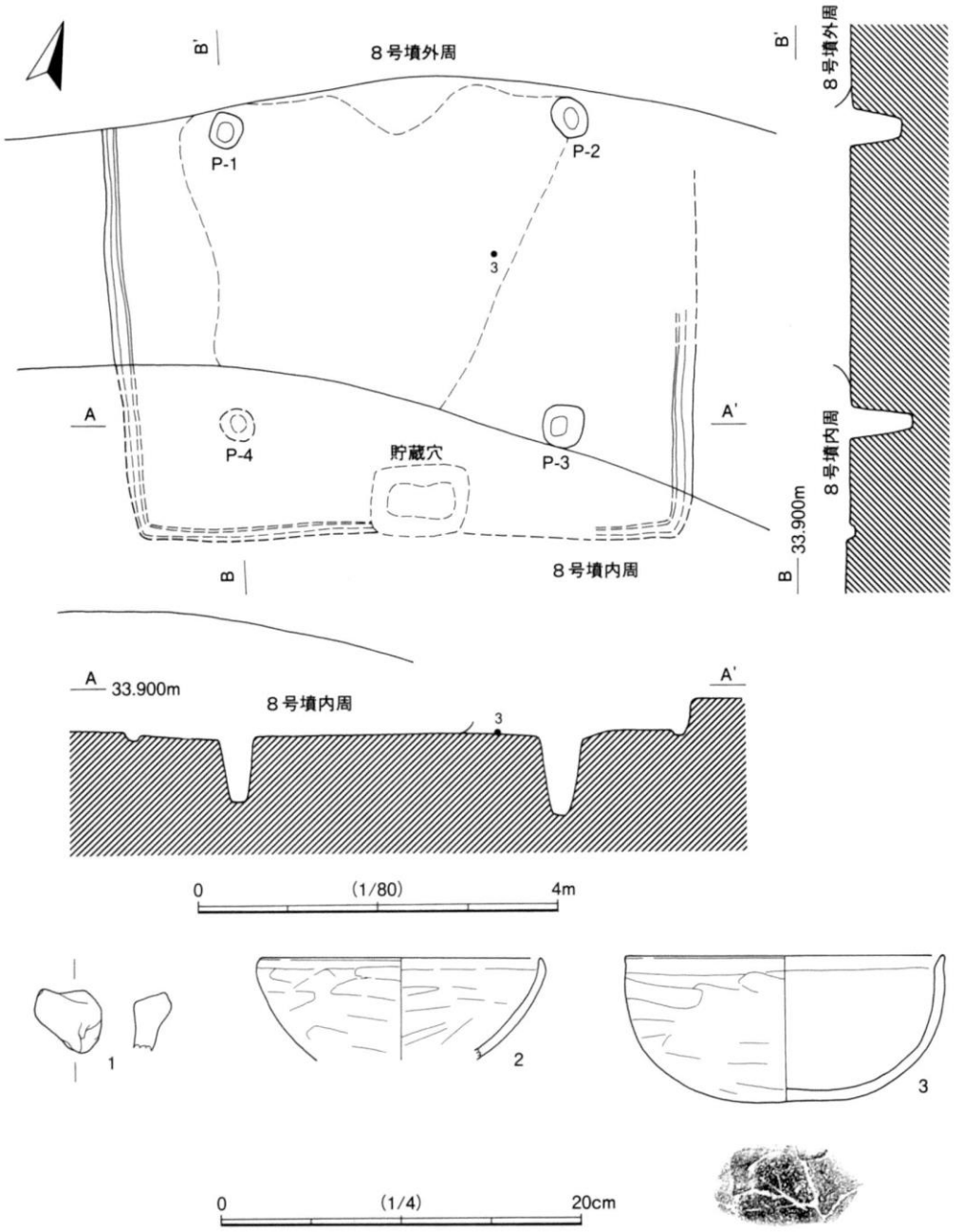
Ｈ－０２１（160地点）（第107図・図版28・70）

調査区北部，6N-77・78・87・88グリッドに位置する。単独で検出された。遺存度は良好である。規模は488cm×350cm を測り，形状は方形を呈すると思われる。

覆土は，人為堆積で3層に分層される。

床面は堅緻で平坦である。壁高は北部カマド付近で約24.cmを測る。周溝は全周すると思われ，幅25cm～28cm，深さ2.8cmを測る。ピットは床面に3箇所検出された。主柱穴はP-1（径35cm×45cm，深さ85cm）・P-2（径32cm×52cm，深さ93cm）・P-3（径36cm×35cm，深さ80.6cm）3箇所検出された。炉は北側中央部に付設され遺存状態は良好で，長径8.6cm×短径5.6cm，焼土の厚さ10cmである。

本跡から出土した3点を図示した。

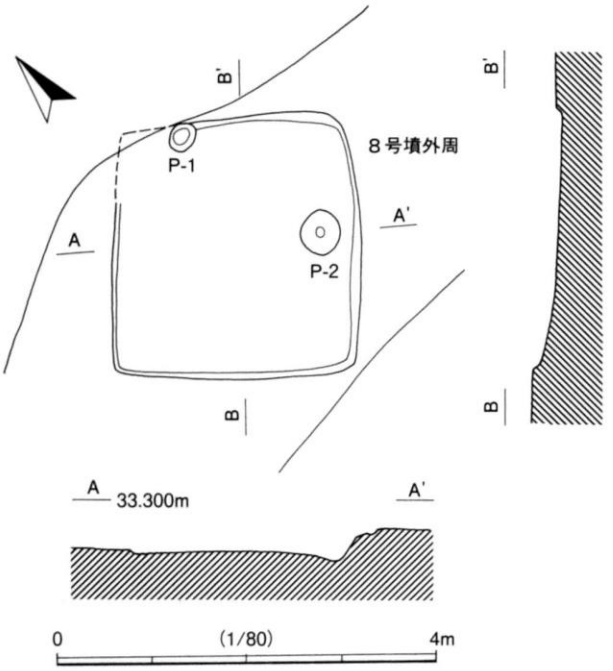


第105図　H-019実測図・出土遺物

H－019出土遺物観察表

番号	種類	法　　量	依　存　度	備　　考
1	土師器 埴輪片	残存長　3.6cm　幅　3.5cm　厚さ　2.2cm		

番号	器種	法量　cm	調　　整	色　調	依　存　度	備　　考
2	土師器 坏	口径　(15.6) 器高　<5.7> 底径　－	口縁部部ヨコナデ。体部内外面ヘラナデ。	褐	体部1/4	
3	土師器 坏	口径　(17.8) 器高　8.1 底径　－	口縁部部ヨコナデ。体部外面ヘラナデ、内面ミガキ。	褐　明褐	口縁部1/4　体部～底部1/3	底部木葉痕アリ



第105図　H-020実測図

Ｈ－０２２（160地点）（第108図・図版28）

調査区北部，7O-41・51・52・62グリッドに位置する。Ｋ－017号周溝に遺構北部を破壊される。遺存度は良好である。規模は685cm×（180）cmを測り，壁高は約27cmを測る。形状は方形を呈する。

覆土は，人為堆積で4層に分層される。

床面は堅緻で平坦である。ピットは床面に１箇所検出された。主柱穴はP-１（径17cm×25cm，深さ53cm）１本検出された。

遺物は出土しなかった。

Ｈ－０２３（Ａ）（160地点）（第109図・図版28）

調査区北部，7O-73・84グリッドに位置する。Ｋ－018号周溝に遺構中央部を破壊される。遺存度は良好である。規模は736cm×（190）cm を測り，形状は方形を呈すると思われる。

覆土は，人為堆積で3層に分層される。

床面は堅緻で平坦である。壁高は約25cmを測る。周溝は幅20cm，深さ5cmを測る

遺物は出土しなかった。

Ｈ－０２３（Ｂ）（160地点）（第109図・図版28）

調査区北部，7O-73・84グリッドに位置する。Ｋ－018号周溝に遺構中央部を破壊される。遺存度は良好である。規模は644cm×（160）cm を測り，形状は方形を呈すると思われる。

覆土は，人為堆積で9層に分層される。

床面は堅緻で平坦である。壁高は約15cmを測る。周溝は幅16cm，深さ5cmを測る。

遺物は出土しなかった。

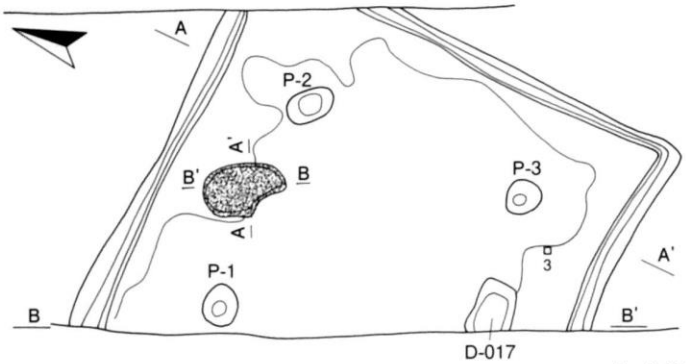
Ｈ－０２４（160地点）（第110図・図版29・70）

調査区北部，9O-19・29，9P-10・20グリッドに位置する。単独で検出された。遺存度は良好である。規模は（615）cm×（190）cm を測り，形状は方形を呈すると思われる。

覆土は，人為堆積で5層に分層される。

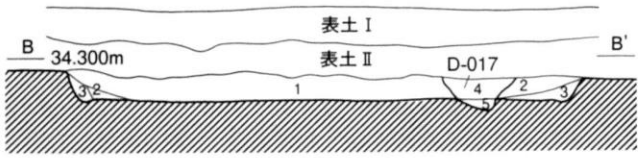
床面は堅緻で平坦である。壁高は約31.1cmを測る。周溝は幅15cm，深さ11.2cmを測る。炉は北側中央部に付設され遺存状態は良好で，長径130㎝×短径（50）㎝，焼土の厚さ5㎝である。

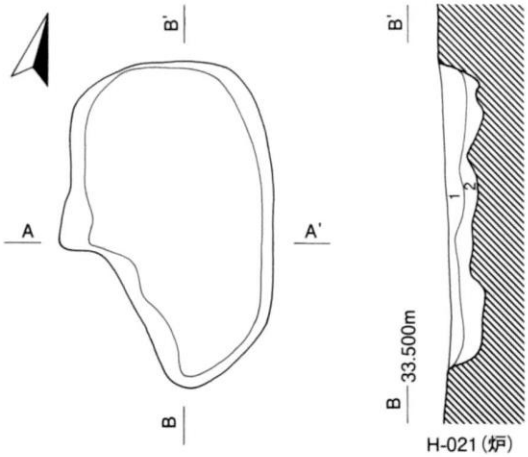
本跡から出土した7点を図示した。

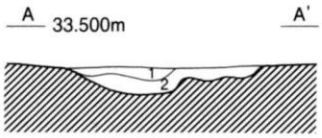


H－０２１　土層説明
1．褐色　ローム粒多少・ロームブロック小粒少量、締まり有り
2．褐色　ローム粒子やや多い・やや暗い
3．褐色　ローム粒子やや多い・ややくすんでいる、ロームブロック小粒微量

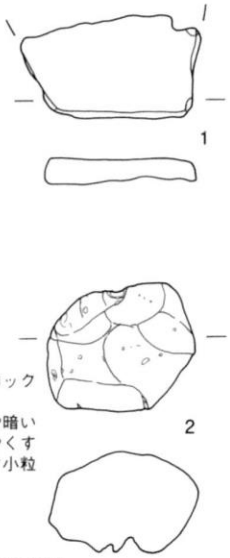
D－０１７　土層説明
4．暗褐色　ロームブロック中粒少量
5．暗褐色　ややくすんだ層でローム粒子微量

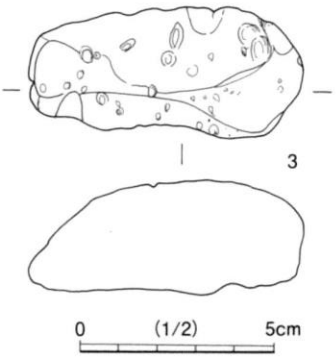




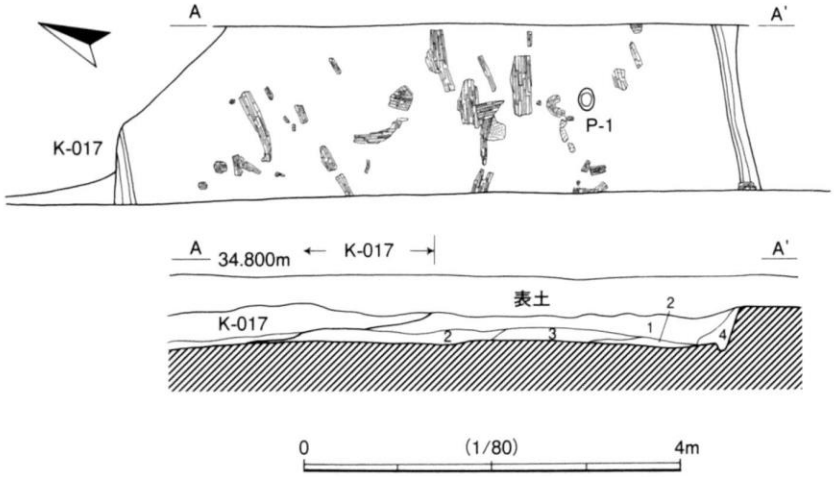


H－０２１（炉）　土層説明
1．暗褐色　焼土ブロック中粒・焼土粒少量
2．暗褐色　ロームブロック中粒少量、締まりややなし、粘性なし



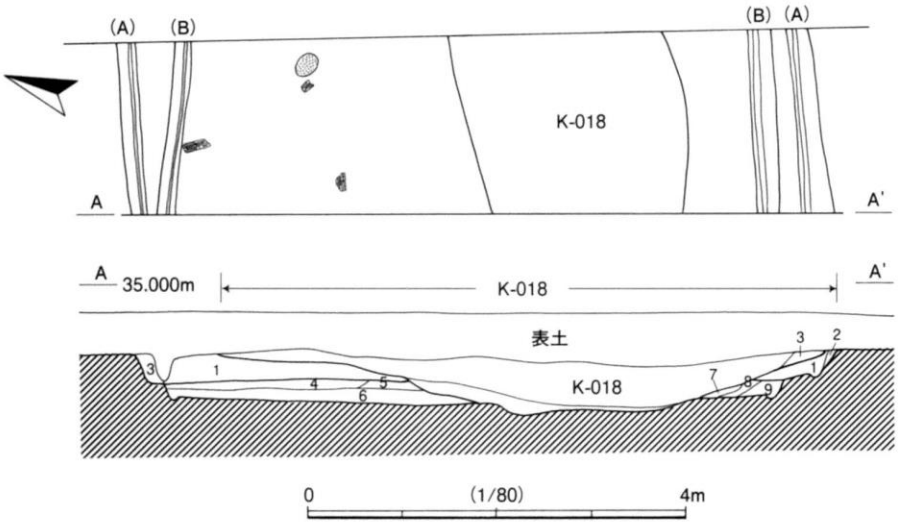


第107図　H-021及びH-21（炉）実測図・出土遺物



H－０２２　土層説明
1．褐色　ロームブロックやや多量、若干の焼土粒子含む、炭化粒子少量
2．褐色　炭化粒子・ローム粒子多量、ロームブロック小粒少量、締まり有り
3．褐色　焼土及び炭化粒子多く含む、ローム粒子多量
4．褐色　やや明るくローム粒子・ロームブロック小粒多量、締まりややあり

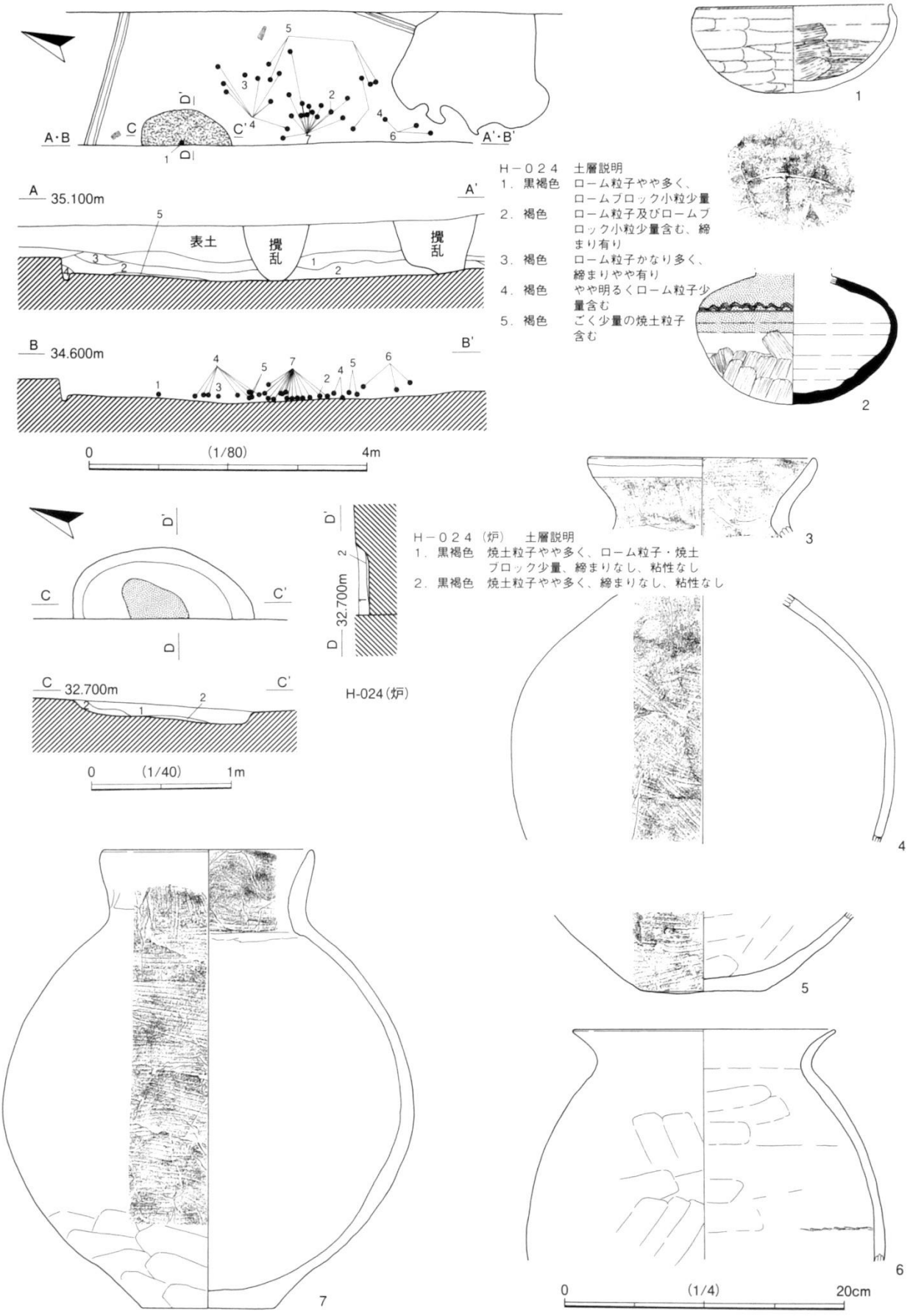
第108図　H-022実測図



H－０２３（A）　土層説明
1．褐色　ローム粒子少量、ロームブロック中粒少し含む
2．暗黄褐色　褐色土を混入し、ロームブロック少量含む
3．褐色　１よりやや明るい

H－０２３（B）　土層説明
4．褐色　ローム粒子・ロームブロック小粒多量、締まり強い（貼り床）
5．褐色　ローム粒子・ロームブロック小粒やや多く、締まりあり（貼り床）
6．暗褐色　ローム粒子・ロームブロック小粒少量含む、締まり有り
7．褐色　ローム粒子・ロームブロック小粒多量、締まり強い
8．褐色　褐色土・ローム粒子やや多く含む
9．褐色　暗黄褐色土を少量含む、締まり有り

第109図　H-023（A）・（B）実測図



第110図　H-024及びH-24（炉）実測図・出土遺物

H－021出土遺物観察表

番号	種類	法　　量	依　存　度	備　　考
1	石製品 砥石	残存長　2.7cm　幅　4.7cm　残存厚　0.7cm　重量　9.9g		1面使用
2	石 軽石	長さ　3.4cm　幅　3.9cm　厚さ　2.7cm　重量　8.7g		
3	石 軽石	長さ　3.4cm　幅　7.3cm　厚さ　3.0cm　重量　13.2g		

H－024出土遺物観察表

番号	器種	法量　cm	調　　整	色　調	依　存　度	備　　考
1	土師器 坏	口径　14.0 器高　6.2 底径　－	口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。体部外面ヘラケズリ、内面ハケ目。	明褐	口縁部1/4　体部～底部完存	内外面赤彩　底部線刻アリ
2	須恵器 壺	口径　－ 器高　<9.5> 底径　－	胴部外面ロクロ後ハケ目、内面ロクロ。	暗灰	口縁部欠損　体部～底部完存	外面上部波状文・釉がかかっている
3	土師器 甕	口径　(16.4) 器高　<5.7> 底径　－	口縁外面ヨコナデ。口辺部内外面ハケ目。	暗褐	口縁～口辺部1/5	
4	土師器 甕	口径　－ 器高　<17.8> 底径　－	胴部外面粗いハケ目、内面ナデ。	明褐　褐	胴部	
5	土師器 甕	口径　－ 器高　<5.8> 底径　8.8	底辺部外面ハケ目、内面ナデ。	明褐	底辺部～底部	
6	土師器 甕	口径　(18.8) 器高　<16.4> 底径　－	口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。胴部内外面ヘラケズリ。	黒褐	口縁部1/4　胴部一部	胴部内面輪積み痕アリ
7	土師器 甕	口径　15.0 器高　32.7 底径　9.6	口縁外面ヨコナデ、内面ハケ目。胴部外面ハケ目・底辺部ヘラケズリ、内面ナデ。	明褐	ほぼ完形	

第３節　土坑・溝

１．土　坑

今回の調査で検出された土坑は大半が時期及び性格の不明なものであった。ただしＤ－００１・００９は古墳の従属的な埋葬施設の可能性がある。

Ｄ－００１

調査区南部付近に位置する。形状は長方形で，規模は長軸2.5m×短軸0.9m，深さ0.4mを測る。
出土遺物はなかったものの，８号墳とＫ－０１０号の両古墳に近く，覆土も黒色土層を主体とする古墳周溝覆土と類似することから，従属的な埋葬施設の可能性も捨てられない。

Ｄ－００２

調査区南東部付近に位置する。形態は長方形で，規模は長軸2.3m×短軸0.7m，深さ0.32mを測る。
形状は長楕円形で北側を攪乱により破壊されている。古墳に伴う遺構ではなく不明の鉄製品が出土しているものの遺構の性格は不明である。

Ｄ－００３

調査区南部付近に位置する。形態は円形で全体の２分の１以上が調査区域外にかかる。規模は現状で長径2.8m，短径（1.2）mを測る。深さ1.0mを測る。井戸状遺構と思われ調査の安全上の理由により完掘をあきらめた。遺物は出土しなかったため時期は不明。

Ｄ－００４

調査区南東部付近に位置する。円形と楕円形の２連のピットである。規模は現状で長径2.0m，短径0.9mを測る。深さ1.5m～0.3mを測る。時期及び性格は不明。

Ｄ－００５

調査区東部付近に位置する。円形のピットである。規模は直径0.8m，深さ0.3mを測る。時期及び性格は不明。

Ｄ－００６

調査区南部付近に位置する。不整楕円形で北西から南西に向かってしだいに深くなる。最も深くなるのは主軸を南南西－北北東に向けた楕円形の小ピット部分である。時期・性格はともに不明である。規模は長軸4.1m×短軸2.1m，深さ0.15m～0.75mを測る。形象埴輪片が出土している。

Ｄ－００７

調査区東部付近に位置する。やや不整な円形で，規模は1.1m×1.1m，深さ1.3mを測る。須恵器長径壺の頸部片が出土している。

D－００８

調査区東部付近に位置する。不整円形で規模は1.0m×0.75m，深さ0.55mを測る。

D－０１０

調査区北部付近に位置する。円形で規模は1.1m×1.1m，深さ0.2mを測る。

D－０１１

調査区南部付近に位置する。楕円形と思われる。規模は4.6m×3.7m，深さ２mを測る。調査の安全上底面まで調査できなかった。遺物は埴輪の底部が出土しているが，流れ込んだものとみられ本遺構に伴うものではない。

D－０１２

調査区南西部付近に位置する。隅丸長方形で規模は1.2m×0.80m。

D－０１３

調査区南西部付近に位置する。楕円形と思われ，規模は1.25m×（0.7）m。

D－０１４

調査区南部付近に位置する。隅丸長方形を呈する。規模は2.2m×0.98m，深さ0.3mを測る。
形状と８号墳の外周に接していることから，従属的埋葬施設の可能性もある。
遺物は出土しなかった。

D－０１５（１６０地点）

調査区北部付近に位置する。不整円形で規模は（0.80）m×0.70m，深さ0.48mを測る。
寛永通宝が２点出土した。近世墓の可能性が高い。

D－０１６（１６０地点）

調査区北部付近に位置する。規模は（1.80）m×（1.40）m，深さ0.96mを測る。

D－０１８（１６０地点）

調査区北部付近に位置する。規模は2.40m×1.20m，深さ0.60mを測る。

D－０１９（１６０地点）

調査区中央部付近に位置する。規模は1.70m×1.40m，深さ0.48mを測る。

１．溝

今回の調査で検出された溝はすべて近世遺構の地境等の施設と考えられる。このため特に個別の測量図は特に掲載しない。全体図を参照されたい。

D－002・006・007・011・015出土遺物観察表

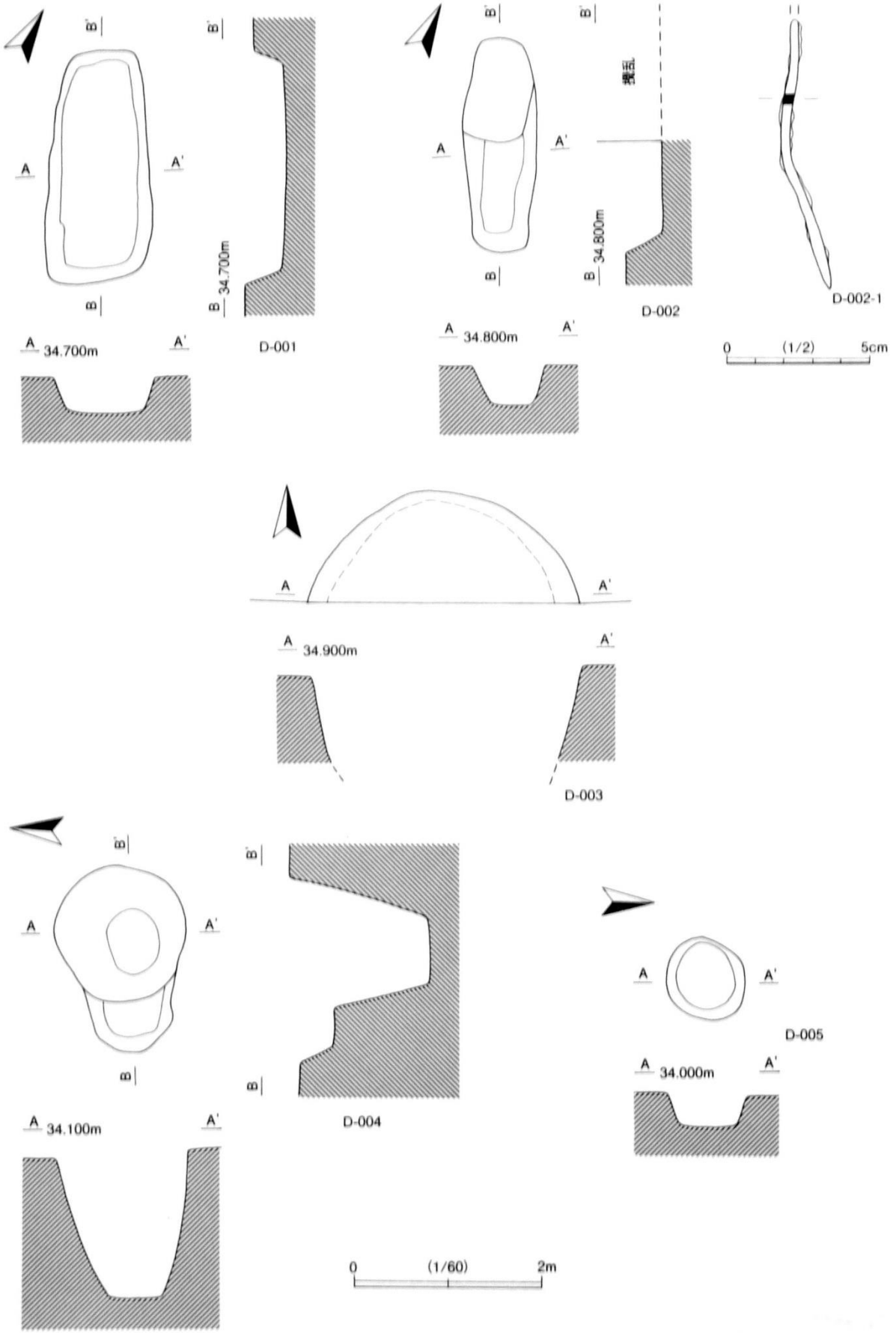
番号	種類	法　　量	依　存　度	備　　考
D-002 1	鉄製品 釘	残存長　9.4cm　幅　0.4cm　厚さ　0.3cm　重量　3.9g		
D-015 1	古銭	外径　2.5cm　内径　0.6cm　重量　6.2g		2枚重複

番号	器種	法量　cm	調　　整	色　調	依　存　度	備　　考
D-006 1	埴輪 形象埴輪	口径　－ 器高　<7.0> 底径　－				
D-007 1	須恵器 長頸壺	口径　－ 器高　<6.9> 底径　－	内面ロクロ。 外面ロクロ。	淡灰色	頸部一部	外面　釉がかかっている
D-011 1	埴輪	口径　－ 器高　<10.1> 底径　12.2	内面ヘラナデ。 外面ハケ目。	褐色	胴下端部～底部1/4	

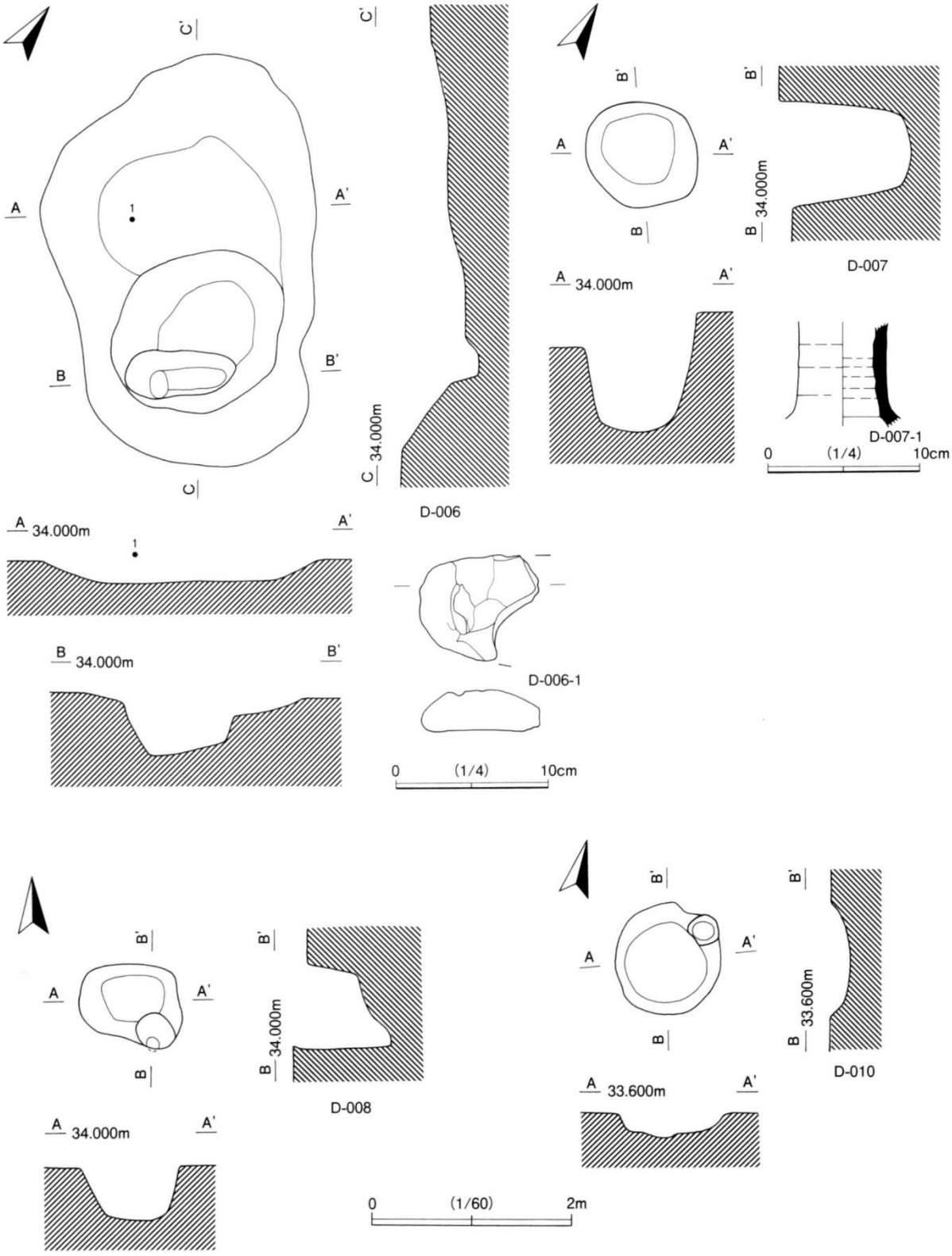
M－001・004・005出土遺物観察表

番号	種類	法　　量	依　存　度	備　　考
M-004 2	鉄製品	残存長　6.3cm　幅　2.8cm　厚さ　0.55cm・0.33cm　重量　42.1g		不明
M-005 1	石製品 砥石	残存長　4.5cm　幅　4.2cm　厚さ　2.3cm　重量　72.1g		1面使用
M-005 2	石 礫	長さ　4.3cm　幅　5.9cm　厚さ　3.3cm　重量　106.6g		

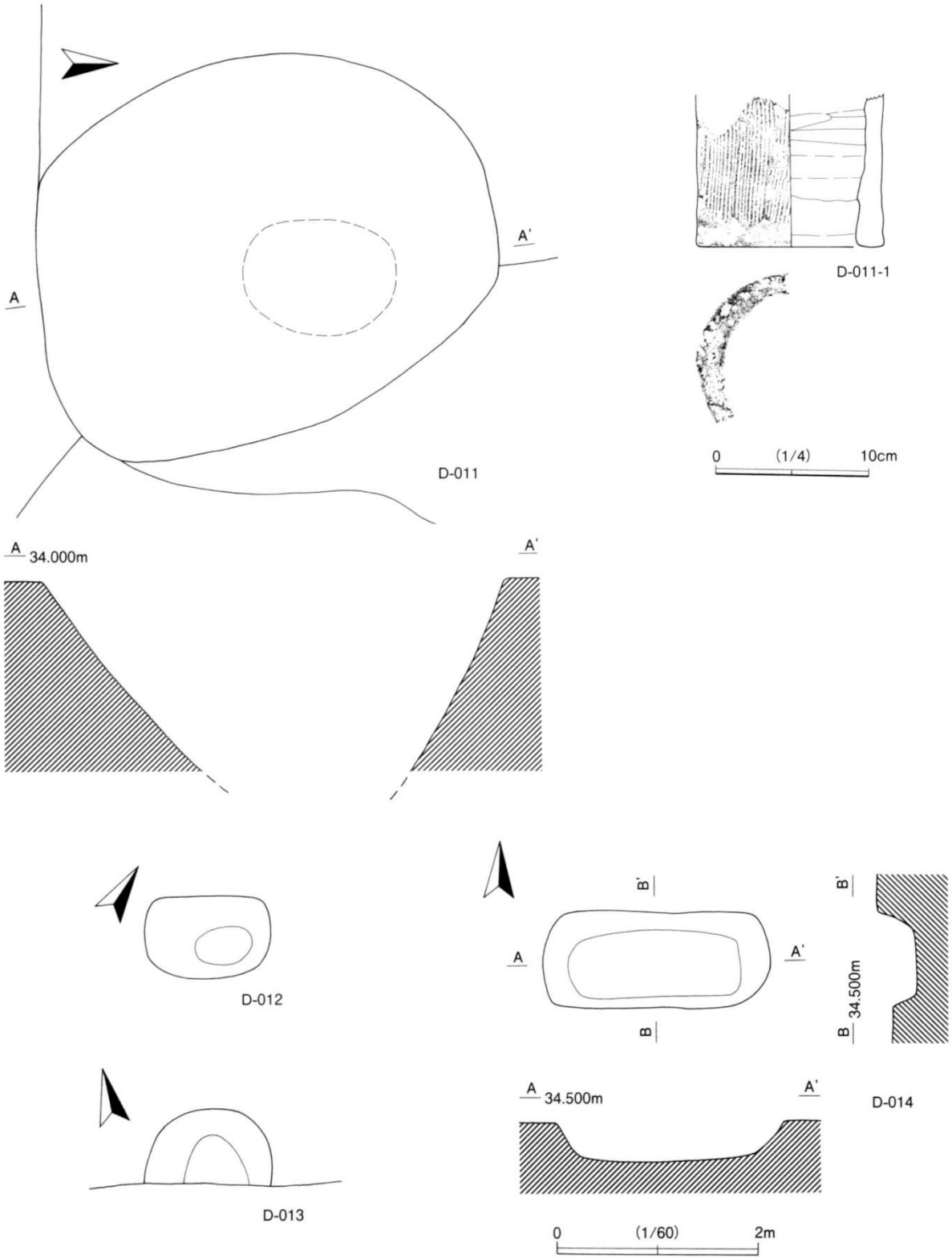
番号	器種	法量　cm	調　　整	色　調	依　存　度	備　　考
M-001 1	陶器 大甕	口径　－ 器高　<6.2> 底径　－		内　灰褐色 外　灰色	片	内面　釉がかかっている
M-004 1	埴輪 形象埴輪	口径　－ 器高　<5.2> 底径　－		内・外 淡褐色		



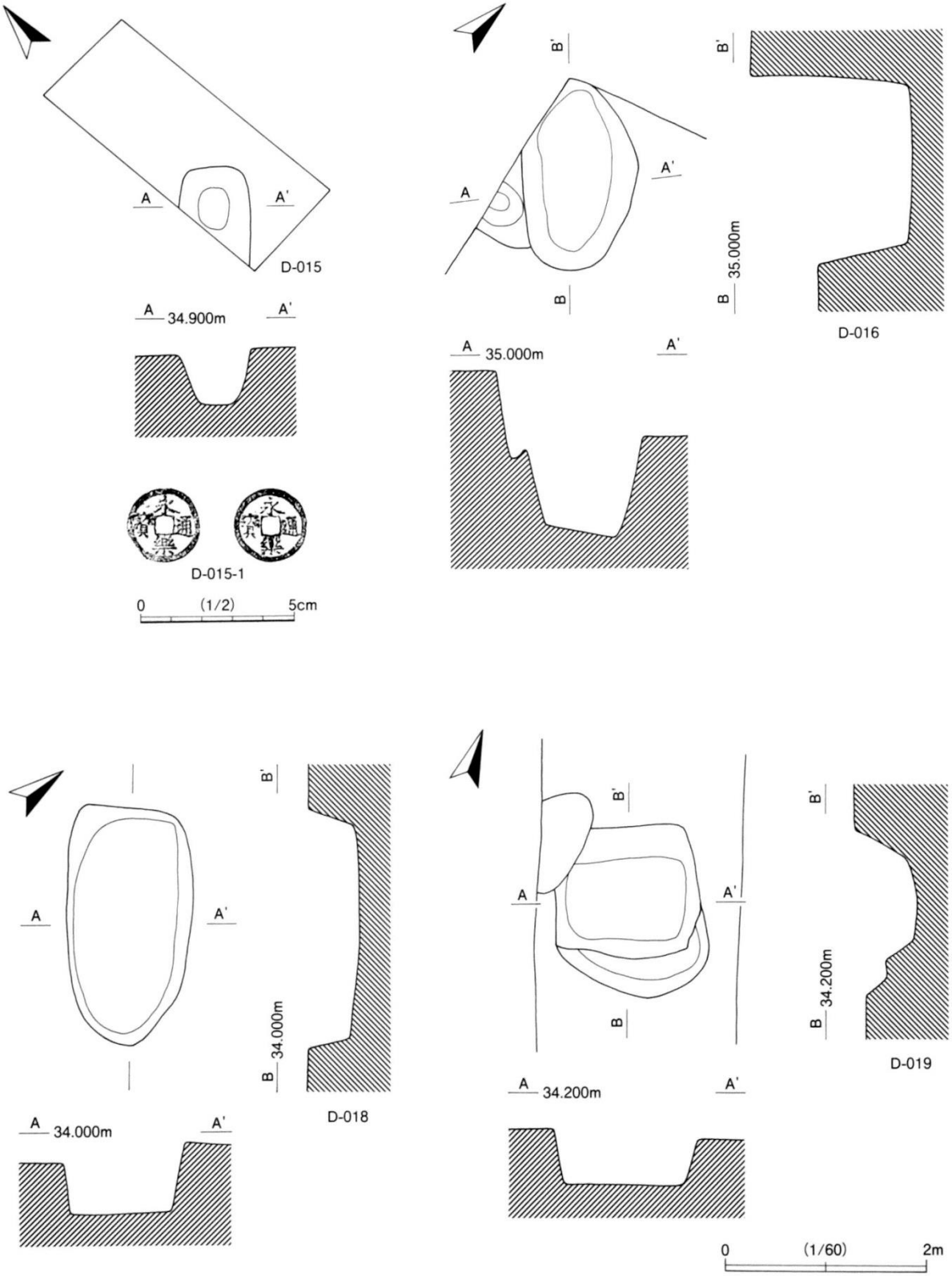
第111図　D-001～005実測図・出土遺物



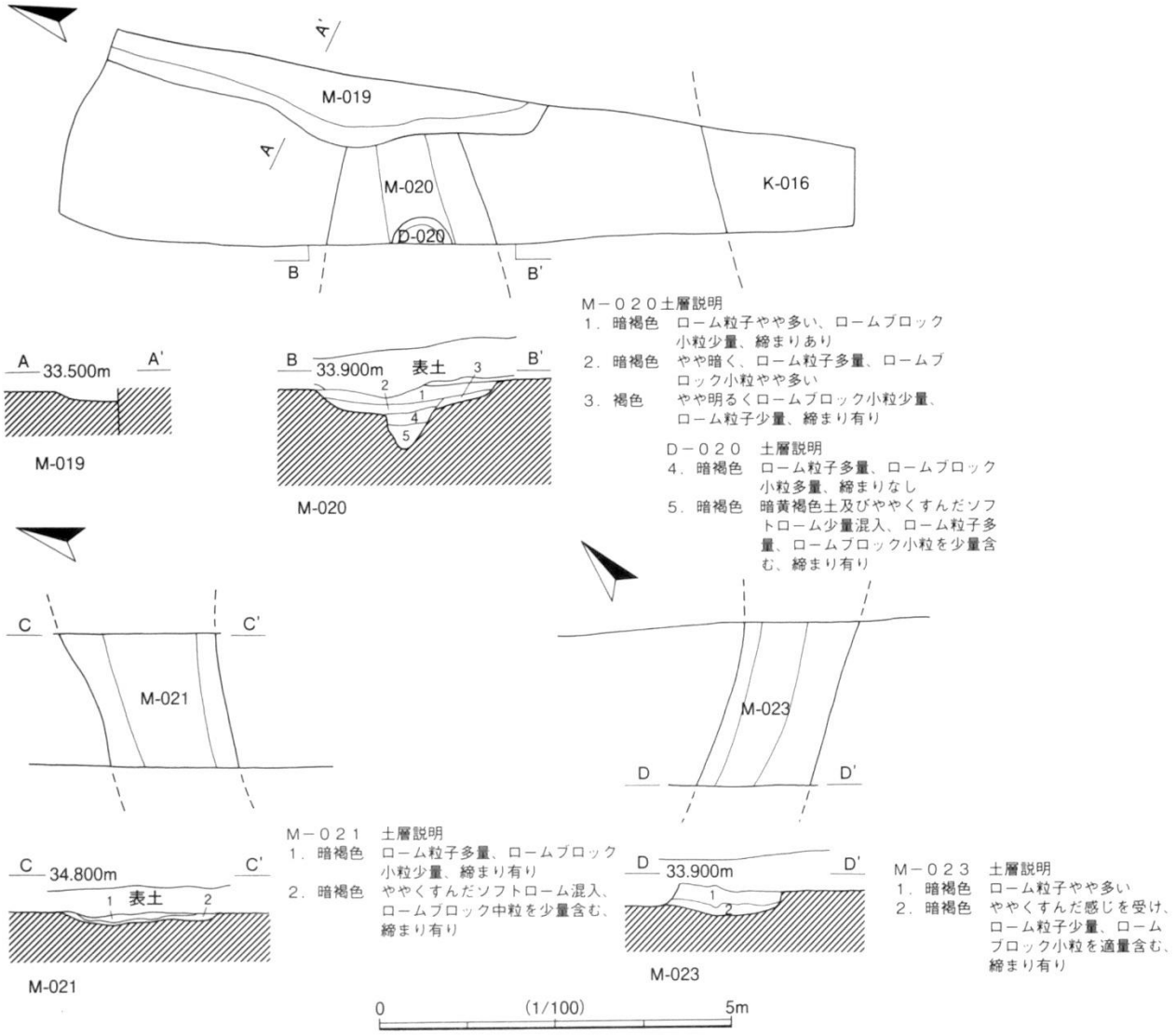
第112図　D-006～008・010実測図・出土遺物



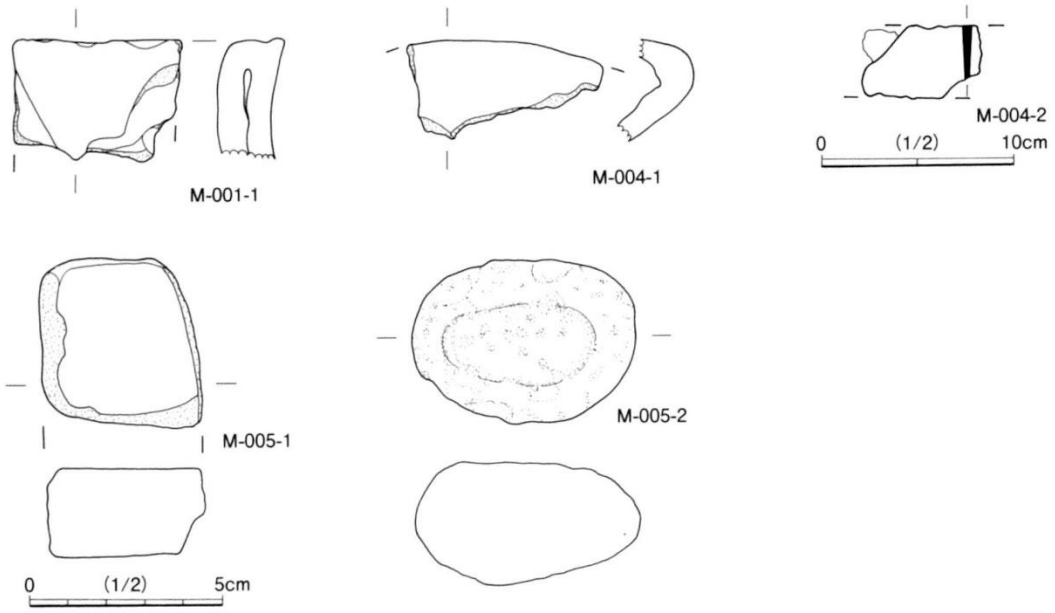
第113図　D-011～014実測図・出土遺物



第114図　D-015・016・018・019実測図・出土遺物



第115図　M-019・020・021・023実測図



第116図　M-001・004・005出土遺物

遺　構　写　真

図版1　旧石器時代遺物出土状況（1）

第1地点南から

第1地点西から

第1地点東から

図版2　旧石器時代遺物出土状況（2）

第2地点西から

第2地点北から

第3地点東から

6号墳
遺物出土状況（周溝内）

7号墳
南から

7号墳
東から

図版4　寺方古墳群の遺構（2）

7号墳

7号墳

7号墳
北から

7号墳
東から

7号墳
主体部西から

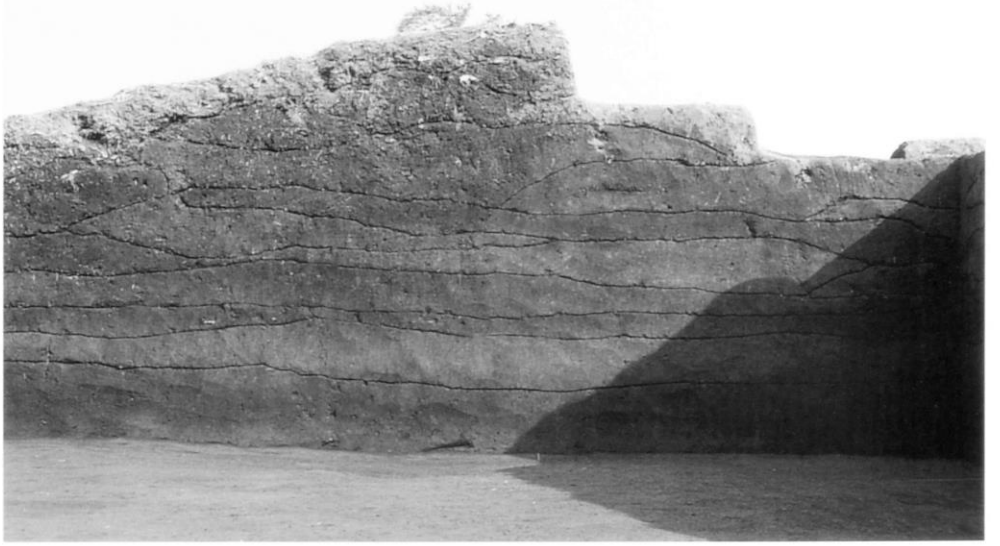
7号墳
主体部西からアップ

図版6　寺方古墳群の遺構（4）

7号墳
主体部

7号墳主体部
鉄鏃出土状況アップ（1）

7号墳主体部
鉄鏃出土状況アップ（2）



7号墳
南北セクション

7号墳
南北セクション

7号墳
東西セクション

図版8　寺方古墳群の遺構（6）

7号墳
管玉出土状況アップ（1）

8号墳全景

8号墳全景

８号墳全景

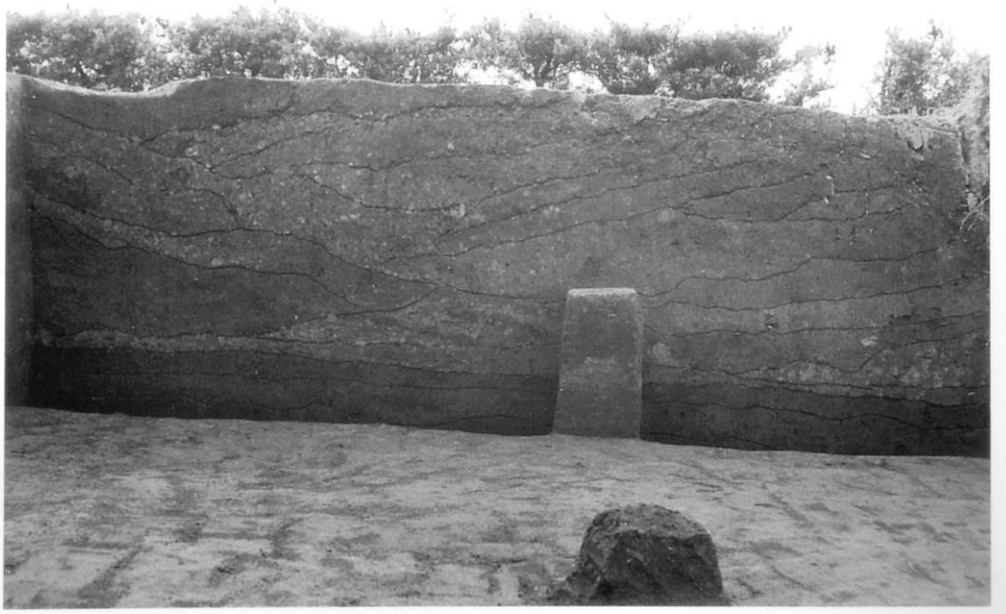
８号墳
南北セクション（上）

８号墳
南北セクション（下）

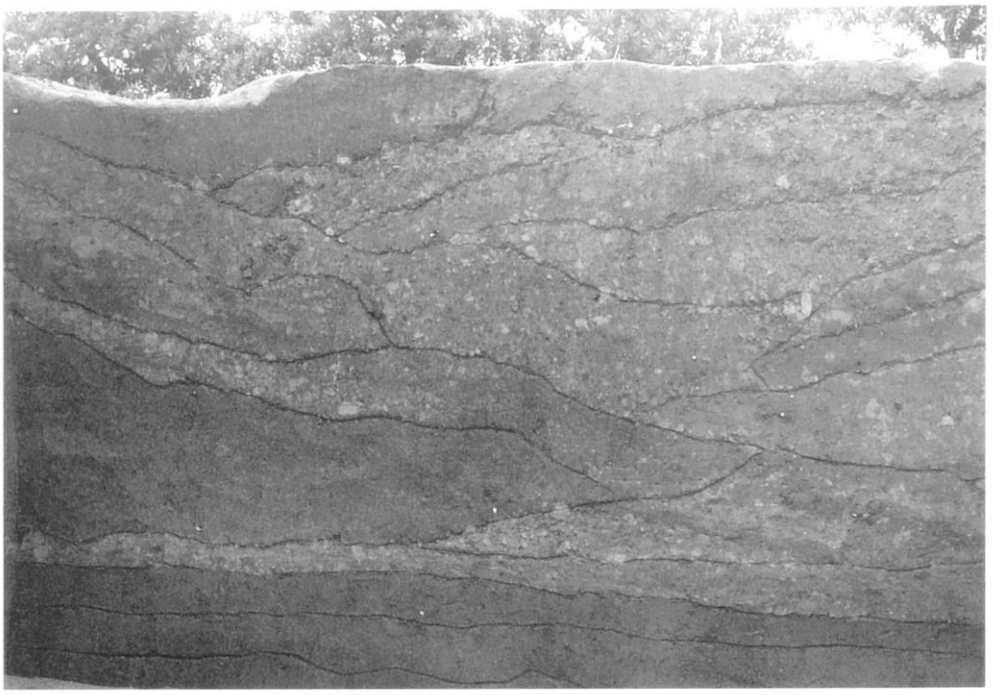
図版10　寺方古墳群の遺構（8）

8号墳
東西セクション

8号墳
東西セクション（上）



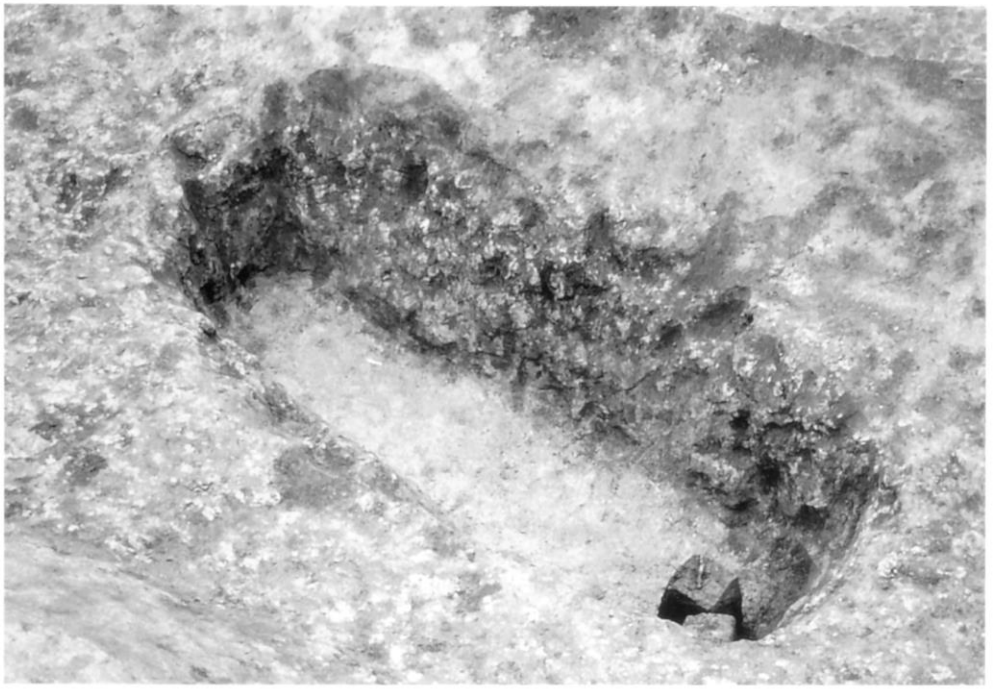
8号墳
東西セクション（下）



8号墳
東西セクション（下）アップ

8号墳
遺物出土状況（外周構内）

K-012号



K-011号内土抗
KD-002遺物出土状況

K-011号内土抗
KD-002鉄鏃出土状況

D-001

K-005号全景

K-005号（北側）

K-005号（南側）

K-015号全景

K-015号（南から）

K-015号
遺物出土状況アップ

K-016号（南側）

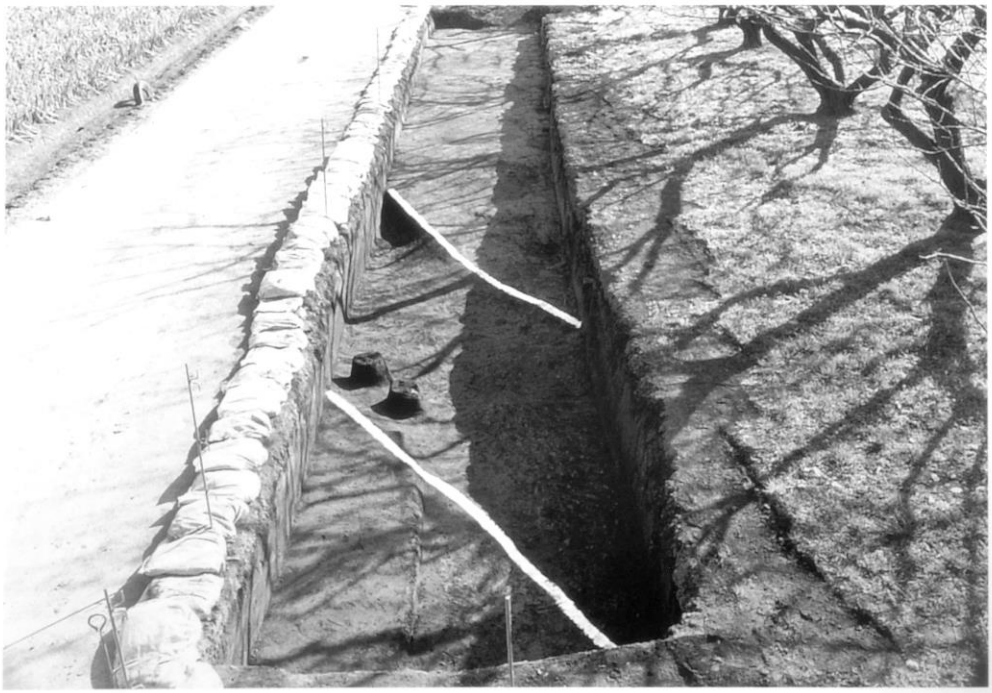
K-018号（南側）

K-018号（北側）
（H-023（A・B内））

図版16　寺方古墳群の遺構（14）

K-019号（北側）

K-020号（南側）



K-020号（北側）

K-021号（北側のみ）

K-022号（北側）

K-022号（南側）

H-001

H-001
遺物出土状況

No.6　No.10　No.11　No.8　No.9

H-001
遺物出土状況

No.6

No.10

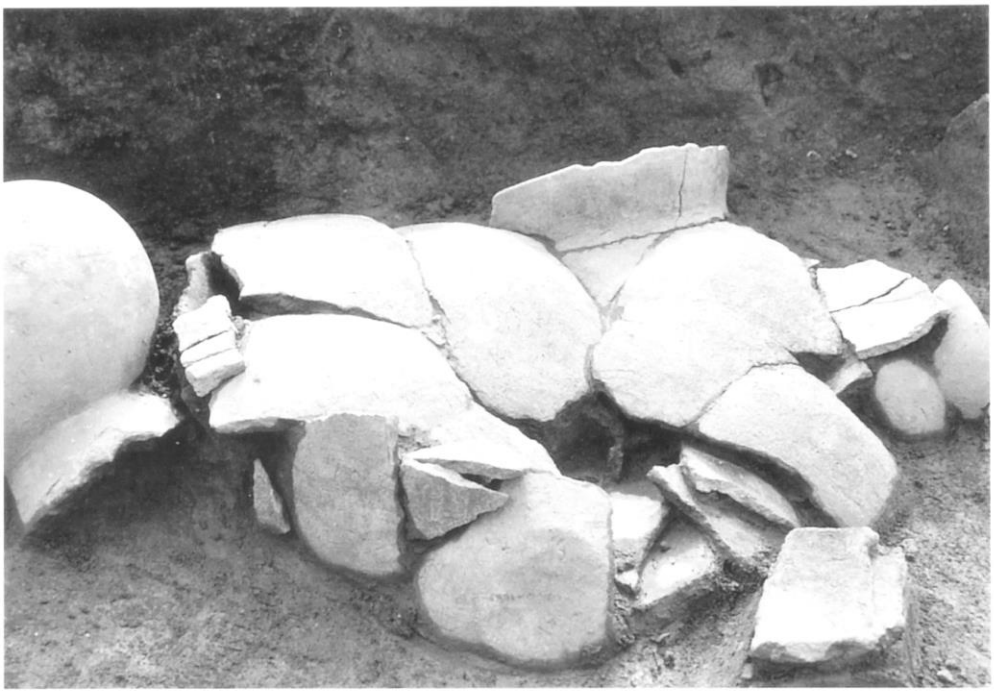
No.11

No.9

H-001
遺物出土状況アップ（1）

No.10

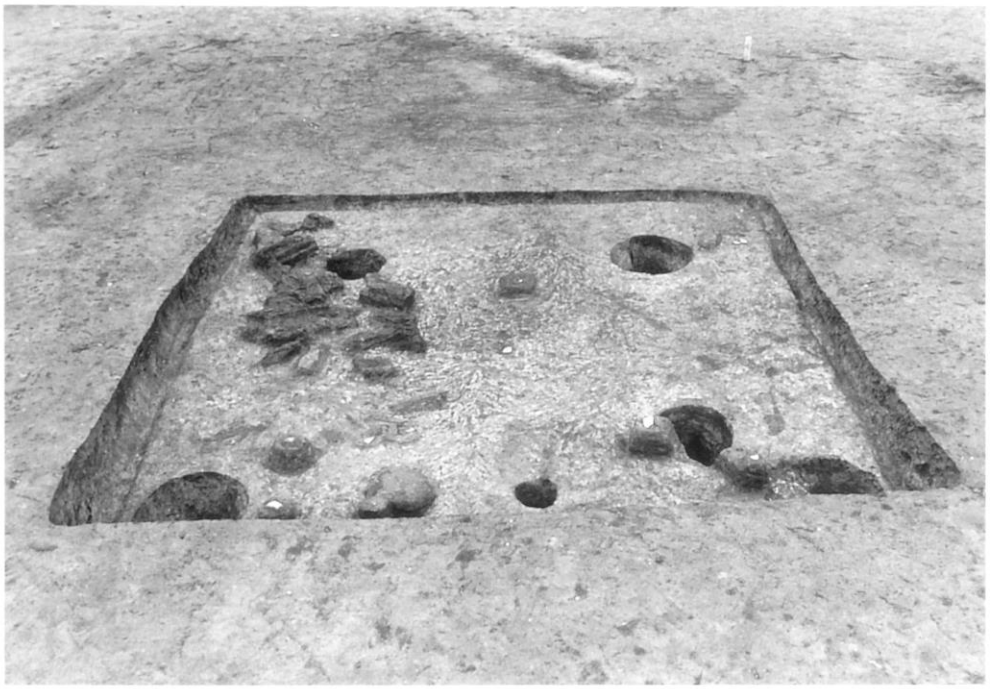
No.11



H-001
遺物出土状況アップ（2）

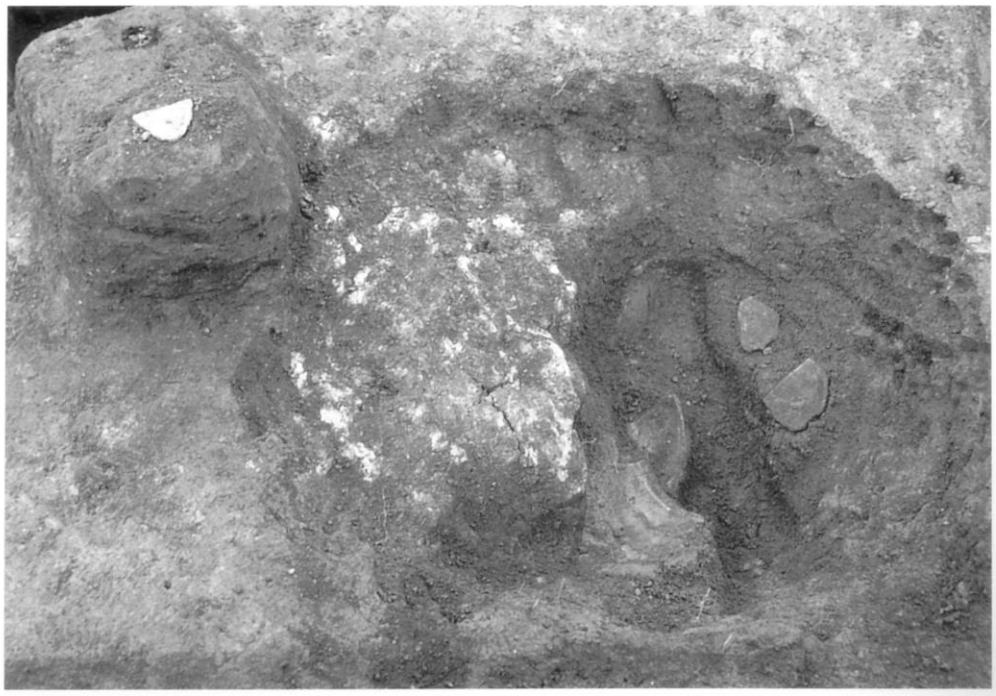
No.8

H-001
遺物出土状況アップ（3）



H-002

H-002
炭化物出土状況



H-002
P-6遺物出土状況

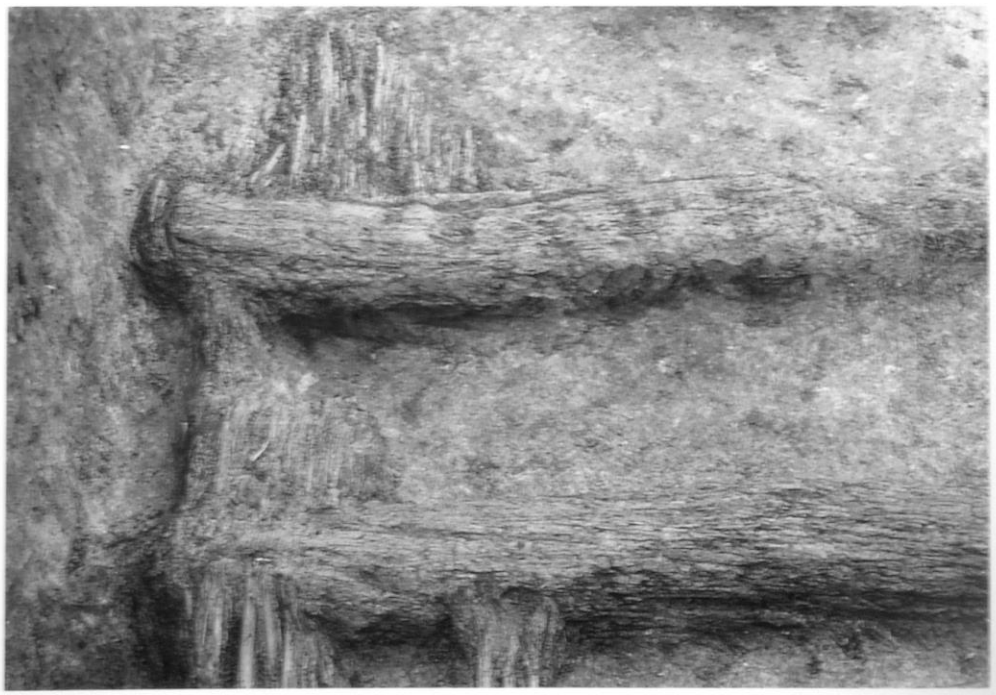
H-004

H-004
遺物出土状況

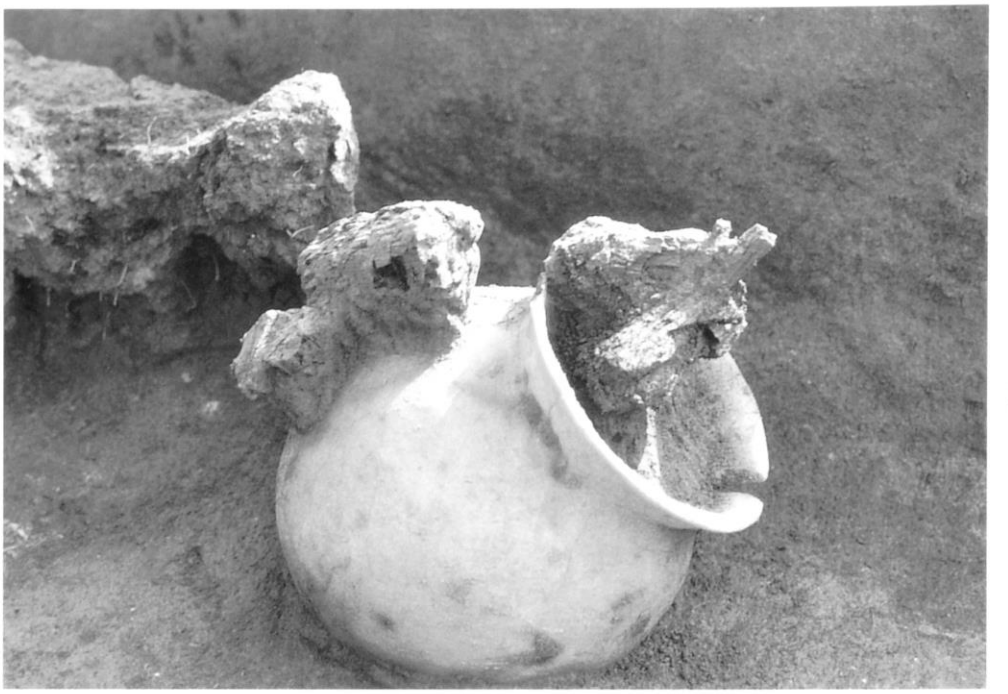
H-005完掘

H-005
遺物出土状況

H-005
炭化物出土状況アップ（1）



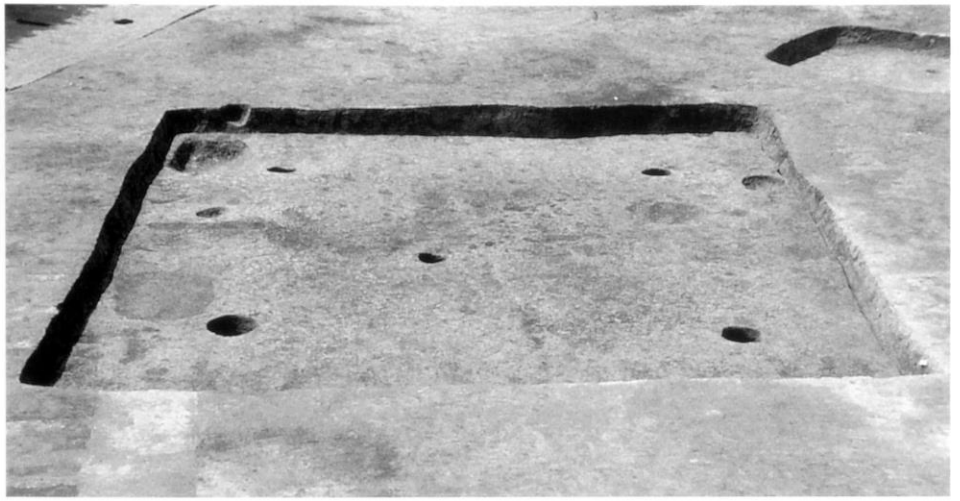
H-005
炭化物出土状況アップ（2）



H-005
甕出土状況

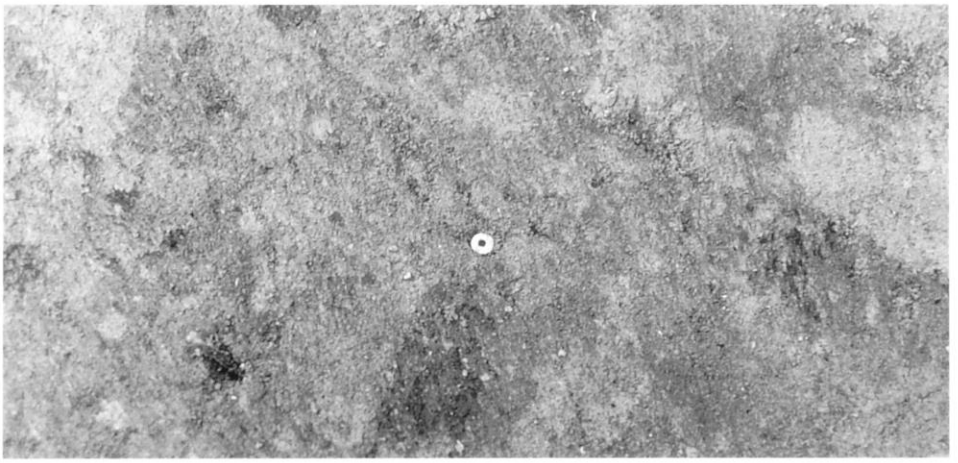
H-007完掘

H-008完掘



H-009完掘

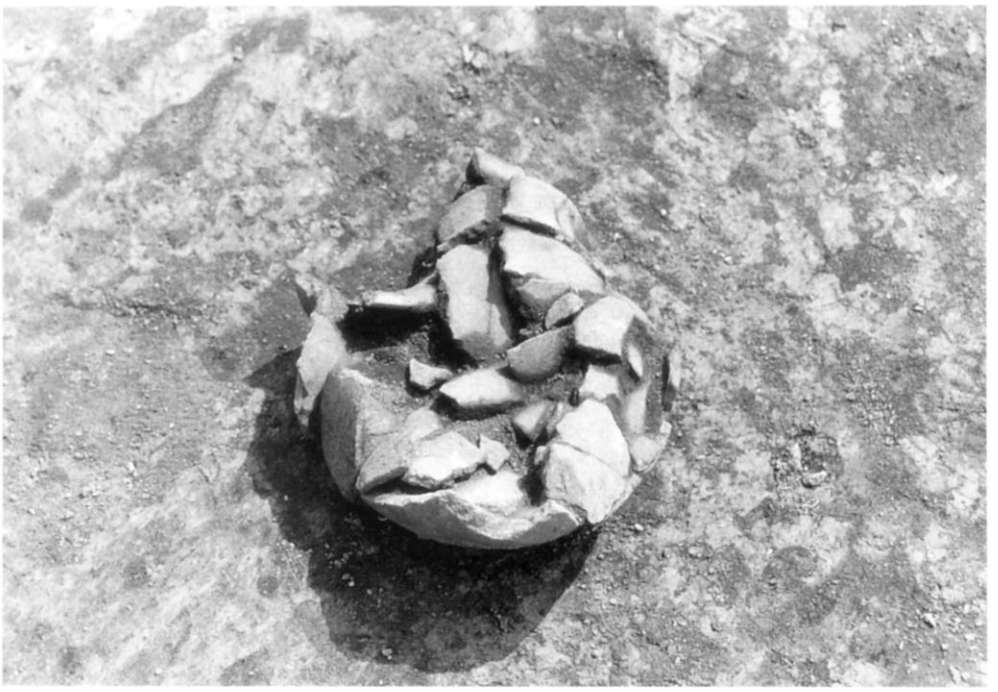
H-009
土玉出土状況（1）



H-009
土玉出土状況（2）

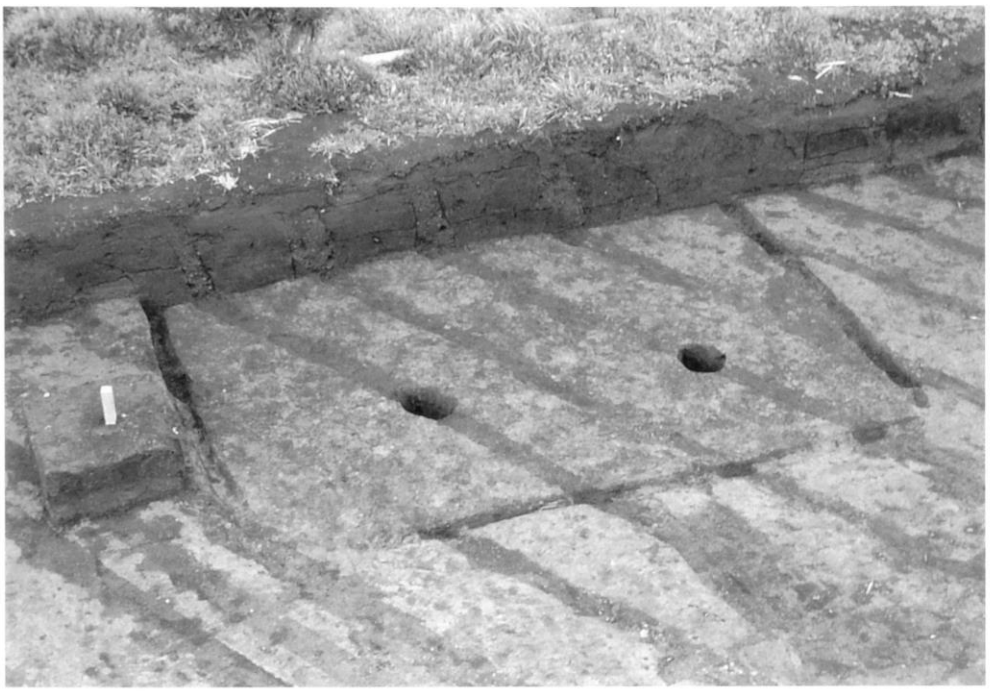
H-009
遺物出土状況アップ

H-009
遺物出土状況アップ（1）

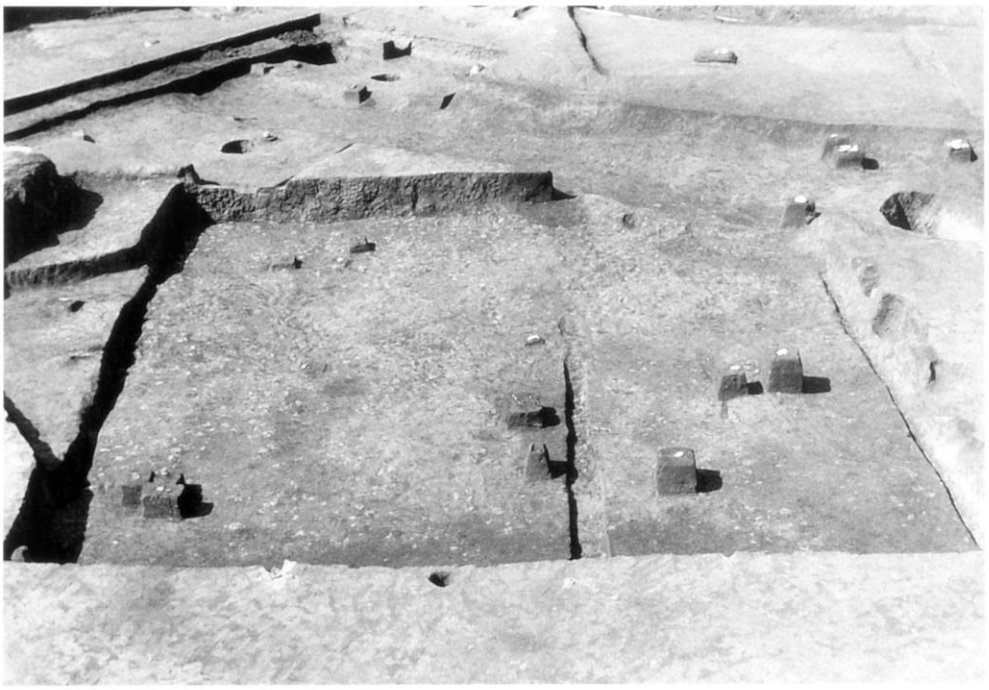


H-009
遺物出土状況アップ（2）

H-010完掘



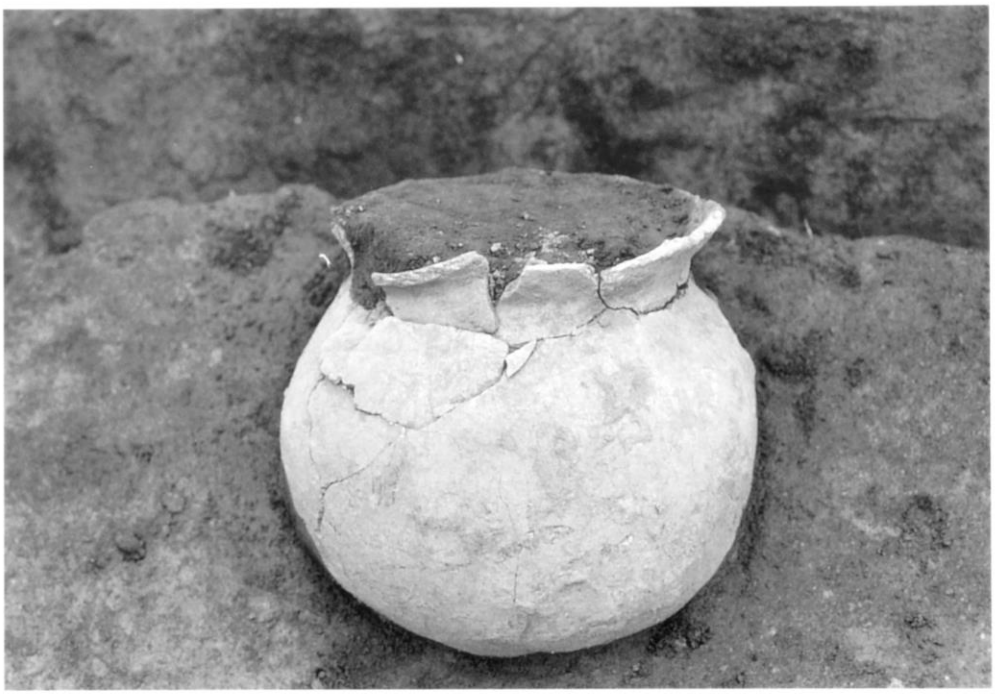
H-011完掘



H-013・014

H-015・016（A・B）完掘

H-015
甕出土状況アップ（1）



H-015
甕出土状況アップ（2）

H-017・018完掘

H-021

H-022完掘

H-023（A・B）
（K-018号北側含む）

H-024（K-015号）

H-024
遺物出土状況

H-024完掘
（K-015号）

D-015

D-016

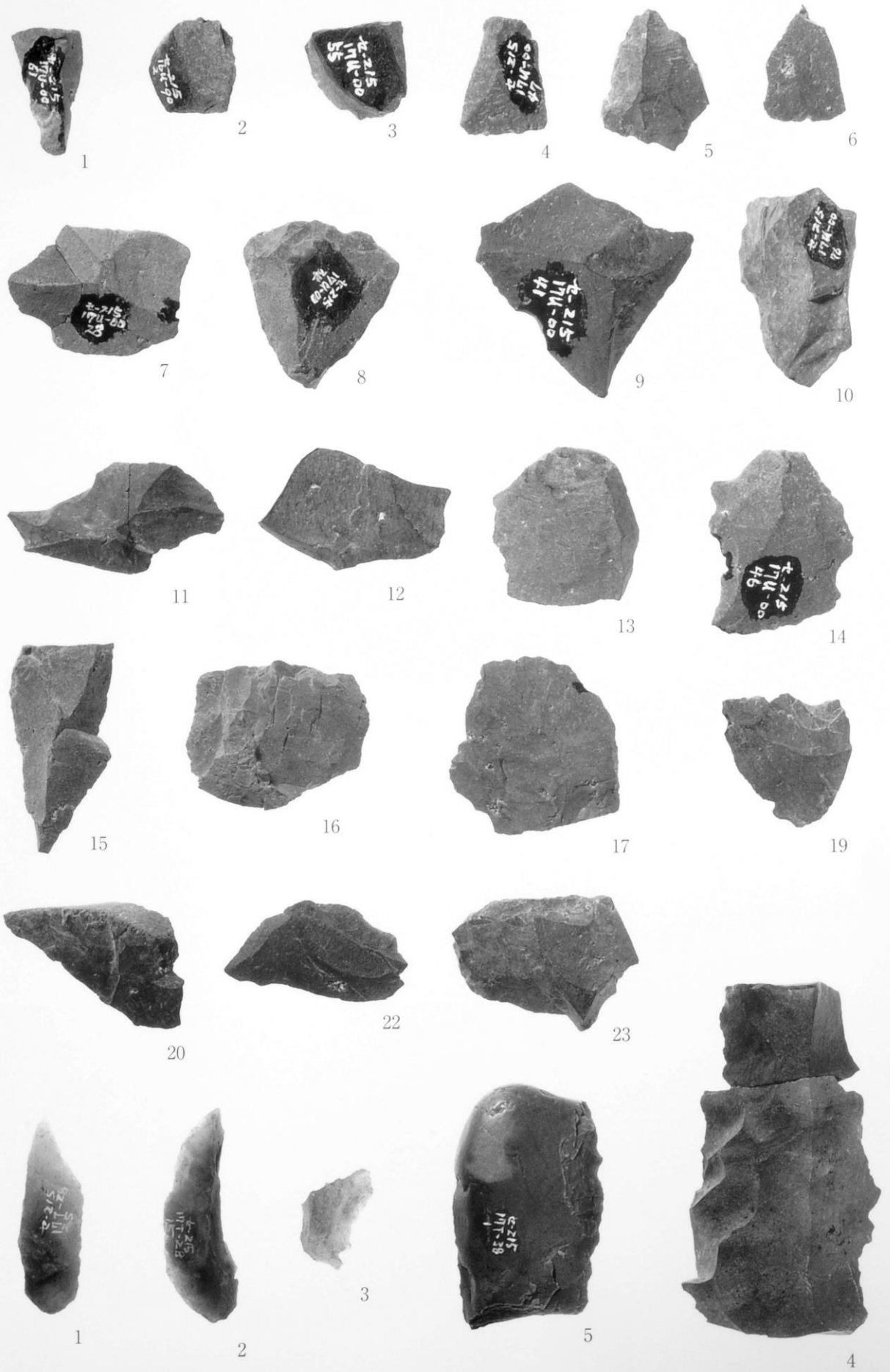
D-018

D-019

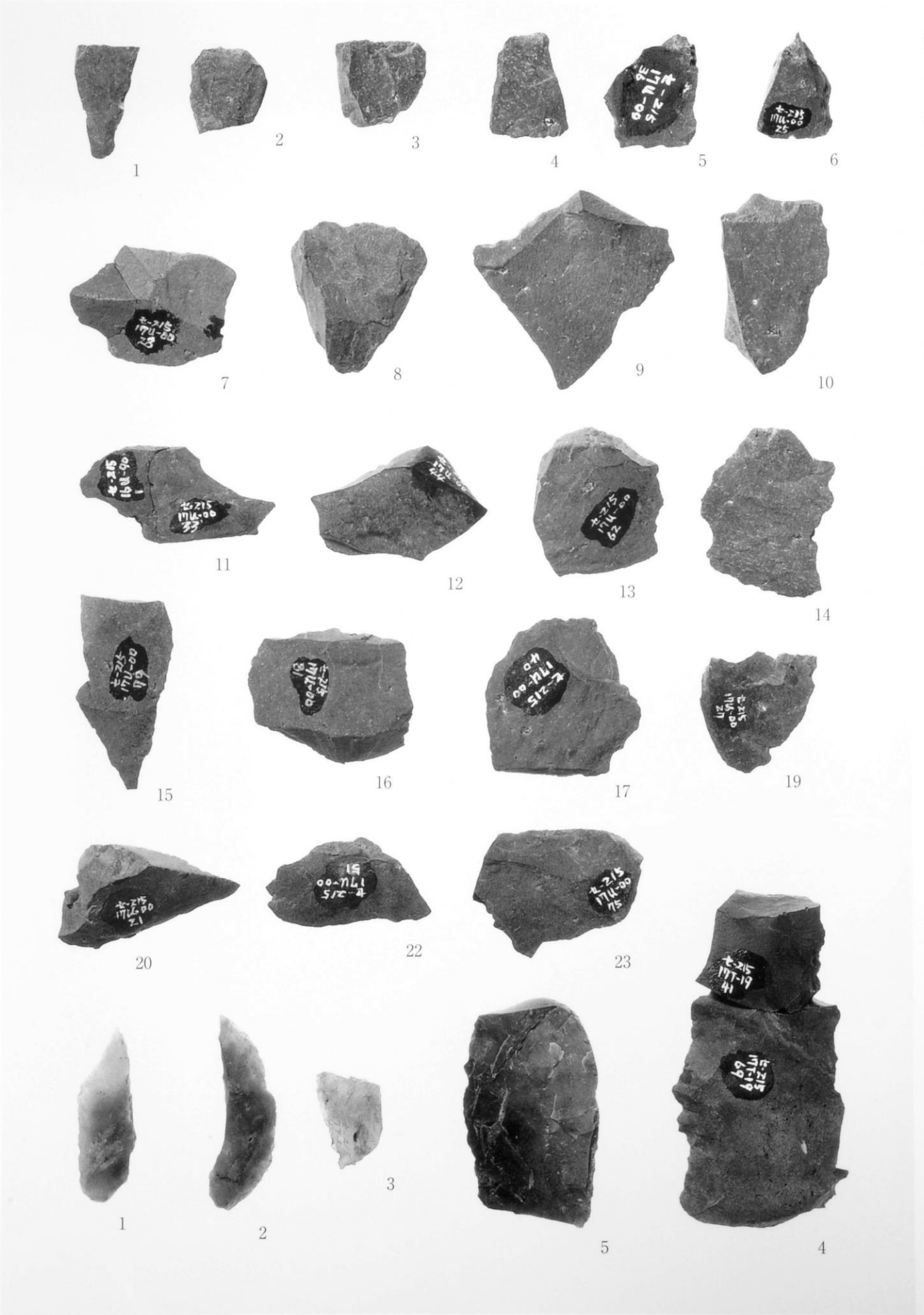
M-022

旧石器出土状況

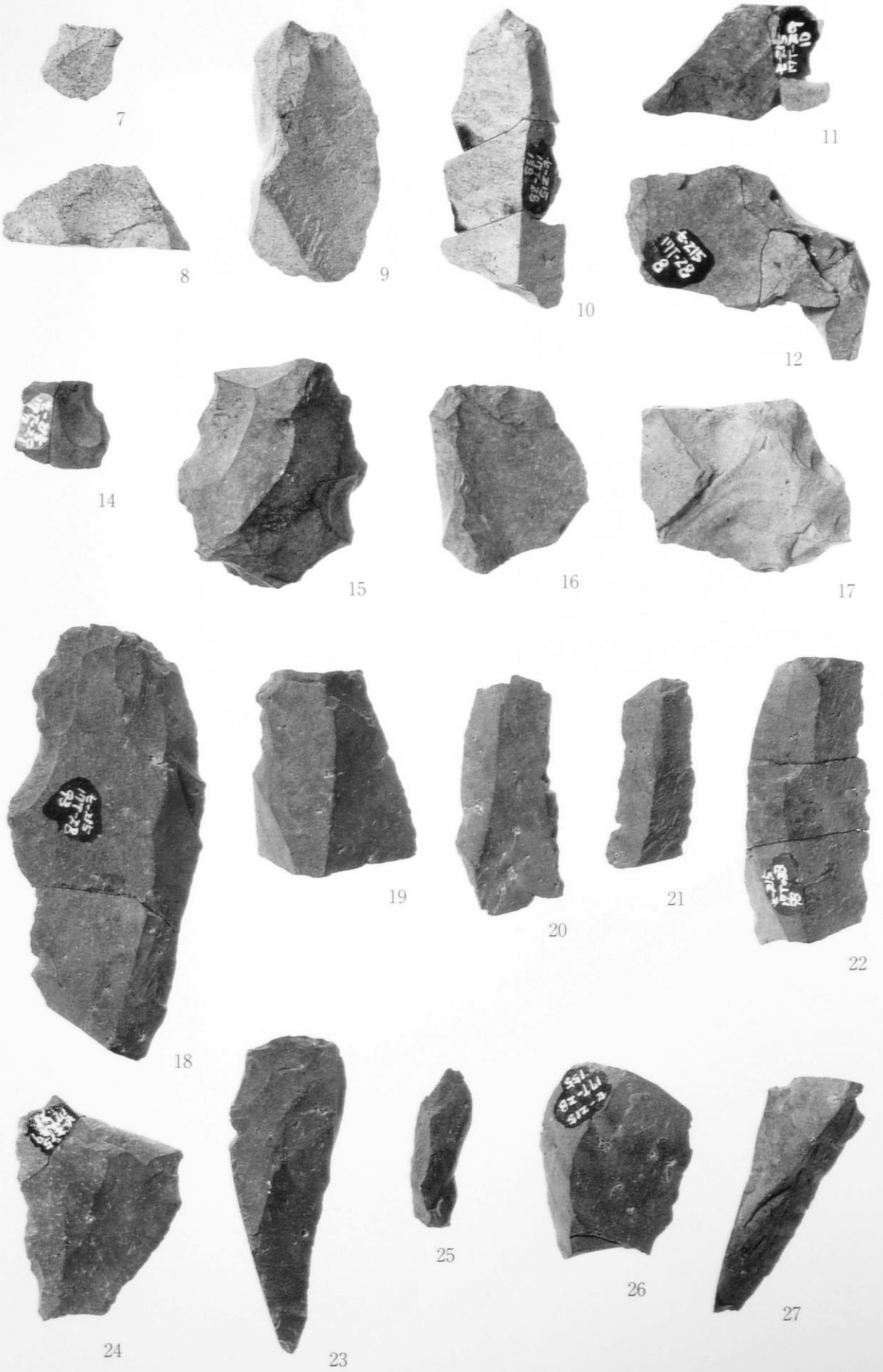
図版32　第1地点出土遺物（1）・第2地点出土遺物（1）

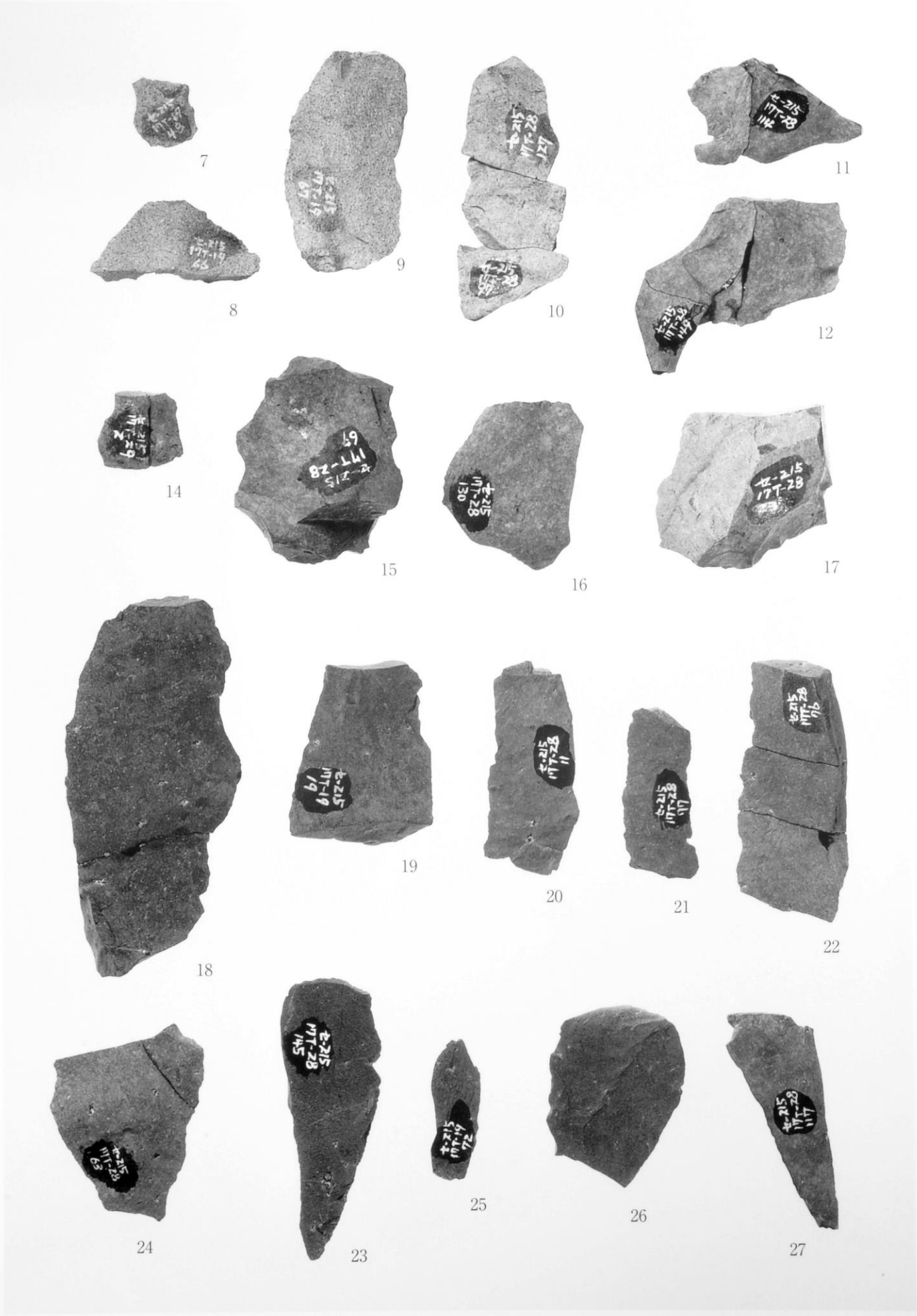


図版33　第1地点出土遺物（2）・第2地点出土遺物（2）



図版34　第2地点出土遺物（3）




7
8
9
10
11
12
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27

図版36　第2地点出土遺物（5）

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

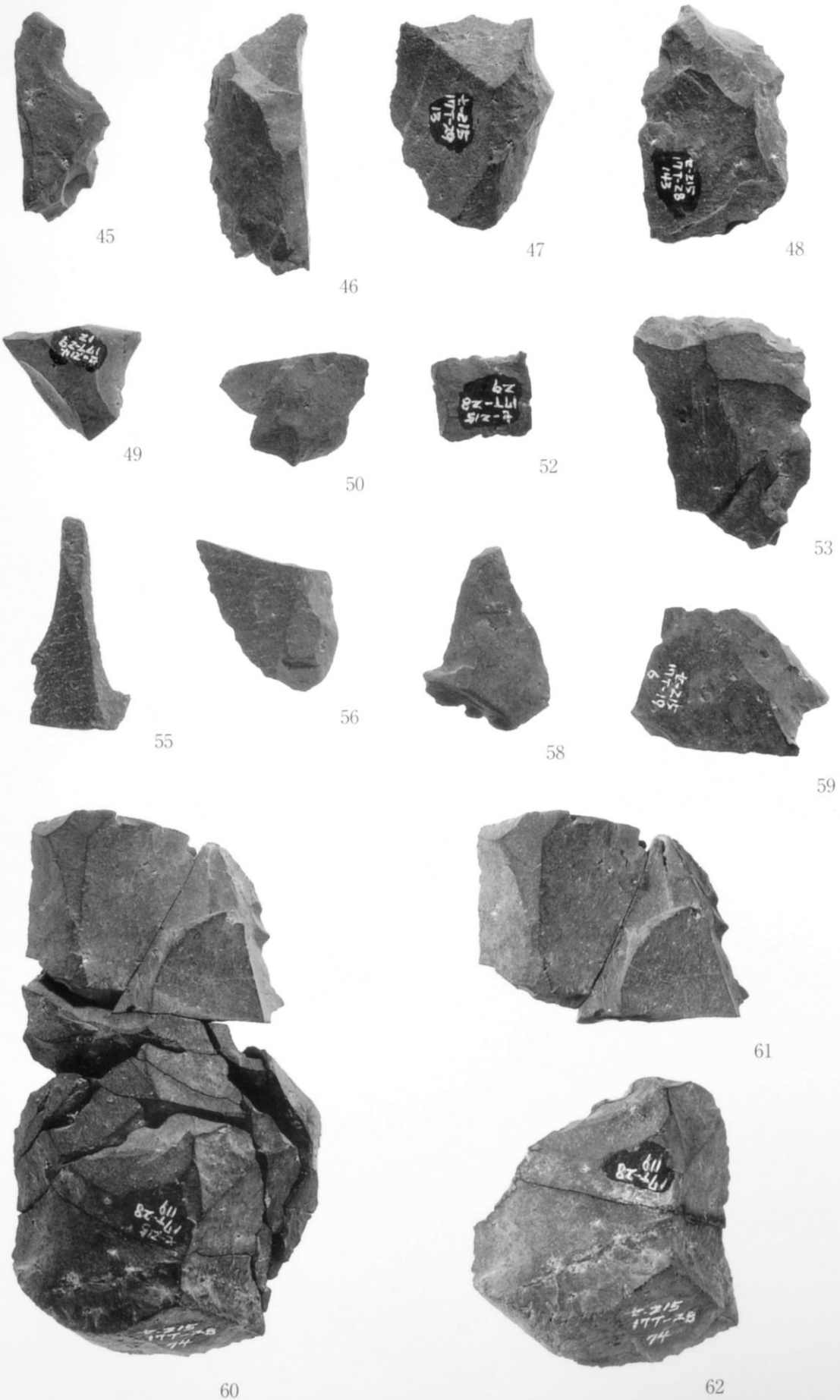
41

42

43

44

図版38　第2地点出土遺物（7）

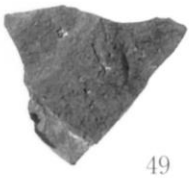


45

46

47

48


49

50

52

53

55

56

58

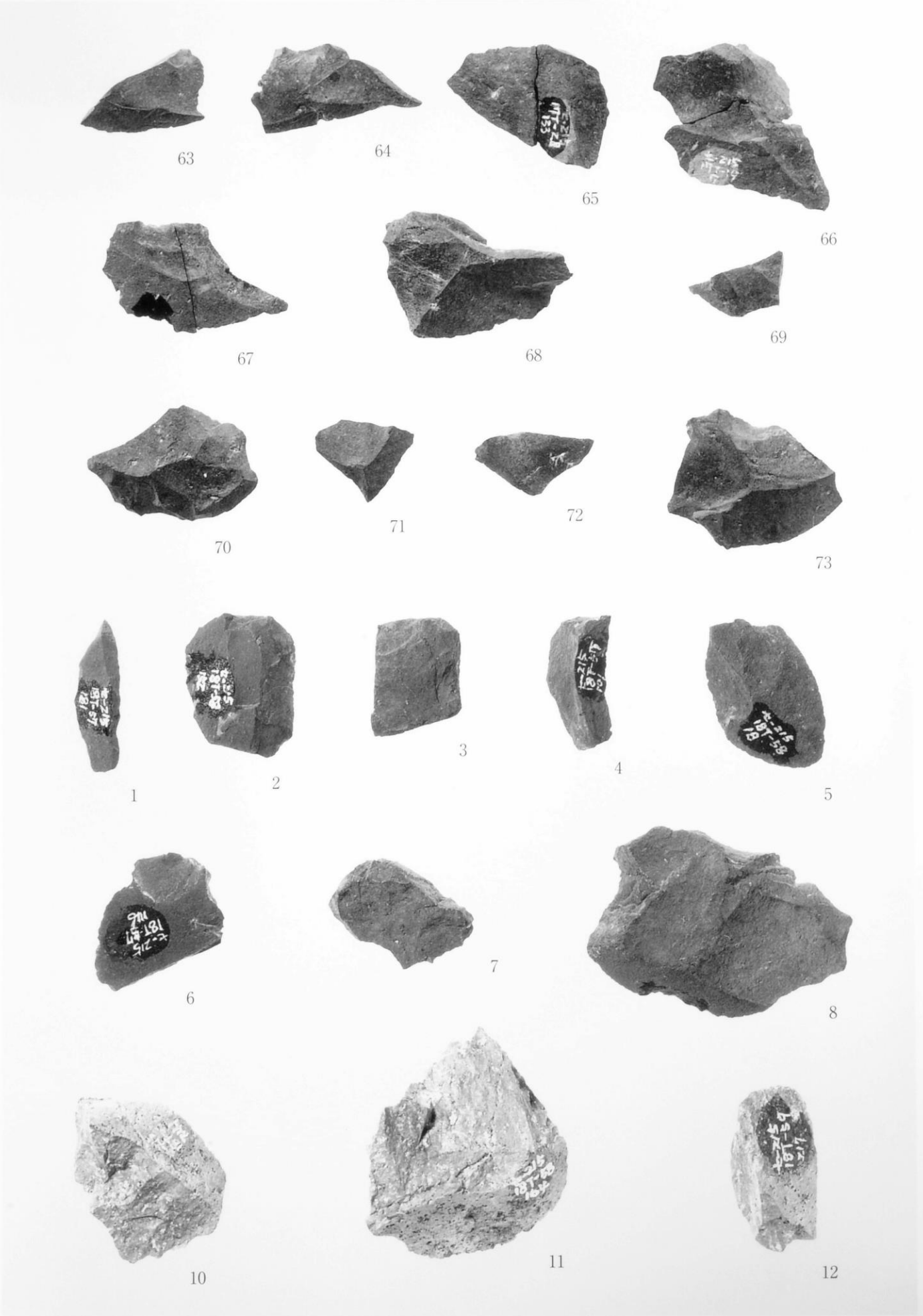
59

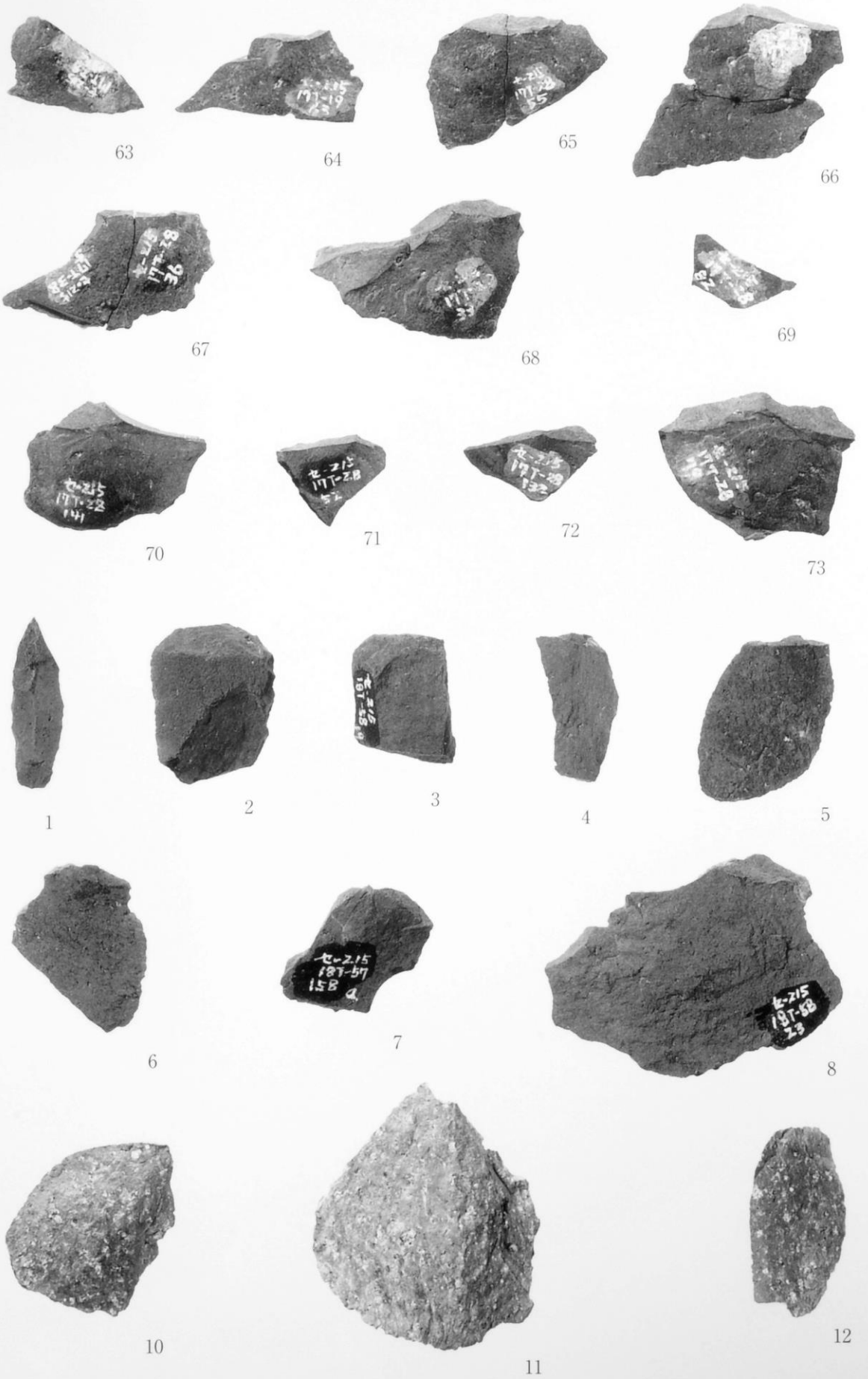
60

61

62

図版40　第2地点出土遺物（9）・第3地点出土遺物（1）




63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
1
2
3
4
5
6
7
8
10
11
12

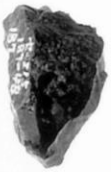
図版42　第3地点出土遺物（3）

14

15

22

23


17

18

19

20

24

25

26

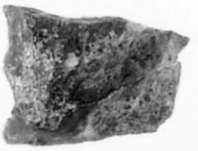
27

28

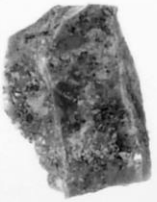
29

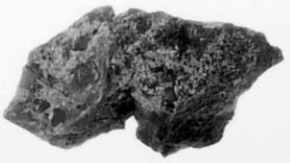
30

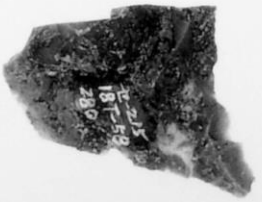
31


32

33


34


35


36

図版43　第3地点出土遺物（4）

14

15

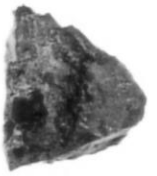
22

23

17

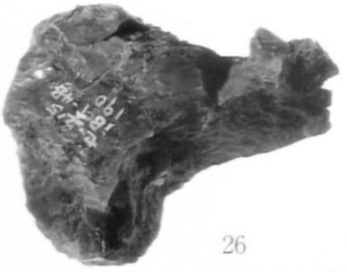
18

19


20

24

25


26

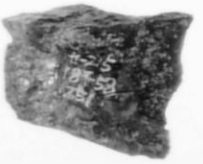
27

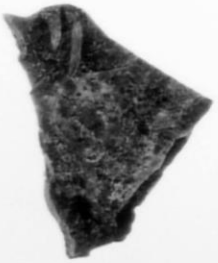
28

29

30

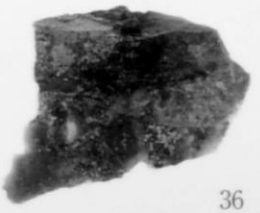
31


32

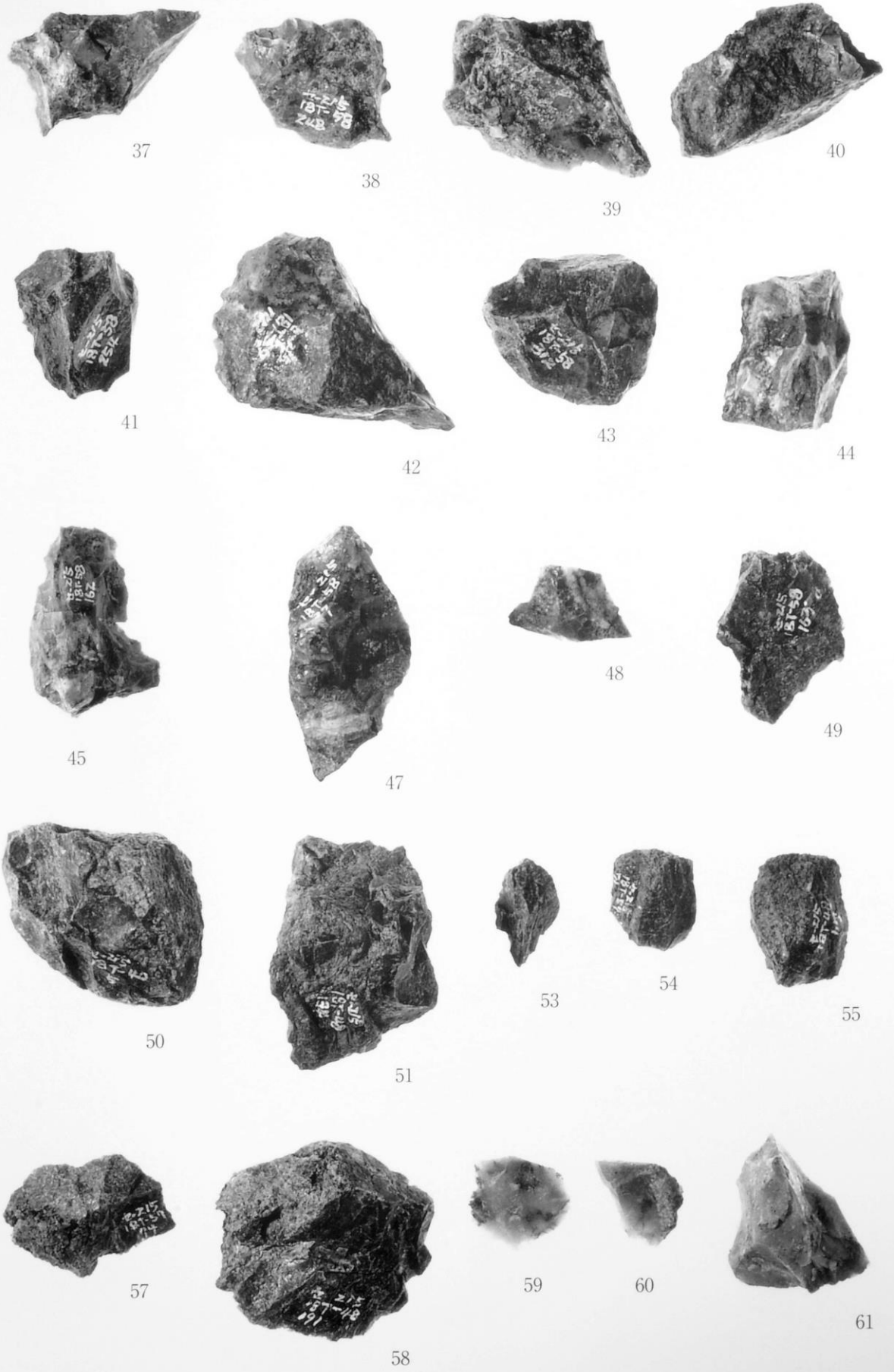

33

34

35

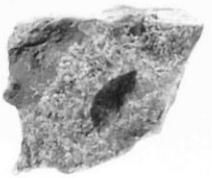

36

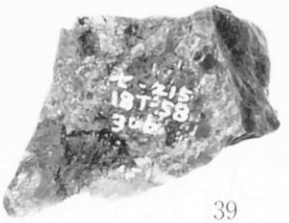
図版44　第3地点出土遺物（5）

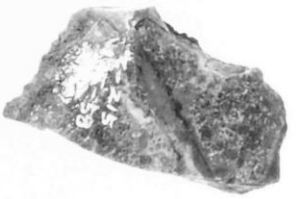


図版45　第3地点出土遺物（6）

37


38


39


40

41

42

43

44

45

47

48

49

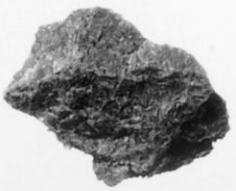
50

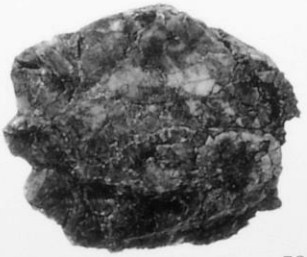
51

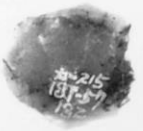
53

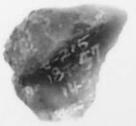
54

55


57

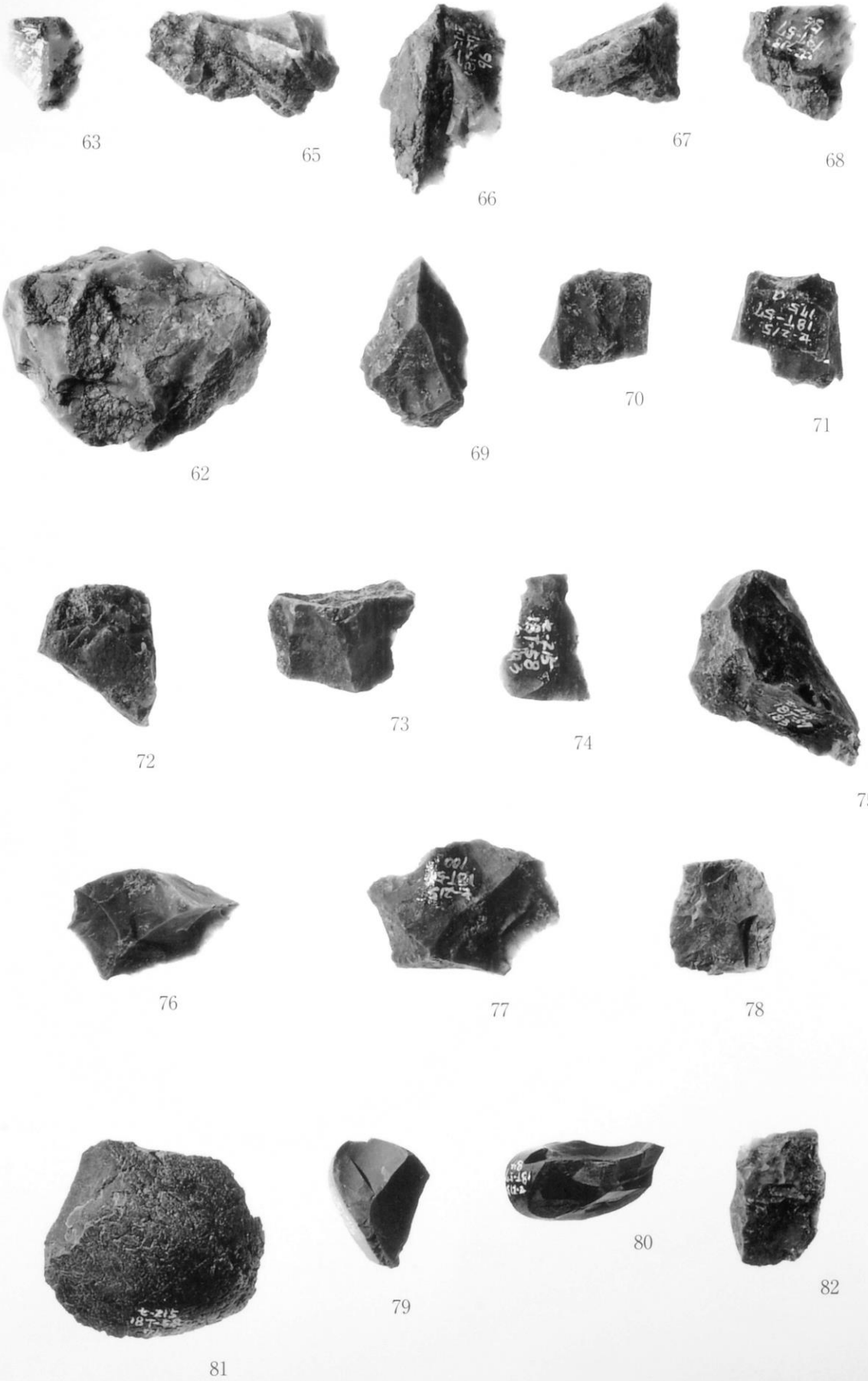

58

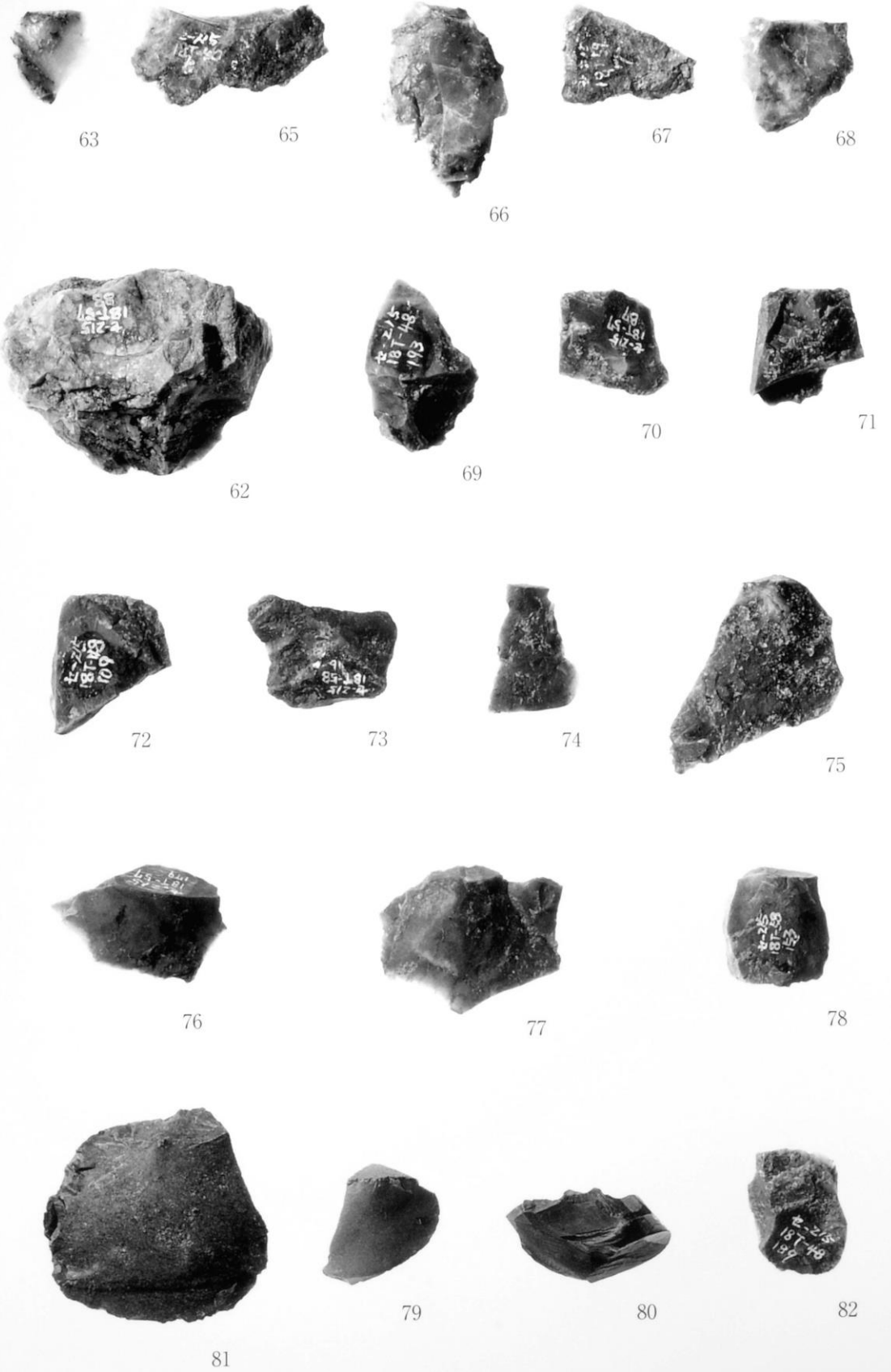

59


60

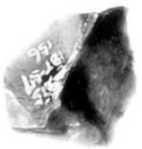
61

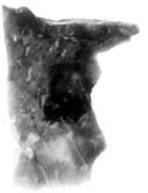
図版46　第3地点出土遺物（7）

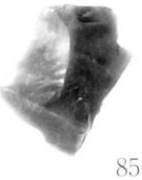



63
65
66
67
68
62
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
81
79
80
82

図版48　第3地点出土遺物（9）


83


84


85

86

87

88

89

90

91

92

93

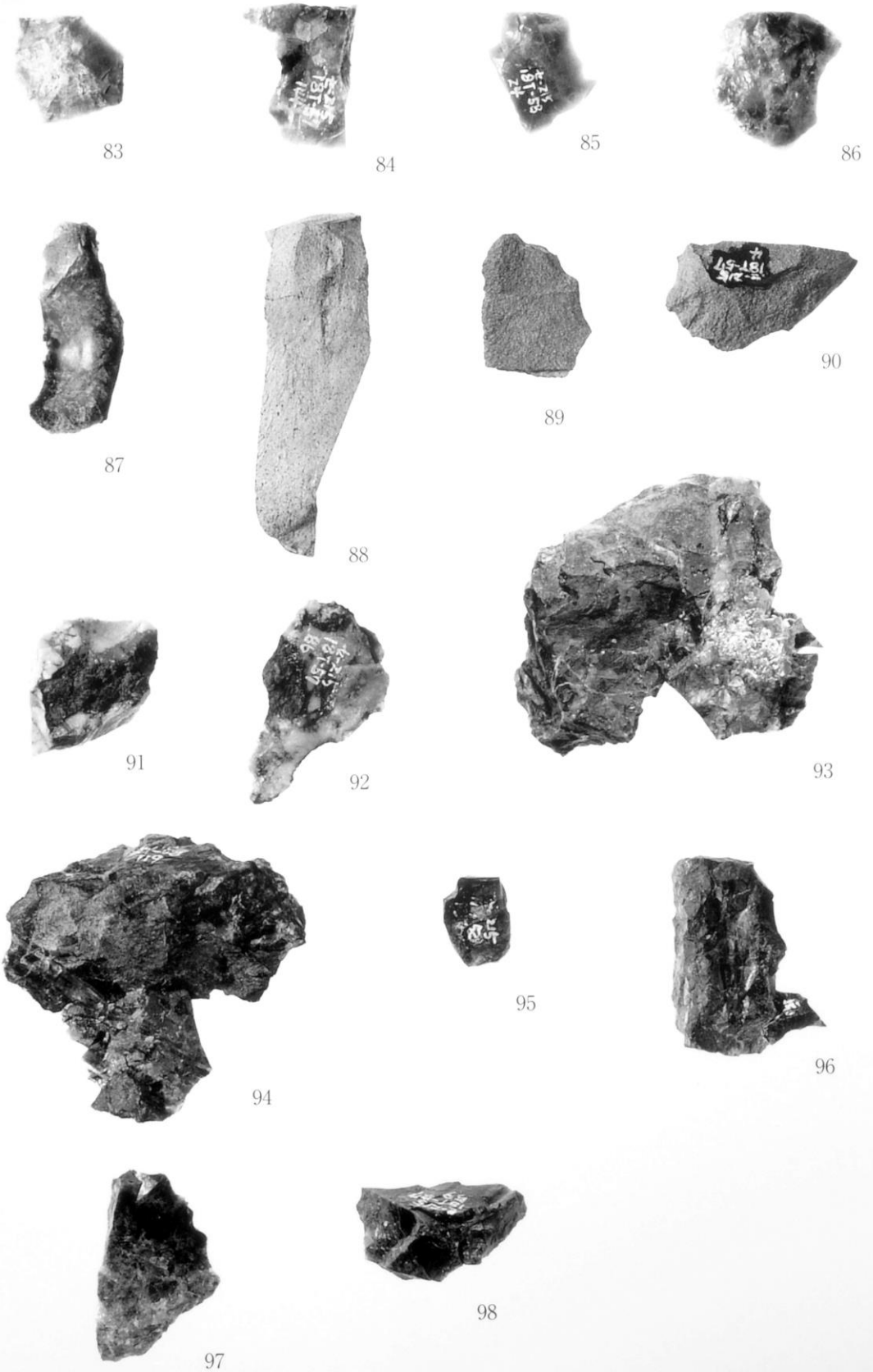
94

95

96

97

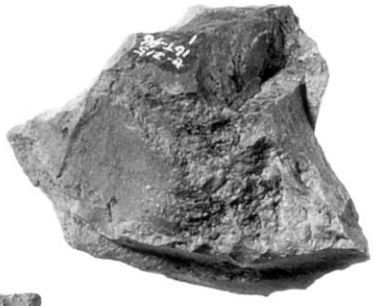
98


83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98

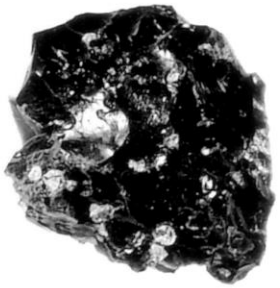
図版50　遺構外・第101地点出土遺物（1）

1

2



3



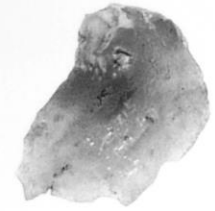
4

5

1

2

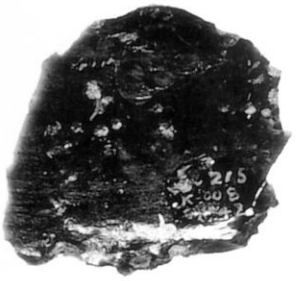
図版51　遺構外・第101地点出土遺物（2）



1

2

3



4

5

1

2

図版52　寺方古墳群の遺物（1）

7号墳-1

7号墳-3

7号墳-6

7号墳-7

7号墳-8

7号墳-9

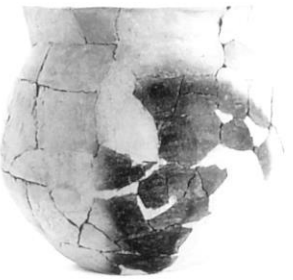
7号墳-10

7号墳-11

7号墳-12

7号墳-13

7号墳-14


7号墳-17

7号墳-18

7号墳-19

7号墳-20

7号墳-21

7号墳-22

7号墳-23

7号墳-24

7号墳-25

7号墳-26

7号墳-27

7号墳-28

7号墳-29

7号墳-30

7号墳-31

7号墳-32

7号墳-33

7号墳-34

7号墳-35

7号墳-36

7号墳-37

7号墳-39

7号墳-38

7号墳-40

7号墳-41

7号墳-42

7号墳-43

7号墳-44

7号墳-45

7号墳-46

7号墳-47

7号墳-48

7号墳-1
主体部

7号墳-2
主体部

7号墳-3
主体部

7号墳-4
主体部

7号墳-5
主体部

7号墳-6
主体部

7号墳-7
主体部

7号墳-8
主体部

7号墳-9
主体部

7号墳-10
主体部

7号墳-11
主体部

7号墳-12
主体部

7号墳-13
主体部

7号墳-14
主体部

7号墳-15
主体部

7号墳-16
主体部

7号墳-17
主体部

7号墳-18
主体部

7号墳-19
主体部

7号墳-20
主体部

7号墳-21
主体部

7号墳-22
主体部

7号墳-23
主体部

7号墳-24
主体部

7号墳-25
主体部

7号墳-26
主体部

7号墳-27
主体部

7号墳-28
主体部

7号墳-29
主体部

7号墳-30
主体部

7号墳-31
主体部

7号墳-32
主体部

7号墳-33
主体部

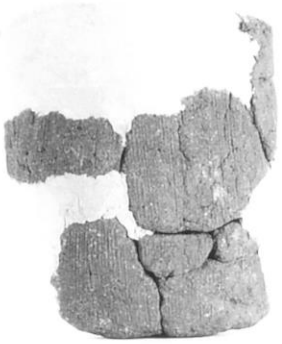
図版56　寺方古墳群の遺物（5）　埴輪

8号墳-1

8号墳-2

8号墳-3

8号墳-4


8号墳-5

8号墳-6

8号墳-7

8号墳-8

8号墳-9

8号墳-10

8号墳-11

8号墳-14

8号墳-15

8号墳-16

8号墳-18

8号墳-19

8号墳-20

8号墳-21

8号墳-22

8号墳-23

8号墳-24

8号墳-25

8号墳-26

8号墳-27

8号墳-28

8号墳-29

8号墳-30

8号墳-31

8号墳-32

8号墳-33

8号墳-35

8号墳-37

8号墳-38

8号墳-39

8号墳-40

8号墳-41

図版58　寺方古墳群の遺物（7）埴輪・土製品・石製品

8号墳-43

8号墳-44

8号墳-45

8号墳-49

8号墳-50

8号墳-51

8号墳-53

8号墳-52

8号墳-55

8号墳-56

8号墳-57

8号墳-58

8号墳-59

8号墳-60

8号墳-61

8号墳-62

8号墳-66

8号墳-63

8号墳-64

8号墳-65

8号墳-67

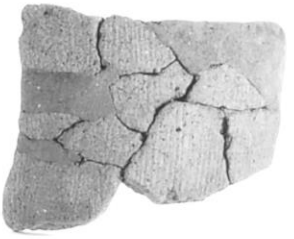
8号墳-71

8号墳-72

8号墳-73

8号墳-74

8号墳-75


8号墳-76

8号墳-78

8号墳-79

8号墳-81

8号墳-82

8号墳-83

8号墳-84

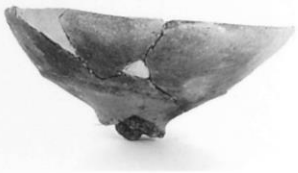
8号墳-85

8号墳-86

8号墳-87

8号墳-88

図版60　寺方古墳群の遺物（9）土製品・石製品


8号墳-90

8号墳-91

8号墳-92

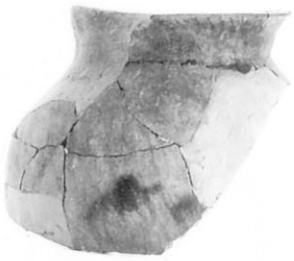
8号墳-93

8号墳-94

8号墳-95

8号墳-96

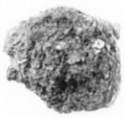
8号墳-97

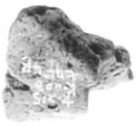

8号墳-98

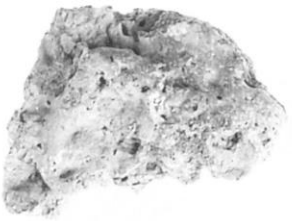
8号墳-99

8号墳-100

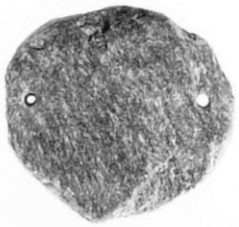
8号墳-101


8号墳-102


8号墳-103


8号墳-104

8号墳-107


8号墳-105

8号墳-106

6号墳-1

K-011号-1

K-011号-2

K-011号-3

K-011号-4

K-011号-6

K-011号-8

K-011号-9

K-011号-10

K-011号-11

K-011号-12

K-011号-13

K-011号-14

K-011号-15

K-011号-17

K-011号-16

K-015号-1

K-015号-3

K-015号-4

K-015号-5

K-015号-2

K-020号-1

K-020号-2

K-020号-3

K-020号-4

K-021号-1

D-002-1

M-001-1

M-005-1

M-005-2

M-004-1

7区-1

H-000-1

H-001-1

H-001-2

H-001-6

H-001-7

H-001-8

H-001-9

H-001-10

H-001-11

H-002-1

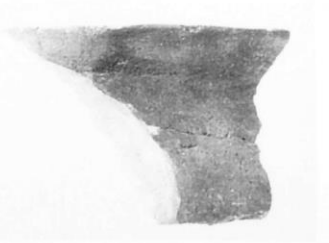
H-002-2

H-002-3

H-003-1

H-003-2

H-003-3


H-003-4

H-004-1

H-004-2

H-004-3

H-004-4

H-004-5

H-004-6

H-004-9

H-004-10

H-004-11

H-004-13

H-004-14

H-004-15

H-005-1

H-005-2

H-005-3

H-005-4

H-005-5

H-005-6

H-005-7

H-005-8

H-005-9

H-005-10

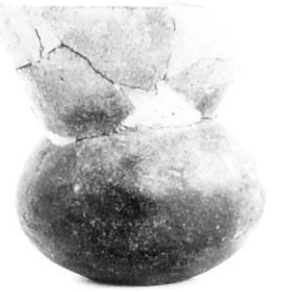
H-007-1

H-007-2

H-007-3

H-007-4

H-007-5


H-007-6

H-007-7

H-007-8

H-008-1

H-008-2

H-008-3

H-009-1

H-009-2

H-009-6

H-009-10

H-009-14

H-009-15

H-009-16

H-009-17

H-009-18

H-009-19

H-009-20

H-009-21

H-009-22

H-009-24

H-009-25

H-009-26

H-009-28

H-009-29

H-013-1

H-013-2

H-013-3

H-013-4

H-013-5

H-013-6

H-013-7

H-013-8

H-014-9

H-015-2

H-015-3

H-015-4

H-015-5

図版67　寺方古墳群の遺物（16）土製品・石製品

H-015-6

H-015-7

H-016-2

H-017-2

H-017-4

H-017-5

H-019-3

H-000-2

H-001-3

H-001-4

H-001-5

H-002-5

H-001-12

H-002-4

H-004-12

H-004-16

H-004-17

H-004-18

H-004-20

図版68　寺方古墳群の遺物（17）土製品・石製品・鉄製品

H-005-11

H-005-12

H-005-13

H-005-14

H-005-15

H-005-16

H-006-1

H-006-2

H-006-3

H-007-9

H-007-10

H-007-11

H-007-12

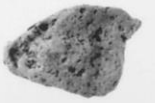
H-007-13

H-007-14

H-009-30

H-009-32

H-009-33

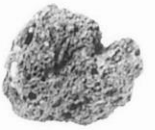


H-009-34

図版69　寺方古墳群の遺物（18）土製品・石製品・鉄製品

H-009-35

H-009-36


H-009-37

H-009-38

H-009-39

H-009-40

H-009-41

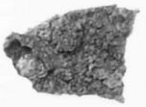
H-009-42

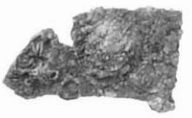
H-009-43

H-009-44

H-009-45

H-009-46


H-009-48


H-009-49

H-010-2

H-013-10

H-013-11

H-013-12

H-013-13

H-013-14

H-013-15

H-013-16

H-013-17

H-015-8

H-015-9

図版70　寺方古墳群の遺物（19）埴輪・土製品・石製品・鉄製品

H-016（A・B）-1

H-016（A・B）-3

H-016（A・B）-4

H-016（A）-5

H-016（A）-6

H-016（A）-7

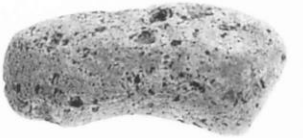
H-016（B）-8

H-016（B）-9

H-017-7

H-021-1

H-021-2


H-021-3

H-024-1

H-024-2

H-024-3

H-024-4

H-024-6

H-024-5

H-024-7

H-009（土製品）

H-013（スラグ）

7号墳（？）

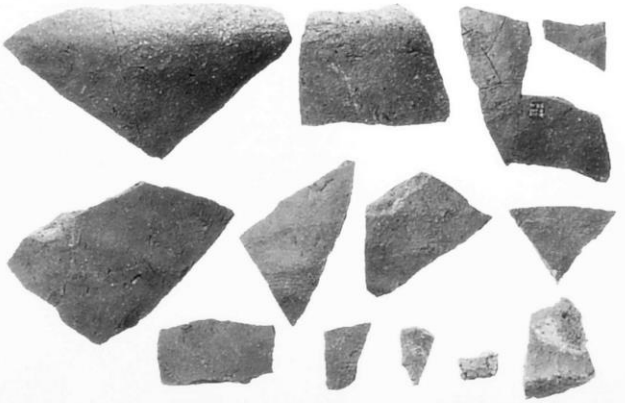
K-011号（埴輪）

8号墳（泥面子）

40トレ（勾玉）

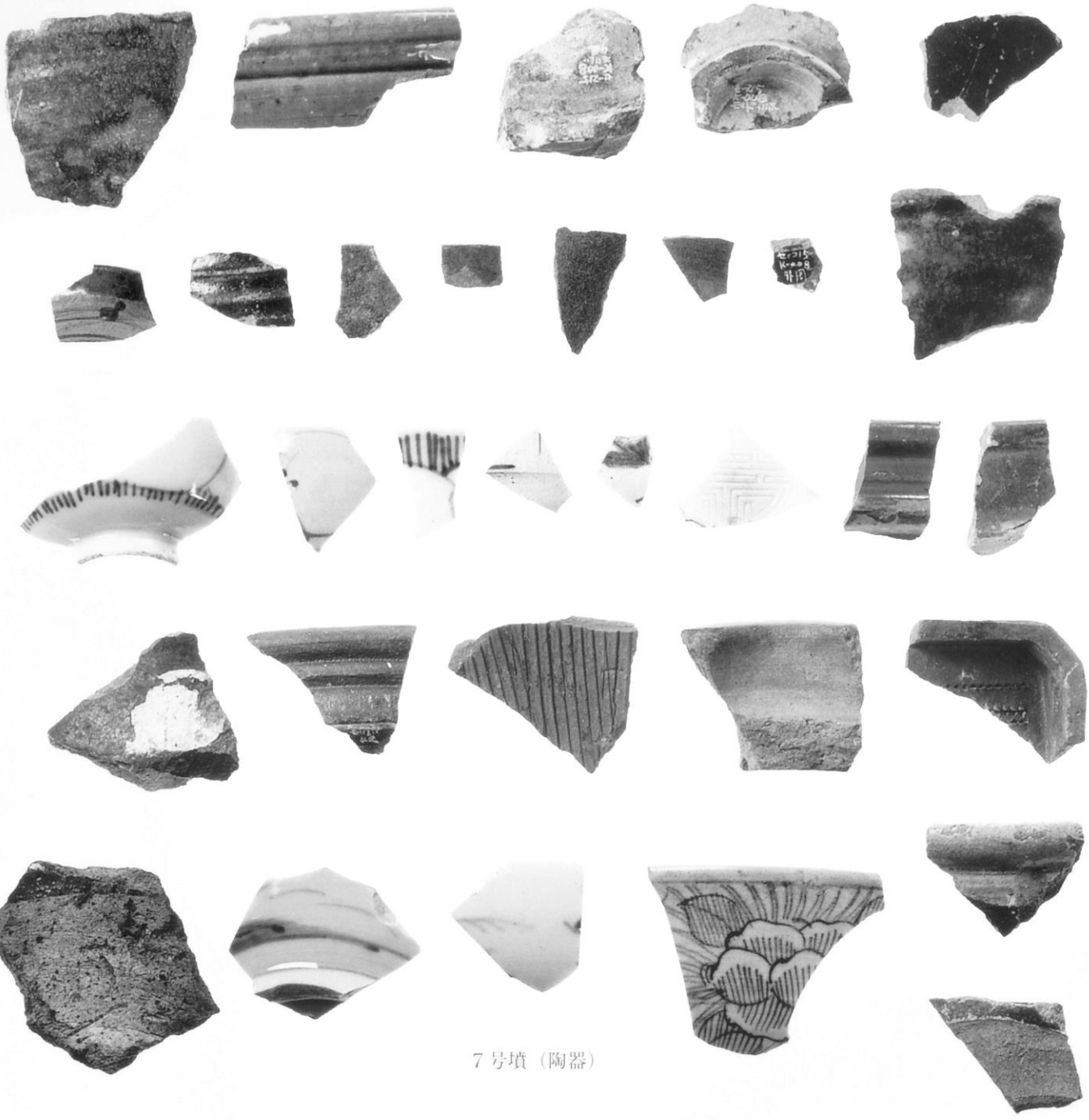
H-007（陶器）

H-017（陶器）



H-016・8号墳（陶器）

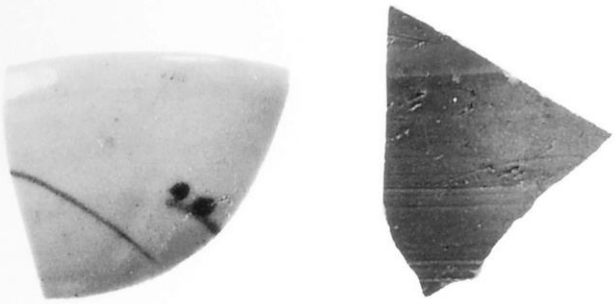
6号墳（陶器）



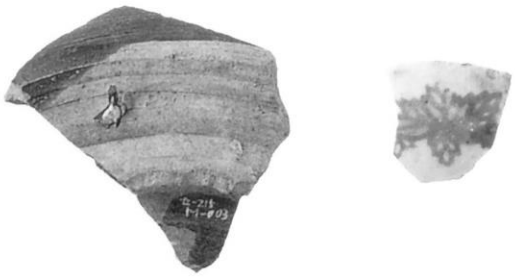
7号墳（陶器）

K-012号（陶器）

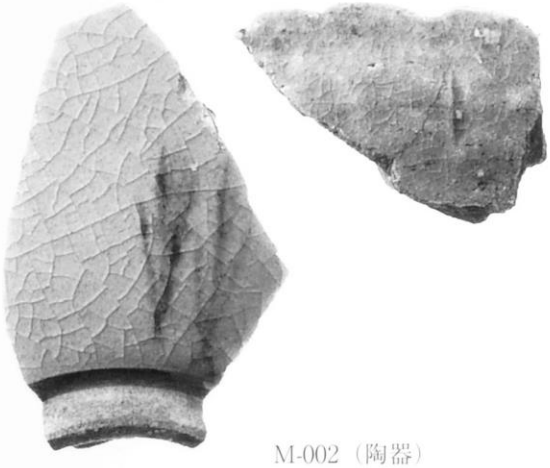
K-011号（陶器）



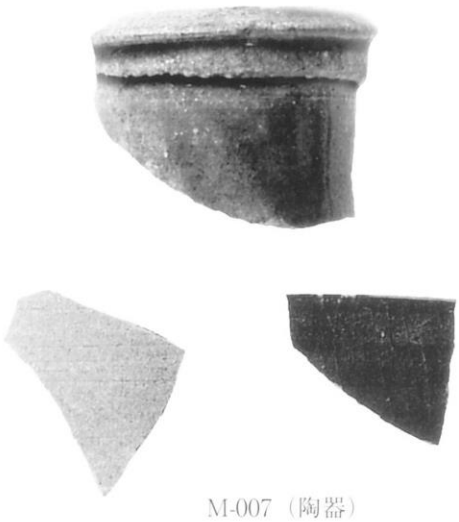
M-001（陶器）



M-003（陶器）



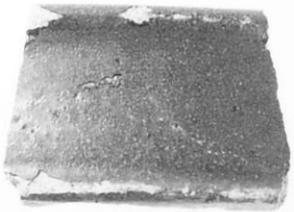
M-002（陶器）

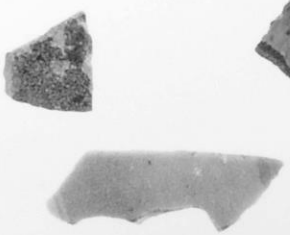


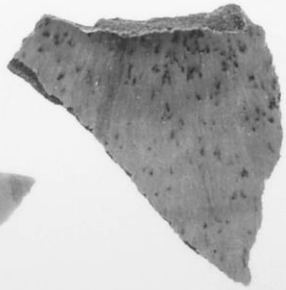
M-007（陶器）

M-010（陶器）

M-011（陶器）







遺跡一括（陶器）

報告書抄録

ふりがな	てらかたこふんぐん
書名	寺方古墳群
副書名	国道126号山武東総道路建設に伴う発掘調査報告書Ⅲ
巻次	
シリーズ名	財団法人山武郡市文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	第89集
編著者名	島立　桂・椎名信也
編集機関	財団法人山武郡市文化財センター
所在地	〒299-3242　千葉県山武郡大網白里町金谷郷1356-2　TEL 0475-72-3211
発行年月日	西暦2006年３月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積㎡	調査原因
寺方古墳群 （てらかたこふんぐん）	山武郡横芝町 （さんぶぐんよこしばまち） 寺方字姥ヶ谷 （てらかたあざうばがたに） 194他	12408	山文セ －215	35° 40′ 09″	140° 28′ 15″	20021101～ 20030128	（上層確認）1,432 ㎡ /14,320 ㎡	道路建設
						20030320～ 20030331	（上層本調査）　100 ㎡	
						20030401～ 20040324	（上層本調査）9,560 ㎡ （下層確認）　390 ㎡ / 6,000 ㎡	
						20031121～ 20031204	（上層確認）　120 ㎡ / 1,140 ㎡ （下層確認）　　8 ㎡ / 1,140 ㎡	
						20031208～ 20040115	（上層本調査）1,140 ㎡ （下層本調査）　　10 ㎡	
						20040408～ 20040713	（下層確認）　176 ㎡ / 3,460 ㎡ （下層本調査）　372 ㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
寺方古墳群	散布地	旧石器時代	石器集中地点４か所	ナイフ形石器，台形石器，楔形石器	
	古墳群	古墳時代	前方後円墳１基，方墳１基，円墳14基	土師器，埴輪，鉄製品	
	集落跡	古墳時代	竪穴住居27基，土坑20基	土師器，須恵器	

千葉県山武郡横芝町

寺 方 古 墳 群

— 国道126号山武東総道路建設に伴う発掘調査報告書Ⅲ —

印　　刷	平成18年３月20日
発　　行	平成18年３月25日
編　　集	財団法人　山武郡市文化財センター 千葉県山武郡大網白里町金谷郷1356-2 TEL 0475(72)3211
発　　行	千葉県道路公社
印刷・製本	株式会社　み　つ　わ 千葉県千葉市美浜区新港213-5